支那鑛産地

理學士小山一郎編

支那礦產地

東京 丸善株式會社

序

本書ハ予ガ支那ノ鑛山調査中諸種ノ參考書類、支那人ヨリ聞キ入レシモノ及ビ予ガ實地踏査報告セシモノ、一部分等ヲ集メテ各省ニ分チ列擧セシモノナリ。支那ハ其ノ面積廣大ニシテ國內到ル處ニ無數ノ鑛山アリト雖モ極メテ少數ノモノヲ除キテ他ハ殆ト全部未開ノ鑛山ニシテ既ニ多クノ各國人ニ依ツテ廣ク踏査セラレシモ尚未調査ノ個所甚ダ多ク實地調査ノ場合ニハ實ニ價値ナキ鑛山ヲ多クノ時日ト費用ヲ費シテ踏査スル事寡カラズ、故ニ本書ガ今後支那鑛產地ヲ實地探見セント欲スル諸氏ニ多少ノ參考トナレバ幸ヒナリ。

大正七年三月

東京市牛込區東五軒町ニ於テ

編　者

凡例

一、鑛產地名配列ノ順序ハ支那ヲ北部、中部、及南部ニ分チ此レヲ各省ニ分チ省ハ各縣ニ分チ同一縣下ノ同鑛種ノモノハ之レヲ一括セリ。

二、鑛種配列ノ順序ハ金屬ト非金屬トニ大體二分シ其ノ各ヲ左ノ如ク配列セリ。

○金屬類

金、白金、銀、水銀、銅、鐵、鉛、錫、亞鉛、銻、錳、タングステン、水鉛、砒

○非金屬類

金剛石、鋼玉、黃玉、琥珀、瑪瑙、蛋白石、硬玉、石英、硅砂、長石、陶土、雲母、蠟石、滑石、石綿、硫黃、石墨、石炭、石油、アスハアルト、食鹽、明礬、石膏、大理石、硝石、曹達

三、鑛產地名ヲ擧ゲテ其ノ內嘗テ開鑛セラレシモノ或ハ現ニ稼行セラレツ、アルモノニ就キテハ極メテ簡單ニ其ノ狀況ヲ述ベタリ。

四、黑龍江省、吉林省、奉天省、外蒙古、新疆省、靑海、西藏等ノ鑛產地ハ之レヲ除ク。

支那鑛産地目次

第五章　湖北省……一九三

第六章　湖南省……二三一

支那鑛產地目次終

支那鑛産地

理學士　小山一郎　編

第一編　北部支那

第一章　直隸省

直隷省は其の位置支那本部の北に位すれど支那中央政府の所在地にして、其の形東北より西南に延び東は渤海に臨み、西は山西に界し、南は山東、河南に隣し、北は長城を越て內蒙古に又東北は山海關にて滿洲に界す、其の面積約三十萬平方粁なり、地勢西北より東北には陰山山脈ありて平地少きも東南部は廣漠たる大平原なり。鑛產物は石炭を第一とし金之れに次ぎ石炭は彼の有名なる開平炭坑を第一とし其他山海關の石門塞、北京の西山、井陘縣の井陘、臨城縣の臨城炭田あり。金鑛は重に北京の北方にあり此の地方は一帶に片麻岩、花崗岩の地質にして其の內にある石英脈中に金を含むなり。而して東南部の大原野は所謂黃土の地にして地味肥沃農產物に富み。河流は其の數多けれど渤海に注ぐ白河、灤川、及び南方に通ずる運河を除きては舟楫の便あるものなし、氣候は大陸的にして寒暑嚴しく降雨少し。

金屬鑛

第一節　金鑛

○房山縣　寶金山

琉璃河の西南三十支里の所にあり。

○昌平縣　分水岺、黑山寨、慈母川、南口及十三陵、白龍潭

分水岺、黑山寨金鑛

位置　北京より京張鐵道にて南口に至り十三陵を經て長陵河を溯り南口より四十支里約一千尺の高地にあり又北京より直に分水岺に至り金山に達するも百二十支里なり、分水岺より山元の間は長陵祖山を越え悪道なり、又鐵道に依るも十三陵より先は溪流に沿ひ僅に人馬を通ずるのみ、此の金山は分水岺金山とも稱せらる。

地質及鑛床　地質は暗綠色或は淡褐色の閃綠岩若しくは花崗岩にて其の内にある石英脈は普通酸化鑛にて汚染せらる此れ石英脈中には小結晶の黃鐵鑛あり此れが分解したるものならん、汚染の甚しき所には含金多し、鑛床は毛狼溝、大砂地、樓子峪外數十ヶ所に分れ重なるは毛狼溝なり同所は花崗閃綠岩にてなり其の内に北四十度西に走る巾三尺程の石英脈あり中央は谷にて切られ小谷の西岸に露出す此處に深さ數十尺の斜坑あり又毛狼溝より三丁餘隔てたる大砂地には北二十度東の垂直脈あり尙二三丁離れたる樓子峪にも北二十度東の垂直石英脈あり、然れども後二者は巾一尺に足らず、上鑛石を分析したるに 金 0·00688%、銀 0·0034%／金 0·00562%、銀 0·0015% を得たり。

製煉其他　鑛石は此れを碎きて石臼にて引き粉鑛となし俗に猫流しと稱する巾三尺長さ六七尺の緩傾斜をなしたる流し板の上を水と共に流し陶汰して金粉を得るも實際の含金の三分の一より收金することと能はず此の金山の發見は明朝時代に發見せられしが久しく採掘を許可せられず漸く宣統三年に燕興公司により經營せらるゝに至れり此の金山附近一帶には非常に多くの小鑛脈存在するなり。

○密雲縣　馮家山谷、桃園

桃園金鑛

位置　北京の北々東二百四十支里、萬里の長城壁へ至る十數支里なり、縣城よりは百支里を隔て城より北へ石匣に至り其れより山路に入る石匣と桃園間は四十支里なり、附近は山脈縱横に走り道路險惡交通不便なり本山發見時代は不明なるも稼行せられしは近年の事なり民國二年七月より華源公司に依り經營せらる。

地質ト鑛床　密雲縣城より金山に至る間に露出する岩石は片麻岩及花崗岩なり鑛床は片麻岩中に噴出したる石英斑岩の接觸部のみに存在す、岩脈中にはなく又片麻岩中にもなく接觸肌なる面には黃鐵鑛あり此の內にあるものゝ如し、此處は札不拉と稱せられ其他陽坡地の東宅古と稱する處には石灰岩、粘板岩あり此の內に石英脈あり含金すと稱せらる、尙此の附近には小河峪、窰子峪、西拉坡東茫谷、西茫谷、老新線あり金を產し、溪流には砂金を產すと云はる。

○臨楡縣　大山、洞子溝、扁石

大山金鑛

位置　一名山海關の金山と云はる山海關より長城を越え北へ百七十支里の龍王廟を經て龍頭と稱する村に到り其の附近にあり。大山は村の東々南十數丁の所にある千尺餘の山岳にして村の南には戴家峇、西南は臥龍崗、北には洞子溝あり、臥龍崗は最初に開かれし場所にして位置高からず。目下主たるものは大山なり、大山は嘗て三百人餘の鑛夫を使役して採鑛に從事したる事あり、當時の舊坑と露頭を穿ちたる所は大なる溝をなして大山の北側中腹にあり。

地質ト鑛脈　片麻岩中に花崗岩、輝綠岩の噴出あり其他綠泥片岩の如き岩石あり鑛脈の存在する場所は花崗岩にして石英脈なり大山の脈巾は約三尺餘ありしと云ふ。臥龍崗には數寸の薄脈數多く存在せしが如く皆露頭を掘り蜂の巣の如き有様なり、洞子溝は小なる谷をへだて南北に露頭あり石英脈は南北に走り巾二尺餘なり、製煉方法は前記の金山と同樣なり。鑛石分析の結果は

	金	銀	
戴家峇	0·0015%	0·0018%	
大山	0·0018%	0·0029%	
大山捨石	痕跡	0·0004%	等なり。
洞子溝	0·0002%	0·00013%	
臥龍崗	0·0015%	0·015%	

扁石金山

此の大山金鑛の尙ほ北方扁峇石附近にあるもの古來より有名の砂金地なり。

○遷安縣　寬河川、柳樹行、拉馬溝、洽口外興隆溝

洽口外興隆溝金鑛

位置　京奉線灤州驛の北二百七十支里にして灤口關門に至る此の西南分水嶺を去れば上記の柳樹行金鑛に達す同所は高さ數百尺の所に鑛脈あり、鑛區内に灤河流る、鑛脈は巾二尺内外なる石英脈なり次に拉馬溝は此處より灤河を遡る事百十支里の地にあり巾二三尺の石英脈を採掘す二三の舊坑あり、是後に興隆溝は尙八十支里を隔てたる灤河の上流にして其鑛區内には王家溝子、北洞子溝、馬圈子西溝、三家西溝、椿樹老婆溝、周家山溝其他二三個所あり何れも金を產す、內王家溝子を以て最大となす鑛石搬出するに　柳樹行より三十支里にして淸龍河に達す下れば山海關に至るも夏期水多き時に限る。興華金鑛公司經營し拉馬溝、柳樹行は支山なり。此處に方鉛鑛をも產出し其の鑛石の品位は

鉛 69.70　硅酸 9.63　銅 1.36　鐵 1.68　亞鉛 0.18　なり。

○昌黎縣　黃金山

○遵化縣　瑞豐金鑛、龍水頭口

瑞豐金鑛

位置　北京の東方二百九十支里の遵化縣大安口にあり、京奉線の支線の終點なる通州よりは二百五十支里。縣城より西北四十支里、馬蘭峪の東三十五支里、薊州の東北百十支里に當る、馬蘭峪、薊州は共に河に臨み、此れらの地より船にて天津に下る事を得。

地質及鑛床　片麻岩の地質にして所々に輝綠岩にて貫かる又、石門鎭附近には硅岩あり、鑛床は

片麻岩中の石英脈にして巾一二寸より厚さは四尺に及ぶものあり延長は十數間より百間に達す、數條あり草廠溝、瑞豐、塔峪、及萬樹率に露出し全長東西十五支里に達し草廠溝は最も東に在り、其他附近に三道八子溝、牛家王子等あり。

(甲) 草廠溝、西北に六十度の傾をなす巾四寸より七寸の石英脈あり長さ百數十間に達す深さ二三十尺の舊坑二個あり、鑛石は黃鐵鑛に富む。

(乙) 瑞豐、北三十度東に走り西北に四十度の傾をなり巾三寸の石英脈あり、露頭の長さ數間なり。

(丙) 塔峪、北四十度西に走り東南へ二十度の傾をなす巾六寸より一尺の石英脈あり、鑛石品位
金 .0045　銀 .0245 なり。

(丁) 萬樹率、東西二ヶ所にあり東は北四十度西に走り西南に二十度の傾をなす巾二尺の鑛脈あり品位不良なるが如し露頭は數間より見えず西は走向傾斜前者と同く巾一尺五寸あり露頭百間に達す。

(戊) 三道八子溝、東西に走り北に四十度の傾をなす巾一尺草廠溝の北三支里にあり。

(己) 牛家王子、走向東北にて東南へ二十度の傾をなす巾四寸より八寸あり、瑞豐より東南約五十支里なり、高麗時代に採掘せしと稱する舊坑あり鑛石品位　金 0.00395　銀 0.00659 なり。

鑛質及鑛量　露頭部は極めて僅かにして充分採鑛せざれば正確なる數を擧ぐる能はざるも塔連と萬樹率にて約一萬五千屯位ならん其の品位は合金十萬分の四、合銀十萬分の二見當のものなる可し。

龍水頭口金鑛

長城の北八支里の地にあり、老西山、東北山、爪地溝、柳樹溝、大南溝、北大窪溝、窖坡子、山石

窪後山、西山、牛頭溝、乾溝、等皆産金地なり然れども大部分は休止す。嘗て寶華金鑛公司經營せり。

東蒙古內地

○圍場廳　那杜西鄉（砂金）三叉口村

三叉口村金鑛

縣城の北三叉口村の西五支里の所にあり花崗岩中に石英脈の巾二尺より四尺に達し長さ百尺に餘るものあり、嘗て採掘せしが如きも目下中止す金低きためならん。

○綏東縣　風石山、チヤガンチヨロタイ、ソーズコーアボゴイ、七金臺、喇嘛山

風石山金鑛

東蒙古小庫倫の北八支里の處にあり、桃色長石の大なる結晶を有する片麻岩中に東北に走り東南へ七十度の急斜をなす巾二尺餘の石英脈あり金を含むと云はれ未だ開坑せられず、風石山の西北六十支里の所に猪山と云ふ同じく片麻岩よりなる山あり此處にも石英脈ありて金を産出すと云はる。

分析結果金銀の痕跡を得たり。

チヤガンチヨロタイ金鑛

小庫倫の西南十五支里白石山村の東十丁餘の處にある走向北二十度西の垂直なる硅岩層なり巾三十尺約餘二百間の長さに達し磁鐵鑛、黃鐵鑛を含み金を含有すと云ふ。

ソーズコーアボゴイ金鑛

小庫倫の西南二十支里ソーズコー村の東南七支里の山上にアボゴイと云ふ穴居の舊跡あり、角礫石灰岩よりなり膠結物は褐鐵鑛なり金を産出せざるやと云はる。

七金台砂金

小庫倫と西土默特王府を結びつけたる線上西土默特王府より六十支里小庫倫より百三十支里の處に七金台村あり村の西北數丁の處にあり大なる喇嘛廟の裏なる小川より砂金を産出すと云ふ場所は片麻岩の酸性部分と基性部分とが互層し甚しく分解せる所の河床なり。分析にて砂中には金銀の痕跡あり。

喇嘛山砂金

此の砂金地は前記七金台村の東南十三支里の處に喇嘛山と云ふ高さ三百尺程の山あり其の東には北より南に流るゝ川あり右岸丘より砂金を産出す舊坑十數個あり目下中止す河巾は三丁餘なれど水の流れをる部分は數間の間なり、砂を分析し金銀の痕跡ありたり。

○阜新縣　南梁、庄家村、趙胡子溝、馬胡子溝、哈嘛陰街山、昭里營子、カバ營子、鐵匠爐溝、太平溝、塔子溝、大埧溝、上抬頭、新大埧溝、金廠溝、段力板營子、小塔子、馬耳朶、營子

南梁砂金

東蒙古西土默特王府（一名黑城子）の南方四支里の所にある舊河床の西北より東南に延長し巾三百尺長さ三千尺の場所に砂金を産出す地表より一丈より二丈の間に一尺餘の細かき砂層あり其の下盤は粘

土の層にて此の砂中に金あり二百年前より知られ嘗ては百人餘の鑛夫稼行せしことあり目下中止す金粒の大なるは高粱粒位のものを得たりと云ふ。砂分析金銀の痕跡。

庄家村砂金

西土默特王府の西十支里の所に和尚溝村あり、その西南二三丁の所に庄家村あり裏山より砂金を出す場所は目下の河床より高きこと三十尺餘なれど嘗ては河床なりしが如し地表より五六尺の所にある砂層中に含まる。金銀痕跡の分析結果なり。

趙胡子溝金鑛

西土默特王府の北二十支里忙牛河の左岸に同名の村あり其の西北十丁餘の所にある片麻岩中の石英脈を採掘す昨年三月より八月迄稼行し舊坑數個あり脈巾二尺に足らず東西に走り長く續かず。

金、痕跡　銀 0.0010%　分析結果。

馬胡子溝金鑛

趙胡子溝の西南八支里、西土默特王府の西北二十支里の地、同じく片麻岩中にある石英脈を採掘し舊坑は三ケ所に分たる其の間の距離十數丁あり、無論鑛脈連結するものにあらず。

金、痕跡　銀 0.0008%　及　金 0.0040%　銀 0.0016%

哈喇陰街砂金

西土默特王府の東北六十支里、歸拉什臺より二十支里の所にある架本寺營子の東數丁の處の河床丘に砂金を出す一昨年百人餘の鑛夫働き一日最高一人七十仙の金を得たりと云ふ深さ七八尺にて一の砂層あり厚さ一尺餘含金層なりと云はる舊坑は數十個あり。　金銀痕跡。

昭里營子金鑛

東蒙古東土默特王府の東南二十支里の所にあり片麻岩中に北八十度東の走向にて北へ八十度の傾斜をなす兎御蔭の噴出あり此内の小石英脈中には金を含み巾五六寸のもの二三枚あり民國元年より一昨年春迄働かれ農夫百二三十人居りたりと云ふ一日の收金全體にて多きは二十匁、少きは三四匁なりと云ふ鑛脈は中央に谷を隔て東西に分れ東側は西より上鑛を産出せりと云ふ谷底には輝綠岩の如き岩脈あり。　最上鑛　金 0.0153%　捨石　金 0.0002%　カス 0.009%

カバ營子砂金

東土默特王府(蒙古鎭)の東々南四十支里の高積德營子の南十支里の所にあるカバ營子村の北三丁の處にある河床より砂金を出す巾は三間餘長さ數丁の區域なり嘗て光緒三十年より宣統元年迄稼行せられしが其の後中止し今日にては農閑に農夫が二三人にて時に採集するのみ舊坑は數ヶ所あり、分析、金銀痕跡の結果なり。

鐵匠爐溝砂金

前記カバ營子の谷が稍大なる河に南方にて一致す此處は黑什個營子と云ひ此處にも砂金を産出すれど此れより尚東南に谷を入り鑛匠爐溝村に至る河のでるたの褐色土砂中に砂金ありと云ふ嘗て採集せしも今は中止す冬季は結氷のため從事する事能はず。分析は金銀痕跡なり。

太平溝金鑛

東土默特王府の東南四十支里の鑛匠爐溝より尚二支里の處に太平溝村あり、村の南に高さ百數十尺の山あり中腹に石英脈あり一の谷を越て東南二ヶ所に分たる、西側は北四十五度西に延び南へ七十度

の傾斜をなし片麻岩中にあり西側に巾狹き脈なれど東側は大なる石英塊なり谷底には閃綠岩の如き岩石露出す。　露頭上　金 0.0016%　　下　金 0.0001%

塔子溝金鑛

東土默特王府の東南五十支里、阜新縣城の南二十支里の所にあり、高さ三百尺餘の山峰は花崗岩よりなり其の內に走向南北西へ七十度の傾をなす石英脈の巾五六寸のものあり此の南には同じく石英脈中に赤鐵鑛を含むものあり老虎溝と稱せらる、舊坑各數個あり目下中止す。

露頭上鑛金 0.008%　　下鑛金 0.003%

大垻溝砂金

阜新縣の正南十五支里の所にある川巾二丁程の河原なり、水流のある部分は數間にして而も深さ二三尺に過ぎず砂金は表面より二三尺の所より五六寸の間にあり區域大ならず光緒三十年より宣統元年迄稼行したりしが昨年七月僅か採掘したるのみにて目下中止す廣東人黃氏の經營にして彼れは此の附近一帶の砂金、金鑛の採掘權を有し每年王府へ三百兩の稅金を納めつゝありと云ふ。

上抬頭金鑛

阜新縣の南々東二十支里、新邱炭坑の西南十五支里の所に此金山あり次に述ぶる金廠溝砂金地の谷を入りたる所にして花崗岩よりなり內に石英脈の南北に走り西へ七十度の傾斜をなす巾狹きものなり、宣統元年頃最も盛んに稼かれたりと云ふ。　露頭上鑛金 0.001%　銀 0.0002%　金、痕跡　銀 0.009%

新大垻溝金鑛

阜新縣の東二十支里新邱炭坑の南の臺地を通過し約十五支里所にあり花崗岩中にある石英脈と石英

塊とを採掘し脈は南にあり南北に走り巾三尺餘、塊は其の北部にあり深さ百數十尺の竪坑二三あり目下中止す。　露頭上　金 0.001%　銀　痕跡　金 0.0002%　銀 0.0007%

金廠溝砂金

新大坩溝の西北、上抬頭村の前を流る、谷を北に出づれば此砂金地に至る、今より五十年前より既に知られ時々採集せられしが大なるものにあらず巾二間長さ三丁餘の區域なり金粒の大なるは小豆位のもの今日も尚ほ得らる、川底は分解したる閃綠岩なり阜新縣へ得たる砂金を持行き十匁金四十三四圓にて賣ると云ふ。　金 0.0002%　銀 0.0009%

其他假力板營子、小塔子、馬耳朵營子は阜新縣城に近く位す。

○朝陽縣　來帽子溝、紅旗杆、鷄冠山二道溝、金家杖子、團山子、五家子、波羅赤、白石刺子、南山、峰子峪溝

來帽子溝金鑛

朝陽縣城の北百支里の地にあり頭道溝、二道溝に分たれ、頭道溝の鑛石は灰綠色の粘土の黄鐵鑛を含有するもの二道溝は硅岩にて東北に七十度傾き巾二三寸なり頭道溝は坑内水多し。　鑛石は　金 0.00185%　銀 0.0008%　なり。

來帽子溝より流るゝ溪流に大張子村あり附近に砂金を採集す。　金 0.0031%　銀 0.00415%　なり又頭道溝の粘土中黄鐵鑛のみの内には含金 0.033% あり、粘土中には 0.010% なり。

紅旗杆金鑛

臨楡縣との界に近く哈喇心左翼旗の西南約百五十支里の地にあり。

鷄冠山金鑛

赤峯の西南九十支里、十家子村より南へ十支里の地にあり片麻岩よりなる孤山の山頂に近き所にあり鑛脈は片麻岩と同走向なる北五十度東、南へ五十度の傾をなす、脈中には黄鐵鑛、黄銅鑛、硫酸銅あり鑛夫約三十人を用ゆ鑛石は　金 0.0021%　銀 0.0076%　なり。

五家子金鑛

朝陽縣の西北六十支里の四座塔溝河と云ふ川の右岸にあり縣城よりは老哈河を溯れば即此の川なる支流に入る交通路惡し五家子附近には南山、白石喇子、蜂子峪の金山あり、南山は五家子の對岸二支里の地にあり地質は花崗岩、玄武岩にて此内の石英脈中に金あり、鑛石は　金 0.0004%　銀 0.0114%なり白石喇子は南山と同じ地質にて鑛石は　金 0.0002%　銀 0.0006%　なり、五家子の東方三支里の地に蜂子峪あり金を產出すと云はる。

波羅赤砂金

朝陽の北七十支里北波羅赤の東南に當り砂金地あり地表は黄土なるも下部には粘土、礫、礫岩あり、附近に舊坑非常に多し。

南山金鑛

五家子の對岸二支里の地にあり地表は黄土にて下部に花崗岩、玄武岩あり此の內にある石英脈を採掘す二三の舊坑あり、平均鑛は　金 0.0004　銀 0.00114　撰鑛は　金 0.00128　銀 0.00104　を含む白石刺子、蜂子峪溝何れも此の附近にあり白石喇子鑛石は　金 0.0002　銀 0.0006　を含む。

○赤峰縣　黒沙灘、紅花溝、喇嘛山、官技、銀窩溝(砂金)長皁、鷄冠山

黒沙灘金鑛

赤峰の北三百支里の地にあり。

紅花溝金鑛

赤峰の西七十支里の地にあり、片麻岩、花崗岩、石英粗面岩よりなる地質の內に石英脈あり三ケ所に露出す走向南北巾二三尺ならん、同山は十年前より休山にして五年前に僅か稼ぎたることあり盛時には鑛夫四百人を使用したりと云ふ舊坑數十ヶ所殘る要するに排水に困難を感じ中止したるが如し鑛石は　金 0.0048%　銀 0.0001%　の含金あり。

喇嘛山金鑛

赤峰の北五十支里の地にあり喇嘛山と云ふ山にして地質は片麻岩、片岩、花崗岩及び凝灰岩あり、內に石英脈を有し東北に傾き巾一寸內外なり、舊坑十數ヶ所あり、五六年前に稼行せしも目下中止す鑛石は　金 0.0027%　銀 0.002%　を含む。

官技金鑛

赤峰の北百八十支里烏丹城の西北七十支里の地にあり地質は砂岩、頁岩、石英粗面岩にして頁岩中の斷層中の石英脈中に金を含む光緒三十四年より開掘せられ宣統三年迄稼行せしも目下中止す鑛石は金 0.0004%　銀 0.0108%　を含む、銀窩溝は園城より四十支里の地なり。

長皁金鑛

赤峰の東南六十支里の地に東南に走る山脈あり東には長阜金鑛あり西に鷄冠山金鑛あり、長阜は雲母岩中の石英脈にして北五十度東に走り西北へ五十度の傾をなす三四寸の細脈條あり。

鷄冠山金鑛

前記の如く老哈河の上流にして花崗岩中の石英脈なり、黃鐵鑛、閃亞鉛鑛をも含む、走向北七十度東に走り細脈三條あり四五寸にて相隔つこと一尺餘なり含金最上鑛は十萬分の六、銀十萬分の八なりと云ふ民國三年曾氏により經營せられしも幾くもなくして休止す。

○建平縣　金厰溝梁、金厰溝、合子山、八蘇臺、金馬子溝、奈林溝、八里罕、火家地、公主岺、撰山子、各力各、熱水、霍家地、四德党、哈塘溝、徐家北溝、楊家灣子、黃金梁、金上山、大西溝、塘士溝

金厰溝梁金鑛

朝陽縣の北々西百十里の建平縣と朝陽縣との界なり建平縣よりは百三十支里なり、鑛床は片麻岩、片岩、花崗岩中にある石英脈中にあり、山の峰にあり、鑛脈の數七八條南北に走り巾數寸より二尺位迄なり、石英中には黃鐵鑛を混じ金は此れに伴ふが如し開坑當時は肉眼にて見ることを得る金粒ありしも今はなく光緒三十年以後殆ど仕事を中止し唯農閑に農夫が近頃採掘するに止まる嘗て盛なりし當時は坑口七八ケ所より一日三百匁の金を得たりと云ふ目下は一日三四匁なり開坑は光緒十八年なりと云ふ開山當時は其の規模宏大にして其の當時の大建物、器械等殘り居れり又、嘗て採掘せられたる鑛量は十數萬噸に達す、然れども現今は全く廢山となる捨石鑛石の品位は　金 0.0054%　銀 0.0096%

なり。

金廠溝砂金

前記の金山より東に流るゝ谷に到る處砂金を產す重なるは金山より十五支里を隔たる房身、頭道溝地方なり。

八蘇台金鑛

赤峰の南、小城子の東北十支里の所にあり、金馬子溝は此の附近なり、奈村溝は大城子の南四支里の地にあり八里罕は赤峰の南なる馬家城子の西方八十支里の地にあり鑛夫百數十人を用ゆ、火家地は赤峰の南百支里の地にあり公主岺は赤峰の南樓子店の西北二十支里の所にあり。

撰山子金鑛

或は轉山子と云ふ建平縣城の東北百二十支里黑水の東北山路七十五支里の所にあり鑛脈は石灰岩中に噴出せる火山岩との間にある石英脈にして巾數寸より一尺東北に八十度傾き長さ二千尺に達す鑛石は方鉛鑛、黃鐵鑛、閃亞鉛鑛を含む石英なり、光緒十八年に開坑し數年前には鑛夫二三百人を使用し居たり鑛石は上鑛は可成多くの金を含み淬鑛にても數萬噸山に推積す、金は硫化鐵中にあれば普通の方法にては採ること能はず。方鉛鑛多き鑛石は　金 0.049　銀 0.0267　製煉滓　金 0.00334　銀 0.0128 を含む。

各力各金鑛

金廠溝の東北百十支里の地にあり宣統元年に開かる。

熱水金鑛

平泉の東北百支里八里罕の西北三十支里の處にあり建平金鑛局の經營なり。

霍家地金鑛

赤峰の東二百支里、黑水の東東北三十五支里の所にあり赤峰より建平、朝陽に至る大道路にて成子山及び東山の二金山あり、成子山は平源公司の經營にて村の西七支里の處にあり五年前より開鑛す片麻岩中にある鬼御蔭の石英中に金を含み鑛脈の巾一二尺のもの五枚あり北五十度東に走り、東南へ六十度の傾をなす三坑あり蒸氣釜、ポンプ備付けられ英人經營す鑛石の品位は 金 0.0115% 銀 0.0038% なり、東山は古來より知られしもの目下出水多きため中止す鑛石は 金 0.0454% 銀 0.0164% 等なり。鑛脈の延長千尺に達す。

四德黨金鑛

縣城の北九十支里、哈塘溝は縣城の東北百支里、民國二年より開かる、除家北溝は宣統二年に開かれ目下中止す。

揚家灣子金鑛

金廠溝梁の北十五支里の地にあり宣統二年より開かれ當時多少の鑛夫働き餘り有望に非ずして中止したり鑛脈の露頭は二十支里に達すと云ふ鑛石は方解石を含む粘土鑛にして品位 金 0.0066% 銀 0.00124% なり。

金上山金鑛

赤峰の南二百支里の馬城子の東十支里の處にあり、地質は片麻岩花崗岩にて內に二條の石英脈東西

に走り北に三十度の傾をなす巾數寸と二尺內外なり、數年前に二三年稼行して中止したり一日十匁の金を得たりと云ふ坑口二十餘ケあり深さ何れも數十尺の斜坑なり鑛脈に沿ふて下る狸掘りなり。

大西溝、塘土溝金鑛

小城子附近にあり石英粗面岩中の石英脈を採掘す舊坑數十ケ所あり今より十數年前喇嘛僧の開きしもの鑛脈薄くして望なし。

○建昌縣　西北地、シーチャンガー

西北地は

縣城の西三十支里の地にあり、シーチャンガーは縣城の北、朝陽の西二百支里にあり。

○平泉縣　滂泥窪子、孤子山、鷄冠山、蒙古蘇、草帽子山

滂泥窪子金鑛

縣城の東北四十支里の密雲鄕にあり、花崗岩中の平行せる二石英脈にて北より南に走る黃鐵鑛、磁鐵鑛及び多少の銅分あるため硅孔雀石を含む。嘗て採掘當時は鑛石を燒き之れを碎き水にて洗ひ金を得たり、目下稼行を中止す。其他附近には老牛槽、高粮地、馬蜂菜溝等あり、鷄冠山は八里罕を去る百二十支里鑛石の品位は　金 0.0769%　銀 0.0999%　銅 12.99%　鐵 34.68%　硫黃 41.64%　は上鑛にして方鉛鑛なるが如し。蒙古蘇は八里罕の東にあり。

○承德縣　駱駝溝、礶子溝、廠子溝、獅子河、鐘鼓老樓、疙疸山

駱駝溝金鑛

縣城の西北十九支里の處にあり片岩中に走る石英脈の巾一尺より二尺に達するものあり、地層甚しく錯亂するため脈は數條に分たる。

碾子溝金鑛

縣城の西北西二十四支里の所にあり花崗片麻岩中に三脈あり各百五十尺を隔て最下のものは巾二尺より四尺、中間のものは一尺より十尺延長九百尺に達し最上部のものは十尺にして北三十度東に走り最も巾厚し鑛質は中間脈は最も可なりと云ひ約十萬分の一を含む、石英脈中には亦多くの黃鐵鑛を認む此の金山は承德縣下の最重要なる一にして甞て官營にて六百四十餘兩を得目下休止す。

廠子溝金鑛

縣城の西十支里の所にあり雲母片岩中の石英脈なり三脈あり大なるは三尺、他は一尺七寸及び一尺二寸の北八十度東に走り南に急斜す此の鑛石は含金少けれど甞て米國と合辨の噂ありたり。

獅子河砂金

縣城の西北約十二支里獅子河の右岸に砂金を產生す其の區域南北へ五百尺東西へ四百尺、合金千萬分の五なりと云ふ、目下中止す。

鐘鼓老樓砂金

縣城の西北二十支里、含金砂層の厚さ一尺にして東西に千五百尺南北に三百尺あり含金量は百萬分の二なりと云ふ、目下中止す。

疙疽山砂金

五烈河の東岸にあり縣城を去る約五十支里北なり、含金層は約四寸にして東西へ二千八百尺、南北へ三千尺あり含金千萬分の二なりと云ふ。

○灤平縣　八道河、虎什哈、朝河川、寛溝、土槽子、遍山綫、双山子、西碾子

八道河金鑛

豐寧縣の東南八十支里　金溝屯の北、灤河の支流を遡る事四十支里の地にあり花崗片麻岩中の石英脈にして北五十度西に走り巾一寸内外黄鐵鑛を含む含金百萬分の三乃至六十と云ふ。泰豐公司嘗て經營せしも目下休止す。

○豐寧縣　大井附近、降化老千溝、藍家營子、馬架子、王家營子、鐵家營、朝南溝、三家子、火車子溝、小北溝、官營子

大井附近金鑛

多倫諾爾の東北二百支里、沙岑河の西北二十支里の地にある大岩石塊なり、鑛石は綠泥片岩中に噴出せる玢岩中にある石英脈なるが如し、唯岩塊のみなり。

降化老千溝金鑛

縣城を東北に去る六十支里の所に太平庄あり其の南二十支里に位す、片麻岩中に北十度西、東北へ七十度の傾をなす巾三寸より一尺平均六寸の石英脈あり長さ千尺に達す含金平均百萬分の七より九なりと云ふ、目下泰豐公司經營す。

其他の場所の金山は花崗岩中にあり脈巾夾く而も含金寡し。

鐵家營砂金

鐵家營以下は何れも砂金地にして縣城の東南數十支里の地にあり嘗て官營子よりは得たる大金塊は數十匁あり金分八十%ありたりと云ふ。

○張家口、南泥溝、范家西溝

前者は張家口の東北六十支里後者は四十支里の石嘴子と稱する所にあり、片麻岩中に存在する石英脈中に金を含む。

其他黑山溝、水泉兒、モングロール、ダラハンノール、圖什業圖王府、アンゴンチン王府附近に金を産す。

第二節　銀鑛

○昌平縣　河子澗村

○遵化縣　小黑山　(銅、石炭も産出す)

○西寧縣　大閣司

○蔚　山

○獨石口廳　黑塊山

○盧龍縣　黑根山　縣城を去る西方十五支里。

○臨楡縣　車廠

其他大興、密雲、撫寧、遷安縣下に產すと云ふ。

東蒙古內地

○朝陽縣　小塔子溝、大窩舖　後者は縣城の近く

○建平縣　烟筒山、弧子山、駱駝山、一肯中、村金溝、銀洞子溝、トウホクイル

烟筒山、孤子山銀鑛

同じ場所にて七溝の西北百二十支里の地にあり、一肯中、村金溝及び銀洞子溝は馬城子の西方三四十支里の地或は東數支里の所にあり。

○平泉縣　黑山口、白山七

黑山口銀鑛

縣城より二十八支里の地にあり。

○張家口　銀鑛山

多倫諾爾の東側を流るゝ東河の沿岸にあり。

其他長汗、羅溝は烏丹城の西八十支里、モングロール　林西の西八十支里の地にあり。

第三節　銅　鑛

○盧龍縣　孤竹山

○完　縣　小掌村白草峪、舍陽坡

舍陽坡銅鑛

位置　上記の二ヶ所は同じ場所にて完縣北路寨子村の南方四五支里の舍陽山及び白草峪なり、京漢鐵路方順橋驛より完縣に二十五支里、完縣より山迄四十支里內三十支里は山道にて騾馬の外通せず方順橋は北京より汽車にて五時間にて達す。

地質ト鑛床　附近を構成する岩石は頁岩にて走向北七十度東、東南に六十度の傾をなす、此の內に方解石の脈あり脈中に孔雀石及び黝銅鑛を含む百草峪には竪坑あり二三寸の銅鑛脈あり品位は

金　痕跡　銀 0.0059%　銅 44.1%　なり。

沿革　宣統元年の發見にて試驗的の坩堝製煉を行ひたることあり技師として天津工業學校卒業生を用ひたるも事業意の如くならず目下休止す。

東蒙古內地

○平泉縣　銅洞溝、前洞子溝

前者は縣城の東五十支里の地にあり。

第四節　鐵　鑛

○廣平縣　磁州皷城鎮、西北大峪村西、黑石

○密雲縣　大峪椎山、鞍子峇

鞍子峇鐵鑛

縣城の北方四支里の鞍子峇と稱する所にあり高さ百メートル位の山にて其の西北の谷間に鐵床あり地質は砂岩と石灰岩あり鑛種は磁鐵鐵に屬す、此の附近には火成岩存在するものゝ如し。上鑛石は鐵 62.58　硫黃 0.38　燐 0.0007(?)　硅酸 4.26

○龍門縣　新窰堡山

○遷安縣　夾壁山

○盧龍縣　(縣城の西十五支里の所に鐵山あり)。

第五節　鉛鑛

○完　縣　羊角山

前記含陽坡銅鑛と完縣との間にあり鉛鑛脈と稱するは方解石脈なり。

○廣平縣　大公口岐積岺、趙王垞村

後者は磁州の西後五十支里の落花嶺附近なり。

東蒙古內地

○建平縣　轉子山

轉子山鉛鑛

縣城を去る百二十支里の地にあり石灰岩と花崗岩の接觸地帶にして石灰岩中の石英脈は含金すと云はる、西北に走り東北に傾く鑛脈は方鉛鑛、黃銅鑛及黃鐵鑛を含み、掘込むに從て方鉛鑛、黃鐵鑛を增す目下承平公司經營す。

○承德縣　小黑溝、啞叭店、不動山、大黑山、小池西溝、孤山子

小黑溝金鑛

隆化の西三十五支里の地にあり花崗岩、片麻岩及片岩に存する石英脈なり、其の他の金鑛は皆此の附近にして啞叭店は同じく花崗岩中の石英脈の南北に走る五脈ありと云ふ、不動山は啞叭店の西南三

支里の處にあり片麻岩中を西北に走る石英脈の巾三尺長さ四百尺に達す、大黒山は小池西溝は啞叭店の南四支里の地にあり數寸の鑛脈あり何れも方鉛鑛を產出し裕成公司に依り經營せらる、含鉛約三十四％含銀一屯中に二百五十瓦ありと云ふ。

○平泉縣　潘家溝、煙筒山、駱駝脖

潘家溝鉛鑛

楊樹林の西六支里の地にあり石灰岩と花崗岩との接觸帶なり、方鉛鑛、閃亞鉛鑛を產出す、竪坑の深きもの二百五十尺に達す、承平公司經營す。

煙筒山鉛鑛

潘家溝と同地質よりなる駱駝脖は此の附近にして裕成公司經營す。

孤山子鉛鑛

煙筒山の東五十支里の地にあり同一の地質にして鑛囊五塊東西に列ぶ承平公司經營す。

○灤平縣　鷄爪溝、十家營子

鷄爪溝鉛鑛

灤平金溝屯の西北四支里の所にあり花崗岩中の石英脈の北四十五度西に走る巾二寸より六寸に至るものを採掘す鑛石は方鉛鑛なり、目下休止す。

十家營子鉛鑛

豐寧縣の南九十支里の博羅諾の南にあり花崗、片麻岩中の石英脈の南北に走る巾三寸より八寸に至るものを採掘す目下休止す。

第六節　錫鑛

○廣平縣　磁州

○遷安縣　下に錫鑛ありと云はる。

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○唐　縣　大明村南各山

○昌平縣　及び宣化縣下に產出すと云はる。

東蒙古內地

○圍場縣　沙爾虎鄉

○灤平縣　灤河北山溝、黑里河

黑里河は八里罕の西。

第二節　硅石鑛

○萬全縣　東山

東蒙古內地

○建昌縣　西南紅石鑾山

第三節　陶土鑛

○磁　縣　彭鎭の正南張家口

東蒙古內地

○灤平縣

○張家口外北山

第四節　滑石鑛

○唐　縣　大明村南各山

○完　縣　雲梯山

○曲陽縣　河窪村

第五節　石綿鑛

○蔚　縣　廣昌縣東鄉

東蒙古內地

○朝陽縣　地頂山、馬架子西山、金家杖子、鑛洞

平　頂　山

縣城の東南、馬架子西山は休山し、金家杖子は有名なる金山金廠溝梁の北四十支里の地にあり、鑛洞は京奉線綏中驛の北百支里石灰岩中にあり。

○張家口、鷹手溝、南泥溝

前者は張家口の東北七十支里の石嘴子より尙三十支里、獨石口方面に流るゝ支流の一なり。石嘴子の支流にも石綿あり、坑夫十數名を使ひ後者は此處なり、此れら兩者の間には Gabbro あり數寸より二尺程の脈あり、六坑を有す。

第六節　硫黃鑛

○保安縣　宣化縣　懷來縣下に產出すと云はる。

東蒙古內地

○赤峰縣　大窪舖

赤峰の南二百八十支里萬寶山、西南窪、高珠見は舊噴火口の壁にして地下に硫黃を產出す。

第七節　石炭鑛

○蔚　縣　南山

有煙炭にて分析の結果　固定炭素 45.11%　揮發分 51.04%　灰分 3.85%

○赤城縣　下堡、九連洞

○宣化縣　鷄鳴山、王帶山、八寶山

鷄鳴山炭坑

京張鐵道下花園驛より引込線を敷設し京張鐵道にて經營せし炭山にして開坑は光緒三十二年なり每日三四十屯の炭を出し殆と全部鐵道に使用す、炭質は瀝青炭なり、中生記に屬する炭層なり。

○易　縣　東西兩山及紫金關以內

分析表　固定炭素 77.20%　揮發分 9.15%　灰分 13.65%

○曲陽縣　白石溝、野北村

○臨城縣　祁村一帶

臨域炭坑

位置　省の南部、河南省界に近く臨城縣あり京漢鐵道の支線は炭田地方に入り專ら石炭運搬を行ふ、炭田の位置は縣城の北約十支里の地に祁村と云ふ所にあり今より二十年前の開坑にして既に七十萬噸の炭を產出せりと云ふ、近く洋式採炭法を行ふを以て日々五六百噸の產額あり、炭層は砂岩、頁岩中にあり厚さ四尺餘のもの二層あり走向南北にして東へ二三十度の傾をなす延長三十支里餘に達し豫定炭量一億萬噸と稱せらる、井陘、開灤と併せて直隷の三大炭坑の一なり、然れども本炭坑は出水多くして經營甚だ困難なり。

炭層　現今發見せられたる主要炭層九枚あり稼行にたゆるもの六層にて次の如し。

第一　1.2 米　　第二　1.4 米　　第三　0.55 米　　第四　1.2 米　　第五　1.00 米　　第六　2.2 米
第七　0.7 米　　第八　1.4 米　　第九　0.8 米　　　計　10.45 米　なり。

走向南北にして東へ十度より二十四五度の傾をなす炭層の存在區域　約 120.000 平方米　百數十萬噸ならんか、炭質は粉炭多けれど粘結性に富む故に骸炭製造に適するならん。

水分	揮發分	固定炭素	骸炭	灰分	硫黄	比重	發熱量
1.12	30.73	56.53	粘結	11.60	3.626	1.53	7375
—	33.49	5.480	粘結	10.00	—	—	—

	—	31.55	52.05	粘結	16.40	—	燐	比重	發熱量
コークス	0.99	1.46	67.70	—	29.85	3.238	0.224	2.92	6398

○磁　縣　彭城鎮、西佐村、尤莊

磁縣炭坑と稱するものは彭城鎮附近の支那式土法開採のものなり其の産額一ヶ年約十萬噸に達す、重なるもの四公司あり、次に其の大體を述べん。

磁縣炭坑

位置　廣平府磁州の西五十五支里の所に彭城鎮あり磁器の産地として有名なり、磁州は京漢線の驛にして北京の南九百四十二支里の所にあり、磁州、彭城鎮間の道路高低多く交通便ならず若し豐樂鎮を廻れば平地多けれど七十支里となる。

地質　彭城鎮の東二支里の所には北に走る石灰岩山脈あり、又西方六支里の地に南北に走る石灰岩山脈あり其の中間の盆地の東南隅に彭城鎮にあり村より西方の山脈に達する間に低二丘陵横はる、丘陵は砂岩頁岩粘坼等よりなり、數回皺曲をなす此れは所謂合炭層にして次に述ぶるが如く各所にて採炭せらる。

怡立公司

彭城の東北二十支里の西坐にあり彭城附近中最大なるものなり、目下資本金二十萬元にて楊子棠經營す、鑛區面積五支里平方と稱す。

炭層ト炭質　主なる炭層三枚あり地表より 200 尺にして主要炭片十二尺層に當り二百三十尺にて

二尺層に三百尺にして三尺層に當る走向北二十度西にて西北に二十四度乃至十七度の傾をなす一般に西に進むに隨て厚さを減じ遂に尖滅す炭質は有煙炭にて八割は粉炭なり、骸炭用に適す。分析の結果

	水分	揮發分	固定炭素	骸炭	灰分	硫黄	比重	發熱量	燐
石炭	0.68	13.74	85.38	粘結	10.60	2.354	1.38	6644	——
コークス	1.29	1.49	83.95		13.27	2.601	1.98		0.103

出炭ト炭價　磁州或は馬頭鎭迄の運搬不便なると附近に六河溝、臨城等の大炭坑あるため餘り發展せず一日出炭約百噸山元にて一噸一元二十仙コークス三元五十仙なりと云ふ。

中和公司

彭城の東北々十六支里の峰にあり李漢章の經營なり炭層は八尺と六尺とあれとも何れも厚薄不規則のものなり、地表より約二百尺にて着炭し此れらの炭層は西坐と同一なるは明かなるも果して此の炭層は何れに相等するや明かならず目下一日八十噸の出炭あり。

義和公司

彭城の北五十支里の地にあり、地表より百尺にて三尺炭二百二十尺にて四尺炭にあたりたりと云ふも目下休止す。

利和公司

彭城より西丘陵を越え六支里の沙趙院と稱する地にあり二百尺にして三尺炭に當るも粉炭のみ一日約二十噸を出す走向北北西より南々東に走り東へ十數度の傾をなす。

結論　彭城炭層は南五十五支里の六河溝、北遙かなる臨城炭坑に連續するものなりと云ふも其の

確たる事實なく若し此の炭層は他の二ヶ所と同一なりとせば最下部のものなるは明かなり、此の區域可成廣大なれど炭層の變化甚しく大規模の採掘をなすは困難ならんか。

○沙河縣　白錯村

○灤　縣　塘山、開平、西林、馬字溝

開平炭坑

位置　京奉鐵道の塘山と林西兩驛の間に延長し鐵道線路の北側に炭層は略線路に平行して露出す其の長さ約五十支里に達す現今單に開平炭坑と云へば開平と灤州其の炭坑の合併したるものを指すも實は二會社なり然るに此の二會社は民國元年聯合して開灤礦務局なるものを組織したり。

開平炭坑は塘山驛の近く塘山坑西山坑及び林西驛の近く線路の南側なる林西坑よりなり、最初開坑されしは明朝時代なりと云はる、も洋式の設備を施したる千八百七十九年の事にして英人によりて竪坑は作られたり、千九百年には英人經營の開平鑛山會社となり虎山林西の二竪坑より多量の石炭は産出する事となれり、次に灤州炭坑は開平炭坑の隣區にして馬家溝は其の本坑にして東に營子溝、狼尾溝、陳家嶺、桃園の竪坑あり何れも鐵道線路の北十支里以内にあり以上二會社は今は合併して一會社となれり。

炭層　此の炭層は石灰岩を基盤となせる砂岩頁岩の内に數多の炭層あり厚さ一尺以上のもの十二層二尺五寸以上のもの六層より八層に達し總厚平均八十五尺なりと云ふ炭層は大體東北東より西南西に走り長さ七十支里に達す傾斜は西方は急にして五十度東方は緩にして二十度内外なり、一般に西方

は地殻の變動を受け斷層等多し豫定炭量四億萬噸と稱せらる。

炭質　有煙炭にして粘結し骸炭製造に用ひ得べし炭層に依りて多少其の性質を異にす大體二三種に分類し

	固定炭素	揮發分	灰分
第一種炭	71.55%	22.27%	5.54%
第二種炭	67.78%	21.03%	10.52%
第三種炭	64.62%	19.82%	15.23%

等なり。

○臨楡縣　石門寨、柳江、凹子窰、石岺、板廠峪

石門寨炭坑

位置　山海關の西北約五十支里の所にあり分布區域は西南は黒山窰、北は義院口及び板廠峪に達し延長三十五支里、東は王家山より西は老軍頂に至る巾六支里の炭田なり、高麗時代に既に開掘せられしもの丶如く近くは光緒の初年より採炭せられ現に採炭せられつ丶ある場所は久長窰、大馬路、大籌落樹、下奄、炮窰、毛家溝、賊歪、紅梨樹根、黄米堆、月亮石、白戴子、長山子、柳江、馬家窰、老軍頂、凹子窰、杏樹窰等あり採炭に從事する者三百人以上ありと云ふ。

地質　は開平炭田と同じく炭層三四層あり厚さ四五尺と十五尺なり、年產額八萬噸なり、豫定炭量二億萬噸と稱せらる。

炭質　は無煙炭にして分析の結果は

固定炭素	揮發分	灰分
82.36%	4.89%	11.14%
85.42%	8.85%	2.28%
80.59%	7.89%	10.74%

等なり。

柳江炭坑

石門寨の西南五支里の地にあり比較的最近に開かれしもの二十馬力の蒸汽機關を備へ排水す目下四坑あり、何れも斜坑にて數十尺なり炭層は六七層にて二尺より三十尺に達すと稱す。

門子窰炭坑

石門寨の西三支里の所にあり斜坑四、竪坑一あり、坑内湧水盛なり炭層は六層にして一尺より十尺の厚さありと云ふ、以上二鑛區は石門寨炭田中大なるものなり。

石岑炭坑

石門寨の北二十支里地表より百數十尺にて着炭す。

板廠峪炭坑

石門寨炭田中最北にあるもの北三十支里の所にあり六坑あり五層にて地表より二百尺内外にて着炭す厚さ二尺より二十尺良炭を出すも排水に困難を感じ事意の如くならず、光緒二十年頃は最も盛に採炭したりと云ふ炭は馬車にて秦皇島に出し海路天津方面に出し一噸天津にて六兩にて開平炭と同じなるも運賃の都合上競爭困難なり、義院口附近にも炭層あり良炭を出し厚さ三十尺にて有望なるも湧水のため中止す。

○薊　縣　青水峪、荒山

○昌平縣　山溝岺、神仙山、炭灰舗、槽碾溝村

○房山縣　西山

西山炭坑

北京の西南にある石灰岩よりなる大房山及び馬鞍山の麓には西山炭坑あり地質は砂岩頁岩にて上部に蠻岩あり、鐵道にて北京と連接し比較的便利なり西山炭田は璃瑠河炭田と王平炭田を含み炭坑の數非常に多きも一として大なるものなし石炭は皆北京に送られ毎月十數萬噸に達すと云ふ其他北京の附近にて東里と云ふ西南三十支里の地には毎日千噸の無煙炭を出し北京の西なる門地溝にても多量の炭を出す北京に平常來る重なる石炭は坨里、周啱、門頭溝、齋堂、鷄鳴山、開平、井陘、山西炭、河南炭等なり。

○宛平縣　齋堂、保衞、門頭溝、青龍潤、官廳西坡、圈門、外南坡、刺兒溝

齋堂保衞炭坑

北山炭の產地として北京に知らる年々數萬噸を出し近く京張線より支線を布設せんとする計畫ありたり。

○遷安縣　夾壁山

○邯鄲縣　李家莊

○井陘縣　洪潤、樋口、南陘、北陘、洪岸

井陘炭坑

北京より京漢鐵路にて正定府に至り其れより支線の大原府に達するものに乘換へ井陘驛に達す其の北方に炭田あり其の區域井陘縣を中心として約六十支里の間なり洪潤以下の炭坑全體を總稱して井陘炭坑と稱す。

洪潤炭坑

位置　縣城の東北二十五支里の地にあり運炭專用の輕軌は正太鐵道と接續す。

炭層ト炭質　炭層は三層にて上接、二接、三接と稱し上接は七尺、二接四尺、三接は十二尺にして約七百尺の間にあり砂岩頁岩の內にあり主として上二層を採炭す每日五六百噸の出炭あり炭質は有煙炭にて粉炭多く骸炭を製造す最初は支那土法にて採炭せしも數年前より洋式採炭を行ふなり。

沿革　Richthofen 氏が調査し有望との事にて獨人 Honneker 氏着手し光緖三十四年獨人と借款の下に合同經營せり以前支那人が土法にて經營せしもの而して今日に至る販路は正太、京張、津浦鐵道に用ゆ。

樋口炭坑

位置　縣城の西南約三支里の地にあり鐵路線を去る三丁交通便なり。

炭層は重なるもの八尺層一枚なり地表より八十尺にて着炭す炭質前記と同樣なり一日の採炭量百噸

内外目下正豐煤鑛公司の經營に關る。

其他南陘炭坑は縣城の北五十支里、北陘炭坑は其の隣鑛區、白彪坑は縣城の北々東三十支里、順道地坑は鳳山と稱し縣城の北十五支里にあり洪岸坑は城の西五支里板橋坑は西南十支里にあり此れらは何れも土民の採炭するものにして炭層の厚さは四尺より八尺一日二十噸内外の出炭あり。

○阜平縣　炭灰鋪村

東蒙古內地

○阜新縣　水泉溝、架馬索、和尙溝、新邱

和尙溝炭坑

西土默特王府の西方十支里の所にあり村の南一丁の所に坑口あり、今より百年以前に既に知られしも多くは休山のみ一昨々年營口の人嘗て次に述ぶる新邱炭坑に働きしもの來りて再開し鑛夫三十人を使役し採炭せしも思はしからず約二千元を損して中止したり新斜坑の長さ二百尺あり、炭は半無煙炭にして粉のみ炭層の厚さ一尺程なりと云ふ。

新邱炭坑

位置　此の炭坑は此の方面にて最も有名なる大炭坑として知らるゝものなり位置は京奉線新民府驛より新立屯に至り尙ほ西方數十支里、驛よりは約二百支里の距離にあり、炭坑の西方八支里の所には縣城あり、炭田は一の丘陵地にて餘り高からず鑛區の西方には巾三丁程の淺き阜新河あり、此の炭

田發見は嘗て大洪水の際此の河の岸破壞し其處に炭層露出したるに始まると云ふ鑛區は東北より西南に延長し二十支里の長さに巾は數支里あり。

地質ト炭層　此の附近を構成する岩石は片麻岩と第三紀層なり後者は砂岩頁岩、礫岩等よりなり炭田を構成するものなり、炭田は一の盆地の中央に位す炭層は走向東北より西南に走り大體三層にして五尺、十尺、百尺と稱す支那人の說明に依れば六層なり此の地の炭層は一の背斜層をなすと云はるるも目下の狀態にては其の事實を確むる事能はす坑口は深さ數十尺のもの二三あるのみ、他に數十の舊坑あれど皆破壞す、炭質は有煙炭にて分析の結果　固定炭素 47.29%　揮發分 41.06%　灰分 3.52% 等なり。

此の炭坑は大倉組の手に歸し居ると稱せらる、も目下交通不便なれば其のまゝになる。

○朝陽縣　河東麒麟山、黑山溝、小札蘭營子、興隆溝、岳家溝、三義棧、尖山子、東鷄、洛等營子、台大吉營子、小邊外、小井子、黨金溝、岺底西、馬架子、茨梅花溝、ベイピイオ、葦子溝、西興隆溝、三寶札蘭營子、段木頭溝、小楊樹溝、南票、冰溝、楊樹溝、岳家溝、ホイトンメイヤオ、ロオコオチヤン、平頂山、娘々廟、大台子、嘎岔、羅郭杖子、暖地塘、大窰溝

河東麒麟山炭坑

縣城の東南十二支里の鳳凰山に隣する麒麟山にあり炭層は石灰岩中に數枚あり厚さ一尺より二尺内

外傾斜は西南へ三四十度なり、一の斜坑あり深さ三百尺に達す炭質は半無煙炭にて 固定炭素 36.72% 揮發分 42.40% 灰分 20.76% なり。

黒山溝炭坑

次に述ぶる興隆溝の西北七十支里の處にあり民國二年より董相九が經營す。

小札蘭營子炭坑

縣城の東北三十五支里にあり交通至便なり、炭層は四枚あり厚さ一尺より四尺にて東南に二十度程の傾をなす、坑口四ヶ所にあり深さ三四百尺に達す炭質は分析結果 固定炭素 12.38% 揮發分 40.20% 灰分 40.42% なり。

興隆溝炭坑

縣城の北六十五支里の所にあり炭層は石灰岩の上部に位する硬砂岩頁岩、礫岩の内にあり厚さ五尺程のもの一層なり、目下鑛夫數十名を使役して採炭す。炭質は 固定炭素 62.70% 揮發分 10.00% 灰分 23.70% 等なり目下一日に約八九噸を出す。

岳家溝炭坑

朝陽縣の東北九十支里興隆溝の東北二十五支里の所にあり、永聚、天興、東興の三坑あり、永聚は二斜坑あり傾斜三十度にて一方は排氣排水の用にす排水に蒸汽汽罐を用ゆ、炭層は三層あり、西北に三十度餘の傾斜をなす五尺内外の厚さのもの一層を專ら採炭す、半無煙炭なり、天興坑は同じく二斜坑あり前坑と共に合して一千餘人の鑛夫を用ゆ。

東興坑は或は要吉營子とも云はれ鑛夫三百人を使役す、何れにしても可成大なる炭坑なり。

炭質　固定炭素 46.12%　揮發分 42.57%　灰分 113.0%　等なり。

三義棧炭坑

岳家溝の東北十支里の地にあり、嘗て二三百人の鑛夫を使役したりと云ふ舊坑五個あり、光緒三十二年に開かれたり。

尖山子炭坑

三義棧の東北十六支里にあり、炭層は二尺より五六尺のものあり、炭質は　固定炭素 12.85%　揮發分 53.51%　灰分 29.60%　等なり、排水困難なりと云ふ其他東襲、洛等營子炭坑此の近くにあり。

台大吉營子炭坑

興隆溝の東北十五支里の所にあり、東坑西坑の二坑あり鑛夫十數名を用ゆ石炭は粉炭多く分析の結果は　固定炭素 27.57%　揮發分 24.13%　灰分 47.99%　等なり。

葦子溝炭坑

錦州の西七十支里の所にあり光緒三十年に開かれ白潤澤經營す。

段木頭溝炭坑

縣城の西南二十五支里の所にあり炭層は三尺程のもの西北に緩傾斜をなし數個の坑口あり湧水多し四五十名の鑛夫を使役す炭質は　固定炭素 51.08%　揮發分 34.35%　灰分 14.56%　等なり、朱忠措經營す。

小楊樹溝

縣城の北二十支里、南票は錦州の西七十支里の所にあり。

冰溝炭坑

建昌縣の南百六十支里の所にあり京奉線の綏中驛は南百六十支里にあり地質は石灰岩、砂岩、粘板岩、礫岩あり炭層は礫岩の上にあり東北へ三十度の傾をなす炭層の數十數層と稱す臺子窰、上灣子、下灣子、北岺窰の四區城にて採炭す臺子窰には十坑あり平時八十名多きは五百名の鑛夫あり上灣子には二十坑あり鑛夫四十人下灣子は十坑あり七十名の鑛夫あり北岺窰には五坑あり二十名の鑛夫あり出炭量は鑛夫一定せず故に五噸より四五十噸あり炭質は有煙炭にて良好有望の炭坑なり。

嘎岔炭坑

朝陽の東南十支里の所にあり炭層は石灰岩に近く七層あり南へ三十度の傾をなす目下採炭するは四尺内外の層にて炭質は半無煙炭なり、鑛夫三十名を使役し採炭に從事す。 分析の結果は 固定炭素 44.51% 揮發分 46.97% 灰分 8.52% 等なり。

羅部杖子炭坑

朝陽縣城の西二十支里の所にあり地質は砂岩硬砂岩あり炭層は地表より僅かにて着炭するも坑内水多し炭質は 固定炭素 17.67% 揮發分 57.45% 灰分 24.87% なり、今より數十年前盛んに採炭せしものなりと云はる。

暖地塘炭坑

朝陽縣城の東南四十支里江家屯の北三十支里の地にあり、以前英國人の手に歸したるが目下支那人の手にて經營す、大體下の三ヶ所に分たる第一、暖地塘の西十數支里の岺底附近より富龍山を經て東北へ佛廟子に倘は紅家溝、石灰窰子附近に達す第二、大岺より東北へ紅果縣に至るもの第三、紅家噸

の南約二十支里の所より西南に楡樹溝、上富馬溝附近に至るもの、炭質は撫順炭の如し。

大窰溝炭坑

暖地塘の東北二十二支里、錦州の西七十二支里の地にあり、炭層の厚さ十尺より三十尺に達すと云はる、一會社は三百五十人の鑛夫を有し竪坑五ヶ所深さは六百尺に達す、錦州より黄土崗子を經て大窰溝に至る鐵道あり、英國の資本入りをるが如し目下一日十二三噸の炭を出す。

○**赤峰縣**　平頂山、東元寶山、西坤兌溝、十大分、張保溝、水泉子溝、瓦匠溝、朝陽灣子、小葦子溝、溝尖山、牌樓溝、西捌喇溝、柳條子、五台圖

平頂山炭坑

赤峰の北約三十支里の所にあり。

東元寶山炭坑

赤峰の東七十支里の地にあり、炭層は中生代の砂岩頁岩中にあり東南へ十五度の傾をなす厚さ十尺より十四尺なり西梁、南梁の二ヶ所にて採炭す西梁には斜坑四、竪坑三あり鑛夫二百人餘を使用し一日三四十噸の炭を得、前より百年前の發見、炭質は　固定炭素 39.65%　揮發分 40.62%　灰分 5.09% なり。

西坤兌溝炭坑

赤峰の西百四十支里の所にあり。

十大分炭坑

赤峰の東南八十支里の所にあり炭層は中生代の頁岩の内にあり厚さ四尺より二十尺二層あり西南に二十度餘の傾をなす、斜坑二、竪坑三あり一日二三十噸の出炭あり鑛夫は土民を用ひ百人より三百人あり時季に依りて異る、炭質は　固定炭素 38.27%　揮發分 31.97%　灰分 4.03%　炭質可にて量多ければ有望なり目下赤峰にて販賣す。

張保溝炭坑

赤峰の西北百二十支里、水泉子溝は赤峰の西、猴頭溝の西五支里、瓦匠溝は前者の北二十支里、炭の厚さ十尺、朝陽灣子は圍場の西六十支里、小葦子溝は圍場の西三支里。

柳條子溝炭坑

赤峰の西九十支里、炭層は中生代の砂岩頁岩中にあり厚さ五寸より四尺にて三層あり三坑あり、鑛夫二三十人あり炭質は光澤ある無煙炭なり、炭質は　固定炭素 78.21%　揮發分 8.96%　灰分 11.40%なり。

五台圖炭坑

前者の西南五支里の地にあり同一の炭層にて目下休止す。

○建平縣　四冷道溝、四道勾、煤窰溝、老君廟、四家梁、撰山子、松樹台、石門子溝、南山、南哨、青隆溝

四冷道溝

大城子の東、四道勾は小城子の西南十支里、煤窰溝は馬家城子の東百支里、老君廟は八里罕の南四

十支里、四家梁は馬城子の東三十五支里、撲山子は八里罕の東北百支里、松樹台は縣城の東七十支里、

青降溝炭坑

西山炭坑とも云はる建平の北二十五支里の所にあり炭層は東北に四十五度の傾をなす二三尺の炭あり砂岩頁岩あり、鑛夫二三十人を用ゆ。

○建昌縣　薄立口、松樹嶺、イーケンチコン、蘇子溝

薄立口は縣城の西南四十支里、坑夫四百人あり、松樹嶺は縣の東北四十支里、イーケンチユンは縣城の西八十支里。

蘇子溝炭坑

建昌の北三十五支里の地にある溫泉の東北二十支里、縣城より四十支里なり炭層は中生代の砂岩頁岩礫岩凝灰岩等の累層中にあり露頭なし、深さ七八十尺の竪坑二つあり、炭層は西南二十數度の傾をなし四層よりなり第一は四五寸第二は五尺より八尺、第三は一尺餘第四は不明なり第二第三を採炭す、炭質有煙炭にて良好なり、　固定炭素 41.00% 揮發分 38.60% 灰分 16.80% なり。

○平泉縣　黑山口、赶溝門、楡樹溝

黑山口炭坑

平泉縣の西二十八支里の所に黑山口あり其の南三十支里の所なり。

赶溝門炭坑

平泉の西百十四支里の所にあり、楡樹溝は熱河の東南百支里の所なり。

○張家口　大同府、土木路、馬連圪瘩、五十家子、石版橋、北山一帶

大同府炭坑

大同府の附近二三百支里の內に含まれ小兒山、橋風梁、靑家山、寶根窩、大馬林家、小馬林家、蘇汁街、北家窩、棚家嘴、大北溝、聚寶溝、吳泉溝等あり。

土木路炭坑

張家口の西百二十支里無煙炭を產出す、馬連圪瘩は張家口の北なり。

五十家子炭坑

張家口の東北四十支里の陶喇廟の北二十支里の所にあり。

第八節　石油鑛

東蒙古內地

○建昌縣　熱河九佛堂、黑水

此の油田は建昌縣の南七十五支里の三臺子の東南八支里の地にあり喀喇沁左翼旗へは二十支里あり、九佛堂と稱する村の東方三支里の地は古生層の石灰岩の上に中生層の砂岩頁岩あり頁岩中に油を含む頁岩は北七八十度東にて東南に三十度の傾をなす厚さ一尺數寸より八尺に達す石油の露頭は二百間に

延長し頁岩の廣袤は可成の廣きものならん有名なる熱河の石油とは之れを指すなり。

第九節　鹽　鑛

○順平府　天津府、永平府ノ海岸
○張家口外　北山附近

第十節　硝石鑛

東蒙古內地
○建平縣　黑水、古山
縣城の西北八十支里、赤峰の東南百支里の地にあり表土中にあり淡灰黃色にして何等の特長なし、古山は黑水の西南五十支里の地にあり七家子と云ふ附近なり。

第十一節　曹達鑛

東蒙古內地
○張家口　白廟灘
張家口の北百二十支里の地方に平原到る處に曹達を含有し白色を呈す。

東蒙古內地

○建昌縣　熱水湯

縣城の北三十五支里の所にあり附近は玄武岩にてなり湧出口は十二ケ所ありアルカリー性無色透明の溫度四十四度（攝氏）の溫泉なり。

○建平縣　熱水塘

縣城の東南六十支里なり同處は西北に花崗岩の山あり湧出口は一ケ所ありアルカリー性無色透明の溫度四十七度（攝氏）の溫泉なり。

第二章　山東省

山東省は面積約十四萬五千平方粁ありて其の形長き三角形を橫にしたるが如く西を底となし東に延び渤海中に突出し一の半島を形るなり、而して此の半島の頸部は現在及び舊黃河流域にして此處にのみ稍廣き平野あり直隸、河南、江蘇に界す。半島の中央より稍東に寄りたる所に南より北に流れ渤海に注く小河の濰河なるものあり此れは山東省を東西二部分に分ち此れら各部は地質上大に異なる故隨て其處に產する鑛產物も亦異るなり、卽ち東部は太古代に屬する片麻岩、片岩、花崗岩を以て構成せられ鑛產物としては金鑛最も有名なるに西部は其の基底は以上の如き岩石を以て構成せらるゝも上部

は此れを被ひて種々の新しき時代の岩石あり此れらの内には有名なる石炭を埋藏し全く東西に依りて大に異なる性質を有す、山東省は數十年前獨人リヒトホーヘン氏に依りて調査せられ支那有數の鑛產地と稱せられしも以上の二鑛種以外に近く名を知られたる鐵鑛あり其れ以外には餘り多く知らるゝものなし、唯此の省は山西省に於ける大炭層開發の爲めには必要缺くべからざる徑路にて斯く獨人の注意を引きたるものに非ざる哉。

金屬鑛

第一節　金　鑛

○蓬萊縣

○文登縣　狼虎山、應山

此の二山は威海衛の南々東二十支里の地にあり明朝時代に開鑛せられ其の後光緒二十六年に再開し威海衛鑛山會社の經營なりしも三十二年より中止す此の會社は英人の經營するものなり。

○福山縣　馬山寨、老子山

縣城の西南二三十支里の間に砂金を產し以上二ヶ所は其の主なる場所なり。

○寧海縣　茅山、桂山、金牛山

桂山砂金

寧海の西々南四十支里、芝罘の東南六十支里の所にある桂山より出づる河流に砂金を產出し明朝時

代より採集せしものと云ふ光緒二十年頃盛んに稼行せられしも目下中止す砂金産地は溝頭と稱する場所なり。

金牛山金鑛

縣城の南六十支里の所にあり花崗片麻岩中に花崗岩あり內の石英中に含金すと云はれ光緒二十年の頃初めて開かれ目下中止す。鑛石ば金 0.0015% 內外なりと云ふ。

○招遠縣 羅山、洛山、馬步岺、金華山、中葉集

羅山金鑛

位置 招遠金山と稱せられ縣城の北々東三十支里、黃縣の南數十支里の地にあり羅山及玲瓏山よりなり、大金鑛の一として知らる、龍口港は金山より七十支里の所にあり距離遠からざれど其の間の道路は可なり惡し。

地質及鑛床 片麻岩中に玄武岩の如き岩脈あり大なる石英脈に沿ひ巾は數尺より數十尺にて長さ數支里に達す略東西に片麻岩中を走る此れを大玲瓏山の鑛脈と云ひ其の他小玲瓏山各所に十數の小石英脈あり多少の金を含む井灣と稱する所には黃鐵鑛脈あり同じく金を含む、鑛石は約十萬分の三の含金あり多少の黃銅鑛と方鉛鑛を混ずることあるも極めて稀なり、井灣の黃鐵鑛は約十萬分の五の含金あれど水銀法にて收金する故採ること能はず、最上鑛は萬分の二露頭の好きものも萬分の二の含金あり、

沿革其他 此の金山は今より四十年前に開採せられ其後光緒十五年より李某に依り經營せられ二十三年頃は最も盛隆を極めたり、採鑛は水平線以上のみを掘り坑內は湧水少し既に今日迄採掘せられ

たる鑛量は三十萬噸以上にして金としては二百萬圓以上ならんと云はる、金鑛附近には小蔣家、大蔣家、臺上村等の諸村あるも人家極めて僅かにして何ら物資の供給を得ること能はず不便の地なり。

馬歩岺及金華山金鑛

招遠縣の西北五十支里の地にありと云ふ。

○棲霞縣

○平度縣　平度、金坑

平度金鑛

位置　舊店金鑛とも云はれ掖縣の東南七十支里平度縣の東北九十五支里の地にあり三座山、双山の東南麓なり、龍口港へは百八十支里を隔つ、明朝時代より採掘せられ其後稼行せられしが鑛石の品位下り光緒十七年より殆ど中止す。

地質ト鑛脈　片麻岩中に鬼御蔭、花崗岩及び閃緑岩の噴出あり、片麻岩中の石英脈に金を含み水平線以上二百尺は可成の鑛石を出したるも以下は黃鐵鑛多き貧鑛となり中止したり、既設の器械類の遺物あり既に産金高は百萬圓以上ならんと云ふ招遠金鑛に次で大なる山東の金山なり。

○掖　縣　洪譜埠、夏邱輔

○卽墨縣　馬山

馬山は縣城の北二十支里の所にあり。

○臨朐縣　胡芦山

○安邱縣　丁字溝

○博山縣　峨眉山、團山

○沂水縣　紅石橋或ハ沂水

○莒　縣　野泉、七寶山

七寶山は莒縣の東北約五支里の地にあり。

○歴城縣　錦繡川

錦繡川は泰山に源を有する黃川の支流なり此の錦繡川に沿ふて金鑛ありと云はる。

○平蔭縣　安子山

第二節　白金鑛

○歴城縣　濟南

濟南の西三支里の所に白金の如きものを發見したりと云はる。

第三節　銀　鑛

○福山縣　芝罘附近
○寧海縣　附近
○海陽縣　附近
○蓬萊縣　余果山、金華山
金華山、寧海縣附近のものは方鉛鑛中の銀なり。
○棲霞縣　芥山
○岠嵎縣　黄銀洞
○掖　縣　大澤山、洪欒埠
○濰　縣　附近
○安邱縣　擔山、百山岑
○臨朐縣　葫蘆山
○蘭山縣
○蒙陰縣　封山

○莒　縣　七寶山　莒縣の北百支里

○長山縣　般陽、濟陽

○淄川縣　附近

淄川縣附近のものは一噸より二十乃至三十オンスの銀を得ると云ふ。

第四節　水銀鑛

○臨朐縣

○蒙陰縣

○武定縣　茅焦台東

第五節　銅　鑛

○福山縣　張家莊　芝罘の西百十支里

○膠　縣　七寶山

○臨朐縣

○莒　縣　七寶山

○沂水縣　附近

○新城縣

○歷城縣　桃科莊

桃科莊銅鑛

位置　濟南府の東南々百支里の地にあり二日間の行程にして道路惡し。

地質ト鑛床　濟南と鑛山間には石灰岩、花崗岩、粘板岩あれど鑛山附近は片麻岩よりなり有色鑛物多き部分には黄鐵鑛、黄銅鑛あり「ニツケル」を含む事多し、塊狀をなして存在す、深さ數十尺の竪坑あり。

沿革　明朝時代の發見にて民國二年より朱氏によりて稼行せられ東關驛前には二萬元を投じて建てられたる製煉所あり、目下我か古河公司と合同し採鑛中既に數萬噸の鑛石を採鑛したりと云ふ。

○萊蕪縣

○嶧　縣

第六節　鐵　鑛

○蓬萊縣　寶山、金華山

縣城の東南地方には鐵鑛あり縣城の南五十支里の寶山、東南五十支里の金華山有名にて磁鐵鑛、赤鐵鑛を産出す。

○福山縣　芝罘附近、芝罘島、鑛洞島

芝罘附近の芝罘島、鑛洞島及び縣城の後方の丘陵に鐵鑛あり。

○棲霞縣

○昌邑縣　孟埠、李格莊

縣城の南々東にあり山地にて鐵鑛ありと云ふ。

○臨淄縣　金嶺鎮

金嶺鎮鐵鑛

位置　山東鐵道金嶺鎮驛の北三哩餘の鐵山と云ふ所にあり、金嶺鎮は青島より約百八十哩濟南よりは七十哩程の所にあり。

地質ト鑛床　地表は第四紀層なるも石灰岩と花崗閃緑岩あり此の接觸のため鑛床を成生し鑛石は十尺より長きは百尺の扁豆狀をなし、厚さ大なるは十尺餘なり、大部分磁鐵鑛にて多少の褐鐵鑛、赤鐵鑛を混ず。

分析の結果　鐵 58.22%　硫黄 0.11%
　　　　　　鐵 66.18%　硫黄 0.10%
等なり、鑛量は約五百萬噸と稱せらる嘗て獨逸は此の

鐵及び其他のものを集め四方驛（青島に近き）附近に製鐵所を設けんと企てたるが如し、目下山東鐵道にて經營す。

○益都縣
○樂安縣
○高苑縣
○臨朐縣
○博山縣　岳陽山、青石關、膠州、花林店輔、小竹山
○莒　縣　褐鐵鑛、赤鐵鑛の二種を產出す
○長山縣　馬山、裘家山
○歷城縣　附近
○新城縣　東南鄉
○淄川縣
○萊蕪縣

○嶧　縣　峨山口、鐵峇

峨山口鐵鑛

位置　津浦鐵道臨城驛より支線を入り棗莊驛にて下車し其の東方十支里の地に鐵峇と稱する丘陵あり鑛床存在す峨山口は驛の東北數支里の地にあり昔此處にて鐵製煉を行ひたる場所なり。

地質ト鑛床　鐵峇は此の附近一帶を構成する片麻岩、片岩、砂岩、シャルスタイン、頁岩、石灰岩中に夾在するシャルスタイン或は頁岩の如き岩石の其の內に鐵を不規則に多く含むものなり即ち日本の赤間ケ石の鐵分多きものなり、巾三四十尺長さ數支里あり鐵質は赤鐵鑛なり有名なる嶧縣炭坑は西方數支里の所にあり。

第七節　鉛　鑛

○福山縣　楮住町

○招遠縣　馬耳山

○平度縣　嗋岈山、廓落崗、潘家疃

○掖　縣　紅山、黃山、九寶山、平山

○膠　縣　薜家溝、西河村

○歴城縣　大西山

第八節　錫鑛

○臨朐縣

○莒　縣

○嶧　縣

第九節　砒鑛

○招遠縣　霧雲山、羅山

非金屬鑛

第一節　金剛石鑛

○膠　縣　七寶山

○蘭山縣

縣城の南三十支里沂水流域の砂礫中に寶石あり、金剛石と云はるゝも確かならず其他寶石として福山縣の東南二十支里の造書山に白玉石と呼ぶ軟玉を產し、榮城縣榮城灣附近の河口砂礫中に一種の寶石ありと云ふ。

第二節　水晶鑛

○大　峴　府山及ビ泰山（紫水晶）

○博山縣　戴莊南山

○萊蕪縣

○蘭山縣

○即墨縣　の西南百十支里の地に紫水晶を出すと云ふ。

第三節　硅砂鑛

○博山縣城附近

博山縣城、黑山及び西山附近の夾炭層上部の石英砂岩を原料とし硝子を造る燃料曹達等も皆此の附近より得られ頗る便宜なり目下耀華玻璃公司經營す、石灰岩中の螢石も用ゆ、資本銀十五萬兩千九百〇二年創立、窓硝子、玉、洋燈、飾玉を造る獨人技師あり。

第四節　陶土鑛

○博山縣　白虎山

博山燒は縣城附近の夾炭層上部の粘土なり青土、黄土、煤寶石、白泥等の名あり。

第五節　雲母鑛

○山東鐵道　周村鎭附近

第六節　蠟石鑛

○掖　縣

縣城の東五支里の地にあり。

第七節　石綿鑛

○掖　縣　金華山、老子山

第八節　石炭鑛

○福山縣　魏家疃、綠山、猪山

○蓬萊縣　附近

蓬萊縣と黄縣との界なる黄水河を夾み文峰頂附近に炭層ありと云はる。

○棲霞縣　玉皇山

縣城の東南玉皇山の麓除家店附近に石炭を出す。

○海陽縣　附近

○掖　縣　括婁山

○濰　縣　坊子

坊子炭坑

位置　濰縣の東南四十支里山東鐵道坊子驛附近にして坊子驛は青島より百十三哩の隔りにあり此の炭田は獨逸か膠洲灣を占領して第一に着手したるもの。

炭層　四尺より十二尺のもの三枚あり砂岩頁岩中にあり下二層を重に稼行す上層は珠羅紀下二層は石炭紀のものなりと云はる東西に走り北に十度の傾をなす山東鐵道は鑛區の北界をなす、北部には炭層中に火山岩の突入するものあり、炭質は揮發分三十内外、灰は九より十五、硫黄一内外にて五割は粉炭なり、重に山東鐵道に用ひたり。

沿革　千九百〇二年山東鑛山會社にて經營せられ二三の竪坑を下し坑夫三千人を使役して一日千噸近くの炭を出せしも數年前より炭層亂雜し湧水多きため中止し器械は黌山炭坑に移したり、獨逸が第一に着手したる炭坑は斯くの如く失敗に歸したり。

○膠　縣　艾邱、孟慈村、徒家屯、膠州灣口西山附近

艾邱は縣城の北三十支里の所にあり。

○安邱縣　季家埠、曹家樓

○諸城縣　韓家溝

○博興縣　南晤莊　（臨朐縣トノ界）

○博山縣　博山

博山炭坑

位置　山東鐵道の張店驛より支線を入り其の終點博山驛附近の炭田を云ふものにして其の北には淄川縣に黌山炭坑あり兩者を合して博淄炭田と稱せらる、博山炭坑は博山縣を中心として南北三十支里東西十五支里の區域を占め其の内に洋式稼行するもの七ヶ所土法稼行するもの大なるは八ヶ所小なるは二十數ヶ所あり、又此の區域内には硝子製造業行はれ支那硝子產地として有名なるものなり。

炭層　上部石炭紀に屬するものにして東北より西南に走り西北へ二度より五度の傾をなす大向斜層をなす炭層の數は十五枚にして全厚さ三十五尺内重なる七層を採掘す此の厚さ二十四尺なり。

炭質　は各層にて多少相違あるも此れを區別する能はず分析の結果は次の如く、

固定炭素 71.10%　揮發分 14.07%　灰分 14.19%　等にして有煙炭なり、一日の出炭約一千噸後來有

望なる炭坑の一なり、豫定炭量五千萬噸と云はる。

坑口の重なるもの　高家峪坑は縣城の東一支里、河池坑は南々東十支里、八陡莊院は西南二十支里、江土地坑は八陡莊院の東十支里、徐家崖坑は東々南十五支里、線花地坑は東十五支里、台頭坑は東北二十五支里以上は皆洋式設備をなすもの其他、峰炮峪坑、廟峪坑、梁平坑、河西坑、簸箕坑、揚家樓坑、北峪坑、葦渡河坑は土法の大なるものなり。

○益都縣

○臨淄縣

山東鐵道青州驛ノ西北ニ小炭田アリト云フ。

○昌樂縣　房子山

○蘭山縣　鳳凰蛋、紅土店

鳳凰蛋炭坑

位置　縣城の西南約三十五支里の所にあり一名傅家莊炭坑とも云ふ開益公司により經營せられ一日四五十噸の出炭あり炭層三枚なり炭質は有煙炭に屬す。

固定炭素 76.68%　揮發分 20.62%　灰分 2.02%　なり次の紅土店と兩者は一般沂州炭田と云はるゝものなり。

紅土店炭坑

縣城の西十五支里にあり炭層三枚ありて土民採炭す縣城の西南一帶には炭層存在す基盤は石灰岩にて上に夾炭層あり東に十數度の傾をなす五尺位のものなり。

○莒　縣　揚家莊、土山莊　　縣城ノ西南二十五支里

○郯城縣

○蒙陰縣　汝南

縣城の北にあり小炭坑にて有煙炭を產出す炭質は　固定炭素 61.13%　揮發分 31.65%　灰分 5.33%等なり。

○長山縣　滋窰村

○淄川縣　黌山

黌山炭坑

位置　博淄炭田の北部を占むる淄川縣城の東々南七支里の地にある黌山の南十支里に黌山坑あり炭坑專用の鐵道あり、一般に黌山炭坑の區域は南は龍口附近より北は湖田、南山に至る四十支里の廣茅を占むるものなり淄川炭坑とも稱せらる、靑島より二百六哩の距離にあり。

地質ト炭層　炭層は石炭紀の砂岩頁岩の內にあり石灰岩粘板岩を介在し時に玄武岩の突入するあ

り、炭層大小十數層内主なるは十二枚厚さ二十六尺余にして主要なる炭の厚さは一尺八寸、二尺三寸、七尺六寸等なり炭質は有煙炭にて粘結せず、一日二千噸の出炭あり、此の炭坑は前記の博山炭坑の北に位し兩者合して豫定炭量二十七億噸と稱せられ山東第一の炭山なり。

○章邱縣　王村、明水

章炭邱坑

位置　山東鐵道の王村驛附近と明水驛の南なる胡山の東西なる炭田を合したるものにして王村鎭の南々西八支里の地なる孟家院、張家莊には二坑あり、一日十噸餘の炭を出し明水驛の南二十五支里の文祖鎭及び埠村邊には數坑あり毎日四五十噸を產出す。

地質ト炭層　前記の博淄炭田と同じく古生代石炭紀に屬する砂岩頁岩中にあり炭層は三枚にして一尺五寸、二尺、四尺なり、稼行するは四尺炭一枚にして粉炭多く博淄炭より劣るなり炭層は北へ二十度の傾をなす、炭質は　固定炭素 66.86%　揮發分 18.13%　灰分 14.58%　等なり。

○新泰縣

新泰炭坑

津浦鐵道泰安府より沂州(蘭山縣)に至る通路泰安より東南百二十支里の地に新泰縣と萊蕪縣との界なる蓮花山岺にて南北に分たる炭田なり、北は萊蕪炭田にして南は新泰炭田なり、新泰炭田は縣城の西北十五支里の蔡家莊及び西南十五支里の汶南附近のものにして地質は他と同じく炭層は一二尺のも

の三枚あり其の質悪しく分析の結果　固定炭素 66.46%　揮發分 31.65%　灰分 5.33%　等なり、皆土法にて稼行せらる。

○萊蕪縣

萊蕪炭坑

前記の新泰炭坑の北にあり縣城の東々南三十支里の閻莊附近なり炭層の傾斜急にして坑内湧水多く二三の土法にて開かれたる坑あるも効果なし。

○嶧　縣　棗莊

嶧縣炭坑

津浦鐵道にて浦口より二百四十一哩、濟南より百五十七哩の南に臨城と稱する驛あり、此處より支線を入り十九哩にして棗莊驛に達す驛の東方に炭坑あり、東西に延び東部は廣益公司西部は中興公司の經營に關り中興公司は獨人と合同經營なりしが近く我が安川氏と合辦せしとか云ふ。

地質ト炭層　石炭紀の石灰岩、硅岩、頁岩は片麻岩を被ひ其の内に鐵鑛（鐵鑛參照）と石炭とを有す炭層は六層あり二尺、二十八尺、四尺、五尺五寸、二尺、一尺五寸にして全體にて四十一尺、稼行せらるゝは第二、第三、第四の三枚なり、東方に行くに隨て第二第三第六は失はれ重なるは五尺、五尺五寸の二層となる。炭質良好なる　固定炭素 64.78%　揮發分 27.52%　灰分 7.14%　の有煙炭なり。

豫定炭量三億萬噸と稱せらる、日々五百噸の出炭あり其他に七百噸合計千噸の産額あり、一部分はコークスとなし運河にて揚子江、鎭江、南京方面に販賣し津浦鐵道にも多く用ゆ、山東に於ける有數

の炭坑なり。

○勝　縣　盧山店

○壽張縣　梁山寨

縣城の西々北二十五支里、嶧縣炭坑の西北百三十支里の地にあり

○昌邑縣　景山窪、大崑崙、戴家地

第九節　石油鑛

○章邱縣

嘗て石油發見せられたりと云ふも事實にあらざらん。

第十節　明礬鑛

○益都縣

○招遠縣　羅山

第十一節　硝石鑛

○益都縣

第三章　山西省

山西省は北部支那の中央北部に位し面積約二十一萬二千平方粁を有し東は長城を以て直隷省に西は黄河にて陝西省に北は蒙古、南は黄河を越えて河南の大平原に界す土地一般に高臺をなし海拔八千尺より一萬四千尺に達し平均三千尺の高さを有する高原なり、氣候大陸的にして地味肥えず農産地としては不適當なれど鑛産地としては石炭の世界的有名なるものあり此れに次ぎ鐵鑛あるも何れも目下交通不便なれば如何なる天與の寶庫と雖も地下に埋藏せられをるのみ未だ充分の開發の運びに至らず。

金屬鑛

第一節　金鑛

○盂　縣（砂金）
○聞喜縣（砂金）
○垣曲縣　潭山西、金中寺
○陽城縣（砂金）
○大寧縣（砂金）

○代州　蛇頭區、化不動山、馬牙石崖底

金産地としては代州は重なる所なり。

第二節　銀鑛

○霍州

○隰州　外溝

○陽曲縣

○交城縣　總獅子河上路塔

縣城の北方黃河の上流上記の地に硅岩中に方鉛鑛脈あり鉛六十%銀千分の二を含み鑛脈豐富なりと云ふ。

○安邑縣　牛家院

○平陸縣　銀坑三十四ヶ所あり。

○五臺縣　五臺山、清水河　五臺山の銀鑛は有望なりと云ふ。

第三節　銅鑛

○垣曲縣　北峽、柳莊隘、銅峪水崖溝、銅鑛溝、銅峪窟洞、南溝、西洋溝、銅瓦溝

三叉河

○代　州　善後河、銅凹、秋八溝、小峒溝

○曲沃縣

○鄉寧縣　龍王廟

○平陸縣

○夏　縣　開家峇

○大同府

○定襄縣

○長安縣

○盂　縣　均才

○聞喜縣　瓦渣溝、臨崖溝・磽确溝、篾子溝、上衛坡、横峇

銅產地としては開喜、垣曲兩縣は重なるもの涑川公司、開喜公司等あり一般に貧鑛なり。

第四節　鐵鑛

○長治縣

縣内には二十數ヶ所の製鐵所あるも鑛石の品位低ければ重に高平縣下產を用ゆ。

○大同府　西沿石

大同府より二十支里にあり鑛石の品位 28.00% なり。

○泌陽縣

○武鄕縣

○平定縣　揚樹溝、王家莊、梨林頭、平潭河床、五渡、揚家莊、平潭擒

陽泉縣下(平定縣)の鐵鑛は、赤鐵鑛、褐鐵鑛にして以上の各所より產出す其の產出狀態は合炭砂岩層中の石灰岩と砂岩とが接する中間にあり不規則の塊狀をなして存在す分布廣けれども連續せるものなし、大なるは二十尺に除るものあれども直に失はる採鑛には地表より三四十尺より百數十尺の竪坑を穿ち採鑛は頗る困難なり鑛石は此れを碎き粘土製の高さ一尺直徑五寸の坩堝に入れ一丈平方大の平爐にて無煙炭を用ひ熔解し銑鐵を得て重に鍋、釜を作る、鑛石は熔解し易き種類のものなるが故易く

製煉し得るなり、以上の如く山西には各所に鐵製煉行はるゝも其の鑛床以上の如きものなれば大規摸の採掘は行ひ難し。

鑛石分析表　硅酸 10.80　鐵 42.70　硫黄 0.017　滿俺 0.279　燐 0.09

○樂平縣　東溝、長岑村

鑛石の品位　鐵 45.29%　鐵 57.12%　等。

○盂　縣　南流、清城鎮、盧河溝　品位 42.00%

○孝義縣　河底、忠凹、砂崖　品位 46.50% 32.00% 33.00% 56.00% 等

○寧鄉縣　品位　鐵 56.00%

○太原縣

○楡次縣　品位　鐵 50.40%

○臨汾縣　品位　鐵分 34.00%, 51.52%, 34.12%, 62.10%, 50.92%

○曲沃縣

○洪洞縣　品位　鐵 54.60%

○翼城縣

○浮山縣　品位　鐵 43.44%, 鐵 31.00%

○汾西縣　品位　鐵 45.00%, 鐵 51.00%

○鄉寧縣　北波底、羅家河　品位　鐵 58.80%

○吉　州

○隰　州　上莊、盤柳凹　品位　鐵 56.00%

○五臺縣　五臺山　品位　鐵 13.60%

○聞喜縣　品位　鐵 41.80%, 鐵 52.82%

○河津縣　品位　鐵 61.60%

○垣曲縣　品位　鐵 45.50%

○絳　縣

○趙城縣　百曲兒里、內溝里、白鐵村　品位　鐵 28.60%

○靈石縣　(磁鐵鑛)

○鳳臺縣　松荘村、大陽鎮、土山村　鐵 51.58%, 鐵 53.88%, 鐵 57.12%

○泌水縣　品位　鐵 53.57%

○高平縣　品位　鐵 52.64%

○陵川縣　品位　鐵 49.00%

○陽　縣　品位　鐵 50.85%

○保德州

○遼　州

○安邑縣　品位　鐵 14.00%

○歸綏道　薩拉齋　品位　鐵 66.26%　赤鐵鑛

以上の分析は元、山西大學教授 Nyström 氏が行ひたるもの産地不明なるも何れも大部分は貧鑛なり、然れども山西の鐵鑛は石炭に次ぐ鑛産物として重なるものなり目下交通不便のため大發展をなさず鑛床は重に石炭紀層に屬する粘板岩、砂岩の内にある褐鐵鑛或は赤鐵鑛なり、土法製煉に依り無煙炭にて製煉す陽城縣下より日に五十噸、平定州より百五十噸、大原府より五十噸を製出し其他高平、鳳臺縣下よりも出産し一年間十五六萬噸を出す潞安府の製鐵業は古來有名のもの二千數百年前唐時代

に始まる。

第五節　鉛鑛

○大同府　豐鎭　鉛 76.00%　銀 124.00oz

○垣曲縣　品位　鉛 17.89%

○隰　州　下合式、重靈塢

○平陸縣　錐子山　品位　鉛 56.90%　銀 9.80oz

○夏　縣　芝葉溝、洞溝

○安邑縣　品位　鉛 57.00%　銀 21.72oz

○蒲　縣　品位　銀 15.50%

○翼城縣　品位　鉛 70.50%　銀 32.66oz

○平順縣

○臨　縣

○五臺縣　銀 6.20oz

○渾源縣　銅 66.00%　銀 5.33oz

第六節　錫鑛

○安邑縣

○平陸縣

○泌源縣

○陽城縣

第七節　砒鑛

○澤州府

非金屬鑛

第一節　琥珀鑛

○潞安府

第二節　瑪瑙鑛

○大同府

第三節　水晶鑛

○歸家城　の東北二百支里

○崞　縣　劉莊附近

○汾州府　永寧縣

○陶林廳　大青山

○澤州府

第四節　硅砂鑛

○交城縣

第五節　陶土鑛

○趙城縣　白鐵

○大原府　馬鞍山　（太原府─西五十支里）

○楡次縣　孟家鎭、河口

○平定州　陽泉附近、樂平縣
○長治縣
○泌水縣
○汾州府

第六節　石綿鑛

○壺關縣
○黎城縣
○靈石縣　徐家店　脈中一寸五分質甚だ美し。
○平遙縣　普同村

第七節　硫黃鑛

○陽曲縣　王封山
○太原縣　金寺ノ西　黃鐵鑛にて　硫黃　45.00%
○太原縣　金寺ノ西南　同　上　同　42.85%

○汾西縣　同上同 40.80%　鐵 33.60%
○霍　州　同上同 11.80%
○靈石縣　同上同 21.00%　鐵 19.71%
○文水縣　同上同 32.32%
○和順縣　の北四十支里
○五臺縣　五臺山々麓、楊底溝
硫化鐵より硫黄及び綠礬を製出す。

第八節　石炭鑛

○鳳臺縣　の西南南村、大鐵、張岑、大陽、書院頭、梨川、大箕、五門、司取山、二十里舖
炭質　固定炭素 79.87%　揮發分 11.33%　灰分 8.80%
○陽城縣　張家山、內溝里、新店の西　固定炭素 76.78%　揮發分 13.20%　灰分 10.00%
○高平縣　固定炭素 79.62%　揮發分 10.10%　灰分 10.28%

○孟　縣　馬家池、清城鎮

○泌水縣　固定炭素 80.77%　揮發分 11.23%　灰分 8.00%

○壽陽縣　榮家溝、莊子溝、段王鎮、大窰（十八尺）

○榮家講　固定炭素 63.66%　揮發分 23.64%　灰分 12.70%

○繁峙縣　固定炭素 72.60%　揮發分 11.70%　灰分 15.70%

○大同府　狠兒溝、黑谷子炭坑　固定炭素 61.32%　揮發分 34.62%　灰分 4.06%　山西第一の良質煙炭なり。

○陽泉縣　剪子溝、鐵爐溝、燕子溝、蔡窪溝

此の縣下の炭田は山西大炭田の一にして河南焦作と併び稱せらるものなり、重なるを保晉公司とす其他建昌公司等あり。

陽泉炭田

位置　正太鐵路陽泉驛を中心として其の周圍にあり陽泉驛は京漢線石家莊驛の西百二十キロ、太原府の東百二十二キロの中間にあり、南は平定州に至る五支里なり。

炭層　古生代石炭紀層の砂岩中に炭層は夾在す、獅子山、大南山、劉脩山等は平潭河床より八九百尺の高さにして山頂は粗粒砂岩なれど麓になるに隨ひ緻密砂岩、石灰岩、含炭頁岩等あり、西北に

緩傾斜をなす主要炭層は一層にして十八尺乃至二十尺の厚さあり、炭質は純無煙炭にして質硬く大塊を得、分析の結果は

	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黄	比重	發熱量
鐵爐溝	2.26	ナシ	86.18	11.56	2.084	1.66	6.463
同		6.58	85.80	7.62			
漢河溝	1.74	0.41	80.09	17.76	1.380	1.64	7.539

保晉公司

陽泉驛の西五支里の所より平潭河に沿ひ數丁を北界として南は獅子山、大南山に至る二十一方里の鑛區にして燕子溝、鐵爐溝、剪子溝あり、鐵爐溝の中央には建昌公司の蔡窪溝礦區夾在す、鐵爐溝より一日平均百四十頓、保晉公司一日の全出炭量は約二百噸内外一年に約七萬噸なり、販路は主として京漢鐵道、北京、天津なり、僅か漢口、上海へも輸送したりと云ふ、剪子溝、鐵爐溝、燕子溝の三鑛區は此の公司に屬す。

建昌公司

保晉公司鐵爐溝の一部分を稼行するもの趙勒禮の經營にして外人技師を雇ひ洋式方法により日々五百噸の採炭を行はんと計畫中なり目下一坑の竪坑深さ二百八十尺直徑九尺のものあり二百四十尺にて着炭し日々約五十噸を出す約五割は塊炭なり。

結論 陽泉炭田は驛の西方獅子山大南山及び其の對岸丘陵なれども同一の地層は尚ほ廣く存在す

るものなれば其の炭量少からざるべし而も其の位置山西の咽喉を占め他に比して有利なるも目下河南焦作、直隷臨城炭にをされて振はず他日確に有望の炭田となるべし。尚此の附近には土人の採掘する數十の小炭坑河北にあり、此の方面は炭層比較的地表に近きため土法開採に便なる爲なり然れども其の實收率は約二割にして實に不經濟極まるもの其の亂掘のために荒廢するは久しからず一日も速に相等の設備を施すべきものなり。

○歸綏道　薩拉齊の西北五十支里　固定炭素 62.49%　揮發分 30.54%　灰分 6.97%

○寧鄉縣　那峪炭坑　固定炭素 64.46%　揮發分 19.78%　灰分 15.76%

○文水縣　田士溝　固定炭素 51.70%　揮發分 13.08%　灰分 35.22%

○交城縣　西山　固定炭素 76.75%　揮發分 15.18%　灰分 8.07%

○保德縣　西四十支里　固定炭素 68.50%　揮發分 23.10%　灰分 8.40%

○靜樂縣　北五十支里、祉滿子　固定炭素 49.50%　揮發分 45.10%　灰分 5.40%

○翼城縣　東南六七十支里、東南絳縣界

固定炭素 83.41%　揮發分 7.34%　灰分 9.25%　　固定炭素 62.90%　揮發分 23.80%　灰分 3.30%

○岳陽縣　固定炭素 65.25%　揮發分 19.10%　灰分 15.65%

○臨汾縣　固定炭素 57.12%　揮發分 22.48%　灰分 20.40%　有煙炭

○洪洞縣　固定炭素 68.41%　揮發分 28.24%　灰分 3.35%

○浮山縣　固定炭素 73.70%　揮發分 16.15%　灰分 10.15%

○太平縣

○鄉寧縣　窟南上、北露坡(十三尺)、栢廻窪

固定炭素 66.30%　揮發分 19.70%　灰分 14.00%　黄河より三十支里河淸縣より六十支里の地にあり一日二百噸を出し開封及び西安へ搬出す、有煙炭なり。

○神池縣

○大寧縣　上莊、南溝里、南良砂、後水頭

○臨　縣

○孝義縣　前寺溝、後寺溝、南溝窠、棗林溝、公家原、蕎麥溝、前王溝、後王溝、黒坡溝、應中溝、忠凹、莊王溝(十八尺)、上陽坡、亂崖溝(十八尺)

○廣寧縣

○靈石縣

○趙城縣

○太原縣　西山、太原府附近　　固定炭素 71.83%　揮發分 14.49%　灰分 13.68%　厚さ五尺
優良有煙炭なり

○楡次縣　火燒嘴(十八尺)、南朱溝、臭水凹、圪塔底、亂石溝、南皮溝、鷄兒溝、龍池溝、羊溝、紗卜嘴、水連凹、把匙溝、龍王山
　固定炭素 73.30%　揮發分 10.30%　灰分 16.40%，　固定炭素 83.35%　揮發分 11.15%　灰分 5.50% 等

○五臺縣
　天和炭田は縣城の東、嶽頭炭田は東南にあり、砂岩頁岩中に九枚の炭層あり全厚三十一尺に達し現に八尺と三尺とを稼行す其他縣城の西南に東冶鎭炭坑あり。

○長治縣　　固定炭素 75.51%　揮發分 12.97%　灰分 8.52%

○和順縣　の南三十支里、宮家溝炭坑　　固定炭素 83.29%　揮發分 13.41%　灰分 3.30%

○遼　州　の南二十五支里、松樹坪炭坑　固定炭素 75.50%　揮發分 18.10%　灰分 6.40%等

○樂平縣　の南四十支里　　固定炭素 83.75%　揮發分 10.11%　灰分 6.14%

山西省下の炭田を大體に區別すれば省の中央を南北に走る泌嵜の東西と、五臺縣下の三ケ所に分つ事を得べし而して泌嵜の東部にあるは主として無煙炭、西部は有煙炭を產出す。

泌嵜の西部炭田

太原平野の周圍の臺地にて北は崞縣より南は平陽、曲沃縣附近に至る間、汾河と黃河との分水嵜をなす連技山脈には含炭層あり、平陽縣の西には十二尺炭及び其の北に二尺三尺の炭を採り、楡次縣火燒嘴、孝義縣莊王溝、亂崖溝、鄉寧縣北露坡、窟南上、柏延窟皆此れに屬す。

泌嵜の東部炭田

澤州附近と平定州附近なり前者は南村、大鐵張嵜等三四十尺の無煙炭層にて保晉公司經營のもの每日三百噸を出し、陽城縣下のものは厚さ十尺なり一年の產額約二百萬噸なり後者平定州附近の炭層は二三十尺の厚さあり北は盂縣より南は樂平縣に東は直隸の井陘炭田に達す一日の採炭量約四百噸內外なりと云ふ山西省の豫定炭量は炭層の厚さ不明なれば確かなる數を擧ぐる能はざるもリヒトホーヘン氏は平均四十尺とし一兆二千五百億萬噸と云ひ厚さ平均十五尺とすれば五千五百三十萬噸となり世界一年の消費高を六億萬噸とするもよく一千年間の炭量ありと云はる。

第九節　石油鑛

○潞安府

○陵川縣

○霍　州

○平定州

○太原府　附近

○蕭　州

○鄉寧縣　臭水溝、楊家溝、化裏溝

○吉　州　白子溝、劉家原、西河溝、沿川溝、二姓腰、欄杆溝、五寶山、柳溝泉、郭家梁

第十節　岩鹽鑛

○陽曲縣

○徐溝縣

○太原縣

○文水縣

○定襄縣
○大同縣
○渾源縣
○保德州
○應　州
○隰　州
○霍　州
○解　州
○安邑縣

第十一節　明礬鑛

○太原縣
○壽陽縣
○吉　州

○垣曲縣
○解　州

第十二節　石膏鑛

○平陸縣　中保山、石膏窰
○介休縣
○永寧縣

第十三節　重晶石鑛

○平陸縣
○解　縣

第十四節　大理石鑛

○五臺縣
結晶質にして稍綠色を帶び頗る美麗なり。

第十五節　硝石鑛

○永寧縣

○解　州

第四章　河南省

河南省は其の面積約十七萬六千平方粁を有し山西省の南に位し西は陝西、南及び東は湖南、安徽、山東に界し地勢西部は秦嶺の東端が將に平地に沒せんとする伏牛山脈あり北部は黄河を隔て衞輝府附近一帶は大行山脈の余波を受け平地に非ざるも黄河以南及び省の東部は所謂中原の地大なる平原にして地表は黄土を以て被はれ地勢上何等興味なきも支那古來より爭亂の中心にして歴史的有名の場所なり。鑛產物に就ては山西より連續せる黄河以北の濟源、懷慶、修武縣間に橫はる無煙炭田及び省の中央にある伏牛山脈と嵩山との間に存在する汝州、魯山縣間の炭田は最も有名なる河南炭の產地なり、他に特に重なるものを聞かず。

金屬鑛

第一節　金　鑛

○懷慶府　附近（砂金）

府城附近を流るゝ河床より採集す。

○嵩　縣　徳亭村、焦溝山、揚樹林

○淅州縣　金斗溝（砂金）

○光山縣　黄波澇

砂金を產出する所以上の如く僅かあれど大なる金山は未だ知られず。

第二節　銀　鑛

○嵩　縣　大靑溝

○羅山縣

○盧氏縣

○桐栢縣　五臺河、陳家山

○鄧　州

○新野縣

縣内に方鉛鑛中より銀を採るもの一二三あり。

○內鄉縣　同上
○光山縣　葉家灣、黃波澇
○武安山　長亭山
○汲　縣
多くは方鉛鑛中に含まるゝものより採銀し採掘製煉共に小規模のものなり。

第三節　銅　鑛

○登封縣　水磨灣
○禹　州　（自然銅）
○魯山縣　黃汝嶺
○濟源縣　芝蔴窰
○光山縣　載家冲
○鎭平縣
○安陽縣　（自然銅）

○渉　縣　（自然銅）

○信陽縣　杜家畈

杜家畈銅鑛

位置　漢口より京漢鐵道にて柳林驛に至り此處より東南二十支里の所にあり湖北と河南との界にして京漢鐵道にて山嶽のある場所は此附近のみ。

地質ト鑛床　鑛山附近一帶は片麻岩、硬砂岩、砂岩、千枚岩等の累層にて其の内に粗粒桃色花崗岩の噴出あり、鑛床は千枚岩の層面に平行して生じたる斷層内に周圍の岩石の破片が落込み硅酸質含銅物質にて膠結したるなり巾六尺を有す、一の小谷に露出す。

沿革　明朝時代の發見にして往時は此處に製煉したりと云ふ鑛滓の存在するあり、果して此の銅鑛を製煉したるものなるか又他に何らか製煉したるか明かならず。然れども以前は現今より富鑛の存在せしが如し。

第四節　鐵　鑛

○羅山縣　銀硐冲

○信陽縣　譚家河、（砂鐵）

○修武縣　鳳凰嶺

此の鐵鑛は大行山脈中にあり山骨總て鐵鑛よりなり鑛石は含鐵六十五％にして鑛量豐富なるものと云はれしが實は然らず附近には炭坑あり開坑には最も便にして福公司（石炭會社）は嘗て開鑛せんと企てし事ありと云ふ、兎に角河南第一の鐵山なりと云ふべし。

○光山縣　萬家坡、（砂鐵）

○商城縣

○鞏　縣　左近

○魯山縣

○西安縣

○新安縣

○宜陽縣　盤龍寺

○登封縣

○嵩　縣

鞏縣以下嵩縣に至るものは硅岩中に含有せらるゝ磁鐵鑛にして其の含鐵量多からず目下は大なる價値なきが如し。

○裕　縣　夾山溝、四家村
○南陽縣
○泌陽縣
○鎮平縣　騎立山
○納卿縣
○禹　州
○開封縣　大隗山
○汝　州
○西華縣
○汲　縣
○涉　縣
○林　縣　林慮山
○武安縣

○安陽縣　六河溝

石炭層の下層に鐵鑛ありと云はる。

第五節　鉛鑛

○桐柏縣　五臺河、陳家山

○裕　州　維摩寺、桃花谿

○內卿縣

○新野縣

○鄧　州

河南省内にては鉛は南陽府下に最も多く產出す。

○密　縣　田中灣

○汲　縣

○武安縣　長亭山

○嵩　縣　大青溝、小青溝

○光山縣　葉家港、朱家灣、黄波澇

○高城縣

○羅山縣　面舗山、銀洞沖、陣家樓、山夾店

銀洞沖は豫大公司に依り經營せらる。

第六節　錫　鑛

○嵩　縣

○承寧縣

○永寧縣

○靈寶縣

○盧氏縣

○羅山縣

宣統年間に開採せられ一時有望なりしが外人の資本なりとの事にて中止せられ其後豫大公司經營中革命戰爭のため中止し今日に至れり。

○武安縣

○裕　州

○汝　州

○淇　縣　道口鎮

河南省の最も大なる錫山なり、古來有名にて開封の錫器製造には皆此の錫を用ゆ。

第七節　亞鉛鑛

○羅山縣　銀洞冲

鑛石は鉛鑛と混し分析結果は　亞鉛 43.24%　鉛 13.54%　銀 0.13%　硫黃 21.91%　等なり。

非金屬鑛

第一節　水晶鐵

○桐城縣　潭抱山

○泌陽縣　銅山

第二節　硫黃鑛

○新安縣　匡口鎭
○河内縣　小岺村

第三節　石炭鑛

○禹　州　三峰山
此地は陶器製造にて有名なるも石炭も産出す。
○鞏　縣
○洛陽縣
○新安縣
○宜陽縣　錦屏山
○河内縣　小許莊
分析の結果　固定炭素 80.12%　揮發分 6.76%　灰分 13.01　等なり。
○修武縣　淸化鎭、焦作、黄土岡
光緒二十四年五月廿一日英國福公司は河南豫豐公司と契約を締結して今後六十年間黄河以北懷慶府

附近一帶の鑛山採掘權を得て光緒二十八年に清化鎭に於て炭坑を發見し開採を始めたり常口、柏山の二坑は同じく清化鎭附近にあれど福公司に屬せざるものなり。

常口炭坑

清化鎭の東五哩焦作炭坑の西六哩の地にあり大小八十餘の炭坑の集りにて内大なるは馮心厚公司の炭坑なり本坑は卷揚動力に蒸汽力を用ひ十數噸を毎日出す其他此の附近一帶より産出するものは常口驛に集り毎日六百噸餘に達す。

柏山炭坑

清化鎭の東にあり數十ヶ所の炭坑の集りにて内重なるは二十數ヶ所採炭法は支那の土法なり地表より徑五尺の竪坑を下し百二十尺より二百尺にて着炭す一日一坑より約數噸の産出あり、重に農夫が農閑に働くものなり。

炭質は　固定炭素 79.82%　揮發分 2.88%　灰分 14.94%　等なり。

焦作炭坑

福公司の經營する此の炭坑は道清鐵道(新鄕清化鎭間)焦作停車場の西方五支里の地にあり一號より六號の竪坑を有す重なるは三坑にして深さ數百尺にして二十二尺の炭層ありと云ふ鑛夫四千名餘を使役し一日の採炭二千噸餘北京、天津方面南方は漢口上海方面に販賣せらる河南炭と稱するは此の無煙炭なり。

○武安縣　紫金山、周莊

紫金炭坑

京漢鐵道臨洺關驛の西方四十支里餘の高さ千尺程の山の中腹急斜面にあり何れの時代より採炭せられしか不明なるも淸朝道光年間に一坑あり同治年間に十五坑となり光緒年間十一坑を增し宣統年間二坑を增し民國に又二坑を增し目下三十坑あり皆支那人の土法經營なり、鑛夫は多きもの五十人、少きは三十人を使役す、最近一年の產額十五萬噸炭は馬背にて臨洺關或は黃粱夢驛(二十五支里)に出す此の間は道路平坦なり。

周莊炭坑

前記炭坑の西南二十五支里の地にあり支那人土法採炭するも產額多からず。

○安陽縣　豐樂鎭驛、西山、水治

豐樂鎭炭坑

六河溝炭坑と稱し京漢鐵道の豐樂鎭驛の西南方十二哩の所にあり此の間は運炭の輕軌布設せらる、豐樂鎭驛は漢口より四百四十五哩北京より三百六十哩の隔りにあり、炭層は石炭紀の砂岩、頁岩中にあり既知のもの大小合せて六層二尺、十二尺五寸、八尺、四尺、三尺、七尺五寸にて第二三層を稼行す、炭質は瀝靑炭にして井陘炭より多少灰分多し。

水	揮發分	固定炭素	骸炭	灰分	硫黄	比重	發熱量
1.33	13.35	71.89	粘結	13.43	1.063	1.45	63.36

此炭坑は光緒三十三年六河溝煤鑛公司により開坑せられしが資本缺乏し獨商と合同し經營す目下一

日約五百噸の出炭あり販路は京漢鐵道に安陽炭として知られ價額一噸五弗、コークス一噸八弗、切込三弗五十仙、粉炭二弗五十仙なりと云ふ。

西山炭坑

西山に在り京漢線を去る七十五支里にして鑛區は長さ三支里、巾一支里なり近く設けし坑道は四ヶ所古きものにて採炭しうるもの六ヶ所あり炭質は硬くして無煙炭なり、塊二割粉八割なり、唯鐵道を距る事稍遠く運炭不便なり目下人和公司の經營に關る。

水治炭坑

安陽縣水治の西五支里にあり水治は彰德府の西四十五支里の所道路平坦なり、此炭坑は清朝時代の舊坑あり近く資本銀一萬元にて馬吉梅が再開せしものなり炭層は約二丈の厚さありと云ふも確かならず走向は北二十度東・東南に四十度の傾をなし炭質は次の如き無煙炭なり一日約二十噸の出炭あり一噸一元内外にて石灰燒に用ゆ。

水	揮發分	固定炭素	骸炭	灰分	硫黄	比重	發熱量
3.10	0.96	69.30	不粘結	26.64	0.945	1.69	7021

○湯陰縣　西山

西山は京漢線を距る四十支里にして鑛區は三百六十畝の廣袤を有す採炭し得る坑道八ヶ所あり深きは二百尺餘淺きは百數十尺なり、簡單なる起重機、排水ポンプの設備あり現に採炭せる粉十五萬噸を貯藏す、毎噸三弗六十仙なり塊は五弗七十仙と云ひ約三萬噸を貯炭す時利和公司の經營なり。

大行山麓の無煙炭田

懐寧府より衞輝府、彰德府に至る高原の長さ數百支里の間には各所に炭坑あり最西の濟源府より東、修武縣に至る百五十支里の間は最も重なるものにして尙細かく分つ時は第一濟源縣の西部、第二淸化鎭の東部附近李封柏山、常口、焦作の炭坑は此の内に含まれ第三は修武縣の東北より西北一帶の炭坑地なり、此れらの炭坑は深さ百二十尺より四百尺の間に數層の炭あり無煙炭にして全豫定炭量約二億萬噸と稱せらる次に東に進み湯陽炭田は彰德府の西南六十支里湯陰縣の西五十支里の所にあり石灰岩を被ひて南北に延長する炭層あり二三十尺と六七尺の二層あり同じく豫定炭量二億萬噸と稱せらる。

○南召縣

○魯山縣

○汝州

魯山、汝州炭田

瀝靑炭を出す石灰岩上にある夾炭層中には六尺乃至八尺炭を有し魯山縣と汝州との間に採炭せらるも大規模の採炭を行ふ處なし坑道は深きも二百尺に過ぎず此れ容易に他に石炭層を採掘し得る故なり、魯山の北西百支里河南の南々東百支里の所には彭坡炭坑あり無煙炭を出し河南府の西南百支里宜陽縣錦屛山炭坑、河南府の東鞏縣の南にも丘陵に石炭を出す厚さ六尺乃至十八尺あり深さ二百尺にて稼行せらる、其他、盧山縣の東北二十支里の春店には厚さ五六尺の炭層深さ百五十尺の所にあり有煙炭を出す春店の北には無煙炭も產出す南召縣南陽縣間の九龍山の東西にある炭層は北へ四十五度の傾

をなし開封縣の西南端曲高里附近にも炭坑あり好良なる炭を出すと云ふ。

○信陽縣　督山

縣城西門外五支里の所にあり。

第四節　明礬鑛

○武安縣

○舞陽縣

○彰德府

第五節　硝石鑛

○開封縣　附近

第五章　陝西省

陝西省は北部支那の西部に位し面積約十九萬五千平方粁を有し東は湖北、河南及び黃河を以て山西省に界し西は甘肅省、北は內蒙古の鄂爾多斯地方、南は四川省に界す、地勢南部には秦嶺山脈西より東に走り南方の漢水と北方の渭水との分水嶺をなす渭水は鐘關に於て黃河と合して始めて平地を流がる、も其れより上流は平地少く黃土中を峽谷をなして流る、秦州盆地は此の上流に在り、又、秦嶺を

越え蜀の三道を通過すれば四川省に出づ、陝西省は土地一般に交通不便にして各種の産業發達せず、鑛産地としては石油鑛有名なり其他玉類の產地ありと云へども明かならず。

金屬鑛

第一節　金鑛

○長安(西安)縣　南山

○雒南縣

○西鄕縣

○略陽縣　嶓家山

○漢中府　漢水、嘉陵江沿岸の砂金

○漢陰(興安府)縣

産金區域は畧陽、羌、沔、南鄭、洋縣に跨り、延長數百里に亙る平時は水量多きため春冬の二季に重に採集す前記の嶓家山は重なるもの略陽縣下には大小二十ヶ所、沔縣西鄕縣下に二十ヶ所あり。

第二節　銀鑛

○長安(西安府)縣

○漢中府

○山陽縣

第三節　水銀鑛

○雒南縣
○略陽縣
○洵陽縣

第四節　銅　鑛

○安西(西安府)　終南山
○洵陽縣
○磚坪縣　(自然銅)
○鎭安縣

陝西省の南部にあり西安を南に距る約二百支里湖北省の西北隅湖北口を西北に去る五十支里、鎭安縣城の南に位す交通不便の地なれども其の鑛脈は頗る豐富に且つ鑛質佳良にして目下鎭安銅鑛公司の經營に係る、鑛石は自然銅と稱せらる。

○鄜　州　(自然銅)

第五節　鐵　鑛

○臨鐘縣
○長安(西安)縣　南山
○韓城縣
○郿　縣
○汧陽縣
○隴　州
○長武縣
○留壩縣
○汚　縣
○略陽縣
○磚坪縣
○鎭安縣

○宜君縣
○中部縣
第六節　錫　鑛
○商　州
第七節　砒　鑛
○鳳　縣
非金屬鑛
第一節　琥珀鑛
○漢中府
第二節　瑪瑙鑛
○楡林府谷縣
○神木縣
第三節　硬玉鑛

○藍田縣

○長安(西安)府　南山

世に珍重せらるゝ琲瑆は此の省より産出し北京にて販賣せらるゝは此れなり色は黒味を帯びたる緑色にして廣東方面のものと明かなる區別あり、輝石よりなり化學成分は大體 SiO_2 58.28% Al_2O_3 23.11% Fe_2O_3 0.64% Ca 1.62% Mg 0.91% Na. 13.94% 等なり。

○雒南縣

○略陽縣

○洵陽縣

第四節　陶土鑛

○同官縣　明月山

第五節　雲母鑛

○大茘縣

第六節　石綿鑛

○平利縣　獅子岩

第七節　硫黄鑛

○同官縣
○白河縣
○宜君縣

第八節　黑鉛鑛

○汧陽縣
○興安府

第九節　石炭鑛

○同官縣
○同州府
○滈化縣
○鳳縣
○紫陽縣　小道河

縣城の東、興安府の西六十支里の地にあり石灰岩頁岩の累層中頁岩中にあり東北へ傾斜する厚さ一尺より十二尺に達する石炭層あり炭質劣等なれど交通比較的便なれば盛に稼行せらる。

○平利縣　拜九下、曾家垻、老縣

平利縣と磚坪縣の間及び平利縣と興安府との間にあれど炭層薄く地殼甚しく變動を受けをる場所なれば採炭平易ならず。

○楡林縣

第十節　石油鑛

○長安(西安)縣

○栒邑(三水)縣

○延川縣

○延長縣

支那の油田として知らるゝものは直隷の建昌、山西の吉州、鄕寧、甘肅の山丹、四川の富順、嘉定保寧、重慶、成都、切府、廣東の妃興等なるも延長は其れらの内にて最も大なるものなり。

位置　延長縣は西北の三面は山嶽を以て圍まるゝも東は黃河の流域に臨み、延水(嬰水)なる黃河の支流は西北より來り油田の中央を流れて黃河に合す油田は延長縣城を中心として其の西門外に連亘し延水の北岸に位するなり。

沿革　延安府下には各地に石油を產する所あれど延長は最も有名なるものにして既に明朝時代よ

り土人此れを採集したる事あり、光緒二十六七年頃獨商世昌洋行が採集を企てしも中止し、其後三井洋行も租借せんとせしも失敗し、其後日本人技師は聘せられ調査の結果油田の面積は約六百萬平方尺なること、縣城東門外に掘井したるに湧出の油量多く地質は砂岩にして褶曲少き故工事易きこと、延長油田は有望なることを認めたり、而して日本より技師職工を傭聘し光緒三十二年起工し三十三年十月出油を見たり二百五十尺にて油層に達したり最初は食鹽水を混じ一日三十四五石を出したり、然るに其の當時の陝西總督の更迭あり、邦人傭聘期限も滿了したるを以て邦人の關係は全く絶たれ支那人が採油し居たり、其後獨商資本を下さんとせしも失敗し其後官民合同の陝西延長石油公司設立せられ日本より大塚博士其他の人々召聘せられ明治四十四年頃尙ほ二三の井を增し採油せしも又中止し目下は米國美孚洋行にて再び開鑛せんと試掘中なり。

油田ノ面積　面積は六百萬方尺表面は黃土にて五六百尺にて油層に達す以上は延長縣城附近なるも他に東方延水の沿岸、雷永灘に三百三十二萬方尺、張家園、蓼子園、昝村等延水の流の下に十五支里の所、延長油田の東約十支里胡家川に四百四萬七千方尺の面積あり、東方二十二支里喬家石科に三百八十七萬五千方尺の面積あり。

延長ノ地積　地表より二三十尺は硬砂炭なるも以下は軟き岩石となり二百數十尺に達す化石の木片あり油層は中生代に屬するものなりと云はる、四川の油田に類似し彼れは中生代なること確められたるなり。

油質　原油は濃厚黑褐色にして比重ボーメー三十七度八なり、分析の結果　揮發油 16.5%　燈油 62.0%　重油 10.0%　パラヒン 2.0%　ピッチ 9.5%　蒸溜して得らるゝ副產物よりは蠟燭を製造する

ことを得。

産油額　以上述べたる當時は一日平均二千五百斤（我十石）なり、三井よりの産額なり。

○宜君縣

第十一節　鹽　鑛

○楡林縣　葭州

○定邊縣

第十二節　明礬鑛

○同官縣

○澄城縣

第十三節　石膏鑛

○長安（西安）府

第六章　甘肅省

甘肅省は北部支那の西部に位し面積三十二萬平方粁を有し東は陝西、西は青海、南は四川、北は蒙古に界し土地遠隔し交通不便なれば人文發達せず鑛床の探査不充分なれば今日まで未だ重なる鑛山なし。

金屬鑛

第一節　金鑛

○清水縣

品位高きものなりと云はる。

○禮　縣　翠峯山

俗に十八盤山と稱する所南溝に沿ふて下ること十五支里金灘と云ふ所に砂金を產出すと云ふ。

○酒　泉　洞庭山

○岷　縣

○西寧縣

○大通縣

○文　縣

紹化縣との界にあり。

○成　縣　六巷河、嶓家山

前者は縣城の西北、後者は北方にして薤韮山とも云ひ高峯にして附近には砂金も產出す。

○蘭州府

○鎮蕃縣

○敦煌縣

○肅　州

第二節　銀　鑛

○華亭縣

○平凉縣

○文　縣

○寧遠縣

○秦安縣

○清水縣　申家山

○西寧縣

第三節　水銀鑛

○文　縣　將利

○徽　縣

第四節　銅　鑛

○平凉縣

○華亭縣

○寧遠縣

○洮州縣

○文　縣

○秦安縣

第五節　鐵　鑛

○兩當縣　丹山

○徽　縣　鐵山

縣城の南百二十支里管家河に圓山と名くる鐵山あり、徽縣に接して小製鐵所あり。

圓山とは同一山脈にして昔時採掘せしも今は廢坑となる。

○秦安縣

○寧遠縣

○伏羌縣　西樂門鎭

○寧夏府　麥採山

○慶陽縣　城北横嶺

○安化縣

○平凉縣

○華亭縣

○寧夏府

第六節　鉛　鑛

○徽　縣

○華亭縣

第七節　砒　鑛

○岷　縣

○階　縣

非金屬鑛

第一節　瑪瑙鑛

○岷　縣

第二節　硫黃鑛

○蘭州府

○鞏昌府
○平涼府
○慶陽府

第三節　石炭鑛

○山丹縣
○伏羌縣
○狄道縣
○金　縣
○古浪縣
○永昌縣
○秦　縣　香積山、趙家峽

前者は縣城の東南百支里にあり土人の開採に關り炭質可炭量豐富なりと云ふ。
後者は縣城の西五十支里に炭量亦多しと云ふ。

○兩當縣　亮池寺山

縣城の南三十支里にあり炭質良好にして全省一と稱せらる。

○成　縣　大鷄山

縣城の西南にあり炭質一般に惡し。

○秦安縣

○大通縣

○平羅縣

第四節　石油鑛

○山丹縣

○肅　州

第五節　鹽　鑛

○西和縣

○秦　州

○階　州
○西寧府
○華亭縣
○中衛縣　廻樂
○鎭番縣
○肅　縣　福祿

第六節　明礬鑛

○寧夏縣　倶賀蘭山
○階　州
○安西縣　爪山、沙州、（石膏も產出すと云はる）

第七節　硝石鑛

○會寧縣

○寧遠縣

○安化縣　朴硝

○階　州

○慶陽州

第二編　中部支那

第一章　江蘇省

江蘇省は中部支那の東邊に位し面積約十萬平方粁を有し支那海の沿岸にして揚子江口は其の南部に開かる、隨て江蘇省の南部と東半は大部分所謂冲積層の平地にして沼湖多く土地平坦にして豐饒なれば農産物に富むと雖も鑛産地少なし、此れに反して西部、安徽省界に近つけば山地多く隨て鑛産地あり、內重なる鑛山は鐵と石炭なれど此等とても左程著しきものなし、嘗て明治三十八年の頃時の都督端方が我が國より工學士二名を雇ひ入れ省下の鑛山調査を行ひし事ありと云はる此れは我國人が支那に招聘せられ鑛山調査に從事せし嚆矢なりと云ふ歷史あり。

金屬鑛

第一節　銀鑛

○六合縣　冶山

○句容縣　銅冶山、方山、手巾山

第二節　銅鑛

○六合縣　冶山

安徽省天長縣に接する地なり、含銅少く一噸の鑛石中より僅か三十餘斤の銅を得ると云ふ。

○江寧縣　金牛山、牛首山、横溪橋

横溪橋銅鑛

南京南門外にして果して銅鑛あるや疑し其他紫金山の東方に銅鑛ありと云はる。

○句容縣　胡家鎭、銅冶山、赤山、手巾山

銅冶山銅鑛

石灰岩と花崗岩の接觸鑛床にして多くの柘榴石岩あり鑛脈は東北へ六十五度の傾斜をなし甚だ不規則なり礦區の面積五十方支里にして交通便利なり、扈寧鐵道を去る二支里、長江岸より十支里なり、光緒三十三年時の都督開採せしが土法にては岩石堅牢のため不結果に終り翌年停止す、此の山は既に明時朝代に開發せられ當時製煉せし鑛滓は今尙山上に堆積す、舊坑四個あり。

○丹徒縣　仙人洞、高資鎭、巢鳳山

仙人洞銅鑛

銅冶山と同じにして鑛脈は北方へ五十度餘の傾きをなす鑛區面積四十餘方里、甞て土人土法にて開採せしことあり。

高資鎭銅鑛

鎭江の西五十支里江寧縣との界、朝王山にて嘗て光緒二十二年稼行したることあり、鐵、銅、鉛を産出すと云はる。

○鹽城縣

○銅山縣　彭城利國驛、盤馬山

利國驛銅山

津浦鐵道利國驛の西方數支里の所にある鐵山（鐵鑛參照）の鑛石中銅を含むものあり、此れを指すものならん。然れども利國驛は寧ろ鐵山に屬すべきものなり、漂水、漂陽縣下にも銅を産出すと云はる。

第三節　鐵　鑛

○江寧縣　秣陵關鳳凰山

鳳凰山鐵鑛

位置　南京の南門を出で正南へ六十支里秣陵開の西十數町の所にある山なり華寧公司の經營に屬す。

鑛床　鳳凰山、章山あり同じ鑛床にて山の高き所に露頭あり外は土壤に混ずる鑛塊のみ山の麓には岩石露出し山全部鑛石にはあらず、嘗て一億萬噸の鑛量なりと日本にて某會社の稱したるものなり、大倉組は目下支那の會社と合同經營せんと計畫しつゝありと云はる。

鑛質								
鳳凰山	硅酸	21.32	鐵	52.24	硫黄	0.005	燐	0.013
幸山	同上	12.60	同上	59.10	同上	0.028	同上	0.204

○六合縣　冶山、(赤鐵鑛)

鑛床は砂岩中にあり鑛區面積五方支里を有す。

○江蒲縣　楊家村、(赤鐵鑛)

○丹徒縣　鐵岡頭、馬鞍山、先頭山、曹王山、中德古山、西德古山、晌水凹

鐵岡頭鐵鑛

砂岩中に鐵床あり、馬鞍山、晌水凹も同樣なり鎭江鐵山として世に知らる。

先頭山鐵鑛

曹王山に連りたる鐵山にして鑛質可成のものなりと云はる。

中德古山鐵鑛

丹徒縣の西方に連亘せる曹王山の中腹にあり。

西德古山鐵鑛

楊子江の右岸を去ること一支里餘の至便の地にあり磁鐵鑛にして鑛石は板狀節理あり、表面黄色なりと云ふ。

○溧陽縣　據唐志

○常熟縣　虞山

○靖江縣　許巷山、西山、(褐鐵鑛)

鑛床は砂岩、石灰岩の累層中石灰岩中にあり鑛區面積四方支里、宣統元年に開かる。

○銅山縣　利國驛、北山、楊貴山、西馬山、銅山、盤馬山、賈家、汪家、彭城

利國驛鐵鑛

位置　津浦鐵道にて浦口より二百三十哩、江蘇、山東二省の界に近く利國驛あり其の西北二三支里の所に北山、其の西に楊貴山、西馬山、銅山、盤馬山、鐵山、小羊山、驛山、婁家山、洞山、家灣山等あり、遠きも利國驛を去る我が二里程の所にあり利國驛は除州府の北九十支里なり。

地質及鑛床　此の附近は一體に低地にして西方にある微山湖の舊底なりし所多し、鑛床を有する場所は小丘をなし略東西に列び高さ三四十尺なり、鑛床は石灰岩中に夾在し、附近に火成岩あり、(銅山の南半)、鑛石は磁鐵鑛にして所々に黄鐵鑛と銅を含むため炭酸銅の汚點あり、西馬山は露頭銅山と同樣なるものあれど小なり楊貴山、北山等は露頭明かならず唯地表面に無數の小鑛塊散在するなり、分析の結果は

鐵	52.93%	マンガン	0.54%	硅酸	19.97%	硫黄	痕跡
燐	0.017%	銅	0.067%	化合水	2.95%		

鑛量に就ては大冶鑛山以上の大鑛山なり等稱せらるゝも、果して然るや不明なり、鑛區面積約四方支

里なり。

其他句容縣、海州馬山、鹽城縣下にも鐵を產出すと云ふ。

第四節　鉛　鑛

○丹徒縣　西鄉蔡磘灣、螺絲、營山

○銅山縣　鳳冠山

鑛床は石灰岩中に存在す。

第五節　亞鉛鑛

○句容縣　手巾山

鑛床は砂岩中に存在するもの丶如く鑛脈は東北へ四十度の傾をなす銅冶山の銅鑛脈に連る鑛石中三分の一は純亞鉛鑛なり、鑛區面積約四方支里、滬寧鐵道を去る三支里なり、分析の結果左の如し。

亞鉛 36.30%　　鐵 25.05%　　硫黄 19.20%

第六節　銻　鑛

○六合縣　北鄉冶山

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○贛楡縣　雲母花崗岩中に黑水晶を產出すと云ふ。

第二節　硅砂鑛

○句容縣　（砂）
○吳　縣　西山望巄岑、馬城宮、（岩）
○宿遷縣　白馬澗、　耀徐玻璃公司の經營。
○東海州

第三節　陶土鑛

○六合縣　北獨山
○吳　縣　陽山、洞庭西山
○武進（常州）　白石山、芳茂山

○蕭　縣　皇藏域

○銅山縣

第四節　雲母鑛

○丹徒縣　綠塘

第五節　黑鉛鑛

○丹徒縣　瀧王山中螺絲山

附近の地質は石灰岩、及片麻岩あり後者の内に東南へ四十度の傾をなす脈あり、土法にて開掘せしも今は休止す、鑛區面積八方支里なり。

第六節　石炭鑛

○江寧縣　象山、幕府山、林山、青龍山、石爛山、祠山、湖山、圓山、馬扒井、牛首山、佛寧門

象山炭坑

石灰岩、粘板岩、砂岩の累層よりなり炭層は西北へ八十度の急斜をなす厚さ五寸より一尺以内極め

て不規則なり鑛區面積三十方支里、淸朝宣統元年より開かる、南京朝陽門外（東門）を去る二十五支里胡銘盛、張霞齊經營す。

幕府山炭坑

地質は同じく石灰岩、砂岩、頁岩よりなり、炭層は五層あり、內三層は山の南なる老虎山に他の二層は山の北にあり、西北に約五十度の傾をなす、淸朝光緒三十四年開採し十數個の坑を設け深さ二三百尺に達す、其の後一時中止し宣統二年再開し約二萬元の資本を以て專ら山北を探鑛せしも其の結果明らかならず、鑛區界は東は松樹營南は固山、西は幕府寺、北は二臺洞の舊坑に達し松樹營より北固山に至る長さ三百十丈、北固山より幕府寺へ二百十五丈幕府寺より二臺洞へ二百四十丈二臺洞より松樹營へ二百六丈面積九百五十九畝にして滬寧鐵道へ八支里長江沿岸へ僅か二支里なり、

林山炭坑

無煙炭を產出し、分析の結果は

固定炭素 79.25%　揮發分 7.45%　灰分 13.28%　なり。

青龍山及石瀾山炭坑

共に有煙炭にして其の火力強く汽船及工場用として差支なく青龍山は其の炭量も豐富なりと云ふ坑道二個あり、光緒三十二年十二月始めて開かれたり青龍山及石瀾山は棲霞山とも稱せらる、南京市の西南四十支里の所にあり目下休山す分析の結果は

水分 1.80%　揮發分 24.19%　固定炭素 49.06%　灰分 24.95%　硫黃 3.47%

佛寧門炭坑

南京神策門外の同炭坑は前清時代より盛宣懐氏の經營にして漢冶萍公司の所有なりとか稱せられ居たりしに民國元年支寶公司なるもの此處を採掘し始めたり、訴訟の後再び漢冶萍公司の有となれりと。

陪子山炭坑

南京の東方四十支里目下中止す附近に廢坑あり。

炭質は　水分 0.67　炭素 59.05　揮發分 13.36　灰 26.92　硫黃 2.492　發熱量 6369　等なり。

○江浦縣　湯泉

此の地方一帶に昔より無煙炭を産出す近く地方民は採掘して津浦鐵道に賣らんとすと。

○句容縣　龍潭、石家崗、浮山

龍潭炭坑

滬寧鐵道に沿ひ南京の東六十支里、句容縣の北五十支里の所炭坑より楊子江岸へは十支里餘なり、水陸共に交通至便なり、光緒三十一年二月二十五日採炭許可を得て翌年出炭し龍潭煤鑛公司の經營なり、同山は有煙無煙の二種炭を出し無煙炭は僅かに土法にて採掘し一日二十噸を出し南京城内に送り販賣す一噸の價格十弗五十仙より九弗六十仙なりと云ふ、坑内は水多く鑛夫四百人を使用し一日約百噸の炭を出し、鑛夫には六百文、四百八十文、四百文の賃銀を支拂ふ、兎に角江蘇省第二の炭山なり。

○丹徒縣　老虎洞、曹王山

○吳　縣　洞庭湖西山之望崦岑、馬城宮

西山炭坑

位置　蘇州の太湖の中央にある西山の東北端に在り、蘇州城より水路九十支里、炭坑より湖岸迄は二支里なり、蘇州は上海より五十三哩鐵道あり。

地質ト炭層　此の附近にある島嶼は何れも皆石灰岩よりなる、時に砂岩の露出する部分あるも此の砂岩は石灰岩と大に時代を異にするものゝ如し、西山は大部分砂岩よりなり、唯湖岸に低き所に石灰岩露出す、炭層は砂岩中にあり西へ四十五度より六十度の傾をなす、深さ五百七十尺の竪坑あり二百八十尺にて着炭す、炭層は薄き炭の集りにして採掘の價少し平均の厚さ二尺に足らざらん、非常に不規則なる炭層なり、目下採炭しつゝある西山煤鑛事務所の南三丁程の所の山には十數ヶ所の舊坑あり此れは三四十尺にて着炭し明朝時代に掘りたるものなりと云はる、炭質は有煙炭なり此の炭坑は位置極めて便なれば炭量の豐富なれば有望なるものなり。

分析表　固定炭素 56.75%　揮發分 28.45%　灰分 14.79%

其他金牛洞、磁山、關橋、王家凹、武岡、太平山、等子山、華山、小茅山、朱家窈圓山等の地方より石炭を産出すと云はる。

○蕭　縣　孤山、白土山

孤山炭坑

位置及ビ沿革　津浦鐵道にて浦口より二百十二哩の所に除州驛あり、炭坑は其の西南三十支里の所にあり津浦線三舖驛は炭田の東十支里の所にあれど不便の地なれば除州府に下車するを便とす、

本坑は光緒三十一年十一月に開かれ二三ヶ月にて中止し其後宣統二年夏、志城煤鑛公司により再び開かれしも約一ヶ年にして又中止したり坑內湧水多きためなりと云ふ。

地質ト炭層　炭坑附近は高き山なく地形は大なる波狀をなす其の內に孤山と稱する丘陵は南北に延びて孤立し其の西麓に炭坑あり、地質は孤山の東半は石灰岩より西半は砂岩よりなり、砂岩中に炭層はあり東方へ六七十度の急斜をなす其露頭明かならず、層厚八九尺なりと稱せらる炭質は有煙炭にして塊炭あり舊坑は三つの竪坑あり皆破壞し入るを得ず。

白土山炭坑

津浦線曹村驛より二十五支里前記孤山炭坑へ十五支里の所にあり、七八年前より大同公司に經營せられ既に二千噸餘の炭を出せりと云ふ舊坑三ヶ深さ二三百尺に達す、四年前より中止す炭は有煙炭にして厚さ七尺に達すと稱す。

○銅山縣　利國驛、賈家、汪家、岡山

賈汪炭坑

位置　津浦鐵道柳泉驛の東三十支里、運河に通ずる小河岸なる泉河或は不老河に至る南へ十二支里の所にあり、其の間陸路平坦にして交通便なり同炭山は今より二十數年前胡老國なる者開き始めて採炭し明治四十四年の頃袁世凱は其の利權を獲得したることあり、目下は賈汪煤鑛公司の經營にして賈家汪家は此の炭山の意なり、先づ江蘇省第一の炭山ならん。

炭質　石灰岩、砂岩の地方にして砂岩中に炭層は存在し五層あり、重なるは二層にして厚さ上層

は五尺下層は八尺なりと云ふ地下百尺の所にあり鑛夫百餘名を使役し日に百噸の炭を出し津浦鐵道及び南京に於て販賣す、豫定炭量二億萬噸と稱せらる炭質は有煙炭にして良好なり、坑口五ヶ所あり。
分析の結果　固定炭素 60.92%　揮發分 32.20%　灰分 6.87%

第七節　鹽　鑛

○南匯縣
○南通州
○壚城縣
○東海州

何れも炭鹽にあらず海水より採集するものなり。

第二章　浙江省

浙江省は江蘇省と同じく中部支那の東邊に位し東は支那海、西は安徽、江西、北は江蘇、南は福建省に界し其の面積約九萬五千平方粁を有し江蘇省より稍小なり、而して其の北半は江蘇省の楊子江に於けるが如く錢塘江角江の流域にして冲積層の平地多く隨て鑛產地なし西部及び南部の嚴州、衢州、處州及び溫州府下に稍々鑛產地として知らるゝものあり、此等の地方は海に近きか或は遠きも河水の

便あれば他日有望なる鑛山發見さるれば充分發達の見込ある地方なり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○開化縣　西郷烏龍山

此の金山は一名濠灣と稱せられ同山附近は四面巒山重疊を以て繞らし峻峰聳立するの地なり、露頭は往古より知られ居りしも地方人は此れを採掘すれば風水の崇ありとして何人も著手なかりしが遂に近く焦保賢なるもの採掘を始めんとす。

○湻安縣　小金山、（砂金）

縣城の西北四支里の新安江岸に砂金を產出すと云はる。

○其他　嚴州、寧波府下、處州府、龍泉縣、松陽縣下に金山ありと云はる。

第二節　銀鑛

○富陽縣　銀坑

○天台縣

○仙居縣

○象山縣　金涼山　（一名狗毛山と稱し象山灣に臨む）

○寧海縣　石牛坑、仙人岩

前者は石英斑岩中に北六十度西に走り西南に八十度の傾をなす長さ數十尺巾一尺程の方鉛鑛閃亞鉛鑛よりなる鑛脈なり。

後者は疊石の東南二十支里亭旁に至り此處の石英斑岩中に北二十度東の方向に走り東南へ八十度の傾をなす巾二三寸の方鉛鑛脈なり。

○鎭海縣　崑亭

崑亭の東五支里の所の石英斑岩中に北三十度西に走る巾一寸の方鉛鑛脈あり。

○奉化縣　銀山岡

北の金山は裘村の西北七支里の地にあり石英斑岩中に二ケ所に分れ三脈あり、一は北三十度東の方向に走る岩脈中に二三寸の鑛脈三枚あり、方鉛鑛柘榴石よりなり長さ十五尺なるもの最大なり。他は一二寸の小脈なり。甞て盛宣懐氏試掘をなしたる事ありと云はる。

○紹興(會稽)縣　東郷、銀山霸

水路を去る三支里明朝時代に開かれし事あり。

○諸曁縣　東郷樓家塢、大成塢、北鄉西洋塢、搗臼灣、夜叉塢

○東陽縣

○義烏縣　寶山

○常山縣

○開化縣　大尖塢、苦竹坑

○衢(西安)縣　銅山

○淳安縣　西鄉六都三團和村

○樂清縣　披山島

禁門鎭の西南海上六十支里の所にあり石英斑岩中巾數寸の方鉛鑛閃亞鉛鑛脈あり。

○建德縣　北荻州村

○遂安縣

○松陽縣　箸寮山、小蘇山

○雲和縣　武岱山

○龍泉縣

○樂陽縣

○平陽縣　焦溪山、赤岩山、天井洋

明朝時代に開かれしもの。

第三節　水銀鑛

○餘姚縣　龍泉山

第四節　銅　鑛

○餘杭縣

○海鹽縣　章山

○烏興縣　銅峴山

○武康縣

○安吉縣

○寧海縣　筆架山

彭家と溪谷を隔て其の北に仙人岩あり其の東南三支里の地に筆架山ありて花崗岩中に北二十度西長さ二十尺、巾一二寸に亙る石英脈有り炭酸銅、斑銅鑛、方鉛鑛を少し含む。

○奉化縣

○象山縣　金牛山、白露山

後者は墻頭の東八支里の所に石英斑岩中に北二十度西に走る長さ三十尺巾數寸の脈あるも鑛石は少し。

○餘姚縣

○臨海縣　下寮、岑外

岑外は大田の西北十五支里臺州より三十支里の所にあり東西に走り巾數寸の黄銅鑛、黄鐵鑛、亞鉛鑛脈あり。

○金華縣

○衢（西安）縣

○桐芦縣　定安郷彰義莊
○建德縣
○遂安縣　南郷五都道源、洪銅山
○湻安縣　西郷八都
○龍泉縣

第五節　鐵鑛

○海鹽縣
○定海縣
城内の西南にある花崗岩中に二三分の鐵鑛脈あり。
○紹興(山陰)縣
○寧海縣　任家山
任家山は任家の西北一支里の所亭旁より三支里の石英斑岩中に北三十度東に走る巾一尺程の鑛脈約二百數十尺續くものあり。

○臨海縣　西疊石

西疊石は巾一寸のもの石英斑岩中にあり。

○仙居縣　（黃鐵鑛）

○東陽縣　東鄉李岑山

○衢（西安）縣　西鄉西山、南山

○開化縣　大溪山、北鄉六都墩

○常山縣　北鄉斜園

○建德縣　東官山、西小洋莊鐵山塢

東官山鐵鑛

位置　東銅關炭坑の西にあり東官山と稱する狹き谷間の孤山なり其の南側中腹に磁鐵鑛床あり山の高さ五六十尺に過ぎず東銅關炭坑は建德縣城より新安江を溯ること八十支里の左岸にあり。

地質ト鑛床　走向北六十度東、北に傾く灰色石灰岩と其の下部に粘板岩砂岩頁岩等あり鑛床は石灰岩の直下粘板岩との間にあり、附近には石英斑岩の如き岩石露出す、鑛石は黃鐵鑛を含む磁鐵鑛なれども露頭は風化して褐鐵鑛となる尖雜物多きが如し上鑛は　鐵 66.39　硅酸 2.06　硫黃ナシ
マンガン　燐　痕跡なり。

○湻安縣　南郷二十九都二圖羅山
○麗水縣　東郷、虎山、却金山、(黄鐵鑛)
○青田縣　東郷双山
○縉雲縣　樊莊
○宣平縣
○龍泉縣

處州府下の鑛鑛は重に磁鐵鑛にして嘗て分析の結果は燐、硫黃、比較的少く下の如し。

鐵 49.72%　マンガン 1.04%　硅酸 13.28%　硫黃 0.007%　燐 0.068%　銅 0.070%　等なり。

○瑞安縣
○平陽縣
○泰順縣
○樂清縣　南溪

第六節　鉛鑛

○上虞縣　天山、缸窰、福祈山

○諸曁縣　高塢坑

亞鉛鑛產地として有名なる所、(亞鉛鑛參照)

○溫嶺(太平)縣　批山

○仙居縣　靑若山、鋸板山、虎門前、水剪頭灣

○寧海縣　石頭山、白沙山、大來山、下廖庵

大來山は鰲岡の西三支里の賴畲にあり、花崗岩輝綠岩中に花崗斑岩あり此の接觸部に東西と南北に走る二脈あり巾數寸なり深さ三十尺程の舊坑あり、大來公司日本人葉子衡の經營なり。

下廖庵は亭旁を去る西南十五支里梅坑嶺と云ふ峠にあり凝灰岩中に四脈あり大なるは龍頭山にあり巾二尺程なり福臺公司經營す。

○臨海縣　双剪山

○天台縣

○黃岩縣　郭婆坑

○陽溪縣　南鄉龍葱山、銀坑村、大居塔、禾原鹿培山

○浦江縣　西鄉三都塘外鎭

○東陽縣　西郷西甑山
○武義縣　東郷葉坑
○衢(西安)縣　北郷塢山、東塢、銅洞背
○江山縣　南郷石蘭
○開化縣　北郷大提陽溪、銀聚山、大溪邊

大溪邊鉛鑛

開化縣の東北四十支里の所にあり開化縣は杭州を隔つること約八百支里なり、鑛山より遂安縣へは同じく四十支里なれど道惡し、鑛床は石灰質粘板岩中に花崗岩噴出し巾四尺餘の接觸岩を生じ此の内に方鉛鑛を所々に含有す、嘗て數年前數名の工夫を役ひ採掘せしものなり。

○桐芦縣　鐘山、苦山
○遂安縣　東郷一都松源村、裏童杏林橋、西郷錢家塢、楊村

西郷錢家塢鉛鑛

縣城の東南約六十支里の所にあり、附近は高き山深き谷ありて交通不便なり、鑛脈は砂岩中　東南より西北に走る三四寸の方鉛鑛脈あり。

楊村鉛鑛

遂安縣城の西南横沿村、水碓村を經て約六十支里の所にあり、其の間の道路は大體に平坦なり、鑛脈は粘板岩中にあるが如し、或る山の中腹の畑土中に方鉛鑛の塊を出すのみ。

○湻安縣　富德源双溪口、大茂坑、金介坑

大茂坑鉛鑛

湻安縣より河を溯ること六十支里にして左岸に威坪鎭と稱する都會の上に流れ來る支流八都河の上流六十支里の所にあり、石灰岩粘板岩の地質にて其の内に略南北に走る數寸の鉛鑛脈あり、大茂坑の南十町餘の所には花崗岩露出す。

金竹坑鉛鑛

大茂坑の東々北二十支里の所にあり、其の間には千尺にも達する山脈橫はる鑛床の露出するは小河の岸にして小區域なり、附近の地質は石灰岩粘板岩あり、白花崗岩存在す。

○壽昌縣　東鄉、岩洞山

○松陽縣

寧波、臺州府下の鉛鑛分析の結果は

	銀	銅	鉛
(1)	0.0244%	1.530%	73.460%
(2)	0.0304%	1.805%	60.755%

第七節　錫鑛

○長興縣

○武康縣

○安吉縣

○餘姚縣

○松楊縣

第八節　亞鉛鑛

○諸曁縣　小東鄉梅溪區高大村塢坑

高塢坑亞鉛鑛

縣城の東南六十支里の浦陽江より百支里の所にあり鑛床は片麻岩、赭色砂岩、花崗岩、石英斑岩中の片麻岩中に存在し高塢坑、銀峯尖、洞岩山の三ヶ所に分たる、高塢坑は片麻岩中を南北に走り巾三尺の脈中に二三寸の鑛石あり露頭の長さ百尺餘巾三四十尺あり、銀峯尖は舊坑あるのみ、洞岩山は縣城の南四十五支里の裡浦溪より山に入りたる所にあり、高塢坑附近には石灰岩もあり。此の山は浙江省中有名なる亞鉛山なり鑛石は上海に輸出せらる。

○東陽縣　西甑山

第九節　銻鑛

○開化縣　北郷際谷荘、鉅溪、小尖塢山、礤底

礤底又は礤店、銻鑛

開化縣の東北二十五支里にして内十五支里は山道なり附近の地質は粘板岩中に石灰岩を夾み鑛脈は石灰岩中にあり東北の方向に走り巾四尺なりと稱せらる露頭より深さ三四十尺の竪坑あり坑には水を湛へ鑛脈を見ること能はず、鑛石は輝安鑛と方鉛鑛との混合物なれど上鑛なり、光緒三十二年寶裕公司なるもの初めて開坑し同公司の經營なり目下休止す。

○分水縣　臥牛山

臥牛山一帯は銻鑛の產地として有名なるも地方人民等風水の迷説を唱へて採掘を許さず清朝時代より時々騒擾を起せし事ありしが漸く近く開鑛されんとす。

○遂安縣　西郷十五都連嶺脚、南郷五都黄家源、北郷塢石灣山、杳樹坑、姜灣山、麻田

姜灣及麻田銻鑛

遂安縣城の北三十五支里の郭村の西北十數支里の所にあり兩鑛山共地質は砂岩、粘板岩よりなり姜灣の鑛脈は谷より山へ登ること三四百尺の所にあり麻田は平地より數十尺高き丘陵にあり鑛塊として

存在す、姜灣は銻より鉛を多く出す。

○涫安縣　西郷劒門山、北郷東源奎星橋、銀山、朱家塢

銀山は威坪の西北々六十支里、朱家塢は安徽界の黄江潭（新安江岸）の西南二十五支里の地にあり何れも三四寸の小鑛脈あり。

第十節　砒　鑛

○麗水縣　三十三都

非金屬鑛

第一節　瑪瑙鑛

○杭州府　瑪瑙坡

第二節　水晶鑛

○吳興（烏程）縣　whereas龔山

○東陽縣　西郷

○江山縣　南鄕廣渡山

○遂安縣

○雲和縣　七亭水

第三節　陶土鑛

○江山縣

第四節　雲母鑛

○東陽縣　李岑

第五節　蠟石鑛

○昌化縣　昌化石

重に印材として杭州にて販賣せらる。

○青田縣　劉山

青田縣城を距る二十支里、青田石と稱し印章其他の細工に用ゐ嘗て米國へ輸出したる事ありと云ふ。

第六節　柘榴石鑛

○台州府　櫻旗山

○臨海縣

第七節　黑鉛鑛

○東陽縣　二十二都大龍山、淨山、五十四都米塘莊

第八節　石炭鑛

○長興縣　打鼓山、石屑崗　（此の二ケ所は同一の場所にて民國三年の發見なり）

○餘杭縣　車口坂、西湖下家山、餘杭平

○富陽縣　宋廟村、道冠村

道冠炭坑

富陽縣城の西北四十支里の地にあり鑛區廣大、水利は橫山橋より錢塘江に出づる便あり僅に十支里に過ぎず。

○嘉興縣　平定鄉

○諸曁縣　洪里塢

錢塘江の東岸に沿ひ同縣城を東に去る二十支里の地なり立大公司陳某の經營。

○寧海縣　朱圩山

○天台縣　岩店山

○東陽縣　安田莊

○蘭溪縣　遊馬塢、茂宅莊、塘凹山、香溪鄉。丁埠頭、北鄉毛塘弄、臨莊山

○龍游縣　北鄉杜山塢、蓮花塘、南鄉靈山塢

○江山縣　候山、董樹山、窑溪山、北山鄭里、泉家塝、崗嶺、井塘、英岸、石後、政堂、湯漽

英岸、石後、政堂炭田

江山縣の南河流に沿ひ江西省の界に近く位置す、炭層は下に述ぶる西安縣下のものと同じく中生代のものにして三層あり略東西に走り北へ五六十度の傾をなす上層は最も厚く三四尺、中層は劣等にして稼行されず、下層も同樣なり。

湯漽炭坑

縣城の東北百二十支里の五溪里の南十五支里の地にありて前記のものと同一炭層の延長にして此處には炭層西北へ七十度の急斜をなす兩者合して豫定炭量四千萬噸と稱せらる、分析の結果は

石後　固定炭素 72.41%　揮發分 19.27%　灰分 8.20%　等なり。

○常山縣　西郷煤山、芳村、北郷靈湖、斜園、楳盤山

○衢(西安)縣　靈山後、西山、南山、大洲、陳家山、學室埠、橫路、林山

學室埠炭坑

位置　錢塘江の本流を溯ること杭州より六百支里右岸に衢州府西安縣城あり、此の南方二十五支里の所に炭山あり、下水埠とも稱せらる其の東に林山あり。

地質ト炭層　炭坑附近は赭色砂岩大部分を占むるを見る唯少し高き山は石灰岩なり、炭層は赭色砂岩の下にある礫岩砂岩の地層あり此の内に含まるゝが如し東南へ四五十度の傾斜をなし、三尺程の厚さなり、大洲は此の東北二三丁の所にあり炭質は無煙炭にして河向ひの橫路、大洲は此處より炭質悪しと云ふ搬出には西安迄小河あり、時代は中生代のものなりと云はる、林山も同一層ならん。

林山炭　炭素 75.99%　揮發分 15.47%　灰分 7.82%　等なり。

沿革　今を去ること六十年前咸豐年間の開坑にて引續き稼行せられず光緒三十年頃稍多數の鑛夫を使役して採炭したるも幾もなくして中止し其後民國元年に至り合興公司が再開したりと云ふ、豫定炭量八千萬噸と云ふ。

○桐芦縣　皇甫村、芝方塢、冷塢

皇甫炭坑

位置　桐芦炭坑とも稱せられ杭州より錢塘江を溯り二百十支里にして江の左岸の桐芦縣に着す炭坑は此處より支流の分江を入ること四十支里皇甫村にあり杭州桐芦間は毎日小蒸汽船の往來あり七時間にて達す。

地質ト炭層　炭坑は皇甫村の北方數丁の所にあり高さ百尺内外の陽山側、貓頭山等よりなり石炭紀の頁岩砂岩より構成せられ炭層は前記の山麓東側に東方へ六十度の傾をなして露出す、一の大なる斜坑と二三の舊坑あり層厚は三四尺の無煙炭なり、炭層は大體三層なれど一層より役立たず、分析の結果　固定炭素 68.43%　揮發分 8.45%　灰分 23.11%

沿革　今より八九年前寶興公司が資本銀十五萬元を以て着手し四五年後に始めて出炭したりと云ふ一日多きも二十噸を上らず、普通數噸なりしと云ふ、蒸汽釜、捲上機等あり支那の炭山として器械の備はり居る方なり、石炭は重に杭州にて使用せらる、冷塢炭坑は皇甫の河向ひなり。

○分水縣　西郷老鴉窠、塔嶺

○建德縣　鐵山塢、塢龍山、東銅關、西銅關、馬目埠、鐘潭嶺、洋溪

馬目埠炭坑

位置　杭州より三百支里錢塘江を溯り建德縣城に達し此處より二十五支里支流の新安江を溯りた

る所にあり鐘潭砦とも稱せらる。

地質ト炭層　附近の山脈は石灰岩、粘板岩、砂岩輝緑凝灰岩等よりなり炭層は砂岩或は粘板岩中に東西に走り北へ四十度の傾をなす、河を去る三四丁高さ三四百尺なり、層厚は三四尺の所あるも扁豆狀をなすが如し。

洋溪炭坑

位置　前記馬目埠より尙二十五支里溯りたる所にあり、故に建德縣へは五十支里を隔つ。

炭層　馬目埠と同種の岩石あるも石灰岩を見ず炭層は粘板岩中に存在し北に四五十度の傾をなすも目下採炭しつゝある所は一の大なる背斜層の形をなす厚さ約四十尺急斜をなす故深さ六十尺程の大穴あり、大部分は「石煤」と稱する炭質頁岩なれど薄き炭層を時に夾む所あり、重に石灰を燒くに用ひらる。

東銅關炭坑

位置　建德縣城より新安江を溯ること八十支里卽ち洋溪より尙三十五支里上流なり、河を去る數丁の平地にあり。

炭層　平地なれば炭層の露頭見えず附近の山は石灰岩砂岩頁岩あり、炭層は石灰岩の下部の頁岩中に存在するが如し、炭層は水平にして厚さ三四尺なりと稱するも實際は北に傾き厚さは五六寸のものゝ如し。無煙炭にして光澤美、馬目埠、洋溪產より遙に上等品なり。

沿革　數年前より廣久公司の經營に屬し、目下殆ど中止の狀態なり。

○湣安縣　西郷澤家山、北郷開嶺脚、銀塘

○壽昌縣　東郷瓦舖、石馬頭、東珂里、長林口、北郷馬崗口、公槽源口

第九節　鹽鑛

○海鹽縣
○錢塘縣
○海寧縣
○仁和縣
○寧波府
○臨海縣
○寧海縣
○黃岩縣　の各縣にて海水より鹽を採る。

第十節　明礬鑛

○平陽縣　宋洋山

第十一節　石膏鑛

○錢塘縣

第三章　安徽省

安徽省は上海と漢口との中間に位し其の間六百哩の楊子江流域の三分の一を占め面積十四萬二千平方粁なり、楊子江は省の東南部を西南より東北に向て流れ全面積の三分の一は江の東南にあり、安徽省の地勢は江の西北は土地開けざれど北には洪澤湖と淮河の流域あり、中央には巣湖ありて一般に沼湖多ければ平地多し、江の南方は土地楊子江を去るに隨て高く内地は山地多けれど開け北方の如く平地沼湖少し隨て鑛産地も此の方面に多し、金、銀、銅其他鐵以外の金屬鑛山は殆ど名のみにして重なるは石炭鑛と鐵山なり、炭坑は寧國府下の各縣と楊子江沿岸にして鐵山は蕪湖に近き銅官山、桃沖鐵山、大小孤山、釣魚山、中山、鐘山、南山等何れも有名なり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○安慶(懷寧)縣　獅子山　（安慶の西北十支里湖岸にあるもの未開）

○績溪縣　下塢　（砂金）

○宣城縣　小金山

○銅陵縣　赤山（砂金）

○鳳陽縣　獨山

○來安縣　茅草嶺

第二節　銀鑛

○績溪縣　大鄣山

○宣城縣　小金山

○鳳陽縣　爐山

○懷遠縣　塗山

天長縣　冶山

第三節　銅鑛

○無爲縣　周家村

周家村銅鑛

位置　蕪湖より小蒸汽にて馬腸河を百八十支里溯り巣縣に到り縣城の南三十支里の所にあり、附は閘山岳重疊し交通不便なり。其の沿革は詳かならざれど光緒三十一年初めて開かれ民國四年十二月には寶源公司なるものを建て資金を集め稼行せんとせしも未だに工を起さず。

近地質ト鑛床　附近は黑色の石灰岩にして時に粘板岩を夾む鑛床は粘板岩中にあり、露頭は僅か二其程の斷層の如き面あり此處に含黃鐵鑛の頁岩の數寸のもの四層あり走向北五十度東、東南へ四十度の傾をなす、此の部分は銅を含まず、他に粘板岩頁岩の最下部に石灰岩の上に扁球狀の鑛瘤あり大さ五寸厚さ三寸小なるは直徑二三寸にて瘤は同心的構造をなし外周は僅かの黃鐵鑛を含み中心は多くの黃鐵鑛よりなる、此れも亦銅を含むことなし。

外涂、懷寧、當塗、靑陽、廣德、寧國、南陵縣下に銅を産する所ありと云ふ。

○繁昌縣　銅山

○績溪縣　銅鑛山、閘鐘嶺、金塚、橫溪橋

○休寧縣　十九都、牛車源

○宣城縣　東鄉、百子尖

○銅陵縣　銅官山（鐵山參照）

○貴池縣　宮山冲

甚だ貧鑛にして分析の結果　銅 2.736%　鐵 35.500%　鉛 17.070%　硫黄 23.725%　等なり。

○天長縣　冶山、黃牛山

第四節　鐵鑛

○太湖縣　太湖鐵山

○潛山縣　西北鄉各山（砂鐵）

○舒城縣　曉天山

○霍山縣　西鄉

○繁昌縣　西鄉、桃冲

桃冲鐵山

位置及沿革　蕪湖より長江を溯ること約九十支里にして荻港あり其の東南約十五支里の所に潘沖、大磻山、桃冲山、天臺山の諸鑛床あり桃冲を除きては他は鑛質不良にして其の用をなさず、桃冲鐵山は七八年前蕪湖の一商人の發見せしものにして其後支那人が山元に三萬元を投じ一噸爐を築きしが不結果に終り遂に三井洋行の手に入り目下は中日實行の經營の下にあり高橋工學士技師長として他に數名の日人あり、目下荻港に至る鐵道布設中なり。

地質ト鑛床　地質圖にあるが如く石灰岩と粘板岩の累層にて粘板岩中には硅岩を含有す、鑛床は石灰岩に近き上部の粘板岩中に大なる柘榴石岩(石灰岩の變質したるもの)あり此の内に不規則なる形をなして存在す延長千五百尺、巾百尺乃至二百尺高さ地並より千尺なり、此の他北方の谷にある松柏山、鶏公山には沖積期の鑛床あり、無數の鑛塊土壤中に埋沒するものなり。

鑛石ト鑛質　赤鐵鑛にして時に磁鐵鑛の如き所もあり褐鐵鑛は殆どなし、赤鐵鑛は結晶の大中小とあり大は Specular iron 輝鐵鑛とも稱すべきもの此の内に磁性を有するものあり、最も普通なるは小結晶にして全體 50% は此れなり、隨伴鑛物として長石、石英、方解石、柘榴石 Hedenbergite, Limonite after pyrite. Silicate cast of calcite 等なり。鑛質は分析の結果

	硅酸	鐵	硫黄	燐	マンガン
普通鑛	22.05%	54.88%	0.029%	0.029%	——
大結晶	5.20%	66.18%	0.014%	0.028%	0.042%
小結晶	3.22%	66.39%	0.015%	0.020%	0.037%

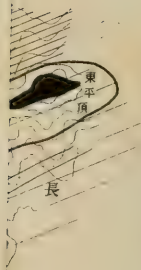
豫定鑛量は數百萬噸と云はれ又、數千萬噸と云はれ何れが確かなるや詳かならず、目下採鑛中なれば未詳なるが事實なり。

○當塗縣　天長山、冶山、大小孤山、釣魚山、鐘山、南山

大小孤山鐵鑛

位置　當塗縣の東南二十支里青山河の左岸數十間、蕪湖の東北四十支里餘の所にあり、大小孤山

硅岩
鐵鑛所在豫想區域
東平頂
長

桃冲鐵山鑛床略圖
凡例
石灰岩
柘榴石岩
粘板岩
硅岩
坑口ト坑道
鐵鑛所在豫想區域
桃冲溪
事務所
東平頂
西平頂
no1
no2
no3
no4
no5
0
100R
200R
300R
400R
500R
縮尺四千分之一

は一の連續したる東西に延びたる孤山にして魚釣山は此の北數支里の所にあり鐘山は尙數支里の北にある山なり、孤山は地平面より高きこと漸く二百尺內外なり、釣魚山は百尺內外、鐘山は三百尺程あり、目下福民公司、振冶公司の鑛區なれど近く三井洋行と合同經營をなす山。

鑛床　孤山は大孤山の東三分一部小孤山の東半は赤鐵鑛よりなる大露頭なり、釣魚山は稍似たるもの鐘山は山の中央南北に帶をなし高さ三百尺巾二百四十尺の間露頭ありと云ふ小孤山は鑛質可なるも他は不可ならん、分析の結果

	鐵	硅酸	燐	マンガン	硫黃
大孤山	58.15%	16.72%	0.083 %	0.13 %	0.158 %
大孤山	42.51%	36.92%	0.0325%	0.299%	0.0563%
小孤山	56.56%	15.28%	0,563 %	0.19 %	0.049 %
同	54.44%	19.90%	0.202 %	0.13 %	0.096 %
同	54.86%	22.00%	0.028 %	*Trace.*	0.282 %
同　（上鑛）	64.75%	4.70%	——	——	——

鑛量　未だ完全なる測量なければ又少しの採鑛もなければ正確なる數は擧ぐる能はざるも大小孤山にて約七百萬噸はあるべし、採鑛は頗る平易にして運搬は水路の便あり、釣魚山も振冶公司の有にして約九十萬噸ありと云ふ、鍾山の鑛石分析の結果は

鐵 60.97%　硅酸 7.37%　燐 0.470%　マンガン 0.17%　硫黃 0.048%

南山鐵鑛

位置　當塗縣の北東四十支里の所楊子江岸の釆石磯の東三十支里なり山の高さ二百尺餘全山雜草、灌木、繁茂す、故に露頭不明なり、大凹山、小凹山と云ふは此の附近なり。

鑛床ト鑛質　山頂山腹に鑛塊は散在す其の區域廣けれど果して大鑛床の存在するや明かならず、鑛石は赤鐵鑛なるも磁鐵鑛の如き所あり、分析の結果は

鐵	硅酸	燐	マンガン	硫黄
61.49%	6.41%	0.172%	0.19%	0.189%
19.93%	19.94%	0.140%	3.50%	0.359%

鑛業人は寶興公司なるも近く三井洋行と合同して目下採鑛中なり。

○銅陵縣　銅官山

銅官山鐵鑛

位置　銅陵縣の南十支里楊子江岸より七八支里の所なり、交通路は大通より江を渡り江岸より陸路山に至るべし、山の高さ三百數十尺なり、此の鐵山は民國元年安徽都督が三井洋行と六十萬元の借款をなし鑛石賣買の契約をなしたるものなりと云はる、其の後如何なる關係なるや不明なるも今日は全く廢山となり雜草、荊棘の蔽ふ所となる。

鑛床ト鑛質　砂岩、石灰岩、粘板岩　累層中砂岩中に鑛床は存在す、嘗て採掘したる大穴あり、以前(三百年前)は此處にて製煉を行ひたるが如し、鑛石は赤鐵鑛、磁鐵鑛なり、多少の黃鐵鑛を含む分析の結果は

	鐵	硅酸
最上鑛	72.261%	0.87%
上　鑛	65.84 %	4.88%

鑛質不可なけれど鑛量は世に云はるゝが如き多量のものに非ざるべし。其他、潁州、懐寧、南陵縣下に鐵鑛ありと云はる。

○天長縣　冶山

第五節　鉛鑛

○貴池縣　梓棣坑

○宿　縣　打鼓山

分析結果　銀 0.20835%　鉛 58.50%　硫黄 19.00%　等

○霍邱縣　汞灣

第六節　錫鑛

○黟　縣　毛坑山

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○績溪縣　龍鬚山（紫、黑、淡黄の三色あり）

第二節　硅岩鑛（ガラス原料）

○宿松縣　白馬淵（砂）
○績溪縣　仙人岩（硅岩）
○貴池縣　天臺山（砂）四堡梨村（硅岩）

第三節　陶土鑛

○郝門縣　東郷、龍鳳壁、大北
江西省の景德鎭の磁器も此等三ヶ所の土を混用すると云ふ。

雲母鑛

○旌德縣　東郷

○青陽縣　天臺山

第四節　滑石鑛

○盧江縣

第五節　石綿鑛

○桐城縣　龍眼山

第六節　硫黃鑛

○貴池縣　官山冲、太平村

第七節　黑鉛鑛

○績溪縣　登水流域

○黟　縣　石墨嶺

○休寧縣　石墨嶺

第八節　石炭鑛

○安慶(懷寧)縣　安慶縣城北門外大凸山

○宿松縣　黃泥莊、汪家灣、高家窪、傅家壠、翕銅梁家山

○太湖縣　夾坳山

○潛山縣

○巢　縣　二龍山、淨土庵山

○含山縣　(無煙炭)

○繁昌縣　五華山、强家山、江家冲、南鄉、幢山子、東鄉

五華山分析　固定炭素 73.20%　揮發分 7.01%　灰分 19.78%

南鄉九華山は竪坑三個あり、深さ三十餘丈にして一晝夜に出炭量六十噸なりと云ふ、炭質は無煙炭にて　固定炭素 80.63%　揮發分 13.63%　灰分 5.73%

○廣德縣　梁家山、牛頭山、楊家山、黃家山

牛頭山炭坑

位置ト沿革　牛頭山は江蘇、安徽、浙江の三省の界に近く位し交通路は上海より小蒸汽にて湖州に至り、其れより泗安に民船にて溯り陸路三十五支里にて炭山に達す、湖州泗安間は百二十淸里な

り、此の炭田の發見は今を去ること二百數十年前康熙年間の事にして當時土民が地表に近き炭をとりたるに始まる其後全く放棄せられしが光緒二十九年に至り廣益公司設立となり、此の公司三四年間に僅か一萬噸の炭を出したるのみにて中止し民國元年二月通裕公司設立せられ楊家山、黄家山、專ら小牛頭山を經營せしが不利して四五ヶ月にて中止したり。

地質ト炭層　炭坑附近は灰色石灰岩なり此の間に薄き砂岩層あり此れに炭層を有す走向北三十五度東、西へ五六十度の傾をなす、厚さは大牛頭山にて七八尺、小牛頭山にて五六尺他は二三尺と稱するも事實を確むる材料なし、小牛頭山の一坑内には三尺足らずのものあり。

○績溪縣　孔林、寒石嶺（無煙炭）

○黟　縣　耦坑（同上）

○歙　縣　龜形山

○寧國縣　張榮淨

○宣城縣　牛茨山、鳳凰山、簸箕山、犬形山、九里山、金家邊、小沖灣、南鄉、龍尖坑、狗毛山

牛茨山炭坑

位置　蕪湖より支流を入ること百支里新河莊より尙支流を入りたる所川を去る數丁の所にあり山

の高さ百尺餘なり、牛山、茨山よりなる。

地質ト炭層　附近に露出する岩石は淡黄色の砂岩と灰色石灰岩なり、走向北六十度東、東南に五六十度の傾をなす、炭層は石灰岩の下部なる砂岩中に存在するもの、如し炭質は黑色美しき光澤あり、分析の結果は

炭素　89%　酸素　8.5%　水素　0.5%　窒素　2%　發熱量　11.000

無煙炭にして普通の釜には用ひられず砂の如き粉炭となり易し。

鳳凰山炭坑

牛茨山より東へ十數支里を隔て南湖の西北隅にあり高さ三四百尺の丘陵なり、湖岸は遠淺なれば船付き悪し、炭層は北四十五度西、西南へ十度の傾をなす砂岩頁岩中にあり、炭は塊狀をなして存在し直徑三四尺なり、黑色頁岩中にあり。

南鄉炭坑

位置　宣城縣城を南々西に去ること七十支里金牌園と稱する地方なり、犬形山、蓑衣山、土凸山、簸箕山、楊家塘梢、窖山崗の一帶なり、蕪湖と宣城縣城との間は水路の便あり毎日一回小蒸汽の往來あり、百六十支里を隔つ今より五十年前の發見なり。

地質ト炭層　砂岩頁岩よりなり僅か鑛區の東端なる犬形山の北に石灰岩あり走向北六十度東にして西北に三十度傾く東の大形山は以上の如くなるも西方簸箕山附近は傾斜急にして六十度となる、北方の楊家塘梢にては四十度内外となる厚さ七八尺より二三尺にして地表より十數尺より數十尺にて着炭す分析結果は

水　0.87%　揮發分　17.28%　炭素　61.72%　硫黄　2.38%

土凸山の便民公司は二十名の鑛夫を使役し一日二三噸の炭を出す、山元にて一噸の價約六弗也、重に宣城縣に運ばれて此處にて販賣せらる、縣城にては一噸八弗二三十仙なり、運搬には騾馬を用ゆ。

九里山產炭　固定炭素　68.466%　揮發分　17.833%　灰分　13.700%

南鄉龍尖坑　固定炭素　48.448%　揮發分　12.066%　灰分　39.486%

○南陵縣　京康莊（無煙炭）

○涇　縣　古樓舖、窰頭嶺、長平州、南關塘

古樓舖炭坑

位置　宣城縣の西南六十支里、涇縣の東北三十支里の所にあり蕪湖より炭山に行くには先づ小蒸汽にて宣城縣に至り其れより陸路山に達すべし歸路は炭坑より馬頭と稱する河岸に出で民船にて新河を下れば蕪湖なり二日間を要す炭坑と馬頭の間は十數支里。

地質ト炭層　岩石は砂岩頁岩あり走向北六十度東にして鑛區の中央にては垂直なれど東北、西南部には西北に急斜をなす、鑛區の東北端古樓舖村に近く石灰岩あり炭層は重なる一枚にて厚さ八尺或は十數尺と稱す、蛇形山には嘗て設けられたる大竪坑の跡あり深さ百數十尺にして十數尺炭に當れりと云ふ他に走向に沿ひ數個の坑口あり、目下何れも炭に當たらず東端の芭茅地の竪坑內には七八寸の炭あり、炭質は金屬光澤ある無煙炭にして片狀組織あり粉炭となり易く硫黄も多きが如し。

窰頭嶺　固定炭素　52.020%　揮發分　29.967%　灰分　14.380%

南關塘　固定炭素　58.850%　揮發分　15.233%　灰分　25.916%

○銅陵縣　順安鵝山（無煙炭）

○靑陽縣　烏株嶺、揷花山、泉水塘（無煙炭）

泉水塘炭分析　固定炭素　79.03%　揮發分　10.95%　灰分　10.01%

○貴池縣　猪形山、西鄉、和嶺、饅頭山、痲山嘴、洗頭舖舊嶺、罐窰山、大年瑯山梅精山、陳家冲、梅坦墩媒山壕

分析表　固定炭素　60.46%　揮發分　10.06%　灰分　29.46%　（無煙炭）

饅頭山炭坑

位置　安慶より小蒸汽にて江を下ること百數十支里貴池縣城に至り其の東十數支里の所にあり、開明公司、大元公司及池裕公司の鑛區あり。

炭層　砂岩頁岩の頁岩中にあり走向東西にして北へ十度の傾をなす山の高さ附近の水面より數十尺なり、層厚二三尺より八尺に達し池裕公司は每日三十噸の餘を出す鑛夫約九十名あり、附近に多くの舊坑あり試掘すれば面白からん。

○東流縣　喜山、蓑山、長棣山、坂泉、水塘、大楓山（無煙炭）

○宿　縣　烈山、小環山

烈山は縣城の西北唯溪口にあり土人の採掘にて日に平均二三十噸を出し附近の市場に出し農民の使

用に供す。

○天長縣　冶山

○鳳陽縣　舜耕山、窯山、蜈蚣山（有煙炭）

第九節　明礬鑛

○廬江縣　大小礬山

第十節　石膏鑛

○貴池縣　草山、牛山

第十一節　方解石鑛

○貴池縣　江林浦

第四章　江西省

江西省は安徽省の西に位し面積約十八萬平方粁を有し地勢東西南の三方は山にして北は揚子江の平地と鄱陽湖あり河は皆此の湖に流入し水利は概して便なる省なり、而して此の省は江南三省中最も鑛產に有望なる地として知られ其の豐富なること安徽、浙江、福建の上にあり、卽ち湖南界には鐵、石

炭あり福建、浙江界には金、銀、銅、鉛あり、然れども目下採掘中の二三の大なるものを除けば他は未開のものなり、萍鄉炭山は最も有名なり他の重なる鑛山として萍鄉附近及九江附近の鐵山、贛州の銅山ありと云はる。

金屬鑛

第一節　金鑛

○臨川縣　（宋時代に開掘したる跡あり縣城の西四十支里）
○上饒縣
○萍鄉縣　大安岺、金沙溝（沙金）、葉線坑、七寶山、大安里、棚家坊
○高安縣
○寄都縣
○寧都縣
○瑞金縣
○鄱陽縣
○奉新縣

第二節　銀鑛

○建昌(南城)縣　宋時代に開鑛したりと云ふ記事あるも目下無し。

○臨川縣　金溪場

○金谿縣

○玉山縣

○弋陽縣

○鄱陽縣

○萍鄕縣　小西路白笠

此の銀山は清朝咸豐年間に土法を以て開採せられ一時鑛脈有望にして盛なりしが深さ六十丈に達する竪坑排水に困難なるため遂に中止し同治元年再開せしも同じく排水のために失敗し中止したりと云ふ。

○上高縣

○會昌縣

○雩都縣

○瑞金縣

○德興縣

第三節　銅　鑛

○臨川縣

○上饒縣

○新喩縣

○宜春縣　金瑞附近

金瑞附近ノ銅鑛　金瑞は湖南に近き萍郷驛の東北百九十支里の山間僻地にあり其の東北十五支里の呉家尖に及び南北の峯頂山、雷打山にも鑛床ありと云ひ袁宜公司經營す。

呉家尖は粘板岩及石灰岩よりなり北數丁の所に花崗岩あり石灰岩中に石英脈の西北に四十五度の傾をなすもの山の北側にあり黃銅鑛、黃鐵鑛を散在す、二坑あり二三十尺掘進し三四寸の鑛脈に當る鑛石のみを分析したるに

銅 3.80%　金痕跡　銀 0.0012%,　銅 4.07%　金 0.0004%　銀 0.0036%,

銅 6.90%　金 0.0006%　銀 0.0074%　銅 13.73%　金 ナシ　銀 0.0004%.　最上鑛,

○贛　縣　隴下西陂山

此の銅山は澳國鑛山技師の調査に依れば自然銅にて約四百噸より銅十二噸を得たりと云ふ他に四五ヶ所を試掘したるに鑛脈なし、排砦脚下に銅鑛脈を發見したるも薄弱なるものにして有望ならざるが如し附近の地質は變成岩と花崗岩よりなり、鑛區面積二十五方里、光緒三十三年の開鑛なり。

最上鑛分析の結果は　銅 53.24% 鐵 10.44% 硫黄 22.28% 等なり。

○尋鄔縣

○長寧縣

○雩都縣　河樹洞

○上猶縣

○瑞金縣

○彭澤縣

○洪　州

○德興縣

○豐城縣

第四節　鐵　鑛

○進賢縣
○臨川縣
○崇仁縣　三官塞
○弋陽縣
○貴溪縣
○玉山縣
○横峯(興安)縣　尖尺
○上饒縣
○永新縣
○泰和縣　源中村、沙區
○新喩縣　蕪陵鑛、佛岑山、銀石岫、石岡、茶山、杉坡裏、銀銅坡、大窩岺
○新塗縣　横港極
○分宜縣

○春宜縣　桐木山

○萍鄕縣　大西路、上珠岺、南路、小水黃家源小坑裏南路瀠田、大岺背、劉公廟、上淶嶺

大西路、上珠岺は未だ開鑛せられざるも鑛質可にして百分の七十の含鐵ありと云ふ。

○贛　縣　万松山

○會昌縣

○安遠縣

○大庾縣

○寧都縣　管架隴、鴬嶺牌、石頭、溫坊、河背村

萍鄕縣下の鐵鑛は含鐵量大冶に亞ぎ品位優等なるも目下土法製煉のみ行はれ其の產出する銑鐵は漸く僅の鑄物に用ひらるゝに過ぎずと云ふ。

○九江(德化)縣　城門山

城門山鐵鑛

位置　九江の西南にあり楊家湖の南岸水路九江より五十支里なり九江より鐵路にて沙河驛に至り其れより陸路なれば二十五支里なり。

附近ノ地質ト鑛床　附近の地質は赭色砂岩と古生層の砂岩よりなり走向東西なり鑛床近くには石英斑岩の如き岩石あり、鑛床は砂岩中にあり、赤鐵鑛に屬す。

		鐵	硫黄	燐	硅酸
分析の結果	金鷄嘴	63.03%	0.033%	0.34%	3.61%
(支那農商部にて)	小箬坡	58.66%	0.036%	0.234%	10.66%
露頭の分析を行ひしに	前者	35.84%	0.149%	0.02%	39.43%
	後者	28.70%	0.08%	0.015%	46.76%

を得たり、若し鑛量豐富なれば搬出には便なる地なれば有望の鐵山なれど果して然るや不明なり、或る人の説によれば水準以上の鑛量二百萬噸なりと稱せらる。

○瑞昌縣　陳家山

陳家山鐵鑛

位置　江西と湖北の界、武穴の對岸江を去る二十支里の所にあり。

地質　附近は凡て灰色石灰岩なり鑛床は東西に延び赭色砂岩、輝綠凝灰岩あり後者の内に鐵分多きもの鑛石なり鑛種は赤鐵鑛と褐鐵鑛なり。

搬出　陸路八支里にして小河に出で潘陽湖より九江に至る。

第五節　鉛　鑛

○鉛山縣　楊梅山、鉛山、多善郷

○上饒縣

○宜春縣　岐石舖、吳家尖、石圍、登休里、韓婆坳

○萍鄉縣　陳塘冲、謝坪、青山下

○高安縣

○崇義縣

○大庾縣

○星子縣　青雲莊

第六節　錫鑛

○雩都縣

○會昌縣

○星子(南康)縣

○崇義縣

○大庾縣

附近ノ地質ト鑛床　附近の地質は赭色砂岩と古生層の砂岩よりなり走向東西なり鑛床近くには石英斑岩の如き岩石あり、鑛床は砂岩中にあり、赤鐵鑛に屬す。

分析の結果	金雞嶺	鐵	63.03%	硫黄	0.033%	燐	0.34%	硅酸 3.61%
(支那農商部にて)	小箬坡	同上	58.66%	同上	0.036%	同上	0.234%	同上 10.66%
露頭の分析を行ひしに		前者	35.84%		0.149%		0.02%	39.43%
		後者	28.70%		0.08%		0.015%	46.76%

を得たり、若し鑛量豐富なれば搬出には便なる地なれば有望の鐵山なれど果して然るや不明なり、或る人の說によれば水準以上の鑛量二百萬噸なりと稱せらる。

○瑞昌縣　陳家山

陳家山鐵鑛

位置　江西と湖北の界、武穴の對岸江を去る二十支里の所にあり。

地質　附近は凡て灰色石灰岩なり鑛床は東西に延び赭色砂岩、輝綠凝灰岩あり後者の內に鐵分多きもの鑛石なり鑛種は赤鐵鑛と褐鐵鑛なり。

搬出　陸路八支里にして小河に出で潘陽湖より九江に至る。

第五節　鉛　鑛

○鉛山縣　楊梅山、鉛山、多寳鄉

○上饒縣
○宜春縣　岐石舖、吳家尖、石園、登休里、韓婆坳
○萍鄉縣　陳塘沖、謝坪、靑山下
○高安縣
○崇義縣
○大庚縣
○星子縣　靑雲莊

第六節　錫　鑛

○雩都縣
○會昌縣
○星子(南康)縣
○崇義縣
○大庚縣

○安遠縣

第七節　銻　鑛

○萍鄕縣　大西路雲峰嶺、小西路下埠

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○上饒縣

○萍鄕縣　東路（宜春縣との界）（紫水晶）

○星子縣　破山

第二節　陶土鑛

○萍鄕縣　上埠

○九江（德化）縣　牛眼嶺

○瑞昌縣　栗林頭、傅家莊

○星子縣　青水隴、蕭家山、大排嶺、七磯壠、全家斜、板橋山、江家山、五福港

○鄱陽縣　景德鎭

江西省の景德鎭は支那にて磁器製造地として第一の有名なる所なり、之れがために僅三十方支里の地に人口三十萬人を吸收し居れり光緒初年頃は磁器製造年額僅に數十萬元なりしが漸次增加して宣統年間には四百萬元の多きに達せり革命時代に又一衰微し其後徐々に恢復し昨年は三百萬元を製造せり現に同地の製磁店は百二十軒にて木柴(薪)の燃料を用ゆるもの八十軒、他は茅柴を燃料となす、店は各專門あり例へば瓶、花瓶、圓碗、角碗、精製品、粗製品を製造する別あるのみならず其の色彩を使用するにも分業ありて互に相通ぜざるなり、又、單に人の爲めに磁器を燒き火を看守し窰に出入するのみを業とするものあり數百元乃至千元の資本にて磁業を營み、一二年間に數千元を得しもの少からず、景德鎭の磁器は以上の如く專業あり、且つ製造所にて職工に其の額を注文するも日數を制限せず以て其の精製を奬勵することあり。磁器を燒くには約三十六時間を要し其の熱度の漸く低下するを待ち二三個つゝ運び出すなれば五六日を要す。終りに同所には面白き惡風あり製磁所にて磁器の型を他家に送る時に長さ丈餘、巾僅か四寸許の薄板に之れを滿載し人夫をして肩に荷ひて行かしめ狹巷稠人の所にて故意に人に衝突し其の物品を地上に破壞し損害を要すること數々あり又他に同盟罷工あり罷工する時は竹片を銳く削り鷄毛を其の端に縛し各戶に其の一片を擲送す、此れを鷄毛報と稱し此の報を見て罷工せざる時は急で其の製造場、工作物を破壞するなり、同地には磁業界には三組合あり一を都幇と云ひ舊南康府都昌縣人の集團にて勢力最も强し二を徽幇と云ひ徽州各縣人の集團なり三を雜

團と稱し地方人の集團なり都尉の勢力は強大にして此の地方官は常に之れに惱まさるゝなり。

第三節　雲母鑛

○九江府

第四節　硫黄鑛

○瑞昌縣

第五節　黑鉛鑛

○安福縣

○萍鄕縣　坤里

○興國縣　油棟坑

第六節　石炭鑛

○豐城縣　張坊、猫兒腦、下澤、猪母關、守田、鄕塘、南神嶺、下汉里

豐城炭田

郷塘、坑塘里、下澤里、守田、廖家山、及南神嶺の諸村に跨り縣城の西北及西方六十支里の所にあり二十年前の發見にして最近數年間坑塘里にて稍盛に稼行せられ約三支里の間に四百餘の炭坑あり一年に拾萬噸の炭を產出し一日約二三百噸は全體にて出すべし地勢は一般に低く坑塘里附近の高き所と雖も百米突に過ぎず炭層は砂岩、頁岩と互層し郷塘にては東南に十五度傾き下澤里にては南へ、守田にては東へ廖家山は南に傾く南神嶺の西十五支里の所には猪母關あり炭層數枚ありと云はる、豐城炭田の炭の厚さは一二尺より七尺餘のものあり炭量の概算四億萬噸と稱せられ此の區域は目下大倉組の手に歸し昨春より試錐中なり。下澤里炭分析の結果は

固定炭素 69.80%　揮發分 16.27%　水分 1.41%　灰分 12.51%

○新建縣　徐塘

○臨川縣　李家渡

李家渡炭田

縣城の西北六十支里の地にあり儲山、小嶺、走馬嶺の諸炭坑を含む走馬嶺は進賢縣に屬す、炭坑は百米突より二百米突の高さの小丘上にあり頁岩中にある一尺内外の薄層なり、炭質亦劣等にして產額毎日一噸内外なり然れども此の炭田は其の區域廣大にして全炭量は可成多きものならん。

○東郷縣　小璜墟、七寶嶺、愉恰街、湖岡

○金谿縣　車坊村、獅子嶺、和尙山、李公坳

○崇仁縣　三官寨、滄源礁、張家嶺、龍門

○玉山縣　葉家塢、風扇坦

○鉛山縣　佛母嶺、楊家塢

○横峰(興安)縣　北郷、前山、灰山、東潭、大灣、竹葉港、曹家灣、周家山、雄嶺、樟樹塢、胡家推、東村、官塘源

興安炭田

胡家堆、東村、官塘源よりなり官塘源は縣城の東二十支里、胡家堆は北十二支里、東村は胡家堆の西南六支里の地にあり十年前より稼行せられ毎日五六噸の炭を產出す胡家堆は四五尺炭西北に四十五度の傾をなし、東村は三炭層あり四尺炭なりと云ふ官塘源は一尺乃至十五尺にて東南に三十度の傾をなす豫定炭量千五百萬噸なりと云ふ。

○蓮花廳　檢龍口、水坑、端坑、梅嶺

○吉水縣　江煤嶺、王家田、神洞、象形山、墨潭、虎形山

○廬陵縣　湖山、西邊山、東坑

○新喩縣　大平廠、燕昌口、本邦山、鳳形山、金山陵、昌天龍、鷄坑口、延長口、三十三口、木村、花鼓山、老標坡望山、連花基、相樹坡、高壁上、老鼠盤倉、紅土陵、上

下鐵山、楊梅嶺、白梅太塘

新喩炭田

相隣する大平廠、燕昌口の二村に跨り前者は縣城の北々東約四十支里後者は北三十支里の所にあり最初明朝時代に開かれ後三十年前に再開せられたり目下毎日六十噸の炭を出す地形は豐城炭田に似る、唯此の地の炭層は頁岩の上に礬岩を夾む砂岩あり。炭層は厚さ六尺乃至八尺にて一層頁岩中にあり、炭質脆弱にして粉炭となり易し豫定炭量二千萬噸と稱せらる。

○清江縣　振塘山

○萍鄉縣　安源鎭、水口、東路青山

萍鄉（安源鎭）炭坑

位置　江西省の西部袁州府萍鄉縣下にあり縣城を東南に去る約十五支里の地にして目下採掘しつつある所は天滋山の支脈なる安源山と稱する場所なり、安源山は新開市にして舊路に沿はざるも萍鄉縣城より東へ約支百里にして宣春縣に至る縣道あり、水路南昌に至るべく、西は湖南江西の界を越え醴陵縣に北は百二十支里にて劉陽に達すべし安源鎭より西北へ洙州（湘江沿岸）に至り其より北へ長沙に達する鐵道あり、安源、洙州間六十哩あり。

沿革　光緒二十二年張之洞が漢陽に製鐵所を設け其の燃料は開平、馬鞍山、（大冶附近）及び日本炭を用ひ居たりしも其價高價なるため自營炭坑を得んとて湖北、湖南、江西、安徽、及江蘇の炭山を調査せしめ光緒二十四年に萍鄉炭山を開きたり、盛宣懷が最初百萬兩を以て開掘せしが資本充分なら

ず光緒二十八年獨乙禮和洋行より四百萬馬克の借款をなしたり、然るに光緒卅四年に至り漢陽製鐵所、大冶鐵山、萍鄕炭坑は合併して一の漢冶萍公司となれり。

地質及炭層　此炭坑の鑛區は殆ど萍鄕縣下全般に亙り他人が該地附近にて採炭するを禁じたり、廣さ長さ二十支里、巾十支里餘にて炭層は東北へ尙數十哩に延長し每年一百萬噸つゝ採掘するとして今後克く五百年間を持續し得ると云ふ其の炭量果して然るやは不明なるも兎に角多量に埋藏さるゝは事實ならん、此の地方の地質は古生代石炭紀に屬する頁岩、砂岩、角礫岩及び礫岩あり炭層は數枚にして次の如し。

(1) 小底板層は厚さ八寸にして其の上部にある厚さ一尺の頁岩と共に厚き砂岩中にあり。

(2) 大底板層は厚さ二尺三寸の頁岩の下に一尺六寸の石炭一層及び五寸の石炭の一層とが厚さ一尺の砂岩を夾みて存在す。

(3) 夾層は厚さ六寸餘の石炭層二枚が其の間に一寸の粘板岩を夾みて存在す。

(4) 老夾層は厚さ二尺の石炭が其の上部に約三尺下部に三寸の粘板岩と共に砂岩中に存在す。

(5) 大槽板層は厚さ五尺及び八尺餘の兩炭層が三尺餘の粘板岩を夾み粘板岩中にあり。

以上第四、第五層が主たるものにして目下採炭しつゝある炭層は一部は東西の走向にて其の延長約四千尺南方へ二十五度の傾をなす安源鑛區と稱し二個の竪坑より採炭するもの他は南北の向を有し三萬三千尺餘に延長し西へ四十度乃至十五度の傾斜をなす卽横坑より採炭する小坑鑛區と稱するものなり。

炭質　此の石炭は古生代石炭紀のものにして本邦炭より光澤強く揮發分は少し粘結性なれば骸炭

製造に役立つなり、最厚の大槽板層は地殻の變動壓力のため其の質脆くなり粉炭となり易し、塊炭は稍薄層なる大底板層より出で漢口にて一噸七八兩にて販賣せらるゝは此れなり、大底板層の炭は硬炭と稱せられ大槽板層は彼れに對して軟炭と稱し二種分析の結果は次の如し。

硬　炭	揮發分 30.33%	固定炭素 63.34%	灰分 4.63%	硫黄 0.48%
軟　炭	同　上 23.73%	同　上 55.02%	同上 19.50%	同上 0.45%

採炭方法　採炭方法は最新式と稱すべからざるも坑道、採炭、運搬、通風等適當なる器械を用ひ先づ完全に近きものなり、採炭法は安源鑛區には竪坑を下し二坑あり、小坑鑛區には横坑一名總平坑と稱し竪坑の東約二百米突の所にあり後者は走向に沿ひ南へ十六度乃至二十五度の傾にて掘進す長さ一萬尺に達す、炭層の厚き大槽板層に對しては殘柱法を行ひ薄層に對しては長壁法を用ゆ殘柱法は炭柱の大さを二十乃至三十米突となし其の間に巾三米突の坑道を掘進す、長壁法は炭層の走向に沿ふてある運搬坑道より傾斜に沿ひ約五十米突毎に坑道を作り其の兩側三四米突巾に石炭を採る掘跡には岩石及び木材を充塡す、石炭は約五十斤入の籠に滿たし炭車内に入るゝものとす。

骸炭製造　萍鄕炭は古生代の成生にかゝる揮發分少き炭なれば極めて堅質なる骸炭をつくる性あり燐は多少多きも硫黄は少し製鐵用に適し漢陽製鐵所にては全部此處の骸炭を用ゆるなり産額は毎月約二萬噸にして土法と洋式のコッペー式窯あり、前者は木炭燒窯に似たるもの骸炭の分止り約六十五パーセントなり、後者は裝入量五噸にして三噸半の骸炭を得原炭に對し七割なり、骸炭の性質は何れの方法に依るも其質極めて堅く遙に我が國のものに優るなり、分析の結果は

水分 0.28%　揮發分 0.04%　硫黄 0.53%　灰分 13.45%　燐 0.049%　なり。

運炭　炭坑より出づる石炭及び製造されたる骸炭は其の搬出には萍鄕より鐵道にて六十四哩洙州に出で其れより湘江を引船にて下り二百九十哩にて漢陽に達す曳船は一隻二百噸乃至四百噸をつみ四隻乃至六隻を一回に曳きて下る其外五六十噸積の民船は百數十隻運炭を行ふなり、漢陽に至る運賃は比較的高價なるものにして此の點に就て當局者は常に苦心しつゝある所なり。

○宣春縣　上角坑、竹坪

宜春炭田

縣城の北二十支里の地にあり發見時代は明かならず目下一日約四十噸の炭を出す炭層は東南へ約四十五度の傾斜をなす三層あり上層は八寸、中層は三尺、下層は八寸にて中層のみ稼行に堪ふ、其他縣城の東方數十支里の地にも炭坑あり。

○分宜縣　冷水井、鹿磯壁

○高安縣　阿嶺、天嶺、高郵市、庫下

○雩都縣　小佛嶺、陳家山

○興國縣　豐家灣

○瑞金縣　石炭嶺、黎壁塞

江西省に於ける炭山は西部湖南省界に近く大體に萍鄕縣と宜春縣の二つに分つを得べし此れらの炭山發見は已に光緒二十二年の頃にして其の當時より採炭に從事するものあり萍鄕炭田に就きては前記

の如くなるも後者宜春炭田に就て多少述べんに此れは贛江を右折して渝水を溯る事約三百支里の邊より炭層あり河水面を距る五十尺乃至三百尺の山腹或は山麓に露れ露天階段掘を行ひ器械的の裝置なきは他の支那固有の炭山の如し宜春縣城は南昌より西南五百六十支里の所にあり、其他宜春縣下には宜春縣の西北數十支里の地に數ヶ所の炭山あれど餘り發展せず、炭質は一般に悪しく特に粉炭多く硫黄に富み、我九州炭の中以下にあり開平炭と同等なんか。

○九江(德化)縣　馬祖山、(大城門の南、)雪山嶺（星子縣との界）

○彭澤縣　旱家灣、楡樹塢、桃子山、老虎洞、齋塢、茶塢、鴿子棚、崩山

○瑞昌縣　岩下聶家、龍興源、觀音洞、乾港、砂屋港、張家塘、岩下流、爪山、尋波嶺、万丈紅、楊樹港、小山柳、大尾袁、楊泉、墟塘、老鴉尖、傅家山

○樂平縣　藕塘、牛頭山、汪家山、缸[illegible]山、鳴山、衆家山、趕龍山、牛皮塢、左近、輝龍山、上碼頭、蝦兒坑

樂平炭田

藕塘は縣城の東南三支里の所にあり其の東西は小丘相連り砂岩頁岩露出す石炭は藕塘の畑中にあり東南東に傾く三枚あり背斜層をなすが如し上層は地下一丈にて一尺炭あり百五十尺にて二尺炭、二百五十尺にて八尺炭に當る上中二層は稼行に堪へず下層のみを採り毎年二萬噸を出す縣城の南約七十支里の地なる張家山、牛頭山は此の續ならん。

上碼頭炭田

縣城の西二十支里の所にある明山の麓上碼頭の西三支里の江髭及袖腦と稱せらる南北に走り西に傾く二炭層あり上層は六七尺、下層は三十尺なりと云ふ此の附近の主要炭層は粘板岩中にあり厚さ五尺より十五尺總炭量は約八千萬噸なりと云ふ此の炭坑は二十數年前稍盛に稼行せられたり、樂平炭田及び後述の餘干炭田は目下三井の手にて試掘中なり。

○餘干縣　呈山、三宮山、塢石山、馬鞍山、張家山、大小石里

呈山炭分析表　固定炭素 81.00%　揮發分 10.70%　灰分 8.29%

○鄱陽縣　炭元頂

○萬年縣　荷樹葉、藕塘、茅屋場、鬼嶺

○武寧縣　天尊山

第七節　明礬鑛

○鉛山縣

第八節　方解石鑛

○萍鄉縣　九洲

第五章　湖北省

湖北省は其の面積約十八萬五千平方粁にして省の周圍は山岳重疊し平地少けれど中央は所謂漢中平原にして長江及び漢水の流域にして附近に無數の沼湖横はる、省内にて鑛產地として最も有名なるは大冶縣、陽新縣（舊、興國縣）地方なり何れも楊子江沿岸に位して二縣相隣し、大冶縣には有名なる彼の大冶鐵山あり陽新縣には龍角山銀鑛其他の諸鑛山あり而して陽新縣下の地質狀態を見るに實に後記の湖南省第三區域湘江流域常寧縣下に於けるが如き感あり隨て諸鑛山も亦同樣の性質のものあるを見る卽ち石灰岩と花崗岩との接觸地方にして此の種の鑛床多く存在す、其他此の省下には南漳縣下の銅綠山、竹山縣の有名なる自然銅鑛（大塊は直徑二三尺に達するものあり）應城縣の石膏亦有名なり、炭坑の稍大なるものとしては大冶縣下の炭山灣あり楊子江の流に沿ひ無數の小炭坑（重に無煙炭にて粉炭のみ）あるも大なるものなし萍鄉炭坑は湖南或は湖北の如く考へらるゝも江西省に屬す。

金屬鑛

第一節　金　鑛

○蘄春縣　三角山（銅鑛をも產出す）

○襄陽府下　漢水沿岸（砂金）

其の發見の時代詳かならざるも士民は箕にて河砂より砂金を得ると云ふ。

○穀城縣　仙人渡（砂金）

○江陵縣　沙市

砂市の下流楊子江流域に砂金を產すと云ふ無論本流より來たるものにあらず嘗て明治四十二年の頃會社を組織し採集せんと企てし者あるも目下不明なり。

○咸豐縣　龍盤溪、大溪

其他黃安縣、黃岡縣、建始縣下に金山ありと云はる湖北省は銅、鐵、石炭に比して金鑛は少く殆どなし。

第二節　銀　鑛

○大冶縣　松秧坪

○陽新縣　龍角山、西黃姑山

龍角山銀鑛

位置及沿革　大冶縣の西南約六十支里の大冶縣と陽新縣との界にあり同山は南宋の時に已に開掘せられしものとの事にて山上に其の石碑尚存在す、其後石姓の一族の共有地となりしも常に鑛產に關し紛擾を惹起し土民間にも爭鬪絕えざるより民國元年湖北政府は鑛產整理の名の下に官有地に編入し其後英國鑛業團より千二百萬元を出して支那と共同經營せんと決したるも歐洲戰爭のため一時出資困

難となり中央鑛政局長楊廷棟は之れを取消し自國のみにて經營せんと欲すれど出資困難と英國は承認せざる可しと云はる。

鑛床 附近を構成せる地質は片麻岩にして此の内にある石英脈に銀鑛は胚胎す、鑛石は黄銅鑛、黄鐵鑛、方鉛鑛にして逓石として方解石、重晶石、柘榴石あり鑛床の露頭は八ヶ所に分たれ第一、泉寶洞は最も大にして巾三尺餘あり、方鉛鑛と黄銅鑛よりなり、第二、銀孔洞は重に柘榴石、第三、凡洞は上盤に方鉛鑛と風化したる石英あり下盤には閃亞鉛鑛と風化したる石英あり、其他第四、廿洞、第五、泉塘洞、第六、花藍山、第七、碑下、第八、白珠あり。

鑛種 從來は單に銀鑛として知られ含銀二%と稱せらるゝも支那一流の誇大言ならん未だ果して幾何なるや確かなる分析の結果を知らず。

○蒲圻縣　洪山

嘗て漢陽兵工廠總辦劉慶忠が實査の結果に依れば有望なりとの事にて地主王柄掌の同意を得て資本金三十萬元を集め大規模の採掘に著手せんと稱せり。

○蘄水縣　白石山、劉家山　何れも價値なし。

○蘄春縣　蓮花庵（鉛鑛參照）安平鄉

○咸豐縣　馬河堪、蓋坪

其他江夏縣、建始縣下に銀を産出すと云はる。

第三節　水銀鑛

○咸豐縣　永豐里界坪、南鄉白地坪、老銅廠

永豐里は淸朝の咸同年間に開鑛せられ隆盛を極めしが坑道破壞して停止し現に舊坑あり。

白地坪は縣城の南十五支里の所にあり同治七八年頃開採し一時多量の出鑛ありたりと云ふ目下休止す。

第四節　銅鑛

○大冶縣　百雉山、螃蟹殼、比隆山、石臼山、比隆頭、天臺山、南鄉、余得壽

天臺山銅鑛

位置　天臺山は大冶縣南方、金湖を渡り馬叶山舖を經て五十支里の處にあり、鑛床の存在するは朱家山と云ふ天臺山の南の山なれども天臺山は此の附近にて有名なる山なれば此の名を以て知らる、最初の開鑛は今より一千年前宋時代にして當時の製煉鑛滓山に堆積す。

地質　附近の山嶽、天臺山、張家山、除姓山、李姓山、米家山及朱家山は何れも大なる石灰岩よりなり走向東西にして北に五六十度の傾をなす王母山と稱する南方の山は此の石灰岩の下層なる砂岩よりなるが如し、石灰岩の東方には大なる花崗岩の露出あり。

鑛床　前記の花崗岩と石灰岩との接觸のため生ぜしものにして大體鑛層をなし時に大なる塊をなす、朱家山頂の大穴は三十間四方深さ四五十尺の開坑の跡にて宋時代の舊坑なりと云ふ、其他各所に

僅かづゝ石灰岩中に黄銅鑛、黄鐵鑛存在し炭酸銅の綠色の汚を石灰岩上に表す。鑛石は一般に貧鑛なるが如し。

南鄕及び餘得壽は段芝生なる者經營す。

○陽新縣　銅凹寺、滕頭山、若竹窖、大歴抱、百箭坎、堰下、長龍坳、龍潭河、右板、大凹、北尖坎、獅子岩、謝余山、白鵝嘴、大溝、全家窿、北山頭、松山嶺、鵝公、抱長、龔尾、豐樂里、蒐家山、白沙腦、村山洞、青連岩、狗頭山、父子山、李家山、洪家山、石人山、馬家山、花藍山、大全寶洞、銅綠山、侯家山、一九嶂、牛頭山、劉家山、許家山、歐陽山、白朱崖、周家山、韓家山、獅子腦、金龜山、封山洞、金鷄嶺

青連岩銅鑛

縣城を去る五十支里の地にあり目下土法にて開採す。

銅綠山銅鑛

明朝時代より知られたる銅山にて目下大共公司萬彬に依りて經營せらる。

侯家山銅鑛及一九嶂銅鑛

漢口水電公司總理宋偉臣の所有にして富池口内三十支里の地にあり。

牛頭山銅鑛

位置　牛頭山は後述する韓家山の南一支里、劉家山の東南十支里の處にある一大山脈の西端に位

する二個の獨立したる弧山なり數支里西には歐陽山あり太冶縣城よりは約六十支里を隔つ。

地質ト鑛床　牛頭山の東なる大山脈は石灰岩よりなる牛頭山は其の東北半は石灰岩、西南半は花崗岩よりなり接觸帶は垂直にて西北より東南に走る此の接觸岩は柘榴石なるも內に斑銅鑛、黃銅鑛、黃鐵鑛等を含む普通含銅2%なるも鑛物の集合する所は甚しく富鑛となる接觸岩の巾七八尺あり。

沿革　民國三年一月十六日始めて華利公司に依り開鑛せらる同公司は廣東人と上海人とよりなり極めて小資本にて到底大規模の設備をなす能はず。

劉家山及許家山銅鑛

位置　陽新縣城の西北約六十支里、大冶縣城へ尙六十支里、兩縣城の中間にあり父子山脈の西側なり、石家山、韓家山は此の東數里の處にあり、南々東十數里の所には前記の牛頭山あり、許家山は平地より百二三十尺、劉家山は七八十尺の高さにあり相去ること一丁程、鑛床の西南には劉家灣村あり、數年前より益成公司により經營せらる。

地質ト鑛床　此の附近の山は何れも石灰岩よりなり其の基部は花崗岩なり、而して接觸帶に鑛床あり、故に鑛床は山麓にあり重に接觸帶內のみなるも時に石灰岩中及び花崗岩中に鑛脈をなすことあり、鑛石の品位上等にして時に四十パーセント以上の銅を含み金十萬分の三を含むことあり。

斑銅鑛	銅	26.46	硅酸	8.06
黃銅鑛	銅	19.54		

沿革　益成公司數年前より採鑛し鑛石は事務所に貯鑛し數百噸に達す然れども此れを賣鑛せず公司は製煉所を設立せんと稱するも資本到底なかるべし、鑛石は前記の如き上鑛あれど多くは鐵分多き

赤鐵鑛の如きもの大部分を含む。

歐陽山銅鑛

位置　前記の劉家山の西南十數支里、牛頭山の西数支里の所にあり、此の附近の大なる村なる白沙舗は東数支里の所にあり、大冶縣は北々西五十支里の所にあり、陽新縣城は東南六十支里の所にあり、夏期增水の際は陸路四十支里にして嚴準頭に出で此處より水路百五十支里にて富池口に出づ。

地質及鑛床　前記の諸銅山と同じく石灰岩と花崗岩との接觸なり。

鑛石　主として斑銅鑛よりなり黃銅鑛、黃鐵鑛と赤鐵鑛を多く含む、銅の品位可成上等なり。

韓家山銅鑛

位置　陽新縣の北部陽新大冶二縣城の中間にあり楊子江岸偉源口より約四十支里の處にあり。附近には李家山、田家山、石家山あり何れも父子山脈の一部分なり。

地質及鑛床　前記諸鑛山と同樣石灰岩と花崗岩との接觸鑛床なり父子山脈の南側に列び位置は山麓にあり、花崗岩は低地のみなればなり、鑛石は主として塊狀をなして存在し多少は石灰岩中に脈をなす、鑛石は斑銅鑛、黃銅鑛、黃鐵鑛と多少の藍銅鑛を含む。

製煉及其他　數年前多少製煉を行ひたり、其の當時は最も上鑛を出し其の採掘せし舊坑は大なる穴として目下殘る約五萬元の銅を得たりと云ふ（第一革命當時）其後鑛石たへたれば中止す目下は接觸帶の柘榴石岩あり此の部分は約二%の銅を含む。

獅子腦銅鑛

位置及沿革　陽新縣城を距る七十支里東鄉興敎里にありて富池口より上陸し此の地に達するを最

も便とす、同山は民有地にして民國元年地方人に依りて開掘せられたるも約一萬圓を消費し得る所なく資本の關係上目下休山す、富池口よりは陸路十五支里なり。

鑛床　鑛床は金龜山、封山洞、金鷄山に分たれ地質は石灰角礫岩にて構成せらる、全山悉く岩石よりなり草木なく約四十餘丈を隔てゝ三ヶ所の露頭あり南北に延長し全通巾一丈餘あるも全部鑛石には非ず又、山麓の溝中にも一露頭あり、鑛床成生の原因は下部に花崗岩あり其の接觸のためならん。

○蘄水縣　白石山、劉家山（何れも價値なし）
○黃安縣　鹿苑庵、唾虢山、明家山、黃金塞
○鐘祥縣　銅鼓山
○京山縣　北鄉鐵路坑、王室山、希頭塢

前者は城より五十支里宣統元年より開き、後者は峻嶺多く人跡稀なる地方なるが朱鵬程なるもの希頭塢の東十二支里の地毛塢里なる所に銅山を發見したりと云ふ。

○遠安縣　毛坪場
○南漳縣　南鄉預城都荆山、銅綠山、東峯、形寨寧、北坡岺、爛泥湖、松樹溝、赤砂溝

荆山銅綠山銅鑛

沿革　荆山は其の昔卞和が璧を得しとか云ふ有名なる所、此の地の銅綠山銅鑛は民國元年荆華鑛務公司に依り試掘せられ十三ヶ所に探鑛を行ひ内四ヶ所は稍見るべき鑛石に當りたるも他は皆失敗に

歸したり其後引續き稼行せしも成績不良目下休止す、嘗て採掘せし上鑛は此處に土法製煉を行ひ精銅を得たり。

位置　漢口より楊子江を溯り約五十時間にて沙市に達す此處より陸路北へ三百支里の地にあり南漳縣城は銅山の北二百三十支里の處なり銅綠山は荊山中重なる鑛床なれど其他二道啞、三道啞、四道啞、五道啞、巡檢司に於ける劉家冲、北坡嶺、丁家溝、楊家口、松樹溝、鳳翔坪あり、銅綠山より二三十支里の内にあり。

地質及鑛床　附近の岩石は大部分赭色砂岩と石灰岩なり、石灰岩は比較的高さ山をなす、鑛床は前記の赭色砂岩の如き輝綠凝灰岩の内にあり北四十五度東の走向にして東南へ三四十度の傾をなす、厚さ大なるは約七八尺薄きは二三尺の部分は酸化の程度低くして岩石は綠色(鐵の色)を呈し此の層中時に含銅の部分あり黃鐵鑛に隨伴す銅の多き部分は可成あれど全體を平均すれば僅かなるものなり。

坑道其他　今日迄約三萬元を投じ坑道十三個所にあり甲乙丙丁は重なるもの長さも百尺餘、鑛層に沿ふて下る、鑛石の他に搬出するは道路不完全なれば到底不可能なり、河水の便あるも不充分なり、河は沙市に出づ、沮水あり。荊華公司は漢陽に事務所を有し日本留學生、羅至和、馮啓夫、陶丹書、傳王偕に依つて經營せらる。

○竹山縣　廟兒溝、石城關、三光山、陳家坡、四柯樹、煤堰溝口、阿公裝、生石溝、紅岩寨、秦家坪、鄧家台、白羊亞鑛、大鐵山鑛、豐台溝

紅岩寨銅鑛

武昌の張子陵經營す。

秦家坪及鄧家台銅鑛

此等は有名なる自然銅鑛產地にして他に窩子白羊、豐石溝あり漢口の紳商宋偉臣、李克果が民國元年八月に五豐銅鑛有限公司を建て日本人工學士上原和吉氏を招聘し同氏に依つて經營せらる、縣城を去る事百四十支里、光緒三十三年の開鑛にして鑛石は平均五割より七割の含銅あり。

○房　縣　西鄉、盤水河、盪水河

○興山縣　石槽河

石槽河銅鑛

位置及沿革　興山縣當陽河の石槽河にあり縣城を去る百六十餘支里高峰峻岳を以て繞らし道路極めて險惡にして交通頗る不便なり、同地は鑛業主吳毓棻の所有に係り前清光緒二十五年江西人、堯勸と合同にて開鑛せんと企圖し外國人技師を招聘し實地の調査をなしたる結果鑛質良好なるも交通不便なると資金の調達困難なるため未だ實行に至らず其儘放棄しあり。

鑛床　地質は黑色の石灰岩よりなり扁豆狀の鑛脈が石灰岩中に存在す。

○巴東縣　二龍坪、落葉壩

○五峯縣　六里溪、周家灣

周家灣銅鑛

位置及沿革　灣潭堡にあり縣城を西南に距る九十支里餘、周家灣附近なり、同山は民地にして王氏の所有に係る鑛脈は斷續的なれば鷄窠と名く又、同山の南面を白窠灣と稱し銅鑛ありと云ふ今より四十年前の淸の一官吏金某が採掘し火災にかゝり中止したり坑內は出水甚しと云ふ、近く劉某、六里溪と共に再開計畫中なり。

鑛床　石灰岩の地質にして鑛石は此の內に斷續的にあり土人は鷄窠鑛と稱す鑛質良好なるも其の量多からず、又鑛地は漁洋關へ陸路二百二十支里道路險惡にして人跡稀に交通運搬頗る不便の地なり。

○利川縣　金子山、米陽溪、除家樑子鑛

○恩施縣　紅壁山、二台坪、石灌水、公來坦、沙子嶺、東鄉河溝、長沙河、小水田後山、苦塞小鑛、銅鑛坡

紅壁山は淸朝同治十年、二臺坪は光緒七年、石灌水は光緒三十年、銅鑛坡は同治元年、公來坦は同治八年の發見なれども何れも未だ開鑛せられず。

砂子嶺銅鑛

位置及沿革　同鑛は恩施縣崇恩鄉沙子嶺附近にして縣城を東南に去る約七十支里の地にあり宣昌より坦路三十餘支里にて達すべく交通頗る便利の地に在り、光緒三十年土地所有者向英なるものゝ資金を集め開鑛せんと企て試掘に從事せしが間もなく停止し其後地方の紳士再開せんとせしも舊坑の破壞甚しく容易に手を下す能はずために其の儘となれり。

鑛床　此の附近の地質は多く石灰岩よりなり鑛脈は塊をなして其の內に介在す鑛脈豐富なりと云ふも精査する能はず。

○建始縣　黃梅檀、烏龍潭、觀龍潭、李家灣、岩下崖、大坪、東鄕土玉河、北鄕蠅觀鑛、馬鹿山、土魚河、大常、石板橋、安墻、銅廠坡

銅廠坡銅鑛

位置及沿革　建始縣の北鄕にあり縣城より北へ十五支里四川省奉節縣藏溪より約百七十支里の地にあり道路は辛ふじて騾馬を通ず、同山は民有地にして明末より淸朝の初めに開鑛せられ深さ數十尺の舊坑あり其の產銅は附近の佛像鑄造に用ひられ近くは粗銅として僅か出されしが如し、同銅山に面せる馬鹿山は同鑛業主の何全甫が嘗て採掘せしも思はしからず其の後建始の知縣再興せんとせしも其の儘になりをれり。

鑛床　地質は黑色石灰岩中に鑛塊として存在す鑛質佳なるも其量多からず。

○咸豐縣　中堡鑛、北鄕老泥壩、大毛坡、銅廠坪、恭字區、永豐里、大茅坡、板插溪羊蹄蓋、哀家溝、恭字區、永豐里

大茅坡は城より六十支里光緒三十一年蔡氏に依て開鑛せらる。

哀家溝銅鑛

位置及沿革　南鄕袁家溝附近にして縣城の南四十五支里の地にあり附近は山岳を繞らし道路崎嶇

として交通最も不便なり、同鑛は現鑛業人袁某の最近の發見に係り近く資金を集め開鑛せんとす咸豐縣下の主なる銅鑛なり。

鑛床　地質は黑色石灰岩なり內に鑛塊は扁豆狀をなして存在し稍有望なりと云ふ。

○宣恩縣　東鄕家鑛、易家嶺、人頭山、大散坪、簝葉村、金魚塘、銅廠溪、銅板雲鑛、南鄕大山坪、冷潮溝、忠興、覇莆家柳

大散坪は、附近山地にして交通不便の地なり、嘗て明末の頃開採せられしが中止し其後光緒五年官山として開かれたり、今日は如何なる關係なるや詳かならず。

簝葉村銅鑛

位置及沿革　忠峒里にあり縣城の東南百四十支里、鑛區は四圍高山峻峰聳え交通極めて不便なり、土地は民有地にして葉某の地、民國二年冬葉、彭、等合資にて土法を以て採掘をなし數百斤の鑛石を得たるも農業多忙のため中止せりと云ふ。

鑛床　地質は石灰岩にして鑛脈は巾二三尺走向北二十度東、東へ十度の傾をなす鑛脈貧弱鑛質亦不可なれば到底大規模の起業の値なし。

○鶴峰縣　後溪坪堡、九臺山、唐家坡、鴻鈞洞

九臺山銅鑛

位置及沿革　澪源公司沈愼庵、李鴻斌の經營する處にして近來大に事業進捗を缺きたるも嘗て光

緒の中頃は隆盛を極め土匪に擾亂せられたることあり、目下資金缺乏し佛國銀行より借欵せんとす、同鑛區は官民兩有地に跨り古來より有名なり光緒二十二年頃鑛石約三萬斤粗銅五千斤を得たるも同粗銅は貨幣を鑄造する能はざる粗惡のものなりしと云ふ、同二十七年休山し民國元年再開せしも二三ヶ月にて中止し目下廢鑛の姿となる。

鑛床及鑛質　地質は石灰岩よりなり鑛床は扁豆狀をなし、舊坑數個あり今日迄得たる鑛石中鉛、亞鉛等を出したるも銅に重きを置き此れらを放棄して顧みざりしなり。

交通　山骨崎嶇、道路險惡にして交通頗る不便なり、鑛石を近道により輸出するには陸路、石門の泥沙地へ約六十餘支里あり之れ亦道路不完全なり。

唐家坡銅鑛

位置及沿革　鶴峯縣下下陽河堡出水洞に位置し縣城を去る東南へ百二十支里の地にあり同地は民有地にして民國元年の發見に係り地主周綾卿の子周華國鑛業を企圖し實業司の開鑛採掘を出願せるも資金不足のため未だ開鑛の運に至らず。

鑛床　地質は石灰岩にして所々に露頭あるも微量にして直に鑛量鑛脈の旺衰を測定し難し、鑛脈は重に扁豆狀をなして石灰岩中にあるが如し。

交通　江坪河を去る陸路二十餘支里にあり江坪河より小舟により湖南省慈利及福州に出づるを至便とす、鶴峯縣下中重なる銅鑛なり。

鴻鈞洞銅鑛

位置及沿革　大典河堡靑雲洞にあり、同縣城を去る東南へ二百十五支里の地に位す、鑛石は石門

の泥沙地へ六十支里陸路搬出せざる可からざる不便の地なり、同山は前記の九臺山の一部にして青雲洞　間約十支里碭鈞洞と九臺山の間約五支里にあり、同地は前清光緒の始金某により開鑛せられ鑛脈貧弱なるため遂に停止し、後民國二年周綬卿等の發起にて唐家坡と共に再興せしものなり資本金不足のため未だ開鑛せず、鑛床は九臺山と同一のものなり。

○施南府下

各地に古來より銅産地として知らるゝものあり何れも、鑛石は黄銅鑛にして露頭には藍銅鑛孔雀石あり稍見込あるものあれど土地不便にして採掘するも運搬不可能なり。

其他銅産地として漢口に近き江夏縣、武昌縣、知らる、何處よりなるか詳かならず。

第五節　鐵鑛

○武昌(江夏)縣　富貴山

大冶鐵山を去る百二十哩の地にあり鑛質可良にして大冶に比すべく山主は紀柯王と稱する者なり。

○鄂城(武昌)縣　縣城外、廣山、馬鞍山、銀山頭（大冶鐵山參照）

武昌鐵鑛

位置　武昌縣或は鄂城縣は黄州の南岸にあり漢口より四十六哩に位す、鐵山は縣城外の西山及び約十丁を隔てたる雷山にして西山は長江に臨む。

地質ト鑛床　頁岩の薄層を夾む硅岩なり、上部には石灰岩あり長江岸に露る、走向北五十度西、

東北へ四十度の傾をなす、鑛床は西山は水面上數十尺の丘陵に西々北より東々南に延び二千五百尺に達す巾百數十尺あり、雷山は別に離れて存在し北部山脈に東西に千尺巾三百尺のものあり、鑛石は西山は含鐵約四十五％雷山は五十％内外なり。

○大冶縣　衆鼻山、老鼠山、嚴鮑地、尖兒山、尖山脚、余家山、獅子山、野鷄坪、龍洞、紗帽翅、大冶廟、鐵門鑛

大冶鐵鑛

位置　上海より楊子江を溯ること五百三十哩漢口市の下流八十哩九江の上流七十哩の所にある石灰窰（石堡）は鐵山の輸出港にして山は此處を去る約十八哩の處にあり二百平方哩の鑛區を有す、石灰窰の上三哩の所には楊子江を上下する日清汽船の寄港地黄石港あり。

沿革　大冶鐵山が今日の如く世人に知らるゝに至りたるは今より三十數年前の頃時の湖廣總督張之洞氏武昌にありて古來の歷史に鑑み、大冶縣には必ず鐵山存在すべきを豫想し、獨逸人技師を派遣して調査せしめたるに現今の鐵門鑛に於て多量の鑛滓あるを發見し續いて附近に鑛床を見出したり、然るに獨人は是れを張之洞に秘し直に獨逸本國に打電して北京政府に對し直接鑛山採掘、鐵道布設、等の權利を得んと企てたり、今日ある鑛滓は往昔附近の山より採伐せる樹木を燃料として製煉したるものにして我國山陰道に於ける古來の鐵製煉の如きものなるも其の量多く且つ熱度も高きものなりしが如し、又附近の地下二三尺の所には煉瓦、屋根瓦、古錢、古器物埋沒せられ此れらは唐時代のものの如く唐は西暦六百十八年より九百六年に至る支那隆盛の時代なり、然れども其の盛況は一に燃料の

缺乏に依り樹木濫伐のため遂に其の跡を絶つに至れり、爾來一千有餘年全く顧みられずにありしなり。

鑛滓の分析結果は

鐵 32%　　硅酸 68%　　礬土 5.%　　燐 1.4%

地質及鑛床　大冶鐵山地方は一帶に湖沼多く、而して其の內に高さ三四百米突の丘陵起伏す、地質は支那古生層の石灰岩のみにして所々に閃綠岩あり、石灰岩の走向は東西にして鐵山附近を軸とせる背斜層の如し、鑛床は石灰岩と閃綠岩との間に扁豆狀をなして存在し其の露頭は揚子江に直角に山脈に沿ひ約十數ヶ所十數哩に亙る、下陸山、康山、雌雄獅子山、象別山、龍洞砂帽翅山、鐵門鑛、陣家山、金山店にして近く石灰窰を去る五哩の李家坊、及び鐵門鑛の西北約十哩の銀山頭に露頭を發見せり、而して此等の各鐵山と併立せる山岳は皆石灰岩にして時に苦灰石あり、又鐵門鑛の附近には滿俺鑛を產出す目下最も盛に稼行せらるゝは雌雄獅子山及び鐵門鑛なり前者は最良鑛石を出し我國　後者は支那漢陽製鐵所に送る、鑛床の厚さは時に百五十尺以上なるも平均八十尺とす而して其の全鑛量の如きも日本人技師は七千萬噸獨逸人技師は一億噸と云ひ詳細を悉し難し。

獨逸技師がなしたる平地以上の豫算に

鐵門鑛	9.840.000 噸	
砂帽翅	24.680.000 〃	
雌雄獅子山	57.000.000 〃	
其他	28.000.000 〃	
約	120.000.000 噸	と稱す

鑛石は磁鐵鑛にて赤鐵鑛、褐鐵鑛を含む分析の結果は

八幡製鐵所にて　　鐵 65.80%　硅酸 4.07%　礬土 1.15%　石灰 0.29%　苦土 0.66%

漢陽製鐵所にて　　~~Fe.　SiO_2　Al_2O_3　Ca　Mg~~

鐵 65.00%	硅酸 3.00%	マンガン 0.12
硫黄 痕跡	燐 0.04%	銅 0.18

近時雌雄獅子山の一部分に孔雀石、藍銅鑛及黃鐵鑛(含銅)を多量に含む鑛石を產出し含銅最低二%より多きは十%に達するもの目下山元に一千噸餘あり、次に石灰岩と苦灰石は鐵山の手前約二哩の鐵道の南方丘陵より石灰石を採掘す色は灰色にして一年間に數萬噸を出すと云ふ分析の結果

不溶解物	酸化鐵及礬土	石灰	苦土	炭酸
3.83%	0.76%	53.10%	1.17%	45.50%

苦灰石は石灰窑を去る四哩の李家坊の丘陵三百米突の所にあり灰褐色にして一年の產額約一萬噸なり分析の結果

不溶解物	有機物	酸化鐵及礬土	石灰	苦土	炭酸
3.83%	0.65%	1.08%	34.60%	16.83%	43.60%

次に鐵鑛として大冶附近に在るものは

銀山頭は大冶の上流約十五哩の一漁村黃地口より陸路三哩の地にある一小山なり鑛石は其の露頭より採集したるものは雲母鐵鑛にして分析の結果は

鐵 63.5%　燐硫黃銅　各　痕跡

鷄籠山は大冶の下流約三十八哩の右岸なる陽新縣にあり九江の上十哩武穴の對岸なり、鑛石は赤鐵鑛にして分析の結果

鐵 63.8　燐 0.02　硫黃 0.02　銅 0.03

其他大道と云ふ一小港の河岸より一哩半の地に鋼間山と云ふ鐵山ありて楊子江減水期と雖も尚大船を通じ得べく英國某會社は採掘權を有すとか云ふ鑛量二百萬噸鑛石分析の結果

鐵 67.99　燐 0.22　硫黃 0.010　銅 0.401

採鑛方法及運搬　大冶鐵山中現今正式に採掘するは鐵門鑛、砂帽翅及び獅子山なり楊子江岸石灰窑より鐵門鑛及砂帽翅に至る約二十哩の廣軌鐵道あり、外に得道灣より右に分れて一線は獅子山に入る。

鐵門鑛は現今採掘するは山腹にして人力を以て單に鑛石の山を削り落すに過ぎず時として鑛石堅牢なる部分には少し許りの黑色火薬を使用するのみ鑛石を下方に運搬するには自働インクラインを用ふ支那人苦力(重に農夫)を用ゐ一日十六仙の賃銀にて一噸半の鑛石を採掘す雨天には全く作業を休む。

鐵門鑛々石分析結果

鐵 66.00　燐 0.123　硫黃 0.107　銅 0.68

是れは我が八幡製鐵所購入一等品に合格せざるを以て我が國に送る鐵鑛石は獅子山より採る、砂帽

翅は鐵門鑛の西北に連り其の高さ約六百尺あり鐵門鑛と同樣の採鑛運搬の方法をなす。

砂帽翅鑛石分析の結果

鐵 63.00　燐 0.079　硫黄 0.114　銅 0.81

是れ亦我製鐵所の一等品に合格せず。

獅子山は得道灣より北に入り約一哩半の處に屹立せる二個の大鐵山にして西を雄獅子山、東を雌獅子山と稱す雄獅子山は鐵路上約五百三十尺の高さに東南に面し巾二百尺程の間鑛石の大絶壁をなす雌獅子山は雄獅子と谷を隔て同じく鑛石の絶壁をなす、此等二山は元同一の連續せしものゝ如し。

鑛石分析

鐵 63.22%　燐 0.044%　硫黄 0.027%　銅 0.211%

本邦に輸送するは此の鑛石なり、此等の外、白楊林と云ふ所に露頭あり。

分析の結果

鐵 45.54%　燐 0.024%　硫黄 0.062%　銅 0.036%

我カ國へ鐵鑛運搬、價格運賃及數量　我が製鐵所が初めて大冶鐵鑛購入に關し盛宣懷氏と契約せしは明治三十二年四月にして翌年七月、我が汽船飽浦丸は千六百噸の鑛石を積み大冶を發したるを第一回運鑛とす、我が國旗の大冶河岸に翻るを見て一驚を喫したる獨逸は同等の權利を得んと欲し鑛石購入を要求せしも賣却の餘地なしと拒絶せられ然らば鑛滓を一噸六弗五十仙にて購入せんと申込みたるも遂に目的を遂せざりしと、我が製鐵所は其後三十七年五月に更に多く鑛石を送る事となし、又今年より約三十萬噸の鐵鑛を輸送することとなり、我國產鐵材の大部分は此の大冶鐵鑛より得らる

るものなり、而して其の價格は第一回契約に際して最良なるもの一噸に付銀二弗四十仙、第二等鑛洋銀二弗二十仙なりしが、第二回契約にて一等鑛一噸に付洋銀三弗、後更に改め一等鑛一噸金三圓、二等鑛二圓二十錢となし今日に至れり、鑛石運搬賃は明治三十五年より向ふ十ケ年間之れを三菱合資會社にて請負、大冶より八幡迄一噸金四圓二十錢餘なりしが後二回之れが低減をなし、金三圓八十錢とせり然るに明治四十三年春に至り政府は更に向ふ十ケ年間一噸僅か金二圓八十錢にて三菱と契約したり故に目下一等鑛（63% 以上のもの）一噸我が八幡製鐵所熔鑛爐に入る迄には

大冶渡し一噸	3.00	圓
輸出稅	0.15	
運賃	2.80	
所內運賃	0.20	
	6.15	圓

の經費を要す。

明治三十三年以降四十三年に至る間大冶より本邦に輸出せる鑛量は

33 年	15.476 噸
34 〃	70.189 〃
35 〃	48.169
36 〃	51.268 〃
37 〃	38.108 〃
38 〃	92.892 〃
39 〃	105.800 〃

40年	103.800 噸
41 〃	131.350 〃
42 〃	37.600 〃
43 〃	106.060 〃

大正年間は毎年二十萬噸餘を我が八幡製鐵所へ約五萬噸を室蘭製鐵所へ送りたり。

支那ノ製鐵事業　西暦千八百九十年獨逸人技師に依りて大冶鐵山發見せられし翌年總督張之洞は資本銀六百五十萬兩を以て漢陽に製鐵所を建て白耳義人其の設計に當り大冶鐵山は專ら獨逸人の手にて經營せられ居たり然るに不幸にして白耳義人の工事失敗するに及び三年後は製鐵所も亦獨逸人の手に歸せり、我が八幡製鐵所創業に際し雇ひ入れたる獨逸技師も漢陽に居たる一人なり、然れども此等の獨人は專横甚しく、張之洞は再び白耳義人をして之れに代らしめたり、日清戰爭後張之洞は製鐵業の維持に苦み、六百萬兩を以て盛宣懷に讓れり、鐵道汽船、郵便電信に關する半官半民事業を、經營に當れる盛氏は鋭意經營し、外に江西省の萍鄕炭坑を併合して漢冶萍鐵鑛公司を建て、資本金二千萬兩となれり、自ら其の總理となり居たり、次に本邦政府も日清戰爭後製鐵所設立の必要を感じ、明治三十年遂に筑前八幡に其の工を起すに至れり、然るに本邦には鐵鑛由來豐富にあらず、時の製鐵所長官和田氏は大冶鐵鑛を本邦に輸入するの有利なるを觀て、本邦產骸炭と交換する條約を訂結したり、之れ實に明治三十二年四月七日なり、三十六年に至り再び盛宣懷に對し大冶鐵山借款の件を提議し、三十七年一月北京に於て條約を結び、金三百萬圓を貸與し、向ふ三十ヶ年間鐵鑛購入の約を結びたり、之れ日露戰爭前僅に二旬なり、爾來大冶に於ける日獨の勢力は其の位置を轉倒し、一時九名も居

たる獨逸人技師は今日全く此の地を去り日本人を以て代りたり。近く漢冶萍公司は我が政府と借款し、大冶の下二哩の地に製鐵所を建て、四百噸爐二基を建て、銑鐵として我が國に輸出せんとす、目下一年約五萬噸の銑鐵は我が國に輸入せられ、其の購買契約一噸金二十六圓なりと云ふ。

○陽新縣　鷄籠山

鷄籠山磁鐵鑛

位置　縣城を去る四十支里餘、東鄕興教里龍口源及小岑山と相對す、同山は夾節湖に臨み、富池口より數支里、武穴と相對す水路は便なるも陸路は廻り路なり、同山は民有地にして宣統二年初めて開かれ、民國元年漢冶萍公司に三千元を以て買收せられたりと云ふも確ならず。

鑛床　附近を構成する岩石は石灰岩と閃綠岩なり接觸鑛床にて鑛石は磁鐵鑛なり約六十％の鐵を含む。

○蒲圻縣　大同鄕

同地一帶は地勢高峻なれども鐵鑛を產すとて地方紳士集り明治四十三年頃試掘したり其後如何なる狀態なるや不明なり。

○黃岡縣　樊山

○蘄春縣　大伏冲

○京山縣　黃岺、東鄕滴水寺

滴水寺は咸豐初年より開かる。

○南漳縣　南郷
○棗陽縣　大山坡、七尖峰
○鄖　縣　洞靑溝
○松滋縣　七里琉、龔家埗

七里琉褐鐵鑛

位置　峻極鄕七里琉にあり、縣城の西南百四十四支里の處なり、附近は高峯峻山のみ交通不便なり、民山にして光緒初年李某か開きしもの毎年八十噸餘の鑛石を出し製煉して二十餘噸の鐵を得ると云ふ農具を作るに用ゆ、燃料は木炭なり、資本銀は五百元にて足ると云ふ。

鑛床　石灰岩中にあり巾約七尺、東西に走り北へ五十度の傾をなす。

龔家埗褐鐵鑛

前記鐵山の隣鑛區なり鑛業人李某光緒初年に開く毎年十餘噸の銑鐵を産出すと云ふ鑛床前と同じ。

○長陽縣　東郷
○咸豐縣　楊崗、張家坪、馬阿埧
○恩施縣　應山、苦漕洞、古院子、裴蓬

○建始縣
黃鐵鑛より硫黃を採るもの多し。
○鶴峰縣　鑛蘭灣

第六節　鉛鑛

○陽新縣　北部、董家山、封三洞、韃岩
○大冶縣　陳家山、龍角山、（銀鑛參照）、
○黃安縣　獅子山、徐自新
○蘄春縣　蓮花庵
位置　漢口の下流百哩、上海より上流五百哩の楊子江岸に蘄州と云ふ所あり、鉛山は此の東々北百支里蓮花庵町の東数支里の高家山と稱する所にあり、鑛山發見の時代は明かならざれど、開坑せしは協昌公司が宣統三年に初めしなり。
地質及鑛床　附近は結晶片岩、片麻岩よりなり、鑛床は片麻岩中石英脈に伴はる、塊狀或は脈狀をなし大さ五六寸のものなり、舊坑三四ヶ所あり、何れも方鉛鑛を出したりと云ふ。
○遠安縣　三寶山

○興山縣　物樹坑、吳家嘴、草鞋掌、黃家院、課坪、葯家坪、蝦嘆岑、磨坪庵、鉛鉅坡、鉛銅溝、高岩根、月亮濤
○思施縣　車坪垻
○建始縣　黑石溝
○咸豐縣　散馬河、二仙岩
○鶴峰縣　田家河、姜家灣、平鼎灣、岳覃子山、王家亞嚴家亞、苑長樹

第七節　錫鑛

○通城縣
○穀城縣　觀音溝
○竹山縣　（砂錫）
○房　縣　（砂錫）

第八節　亞鉛鑛

○咸豐縣　信子區、大和里河垻

城より三十支里、毎斤十六仙に賣ると云ふ。

○宜恩縣　高羅里、尖山坪（縣城を去る百支里）

第九節　銻　鑛

○蒲圻縣　竹箕坡、饒家中（竹箕坡有名なるも未だ旺盛ならず）。

竹箕坡は豐裕公司李克果の經營。

○宜昌縣　五龍山

○鶴峯縣　靑峯光、趙家灣、張家灣、柑子灣、卯坪臺、紅坪河、大典河

趙家灣は古くより知られ漢口の張詠公司經營す、柑子園は此の地にて製煉するものあり。

第十節　錳　鑛

○大冶縣　方家山薯草林、白楊林、陳家灣

○陽新縣　銀山、董家山

銀山錳鑛

銀山は故張之洞總督時代に政府の許可を得て漢陽鐵政局の有に歸し開掘せんとせしも附近の土民一種獷猛頑暝にして自邑の山を他外人の來りて開くを許さず群集聚合して之れに抵抗せしかば十數年間

着手するを得ず漸く數年前に開鑛せり然れども種々事情の下に再び中止し近く亦開かんとす、英商等も此の權を得んと運動しつゝあり隣區には董家山錳鑛あり董氏の私有なり。

非金屬鑛

第一節　瑪瑙鑛

○宜昌縣　洪溪山、瑪瑙河

瑪瑙河は砂礫の內にあり秋期減水期に採集す小なるものにて毎斤八百文。

第二節　水晶鑛

○大冶縣　大鷄山

大冶縣城の南十支里大鷄山は花崗岩よりなり內に鬼御影の岩脈あり黃鐵鑛を出すと共に大なる水晶の結晶あり。

○陽新縣　潘家山

○京山縣　王家高坡、馮家岺

第三節　陶土鑛

○陽新縣　北門外獅子腦下

○南漳縣　羊角山、金口箐岺

品質江西省景德鎭陶土に對抗すと稱す馮某の磁業公司に依り經營せらる。

第四節　石綿鑛

○武昌縣　南鄉豹子海對岸ノ黃家山

○黃安縣　獅子山

獅子山石綿鑛

位置　漢口の西々北三十五支里京漢線橫店驛の東北百三十支里の黃安縣城の南十五支里の所にあり獅子山と稱する山にして交通甚だ不便の地なり。

地質ト鑛床　地質は石墨片岩、綠泥片岩、絹雲母片岩等よりなり走向北五十度西にして西南に二十度傾く、岩石甚しく、分解す、綠泥片岩と絹雲母片岩との間に巾一寸に足らざる長三尺程の石綿脈あり。

○蘄水縣　城北何家岩

○鄖陽縣　東鄉葉家砦

第五節　硫黃鑛

○南漳縣　苘字堰

○長陽縣　各鄉

○恩施縣　老屋基、江椿垻

前者は同治元年、後者は光緒元年に開かれたり。

○建始縣　西鄉獅子岩、九股山

每年縣下より約四百噸を產出すと云ふ。

○咸豐縣　下寨醎、香樹槽

前者は縣城を去る三十支里光緒二十八年に開く。

第六節　石墨鑛

○京山縣　西鄉耀子坑

第七節　石炭鑛

○武昌(江夏)縣　馬鞍山、龍石山、大擔山、楊家山

馬鞍山炭坑

光緒十七年に開かれ地表より三四十尺にして三尺の炭層に當れり光緒二十二年盛宣懷氏の有に歸し多少機械の設備をなし坑道七百尺に達し九枚の炭層を發見して、毎年約四萬噸の出炭あり漢陽鐵廠其他各所に用ひられたり然るに炭量漸次減じ宣統三年には遂に廢坑となれり。

龍石山炭坑

陽新、大冶、武昌三縣の界なる小鐘山附近にあり。

楊家山炭坑

武昌府の南二十支里の所にあり梁子湖と黄塘湖の間にして今より二十年前の發見なり、現に一日十六噸の出炭あり、場所は一帶に平野にして小丘陵あり地質は礫岩、砂岩、及び頁岩あり砂岩中に存在す、二層にして上層は二尺乃至四尺下層は不明なり、其の豫定炭量二百五十萬噸と稱せらる走向に沿ひ三支里の間は知らる、炭質は有煙炭にして分析の結果

固定炭素 66.47%　揮發分 13.55%　灰分 18.61%　硫黄 3.81%

前記馬鞍山炭坑は此の東にあり同一の炭坑ならん馬鞍山の嘗て出炭最も多き時は一日一百噸を出したり。

○鄂城(武昌)縣　王三石、大王山

何れも有煙炭にして萍鄉炭坑開坑以前に盛宣懷の開掘せしもの年產五萬噸硫黄多かりしと云ふ。

○大冶縣　金盆地、桐梓包、屋後山、鷄山窩、棗子園。石家山藏家嘴、猪頭山、四顧

山、四邑山、色茅當、康中、馬頭、鳳凰山、藕塘、五福窿、飛鵝頭、飛鵝尾、華興窿、中山腦、株樹下、白峯光、明炭灣、道士洑、李家衝、陳本石橋、童子腦、仙雞山、牛角山、杉樹岩、走馬山、石炭洞、陳新山、冲天峰、陰山溝、紗帽山、李家灣、土地廟山、苗子肚、中窑灣、徐漬窿壋、楓樹灣、聖洋港、水介包、堵城磯、貓兒機、竹林頭、太平庵、桂甚坪、陳家灣、白楊窩、桐子園、吳家山、寶岩山、河家山、四把刀、金角山、明家山、臺蓮山、雨壇腦、季石敦、下窩、楊家山、段家窩、舖兒腦、五手炭山、炭山灣、高椅山、株樹櫪、青山灣、新山、馬鞍山

季石敦、下窩、楊家窩は不良有煙炭にて炭層薄く大規模の採炭法をなす慣なきこと知らる。

段家山、舖兒腦は黃石港の近くにあり丁梅亭の經營、五手炭山は宋偉臣、李克果の經營。

炭山灣炭坑

諱源口より陸路十五支里金湖岸にあり故に夏期增水期には水多しと云はる、清朝時代より株式會社に經營せられ民國となり、二年間に約二十萬元の支出をなし經營せられ、其後佛蘭西商人亨達利洋行の資金百萬兩にて採炭しつゝあり現今は湖北漁業公司之れを買收し自ら經營しつゝあり、聞く處によれば目下一日三百噸內外の出炭あり無煙炭にして重に漢口にて販賣せらる、此の炭坑は開坑後既に十五年を經たり、地質は硅岩粘板岩よりなり、東西に走り南へ二十度の傾をなす、二炭層あり目下採炭せらるゝは三尺より十尺なり豫定炭量七百萬噸と稱せらる、分析の結果は

水分 1.41%　揮發分 9.21%　固定炭素 81.18%　灰分 7.52%　硫黄 0.68%,
固定炭素 77.94%　揮發分 10.20%　灰分 10.11%　硫黄 3.42%

高椅山炭坑

位置及沿革　大冶鐵道の下陸驛の南々東約十數丁の所にあり、中途に三百尺餘の峠あり興利煤鑛公司の經營にて民國二年より開かる。

炭層　大なる石灰岩と砂岩との間にあり走向東西、南に五六十度の傾をなす、附近には毛窩、煤炭山、牛角山、飛鵝地の諸舊坑あり炭層は二三尺のものならん。

株樹壢炭坑

大冶鐵門鑛（俗に鐵山）の西南なる十八支里の所にあり、保安鑛の東北十支里なり、興利公司の所有にて民國元年に開く。

地質及炭層　附近の地質は砂岩にして炭層は高さ百尺餘の山腹にあり走向北二十度東、西へ三十度の傾きをなし厚きは八尺餘薄きは三尺平均六尺なり無煙炭にして粉炭となり易し俗に柴煤と稱す。

青山灣炭坑

大冶の東北、黄石港の南より西に連る丘陵の東端にあり西へ新山を經て馬鞍山に至る此の丘陵は砂岩頁岩よりなり三炭層を夾有し北々東へ二十度の傾をなす一尺より二尺五寸の間なり、豫定炭量百五十萬噸と稱す、黄石港の北々西華家湖にも炭層あり、西南に傾き厚さ四尺と云ふも實際は一尺内外なり。

○陽新縣　石家山、大腦山、豐義里、宋家山、栗子山、鉢盂山、梭子山、石銀山、羅漢山、富家山、牛角壠

石家山は劉世明經營す、石銀山は江西省界に接し炭質良好炭量豐富なりと稱せらる、程、金二氏の所有なり、武富公司なるもの建てられ採炭せんとす。

羅漢山炭坑

位置　偉源口の東南三支里の所にあり、偉源口は石灰窖の下四十支里故に漢口より七十哩餘なり。

地質ト炭層　附近は石灰岩と砂岩とあり兩岩の接する部分に炭層あり東西に走り東は羅漢山より西は偉山に達す中間は平地なり厚さ三尺を出でず傾斜は北へ七八十度の急斜をなす此の東六十五支里の牛角山にも炭を出す。

牛角壠炭坑

蘄州の對岸にあり主として硅岩にして粘板岩、砂岩を夾む炭層の厚さ四尺より八尺ありて二ケ所にて稼行せらる。

○嘉魚縣　北鄉、牛首山、大厓山

嘉魚煤鑛公司任少鄉の經營。

○蒲圻縣　土橋團、倒坡山、西良山、九子山

湖南省に接近し殊にインマチイエ炭坑は最も有望なりと云ふ、採炭準備は革命前に成り支那土法にて採炭し近く外人技師を雇ひ入れたり炭層は已に二竪坑により二百五十尺にて九尺層に當り、一ケ月

間に二千噸を出せりと云ふ炭質無煙炭にて分析の結果

固定炭素 78.81% 揮發分 14.85% 硫黄 1.7% 灰分 5.29% 水分 0.85% 發熱量 15.000%

唯、坑内水多く大に困難せしがポンプ設置のため排除するを得たり、石炭は同坑を去る二十五支里の蒲圻市に苦力の肩にて送り此處より船にて各地に至る。

○崇陽縣　雲峰山

○黄陂縣　黄草山、烏石山

孝感縣との堺に近し。

○蘄春縣　麒麟山、元坡山、羅漢山、芝麻山、側山、獨山、大全寺

○廣濟縣　鷄鷹岩、烈馬山、大坳、田家鎮、盤塘山

鷄鷹岩、烈馬山は武穴の人郭復初、田裕敬、稼行す。

田家鎮炭坑

位置　武穴より上流四十支里、富池口の上十支里の江の左岸黄金塔と云ふ所にあり河より約二百尺の高さなり。

炭層　北四十度西にて西南へ七八十度の傾をなす、石灰岩中に薄き粘板岩あり此の内にあり厚さ二尺餘なり、深さ四十尺程の竪坑あり、毎日三四十擔の岩と炭とを得附近の村に賣る一擔四百文にて茶館に用ひらる、無煙炭なり。

盤塘山炭坑

位置　武穴の上流三十支里、江の右岸富池口の對岸、河を去る四支里高さ三百尺程の處にあり目下休止す。

地質ト炭層　走向南北、西へ七十度の傾をなす石灰岩中に炭層あり、一尺より數寸の炭ありと云ふ地表より約二十度の斜坑あり數百步にて着炭したりと云ふ性質用途前者と同じ。

○京山縣　西鄕、北鄕、横山坑、仙女山

西鄕は三山口、煤炭溝、耀子境の區域にして開鑛以來十年を經過す。

北鄕は横山境、鄭家嶺の區域にして宣統元年に開かる。

○鍾祥縣　西鄕朱堡埠

久しく稼行せられ每年約三百噸の出炭あり。

○遠安縣　兩河口

○當陽縣　王家岩、月灘河、土地婆々溝、鄧家坡（毛先前）、陸家坡（張懷元）、劉家灣（沙市の北々西百十支里余耀庭）、雀家溝（白永昇）、九子山（周子建）

○南漳縣　城南東鞏昇堰

砂岩、頁岩、石灰岩の地方にて鑛區十餘方支里、咸豐元年已に開かれ土法にて稼行す。

○穀城縣　大炭

興漢公司經營し鑛夫二百人ありと稱す。

○宜都縣　老林灣

○興山縣　泗湘溪（賈萱の經營）、白馬灘（白少安の經營）、大峽口、龔家村

○秭歸縣　香溪口

香溪口炭坑

秭歸縣下楊子江左岸香溪口へ南流し來る香溪に沿ひ露出する北二三十度東の走向を有する炭層あり、延長約三十支里の間、知られ各所にて採炭せらる、宜昌にて用ゆる二三千噸の炭は多く此處より產出す、厚さ二尺內外にして豫定炭量二千四百萬噸なりと稱せらる分析の結果

固定炭素 49.34%　揮發分 22.86%　灰分 26.19%　硫黃 0.38%

其他秭歸縣の上流四支里の所に六層よりなる薄き炭層あり。

巴東縣の下十二支里の地にも小炭坑あり。

○恩施縣　沙子地、江岩獅、旗陽垻、十字渡、謝家堪、天橋、七家園

沙子地は無煙炭にて光緒元年に開く土法にて開採す。

江岩獅は同治十三年の發見にて已に四十餘年間稼行するも發展せず。

旗陽垻は光緒初年開採す。

十字渡は光緒十四年の發見にして目下稼行せらる。

天橋は光緒初年の發見、七家園は宣統元年の發見なり。

○咸豐縣　李家田、萬家垻、楊家寨、託稿園、濫田灣、楊峒

○利川縣　添油山、朗家垻

利川縣城の北々西にある添油山には二炭層あり、此處より四川省万縣に至る間各所に產出し添油山及び界に近き朗家垻には多くの炭坑あり。

湖北省に於ける含炭層は三層あり、下部は低き丘陵をなす硅岩よりなり粘板岩、砂岩を夾む、此の内にある炭層の厚さは普通四尺の一層なり、中部は石灰岩の厚層にして内に粘板岩、砂岩あり、下部の地層よりは稍々高き山をなす、炭層は二枚以上あり厚さ三四尺なり、上部は砂岩、頁岩よりなり低き丘陵をなし、二層の炭を有す厚さ二尺なり。

陽新縣の西南富水の上流地方の石炭は中部に屬するもの一向斜層をなし東西に六支里を辿り得べし、運搬不便にして產額僅かに一日百六十噸近く概算三百萬噸位なりと云はる、炭質は

固定炭素	61.70%	揮發分	17.61%	灰分	20.18%	硫黄	4.51%
同　上	59.26%	同　上	16.85%	同上	23.17%	同上	4.66%

第八節　石膏及び鹽鑛

○應城縣　北郷、西郷、斗垣、斗三、青龍山、合埠、田家巷、郭家山

位置　漢口より京漢鐵道にて孝感驛に至り夫れより應城縣へ百支里、轎子にて二日間を要す、歸路は水路民船にて富水を下り漢水に出で漢口へ三百支里二日半の行程なり、鑛產地は縣城の北々西十支里乃至十五支里の所より西々南の地方に延長し長さ三四十支里の間に產出す前記の個所あり。

地質　地層は走向東北にして東南に七八度の緩傾をなし、石膏の層は二尺五六寸にて內に數寸のもの數枚に分たる、間には青き砂質泥岩あり此の泥岩中には多少の鹽を含む故石膏を採りたる後水を潴へ鹽水を吸む、約三十二%の鹽を含むものすらあり、實際の鹽層は石膏層の上に三層あり全體にて厚さ四五丈に達す、石膏層は斗垢にては地下七百尺にて達す傾斜方向の斗三にては五百尺にて鹽層の上層に達し石膏層は千尺以下なるべし。

沿革　今より三百年前明朝時代より石膏を產し今より四五十年前より鹽を採ることを知りたり、鑿井は土法を用ひ水はポンプにて吸上ぐ縣城には膏鹽公司なるものあり官憲の監督を仰ぎ全部專賣す年產額鹽は七八十萬元、石膏は六七十萬元なり、漢口へ毎年來る石膏の量は四十三萬擔なり、最上品は廣東方面に出で工藝用に使用せられ中、下品は湖南、廣東及び我國に輸出せらる。

○京山縣　（石膏）

○咸豐縣　鹽井坳、死窰溝（鹽）

第九節　硝石鑛

○咸豐縣　龍字蓋

第六章　湖南省

湖南省は中部支那の中央南部に位し面積約二十一萬六千平方粁を有し北は湖北省に界し洞庭湖あり、其附近は一帶に廣漠たる平野にして農産地なり、東は江西、南は廣東、廣西、西は貴州、四川に界し、此等の方面は一般に山岳重疊し、各種の鑛物に富むは支那全國中最たるものと昔より稱へられ、今も尙ほ斯く世人に思はれつゝあるなり。

然らば省内には如何なる鑛產地存在するかと云ふに第一金鑛に就ては平江金山あり、銀鑛としては特に存在せざるも有名なる水口山鉛鑛より銀を採取し得べく、銅は衡州府下錫は江華臨武縣下の有名なるもの、鉛、亞鉛は水口山次に最も有名なる資江筋の安質母尼なり、石炭は未だ充分開發せられしものなしと雖も、其の埋藏量實に漠大なるものなりと云ふ「リヒトホーフエン」博士の說なり今茲には以上の鑛產地を便宜上三大別として述べんとす、卽ち湖南省内を流るゝ有名なる三大河は支那の如き交通機關不備の國に於ては重要なる交通路として役立ち各種の物貨は皆此等の河に因りて往來すると同時に各種の天產物は此の交通路に依りて搬出せらるゝなり。

第一　最西なる沅江流域

靖州、沅州、辰州、常德及び澧州府下より產出するもの。

第二　中央なる資江流域

寶慶及び長沙府下より產出するもの。

第三　最東なる湘江流域
永州、桂陽、柳州、衡州及び長沙府下より產出するもの（府なる名稱は目下廢せられをるも大なる區域を示すに便なれば玆に舊稱を用ゆ）で

第一　沅江流域
鑛產地として世に知らるゝものは可成り多數なれど此れ等の內には殆ど名稱を附する價値なきもの大部分を占め實際に鑛產地と稱すべきものは銻、水銀、鉛位なり、他に遠く貴州雲南方面より產出する錫及び水銀が亦、此の流れを利用して搬出らる此の量反て寡からず。

金屬鑛

第一節　金鑛

○桃源縣　供溪橋蓼葉、向日州
何れも砂金にして蓼葉は富國公司、向日洲は共和公司劉金湘により經營せらる。

○漵浦縣　大阪林、小阪林
前者は鑛脈極めて豐富なるも未だ採掘せず、後者は河中にある砂金なり。

○沅陵縣　橫山灣、余家中、岩桐山窪口、漁家冲、魚綱坡、古牛山、大牛溪、柳汊市附近

横山灣は馮錫瓚、餘家冲は馬濟生、岩桐山徑口は馮文亮、魚家冲は鴻文亮、魚鶲坡は張學杜により民國三年より開採せられ柳汉市附近の金鑛は御林叉と云ふ所にあり、灰色粘板岩の角礫か桃色の石英に依りて膠結せられしが如き鑛石なり。

○桑植縣　老鴉山

陳廷瑞により民國三年より開採せらる。

○會同縣　小水嶺、東爪冲、漠濱、三溪塘

小水嶺は和濟公司陳鑾、東爪冲は福利公司梁享璽に依り民國元年より開採せらる。

第二節　銀鑛

○石門縣　南平山

任義山により民國三年より開掘せらる。

第三節　水銀鑛

○芷江縣

○鳳凰廳　獄子坪、馬家嶺、尖岩山、大馬宮娘洞、大洞喇

大洞喇水銀鑛の水銀は陸路三十支里餘にして辰水の沿岸なる馬脚街に出し其の產額每年約四十萬

磅、貴州省銅仁縣產の水銀と共に有名なるものなり漢口に於ける相場は毎片約三千二百文內外なり。

第四節　銅鑛

○桃源縣　飛溪河、灰溪河、龍長埡

寶湘成公司何紹休により民國二年より經營せらる。

○石門縣　山羊溪

孫亭貞により經營せらる。

○澧　縣　太淸山

○大庸（永定）縣　保子界

○麻陽縣　汀邵嶺

豐厚公司經營す。

○桑植縣　九斗、峪　牛峪嶺

前者は陳延瑞、後者は馬濟生經營す。

○永順縣　石頭山

○綏寧縣　銅場界

黄忠同により開坑せられ、炭酸銅あり富鑛は下の如き分析の結果あり。

Fe. 1.246.　Cu. 48.767.　CO_2. 47.373

○會同縣　南冲尾

劉桓和歷坑を最近再開したり。

○漵浦縣　道光亭、三門、鉛岩石

前二者は百年前の舊坑なり目下中止す。

○辰溪縣　銅冲門、獅子腦

寶和公司、游盛時民國二年に開く。

○沅陵縣　石馬坡、紅岩溪、陳家山、大風凹

石馬坡は劉繼萊、紅岩溪は中興公司蘇昌熾に他は陳祥發により民國三年より何れも開採せらる。

第五節　鐵　鑛

○常德(武陵)縣

○大庸(永定)縣

○辰溪縣

○瀘溪縣

○溆浦縣　鬼子嶺

何南陛民國三年に開く。

○蓝江縣

○桑植縣

○綏寧縣

○晃　縣　吉星坉

寶善公司楊永泰民國元年に開く。

第六節　鉛　鑛

○桃源縣　牯牛溪、白石村、赤灣、曾家河、蜡樹坡

牯牛溪は元昌公司、曾兆龍により宣統元年より白石村赤灣は開遊公司劉維翹により宣統二年に開坑せらる。

○慈利縣　桂嘴嶺

○定永縣

○沅陵縣　麻衣湖、竹坪

○漵浦縣　小雲霧山、通溪、觀音堂、桃樹灣、袁岩店、茶鹿坪、底莊

小雲霧山鉛鑛

沿革　漵浦縣の西北隅、縣城を去る四十支里の所に一山あり小雲霧山と名く安化縣、大雲霧山に對して斯く言ふなり、楊氏なる者の民有地にして今より十數年前、黄鐵鑛脈を發見し土民は此れを採掘し硫黄製造に用ひ大なる利益を得たり、其後漸次掘進するに隨ひ黄鐵鑛中方鉛鑛を混ずるもの多きを加へ支那人鑛師高氏の調査を經て甚だ有望なりとの事にて光緒三十二年十二月萬恒公司を設立し株金を召集し大に事業を起さんとせしも鑛脈左程好良ならず、其後米人調査せしも同樣不結果に終り今日は只だ黄鐵鑛を採掘せし深さ十數尺の舊坑數個を殘すのみ全く廢山となりしが如し。

地質鑛脈其他　地質は古生代の粘板岩石灰岩の累層にして鑛脈は石灰岩中に存在するもの、如し、走向垂に南北なれど時に此れと直角に交はる東西脈あり採鑛は只、鑛脈に沿ひて掘進し一定の採鑛法なく全くの土法なり鑛夫一日の賃銀は約三十仙、土工、木工は十五仙雜役夫は八仙なり、鑛石運搬は山元より陸路四十支里漵浦縣に出し毎石約四十仙、縣城より水路江口に至るは六十支里、常德は六百支里、毎石約四十仙、長沙へは九百八十支里あり。

○麻陽縣　桑木坪

○黔江縣　沙羅田、黄點岩、陽屋場、轎子坡

何れも西路鑛務局により宣統二年より開採せらる。

○保靖縣　那桐

○桑植縣　仙桃嶺

雛葆初により民國三年より經營。

○龍山縣　紫家坡

○靖　縣

○會同縣　水溪

○鳳凰廳　桐樺、茶峒、駱馬硐

茶峒は梁碧桓、駱馬硐は黄忠同により經營せらる。

第七節　錫鑛

○靖　縣　五保尖山

徐虎臣により民國三年より經營。

第八節　銻鑛

○桃源縣　白岩村

○武陵縣　常德

○安鄕縣　彝陵龍王嶺

富美成により經營せらる。

○淑浦縣　將大溪壠、大洞口、泥潭冲、岩屋排、曹望冲、老狗灣、國塘灣、管葉塘、大蛇冲、薔菜冲、緣家溪、大竹山、曾緣溪、青龍山、復水灣、祓音堂、桃樹灣、通溪瓦、莊溪、相子園、牛坡、茶鹿坪、天窩塘

將大溪壠、鑛石分析結果は　Sb. 43.694　S. 17.477　大洞口は何道滙により民國三年、泥潭冲は華興公司雒士縉により民國二年、岩屋排は華林公司强作仁より民國三年、曾望冲は開利公司劉嗣祥により民國元年、老狗灣は寶德公司鐘梁勳により宣統二年、國塘灣、管葉塘は開利公司劉嗣英により宣統二年、大蛇冲は富潤公司姜湘泉により光緒三十四年、蕃菜冲は華寶公司奉孝培にあり光緒三十四年より開かる縣下の年產額約千噸なり。

○沅陵縣　花岩山、大坪、烏溪、魚兒山、石床溪、水田溪、土地拗、牛婁爰、菂樹冲、鞍馬嶺、紅花溪

花岩山、大坪、烏溪、鑛石分析表　Sb. 42.178%　S. 16.871%　魚兒山は均富公司彭廷熾により光緒三十四年、石床溪は中興公司黃望仁により民國元年、水田溪は和裕公司文孝良により民國元年、土地拗は滙源公司吳樹庭にあり民國二年、牛婁溪菂樹冲は寶興公司溪鐘柳泉により民國二年、鞍馬嶺は

滙源公司吳良友にあり宣統元年より開かる縣下の年額約八百噸、百床溪大にして其の半を出す。

○瀘溪縣　女兒岩

○辰谿縣　水平、蔣家灣

○芷江縣　沙羅田、考人岩、羅田洪水塘、冷水溪

羅田洪水塘、冷水塘は黄仲績により宣統二年より經營せらる。

○龍山縣

○乾城縣　麻狗坡、老司坡、風坳山

○鳳凰廳　獅子坪

○永綏縣　水田溪

○晃　縣　酒店樓

第九節　砒鑛

○慈利縣　界牌谷、茶居埡、浸水潭、岩壁下

界牌谷は雄厚公司王興楫により民國二年より他は溥利公司毛鴻勳により民國三年に開かる。

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○蘢江縣

第二節　硫黃鑛

○慈利縣　黑灣、托紫灣、托砦峽、白石泥、巴灣、兩合口、泥巴灣

黑灣は莫兆辛、托紫灣は美利公司劉左君、托砦峽は官鑛局により民國三年に開かれ白石泥、巴灣は和豐公司陳顯璜に宣統二年、兩合口は富楚公司莫兆辛に泥巴灣は惠豐公司唐越異に民國二年より開かる。

○澧　縣　大淸山

恒豐公司李耀庚により宣統二年より開かる。

○安鄉縣　桃李冲

○石門縣　蔣家、飛燕灣

兩所は富石公司覃金鎔に宣統二年より開かる。

○溆浦縣　楓樹塘、青龍山、蘆坡山、觀音閣、鐵溪壟

楓樹塘は賀自求に民國三年より青龍山は和盛公司賀鐘齡に他の二ヶ所は衆益公司劉大意に何れも宣統二年より開かる。盧坡山は毎年五千石の產額あり觀音閣之れに次ぎ約四千石を出す。

○桑植縣　竹筍坳、獅子嶺

前者は裕國公司馬季良により民國三年後者は恒信公司龔德宣に宣統二年より開かる。（此等の硫黃鑛は何れも黃鐵鑛より硫黃を採集するものなり）

第三節　石墨鑛

○桃源縣

○慈利縣　桂嶜岕

寶華公司沈逢川により民國元年より開かる。

○瀘溪縣　牛洞

○沅陵縣　打岩山

○麻陽縣

○黔陽縣　壠岩江

○芷江縣　鴉利江

第四節　石炭鑛

○鳳凰縣

○安鄉縣　七里坡

○漵浦縣　底莊、盧坡、茶鹿坪、牛坡

○辰谿縣　水平子、龍陽屯、官條灣、雍和鄉、銅子冲、朧坪、周家坳、東流溪、船兒灣、源隆川

龍陽屯は馮筌に官條灣は順利公司、向健雲、雍和鄉、銅子冲は吳孝澤、朧坪、周家坳は大利亭公司鄧瓏に民國三年より東流溪、船兒灣源隆川は震發公司林世壽に民國二年より開かる。

○江陵縣　楠木嶺、竹山邊

兩者は裕通公司余欽悌に民國元年より經營せらる。

○麻陽縣　青石嶺

楊澤南により民國三年に開かる。

○黔陽縣　黃榜坡、北鄉獅子嶺

前者は向元均に後者は趙月旭に何れも民國三年開かる。

○會同縣　譚家山、千家灣

柳葆元により民國三年より開かる。後者は官營なり。

第五節　鹽　鑛

○武陵縣　文殊山

○保靖縣　西落

鹽田あり土民は採集して食用に供し鹽質佳良にして四川掘井より産するものと同じ。

第六節　硝石鑛

○永順縣

第二　資江流域

此の流域にて最も著名なるは銻鑛なり、銻の産地として支那が世界的に有名なるは此の銻鑛を有する爲めなり、其他の鑛山は見るべきものなし。

金屬鑛

第一節　金　鑛

○安化縣　熊家冲、魯家冲

第二節　銀　鑛

○武岡縣

第三節　水銀鑛

○武岡縣

第四節　鐵　鑛

○安化縣　栗山牌、廖家坪
○新甯縣
○新化縣　獅子山六家冲　（黃鐵鑛にて硫黃も採る）
○益陽縣　八里滴水村
○湘鄉縣　豐樂塘

第五節　鉛　鑛

○武岡縣　縣城の南、水西坑、水晶岑、玉都南

○安化縣　甲角裏、金家灣、栗山橋、青山冲、兎子岑

○湘鄉縣　涵溪堰

第六節　錫鑛

○益陽縣　洪馬山

劉品山により經營さる。

○新化縣　欒樹岑

第七節　銻鑛

○武岡縣　油頭園走浦冲、徐家岑、紫雲山、大山岑

油頭園徐家嶺は劉瑨により經營せられ紫雲山は彭名州により經營せらる。

○新寧縣　紅石亭、釀水坑、斜石板、高樹山、龍口裏、龍廻林、江炭毛江、厚洞冲、毛鎌塊、嶽坪項、沙子湯、破鑛山中間嶺、高樹山、龍廻村宗江山、將軍石、石園猩、栗山里、天章龍、長鼻岑、清溪谷子坑

此等産地は何れも年産額百噸内外の小鑛山のみなれども全總額に於ては千噸餘となる、醸水坑は楚華公司戴績熙により經營せらる。

○邵陽縣　齊塘冲、砂子坑、龍旆山、水石庵、鴨石塘、鴨山馬鞍嶺、鐘家山、茆岡洞、寶塔坪、龍山、硫鑛山中間岺、厚洞冲、沙子蕩、後洞冲、嶽坪頂、揚虎洞、楓杜述、漿溪

齊塘冲砂子坑は天祿公司陳錦川により民國二年より龍旆山は劉祥雲に民國三年より、經營せらる、龍山は目下年産二百噸内外の小鑛山なれども次に述ぶる新化縣錫鑛山に對して有名なる今後發展すべきもの錫鑛山は五千尺餘の峻岺にあれど龍山は小なる丘陵にあり。今後銻産地として有名となるは邵陽縣なりと云はる目下總年産額三千噸なり、龍山を除きて他は何れも年産百噸内外の小鑛山なり。

漿溪は年産千噸餘あり。

水石庵鑛石	Sb. 42.928	S. 17.171
鴨石塘鑛石	Sb. 45.362	S. 18.144
茆岡洞鑛石	Sb. 52.728	S. 41.061
寶塔坪鑛石	Sb. 40.684	S. 16.273

○新化縣　錫鑛山、陶塘山、長龍界、歐家冲、兎子塘、貝溪、七里江、竹樹嶺、黃栗江、牛頭山、馬鞍山、鏡子崖大乘山、沫鑛村、檀山灣、羅家塘大石、三家冲、黃栗岡羅

星地、七里牛牯岺、林家冲、觀音岩、潭家冲、横冲裏、三尖村、潭孟山、伏鳳鎭、上廟村大乘山

錫鑛山銻鑛

此銻鑛は目下湖南省第一にして南北十二支里、東西一支里の區域に七十餘の會社あり坑數一千以上地表より採掘し一定の採鑛法なし光緒二十一年に開坑せられ、以來民國二年に至る十八年間に十三萬噸の生銻を產出せりと云ふ目下年產一萬四千噸あり重なる會社として三益公司あり。

陶塘山銻鑛

錫鑛山に次ぎ縣下にて大なるもの年產約二千噸あり其他主なるは歐家冲の四百噸、長龍界の八百噸象子塘の四百噸、具溪の六百噸、七里江の二百噸にして縣下の總年產額約一萬五六千噸なり。

七里江鑛石　Sb. 42.269　S. 16.906

○安化縣　郴節冲、白岩潭、滑板溪、江溪坤、棵溪、奎溪坪、自茅溪、水山冲、柑子園、花岩山、梅花溪、橋冲尖、本李灣、楓木冲、符竹溪、罎子灣、花臺山、梅花園、符公溪、水山溪、板橋冲、翁竹溪、車皮村、龍形冲、射塘山

滑板溪最大にして年產額千五百噸鈞裕公司の經營なり其他重なるは江溪坤の千二百噸、奎溪坪の三百五十噸、柑子園の三百五十噸、楊柳灣の八百噸、水山冲の二百噸、花臺山の百噸、梅花溪の百噸、告皮界の六百噸にして馬轡市は銻鑛の集合地なり、縣下の總年產額約三千噸なり。

○益陽縣　將軍山、板溪、洪馬山、西村妙草沖、王家沖

板溪は縣城の西北三十支里の地にあり銻鑛として縣下にては最も古きもの鑛石品位約二十%なり年産額二千噸なれど今後望多からず。

將軍山は年産百噸内外他は尙ほ小なるものにして縣下の年産額約二千噸なり。

湖南省下の銻鑛の産額は大體左の如し。

一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
二二、〇一一噸	九、四〇四噸	七、七六二噸	六、二八八噸	四、二一一噸	四八、四〇八噸
一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年
六八、〇六二噸	六六、三六八噸	八四、三五三噸	七七、四五九噸	一四、四四八噸	二八、六七八噸

精製安質母尼及び粗製安質母尼として輸出額

	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
精製安質母尼	一、七三二噸	三、六〇〇噸	二、三八七噸	二、一〇六噸	二、六八五噸	五、八一二噸	六、三二八噸
粗製安質母尼	七、一四六	七、二四五	九、一九五	九、九六四	一五、二八七	一九、六八〇	二四、五九七

	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年
精製安質母尼	九六兩	九六兩	九七兩	二二〇兩	二四〇兩	七一〇兩
粗製安質母尼	四六兩	四六兩	四六兩	七二兩	八三兩	三一九兩

世界の重なる安質母尼産額

	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	九一一四年
支那	六、六四三噸	六、九八六噸	一三、五三一噸	一三、〇三二噸	一九、六四五噸
佛蘭西	四、六四〇	四、七七五	五、四〇六	—	—
匈牙利	七八二	八九二	八五九	一、〇三八	—

以上の如く支那は安質母尼産國として世界に主位を占む、而して其の産地は湖南省を第一とし廣東、廣西之に次ぎ浙江、江西、雲南、貴州、四川、安徽等を第三とす湖南中にても第二資江流域を最とし第一沅江流域之れに次ぎ第三湘江流域は極めて僅かなり、其等大小産地五十數ヶ所あり、鑛石は皆洞庭湖の西北なる益陽縣に集り更に民船にて長沙、岳州及び漢口に運搬せらる、長沙及び漢口には製錬所あり、重に粗製安質母尼或は精製安質母尼として海外に輸出せらる、製煉所の重なるものを擧ぐれば、

(長沙に於ては)華昌公司、千九百三年の創立にして資本銀百萬兩の株式會社なり、鑛石より酸化安質母尼をつくり、尚ほ精製安質母尼を製る、是れ支那に於ける最も新式の製錬をなしつゝあるものなり、一個月の精錬産額目下三百噸内外なり。

保利公司 資銀六十萬兩の合名會社にして重に粗製安質母尼を製る。

支那公司 鑛山を有せず、鑛石、粗製安質母尼の仲買をなし多少粗製錬を製造す。

大成公司 最近に建られしもの小資本家の集よりなり、委托製錬を目的とす、其、他小なる乾豫、富湘、水齊號等あり日支合辦の大同公司なる稍大なるもの建設せられたり。

漢口及ビ其他ノ地方ニ於ケルモノ　獨逸禮和洋行の製煉所及露國隆記洋行の製煉所は漢口にあり設備を秘密にして外人は知る能はず、雲南には支那人資本の保化公司あり。
安徽省には天長縣に天長公司あり同縣の銻鑛を製錬せんとし、浙江省には遂安公司あり貴州の大定縣、威寧、廣東省廣州靖遠、廣西省沿城の如きは銻鑛産地なれども其量多からず、江西四川の銻産地は殆ど世に知られず。

第八節　砒　鑛

○武岡縣　銀子坑、曾家山

非金屬鑛

第一節　硫黃鑛

○新化縣　獅子山六家冲
堺益吾が黃鐵鑛より硫黃をとるなり。
○安化縣　大埠溪
○益陽縣　南士坡

第二節　石炭鑛

○新寧縣　龍山

○邵陽縣　旗山、新塘冲、震中鎮江村、西路、歐家冲、龍旆山、拗頭山、水竹博、作樹拗、安嘴崙

旗山は劉祥雲に新塘冲は何錫伯、震中鎮江村は楊晉伯、西路は楊岳鐘、歐家冲は蕭勳安、龍旆山は劉祥雲に民國三年頃より開かる。

○新化縣　金積山、晏家舖、梅嶺、鷓鴣塘

梅嶺は彭桂芳に、鷓鴣塘は彭澤により經營せらる。

○安化縣　白楊灣、江花擔、莫家坪、獅子岩、馬家崧山里、杉山裡猪婆崙、槎株山、爛草坪、廖家冲、蕨根腦、栗山牌、炭山牌、何家崙

白楊灣炭は灰分多く下の如き分析結果なり。

固定炭素　61.750　揮發分　18.231　灰分　20.0010

○武岡縣　寶華廟、銀子坑、炭山坡

○湘鄉縣　開家冲、豹子坑、流水蕩、百步岺虎形山、宋家山、白楊莊、石嘴頭、扇子

牌、流水塘、上舗屋、永鋒鎭、控泥托、天心塘、油接嶺山

○益陽縣　大金牌齊公坡、五斗嶺、連河沖、土坡泉水坡腦、鷄窩嶺

第三　湘江流域

此區域は他に比し最も廣大にして且つ多數の鑛產地あり、湖南省の鑛山地方と云はるゝは重に此區域を指すものなり、重なる鑛產物は鉛、亞鉛、錫、硫化砒素及び各地より集まる石炭にして此の區域は實地踏査せしもの大部分を占むる故他の二區域に比し正確なる説明を與ふるもの多し、他の二區域も他日の調査を待つて尚正確なる訂正を施さんと欲す。

金屬鑛

第一節　金鑛

○江華縣　永綏圍、牛沖（砂金）

和濟公司萬海濤により民國二年より始めらる。

○衡陽縣　賀家山、九龍山

○攸　縣　（山金）

○湘潭縣　（山金）

○長沙縣 （山金）

第二節 銀鑛

○零陵縣

○桂陽縣

○常寧縣 水口山、劉家坪

水口山は鉛及亞鉛鑛山として支那最大の鑛山なり、鉛鑛中方鉛鑛の結晶細かきものは含銀多きとの事にて水口山を去る十數支里の所に銀製煉所あり（亞鉛鑛水口山參照）劉家沖は水口山を去る十二支里の南にあり、大正元年三月より開坑し坑口三ケ所あり僅三ケ月間稼行して中止せり、本山は獨逸禮和及瑞記公司と關係ありと稱せらる、因に水口山は長沙より湘江を溯る約百八十哩、江の右岸に松柏市と名づくる小市の南三哩の所にあり。

○衡陽縣

○衡山縣 人形山

羅煥楚により民國二年に開かる。

○長沙縣

○曁陽縣 虹江

湖南省下の銀山として水口山第一なり其の年産額寡からず、其外、鉛、亞鉛を産するは後述の如し其他銀山として暨陽より又、沅江の上流なる虹江ありと雖其の良否に就ては明かなる材料なし。

第三節　水銀鑛

○衡陽縣
○醴陵縣

第四節　銅鑛

○劉陽縣　隱眞觀後命
○湘潭縣　鳳凰坡、六尾冲
廖果甦廢坑を再び開きたり。
○常寧縣　碓臼冲、獅子腰、厤石嶺、銅盃嶺、楊家州、樟山塘

位置　此れらの諸銅山は花崗岩よりなる大義山脈の東側中央にあり、何れも白沙市を去ること二三十支里、水口山より南方八九十支里の距離にあり春水より高きは千尺餘の高地なり。

地質　桂陽縣の銅山と同じく石灰岩と花崗岩の接觸部にして大義山脈は南北に走り桂陽縣は南にあり常寧縣諸銅山は中央に北端には水口山亞鉛鑛あるなり。

碓臼冲銅鑛

水口山の南八十支里の所にあり清朝同治元年に始めて開かる、鑛石は黄銅鑛、斑銅鑛にして美麗なり一支里を隔てゝ北に張家坪あり南には砒鑛の後に述ぶるものあり、民國四年頃は支那五金公司と大倉組との合同經營なりしが目下廢山となる鑛石は小塊或は小脈として石灰岩中にあり巾五六寸、上鑛を分析すれば含銅三十%以上、金十萬分三ありたり。

獅子腰銅鑛

春水面より高きこと千尺、一の小盆地の東北隅にあり銅、硫砒鐵鑛、僅かの錫鑛を含み、多量の黄鐵鑛あり、最近舊坑を再開せしものなり五金公司の經營たりしもの。

麻石岺銅鑛

打牛窿、天興窿の二舊坑あり前者よりは赤鐵鑛、閃亞鉛鑛、硫砒鐵鑛、及び錫鑛を出し後者にては銅鑛を出す、白沙市より數百尺の高地にあり美興公司の經營なり。

銅盆岺銅鑛

春水面より高きこと九百尺一の盆地の南々東にあり舊坑の深さ六百尺に達すと云ふ明朝時代に稼行せられしものなり坑内は水を湛えうかがう事を得ず。

○耒陽縣　馬鞍坡

朱得康により民國三年に開かる。

○祁陽縣　臥鸞相飛山、銅鐺冲、毛鎌堂

○宜章縣

○資興(興寧)縣　唐金崙

小地名を栽土頭山地と稱し開泰公司李開泰により光緒二十四年に開かれ今は中止す。

○永興縣　塘冲金坪形

李習元により民國三年に開かる。

○桂陽縣　綠紫坳、梅花井、大開、下馬塘、萬花窿、東邊窿、鳳凰山

綠紫坳銅鑛

位置　綠紫坳、梅花井、大開、下馬塘は何れも近くに集まり居る鑛山にして湘江の上流の一支流なる春水の沿岸白沙市の西南二十五支里の所にあり、其の間には二三の大なる峠あり七八百尺の高地なり白沙市は松柏市(水口山鑛山所在地)より約百支里なり松柏市は長沙より百八十哩湘江の上流にあり。

地質及鑛床　鑛山附近は砂岩と石灰岩とよりなり少しく隔りたる處には花崗岩あり大義山脈を構成するもの、南端に近き部分なり、平地は赤色土にて被はる、岩石の走向南北にして垂直の片理著しく發達す、鑛床は此れら花崗岩と石灰岩との接觸により成立せしものにして鑛石は美しき黃銅鑛、斑銅鑛なり。

綠紫坳　は直徑五百米突程の山間の盆地の南にあり一大舊坑にして深さ四百尺に達すと云ふ、明朝

天啓四年に開始し乾隆九年に隆盛を極め當時は八十臺の爐あり當時の鑛鑠平地を被ふ。

梅花井、は此の盆地の西南隅にあり宏大公司の經營にて舊坑を再開せしも結果面白からずと云ふ。

下馬塘、前記の白沙市の西南綠紫坳に至る中間にあり結晶石灰岩と花崗岩との接觸部は山腹に水平にあり此處に鑛床存在す、接觸岩は巾四尺餘あれども鑛石は僅かよりなし。

大開鑛山、は綠紫坳の南一丁の所にあり斑銅鑛を出せりと云ふ。

萬花窿、は瑞丰公司唐席珍に民國元年、東邊窿は富國公司黃克强に民國二年、鳳凰山は謝峙により民國三年に開かる。

湖南省下の銅鑛としては常寧縣下のものを最も重なるものとすれど其の產額なく前記の如く何れも休山し嘗て明朝時代に隆盛を極めし舊坑なり。

第五節　鐵鑛

○寧鄉縣　大馬蹄山、瑚璉岺

前者は瑞祖公司により經營せらる。

○收　縣　鐵山

鄒福星により民國三年より經營さる。

○茶陵縣

○醴陵縣

○瀏陽縣
○衢陽(淸泉)縣
○常寧縣　猺山烏金坪
歐炬鋒により經營さる。
○耒陽縣　沈斗冲、大保山
前者は漢治萍鐵廠により宣統二年より經營さる。
○衡山縣　雷鉢嶺、大斗灣、楓林洞
前二者は宏安公司李振聲により民國元年より、後者は長發公司馮兆奎に民國三年より經營さる。
○安仁縣　長角村、乾塘坪
前者は富强公司熊印圭により民國二年より經營さる。
○零陵縣
○江華縣
○永明縣
○祁陽縣

○寧遠縣

○永興縣

○宜章縣

○郴　縣　推子嶺、金獅嶺、東冲

郴縣の東北三十支里の所に廠田浪と稱する村あり、此村より南々西に谷を入り約二十支里にして推子嶺あり、村の北に大なる硫化鐵鑛の鑛床あり嘗て採掘し硫黄をとりたり、破壞せる爐十數基あり場所は花崗岩と石灰岩との接觸帶なり。

○桂陽縣　孤坪廠、黃毛崗、石腦山

常寧縣白沙市（湘江の支流春水の沿岸）の西南約六十支里桂陽縣と常寧縣との界に近き谷間にあり、前者は一道路の側にありて硫化鐵鑛を出し母岩は石灰岩なり後者は此れより尙十三支里隔たりたる所にある舊坑なり、鐵鑛或は銻鑛なるや明かならず。

湖南省下の鐵鑛は各所に散在するも未だ鐵鑛として大企業を建つる程の多量に鑛量を有するものなし寶慶府下のものは稍大なりと云はる。

第六節　鉛鑛

○攸　縣　水晶岺、曾家山

前者は華美公司易海聯、後者は久大公司閻儀甫に民國元年より開かる。

○醴陵縣　花臺山、內山坡、銅錫境、石橋舖、天花臺、卦嘴岺

內山坡は富商公司戴應祥に銅錫鏡、石橋舖は聚義公司黃本立に天花臺は梁煥均に何れも民國三年に開かる。

○湘潭縣　涵溪口

○瀏陽縣　楓林洞、雲峯、臺後山

潭阜成は楓林洞を經營し後二者は湘利公司の所有に屬す。

○耒陽縣　筍山裏、井地下、自然利

○常寧縣　水口山、淸水塘、聚寶門、龍王山、九龍山、紫篠、賈馬湖、銀崗嶺、磨岺、金鼓岺、黎家坡、劉家坪、智木山、橫過岺、千家窩、磨岺、水仙山、蚪碼頭、白馬山、凉水寺、女城

水口山鉛鑛

位置　水口山は省內にて新式の設備をなせる最も有名なる且つ大なるものにして湖南省の三大河の一なる湘江の上流に位す、衡州府より江を溯ること三十哩の右岸に松柏市と名づくる小市ありこの南三四哩の所にある小丘を水口山と呼ぶなり鑛山と松柏市との間は土地平坦にして目下鑛山專用の輕

便鐵道布設せらる尙此附近は他日粤漢鐵道貫通の曉には樞要なる地となるべし。

地形　鑛山附近は高さ百尺に足らざる小丘起伏し其間には水田ありて道路は其の間を通じ大なる坂道なし而して此等の小丘は支那大陸特有の禿山なれば今後製煉を行ひ亞硫酸瓦斯等の發散すと雖も樹木の損害はなからん。

地質　地質は表面赭色土（Laterite）にて被りたる含煤砂岩層と其の下部に石灰岩層ありと雖も鑛山附近に於ては何れも露出せず然れども地下五百尺の坑內は皆石灰岩よりなり上層の砂岩は厚さ二百尺より五百尺以內なるを知る、又水口山附近には此の砂岩中に石炭を存在せざるも南方十五支里の所には同岩より無煙炭を出す南方に進むに從て此れら二岩層は地表に近く且つ高山をなす地質學上の時代は化石を發見せざれは確定し難きも恐らくは古生代のものならん岩石堅固にあらざれば採掘平易なり。

坑道ト鑛脈　事務所の傍らに一斜坑あり北二十度東の方向へ五十度の傾をなし延長六百尺に達す坑底には此の斜坑と直角に一水平坑道の北四十度西の方向に走るものあり坑道面には「レール」を敷けり坑口と坑底との差は四百九十五尺なり、前記斜坑は約一丈平方の廣さにして地盤堅固ならざるため支柱を用ひ坑道面には「レール」を敷き鐵索により鑛石運搬車は此處を上下す次に鑛脈は表面より五百尺の所と坑底と二ケ所にあり前者は其の巾十五尺餘後者は二脈ありて一は北四十度西に走り三分す、其の巾不定なるも他は北七十度西の方向をとり巾二十尺餘あり何れも東北に六十度以內の傾斜をなす坑底より西方七百尺程の處に一斷層あり此の斷層は鑛脈生成後に生ぜしこと明にして斷層面には石灰岩、砂岩、及鑛石の角礫岩存在す、此の斷層より尙西に一鑛脈あり其の走向北四十五度東、東南に殆

と垂直にして巾十八尺あり鑛脈は大體以上の如くにして其の長さ巾は目下採掘法不規則なれば正確なる數を知ること能はずと雖も水平に 1000 m. 垂直 100 m. 巾 6 m. とすれば全鑛量は六十萬立方米突にして一立方米突七噸とすれば四百萬噸餘となるべし。

採鑛　坑内は凡て桐油のカンテラを用ゆ毎日平均百人の鑛夫二組に分れ晝夜交代にて採鑛に從事し勞働時間は約十時間にして一「ピクル」の鑛石毎に一仙五厘を與へ一日一人平均二十「ピクル」を出し三十仙にして勞働過酷不愉快不衞生なるは日本の小鑛山よりも甚しけれども土地僻陬なるため生活費低廉にして彼等は一日六七仙にて足れば三十仙の日給は喜んで彼等の就職する所なり掘進は只一脈に沿ひて進み、何ら鑿岩機を用ひず玄翁、鑿と鶴嘴にて足れり採掘せられたる鑛石は先づ碎鑛場にて碎鑛せられ手撰鑛場にて石灰岩と鑛石とを分ち尚粉鑛は水洗撰鑛場に送らる。

鑛質　鑛石は方鉛鑛にして黄鐵鑛、黄銅鑛、閃亞鉛鑛を隨伴し方鉛鑛は極めて美しきものにして結晶稍大に半センチ程のものと微かに三ミリのものと二種あり後者は含銀多しと云ふ、目下鉛鑛と亞鉛鑛のみ撰出し他の隨伴鑛物は殆ど捨棄せられ各所に推積するも他日此等も收利の材料となるや疑なし、鑛石の産額每日撰鑛約七十噸内外、内三割は方鉛鑛にして他は閃亞鉛鑛なり硫化鐵は目下之より硫黄を採取し又、鑛石内には近頃黄銅鑛を含む事多くなれり分析の結果は次の如し。

	銅	亞鉛	鐵	硅酸	鉛
亞鉛上鑛	0.485	47.32	6.60	5.730	2.374
亞鉛普通鑛	1.649	39.13	10.40	9.610	6.[illegible]
亞鉛鑛の撰鑛によりたる粉鑛	2.134	35.389	20.06	9.910	10.512

含銅亞鉛鑛	7.372	32.214	14.01	12.350	5.429
撰鑛にて得たる黃鉛鑛粉鑛	0.679	8.372	47.80	1.100	15.875
[illegible]鉛鑛	1.455	——	10.05	3.748	58.156

鑛石は松柏市より船積として長沙に送り其大部分は獨商禮和或は瑞記洋行に賣渡されしが目下歐洲戰爭のため中止となる嘗て一噸の價額鉛鑛四十兩、亞鉛鑛十九兩の契約なりしと云ふ、因に此の鑛山は獨逸會社の資本にて成りしもの凡ての器械は獨逸製作品を用ゆ、近く我が借款に換へんとす。

清水塘鉛鑛

水口山を去る東南へ約三支里の所花崗岩中を北々西の方向に約五十度の傾斜にて深さ二百尺に達する斜坑あり鉛鑛を出すと稱すれど黃鐵鑛のみの捨石あり。

聚寶門龍王山鉛鑛

水口山の南十支里の所にある水口山の支山なり、今より二百年前盛に稼行せられしと云ふ目下休止す走向北二十度東なる巾二丈餘の大なる岩脈あり、一の大なる石英脈なるや明かならず、九龍山、柴䉶、煙馬湖、銀崗嶺、金鼓嶺は白沙市附近にあり長沙の協盛公司の經營なり。

黎家坡鉛鑛

湖南省官立鑛業代理人徐嶺梅・郭霖潛が千百十二年に獨逸禮和洋行より百萬兩を借款し經營せんとせしも歐洲大戰の爲め中止となり湖南銀行より資金の融通を受けんとしつゝありと云はるゝ鑛山なり。

劉家坪鉛鑛

水口山より十二支里民國元年に開坑し三年二月日本技師調査し禮和、瑞記洋行と關係ありと云はる。

○衡陽縣　陰陽垱、二十九都、茶兜垱

前二處は唐擧候なる者經營し後者は曹鎭楚の經營にして何れも民國三年に開かる。

○衡山縣　兎子塘、旱塘冲。柳樹塘、葵花寸、六角村、潭背嶺

何れも民國三年の開坑にして兎子塘は厚牛公司、李毓傑、旱塘冲、柳樹塘は開源公司文祝生、葵花寺は南阜公司李吟秋、六角村は恒裕公司袁萬民、潭背嶺は萬慶烈により經營せらる。

○江華縣　開山

大湘公司歐陽振聲により民國二年より開かる。

○永明縣　永錫鄉

○道　縣　鴨頭塞、摩天嶺、堆車嶺、癩子山

鴨頭塞は沱瀌公司洪澤灝に民國三年に開かれ摩天嶺は湘益公司廖宗棠に宣統二年に堆車嶺は恒丰公司譚亮卿に民國元年癩子山は興殖公司梁盛鑑に民國三年に開かる。

○永明縣　永錫鄉

龍三實に民國三年より經營せらる。

○郴　縣　永豊鄉、飯堆嶺、水湘裏横陣、桃花壠、秀才山、大蛇形坪、青翠樓、永清

郷、南嶺、金船塘、柿竹園、黃龍塞、野鷄窩、永豐黃泥坨、大山門、獅子庵、堆車嶺、大廟、桃山坳、東冲、東坡、九江湖、七甑飯、煤子窿、天鵝塘、五蓋山

永清卿は陳煥章に南嶺は康惠公司、劉瑞冲に民國二年より金船塘は保湘公司郭順福に民國元年、柿竹園黃龍塞は必濟公司羅永澤に民國二年、野鷄窩は利源公司鄧霖源に民國二年、永豐黃泥坨は劉瑞生に民國三年に開かる、大山門獅子庵は郴縣の南五蓋山の北麓にして縣城より二十五支里道路甚だ惡し大山門には二個の舊坑あり七八丈あり今より七八年前迄十數年間土民が稼行し木炭を以て製煉を行ひしと云ふ當時の鑛滓堆積す、獅子庵は近頃開かれたる鉛鑛にして谷間に三丈程の竪坑あり浸水して用をなさず。大廟、桃山坳、東冲、東坡、九江湖は何れも縣城の東北三十支里の所にある麻田浪と稱する村より南々西に谷を入り（鐵鑛堆子嶺參照）堆子嶺に至る間の谷にある名稱にして大廟は麻田浪より數百尺の峠を越えて入りたる谷の右岸にある廟の附近、尚ほ谷を入ること七支里にて桃山坳の舊坑あり。尚七支里にて東冲、尚五支里にして東坡九江湖あり、今より數十年前銀を採集したりと云ふ鑛滓山をなす、鑛床は何れも石灰岩と花崗岩の接觸なり、次に七甑飯、煤子窿、天鵝塘は此の谷の東の谷にして數丁の間にあり地質は花崗岩にして所々に燒けあり、鉛銀の產地と稱せらる。

水湖裏橫陣の鑛石分析の結果は

鉛 72.86　銀 0.083　鐵 1.00　亞鉛 0.80　等なり。

○資興(興寧)縣　大脚嶺

同濟公司傳維嶽により民國二年より經營せらる。

○桂東縣　微水龍城山

李席珍により民國三年に開かる。

○臨武縣　塘頭坮、鐵砂坪、鐵花坪、株樹坡、廟坡、丁家畝馬鞍山、乾海水溝岺

○桂陽縣　桂陽坳、齋公塘、大湊山、黃沙坪、長富坪、大有窿、虎瓜山、毛頭嶺、神仙塘、曲禾山、雁鷹窿、珠嶺

桂陽坳は郴縣の南、良田市の西南二十支里の山中にあり花崗岩中に深さ二三尺の穴を穿ち鉛鑛を得たりと稱するも何等鑛脈の存在を認めず、桂陽坳村は其の場所の西南五支里の所にあり、齊公塘は錫鑛の滴山水（白沙市より約四十支里西南）より西々南へ二十支里、稍大なる峠を越えたる所にあり、綠色粘板岩中に巾一寸長さ四五尺の方鉛鑛脈あり、大湊山は桂陽縣西門外にあり、黃沙坪は桂陽縣より十五支里南、高さ數百尺の一山脈の側面に鑛床あり、附近は石灰岩、硅岩、緻密花崗岩の如きものあり、重に露天掘をなせし跡と非常に多量の鑛滓山をなす、鑛石は黃鐵鑛、磁鐵鑛に方鉛鑛を混ず、今より三十年前盛んに稼行せられ二百人の鑛夫あり重に銀を採りしと云ふ。長富坪は胡漢龍、大有窿は和慶公司吳允城、虎瓜山は唐膽雲に民國三年頃より始めらる虎瓜山は古來より有名なるものなりしが久しく中止し居りたり、毛頭嶺神仙塘は鈺成公司何學博に宣統二年より開かれ、曲禾山は合慶公司劉鎭愷、雁鷹窿は金易成、鄧潤餘に珠嶺は王位南に何れも民國三年より開かる。

湖南省下の鉛、亞鉛の產地の最大なるは水口山なり此處には兩者共多少製煉せられ金屬として輸出せらるゝのみならず鑛石として每年海外へ出づる量は寡からず、嘗ては全部獨逸へ輸出せられしが歐

洲大戰のため輸送する能はず一時鑛石として上海に數千噸山元に二三萬噸貯鑛せられし事あり、大部分は我が國へ輸送せられしが如く其後再び長沙山元に數萬噸滞溢せしが目下如何なる狀態にあるやを知らず、近く湖南長沙に於て大同、古河、公司の製煉所設立されんとす此れらの金屬及びアンチモニーの製煉を始めんと欲するものなりとか云ふ。

第七節　錫鑛

○長沙縣

○來陽縣　香園嶺

蔚華公司周大賚に民國三年より經營さる。

○常寧縣　五雷擊鼓、梅子園、倒石湖、南窿、北窿、千家坪、梽水山、雷打石、白砂地、獅形山

五雷擊鼓は大生公司李希文により經營せらる、梅子園は郭啊盒により經營さる。

倒石湖は水口山の積荷場松柏市より南に秧田を經て白沙市に達す秧田、白沙市の中途より西に數支里進みたる所にある山脈の東側、平地より數百尺高き所にあり、石灰岩中にある錫鑛を採掘するものにして一日僅か一担餘を出すに過ぎず然れども嘗ては稍盛んに稼行せられし跡あり、聚寶窿、倒石窿の二坑あり、鑛石は最初燒きて硫化鉄を採り燒鑛を臼にてつき（水車にてスタンプを上下す）粉鑛を水

にて洗ひ錫鑛のみを得、方法他と全く同じ、次に南窿及び北窿は倒石湖の西十支里前記の銅山碓臼沖より南へ十二支里、西嶺を經て尚ほ南へ十八支里の所に南北數十間を隔て、此等二坑あり北窿は順成公司の經營にして目下休止す、南窿には目下五十人程の鑛夫あり一日一噸半の錫鑛石を出し倒石湖に運び此處にて撰鑛す、鑛石は石灰岩中にある黄鐵鑛、毒砂、及び黄銅鑛にて錫石を含む、利勝公司の經營なり。

○零陵縣　東安西鄉古石岷

張瑞芝の經營なり。

○江華縣　上伍堡、南鄉上仙石村、茶花嶺、蓮塘凸、獺子山、牛高山、羊邊山、桃子灣、梅子園、螃蟹嶺、虎形山、牆基沖、大尖山、缸甕廠、永息面、猪頭岩、鴨公坪、鳳山、鳳凰尾、潮水洞、湖猪口

上伍堡錫鑛

位置　縣城の南百支里五嶺の麓に位し周圍は山脈群集し地形險要の地にして鑛物に富饒なりと稱せらる、此處より東南に進めば湘江と桂江の分水嶺に達し桂江を數支里沿ふて下れば廣西省に入るなり、地域は東は江華縣嶺東、東南は廣西省賀縣上莫村、南は同じく薔薇村、西南は廣西省富川縣龍窩村、北は江華縣壽塘園に界す、南北二十四支里、東西二十六支里にして三鑛區に分たる。

鑛床　重に沖積層の砂鑛なれども僅か岩石中の鑛脈を採掘するものあり河砂中より砂錫を採集す

る坑を平窿と稱し深さ一丈より二三丈の井戸を作り砂中の錫をとるも其の含錫層一定せず、且つ春夏雨多き時は稼行する能はず。鑛脈よりとるものを岩窿と稱し卽ち前者の稼行し能はざる時季　岩石中の鑛床を採掘するものなり。

平窿には新舖、苦瓜坪、羊坳、上岩坪、白嶺面、松本崗、歐陽山、大崗頭、缸甕廠、四欄埠、青石板、狗坑、舂頭源、香爐脚、鮓塘源、紅花源、苦竹源あり、岩窿には西水、老鼠岩、下岩底、定珠岩、松柏山等あるも平窿の方に産額多し。

採鑛及製煉　鑛砂を篩に入れ水流の內にて砂を流し去り稍砂錫多き砂を得て再三同樣の方法を繰返し砂鑛を得ると、俗に猫流と稱する方法にて鑛砂を得ると二樣の方法あり、鑛砂は其の色に依て價値の高低を定めらる此れ砂錫の多寡により其の色を異にすればなり、此の砂錫は土を以て築かれたる爐に入れ木炭を燃し鞴にて風を送り木炭と砂錫とを交代に裝入し製煉を行ふ、錫砂約十五六斤づゝを一回に裝入するなり高熱により熔解還元せられたる錫は徐々に爐孔より流出し此れを模型に入れ冷却しむ、斯くの如き土法を以てする時は其の一割は常に消失すと云ふ。

運搬方法　各製煉所にて作りたる錫塊は廣東の永發、同興の二公司に買收せられ上伍堡を去る二十五支里の廣西省賀縣白沙寺に運ばれ其れより上伍堡を去る八十支里の八埠と稱する河岸に出さる此處より民船により四日間にして梧州に達し梧州よりは小蒸汽にて二日にて廣東に至る。

沿革　最初發達公司なるものあり其後前淸時代に利民、阜康、富湘、寶和、永和、中興、富强、裕華、同德、湘隆等あり其の後利民、阜康、富湘は殘り發達公司は目下解散したりと云ふ、此處には官鑛局の鑛區あり稼行するも餘り望みなきが如し、何れにするも此れら諸公司は大資本を有するもの

なく廣東商人の援助により稼行し久しく續くものなり、亦多くの利益は常に廣東商人に占められつゝあり。（久原鑛業會社技師野田氏詳細に調査せられたり）。

南鄉上仙石村錫鑛

伍氏煉錫公司なるものを建て採集製煉を行ひ、上鑛は砂中より一二斤の錫砂を得含錫百分の七十二ありと云ふ一人一日多きものは錫砂四五斤より少きも一二斤を得一斤五十仙餘なり、故に一日多きは二元餘の仕事となる、錫砂分析の結果は　Sn. 72.960　O. 19.614.　Fe &c 7.424.

茶花岑、蓮塘凸は利源公司唐逢庚により癩子山、牛高山、羊邊山、挑子灣は和濟公司蔣譽鄉に、梅子園は陳奎蓮に螃蟹嶺は陳少伯に虎形山は袁國臣に何れも民國三年より開かる牆茶冲、大光山は華阜公司黃霽、缸甕廠は厚生公司齊璜、永息面は利傳公司尹永慶、鴨公坪鳳山は富強公司席幹、猪頭岩は華興公司歐陽耀圭、鳳凰尾測水洞は厚生公司齊璜、湖猪口は五金商蘊洪澤灝により民國二年より開かる。

○永興縣　山偏岩

○宜章縣　麥菜園、大嶺

何東湘により民國三年より經營せらる。

○郴縣　安源、牛背崎、鵝公旗、鄧家窿

安源錫鑛

位置　郴縣より宜章街道を南に四十支里進めば良田市に至るこの西南五十支里の處、桂陽、臨武、

郴縣の界に近き安源村の東南十數丁の處にあり附近の道路は坂多くして交通不便なり、廣東方面に出づる交通路は長沙方面に向ふものより平坦にして鑛山より四十支里に水東と云ふ所あり、北江の上流にして水路の最上終點なり此處より下りて樂昌、韶州、英德を經ば廣東に至る。

地質　鑛山附近の地質は花崗岩のみなれど鑛床所在地は走向南北にして東に急斜をなす石灰岩あり、石灰岩中にある鑛脈は同じく南北に走る、此の鑛床地帶の石灰岩は一種異樣の浸蝕作用を受け遠方より石灰岩なる事を明に認め得べし、鑛石は毒砂、黃鐵鑛に富む錫石なり。

坑道　鄧家窿、炮火窿、洋貨町窿等あり洋貨町窿は最も大にして炮火窿之れに次ぐ、目下鑛夫の數僅かにして鑛石產額も少量なり、一日約四五十担にして之れより精鑛のみを採る時は約三分の一に減ず故に錫の產額は一ヶ月約百担內外に過ぎず。

運搬　此鑛山は廣東方面に運搬する方、湖南へ出すより廉價ならんも長沙に本社を有し其他の關係より長沙へ搬出す、郴縣迄山より一担に付一弗四十仙、郴縣より長沙迄一噸六弗を要す故に山元より長沙迄の一噸の運賃二十七八弗にして非常なる高價なり。

牛背崎、鵝公旗は裕通公司梁炳均に民國二年より經營せらる。

○桂陽縣　梅花井、獅子腰、滴山水、東坡窿、兩頭岩、梅花井

銅鑛の內に述べたる梅花井は錫鑛をも產出す宏大公司郭順福の經營にして民國二年より開始せらる、獅子腰は梅花井の南一丁餘の所にあり目下數人の工夫にて稼行す、滴山水は獅子腰の東南十數丁の谷間にあり石硤下錫鑛とも稱せられ四五年前は十數人の鑛夫あり錫鑛石中より硫化砒を採集したる

爐あり、滴山水村の東に當る、東坡窿は蕭承欽により民國三年より雨頭岩は保益公司郭順福により經營せらる。

○臨武縣　香花嶺、雨金鄕、羊婆嶺、油冲里、獅子岺、鐵砂岩、塘頭凸、宇姿岺

香花嶺錫鑛

位置　臨武縣の北方十支里、桂陽縣城の南九十支里の所にあり、鑛山地方は一名桂嶺と稱せられ昔時桂多く開花の時季は香全嶺に播りしと云ひ此名あり、周圍は山嶽のみにして田畑なく、河は溪流にて舟楫の用をなさず。

地質ト鑛床　各山嶽は何れも石灰岩よりなり、底部は花崗岩よりなる大體に此れら二岩石は南北に走る接觸帶を有し香花嶺附近に東西に露出し鑛脈は重に東なる花崗岩より西の石灰岩に向つて延長す、鑛石は毒砂、黃鐵鑛を多量に含む錫石なり。

坑口　坑口の重なるは裕商、裕湘、裕國、裕興及裕昌あり、裕湘、裕國の二坑を除き他は殆ど價値なきものなり、以上は何れも官鑛局に屬するも民間の水晶坑は三丈餘あり鑛石なく美しき螢石を多量に產出す、天中窿は花崗岩中にあり黃鐵鑛を出す其他數個の坑口あれども大なるは一もなし。

製煉　前記の江華縣上伍堡に就て述べしと同方法にて製品は九七、八%の錫を含む、鑛山の經費每月三千元程にして錫は目下一噸餘の產額あるのみ故に每月二千元程の損失なりと云ふ。

運搬　鑛山附近は山高く溪流あれど大河なく運搬は陸路にして甚だ不便なり、大體三路あり、第一、山より嘉禾縣牛河に至る陸路四十支里、其れより小船にて衡州に下し衡州より大船にて各地に衡

州迄少くとも五日間を要す、第二、山より桂陽縣梔家灘へ陸路七十里、二日間此處より水路衡州へ三日間、第三、山より桂陽縣信陽渡へ陸路九十五支里、二日半、此處より小船にて二日半にて衡州に達す。

兩金鑛は歐炬烽に羊婆嶺は李毓鳳に油冲里は張廷輝により經營せらる、何れも香花嶺の附近なり、湖南省中、錫は江華縣の砂錫、臨武、耒陽縣のもの稍有名なり「湖南錫」と云へば大體此れらのものを指すが如し。

第八節　亞鉛鑛

○常寧縣　水口山（鉛鑛參照）

○江華縣　桂胔嶺

第九節　銻鑛

○湘潭縣　鴨頭山

○寧鄉縣　獅子嶺

魯嘉鈺により經營せらる。

○茶陵縣　金銀塔

○常寧縣　　千家凹

白沙市の東北十數支里の所、前記麻石嶺銅鑛の南四支里の處にあり二舊坑の德興窿なる一坑は深さ八百尺に達すと稱せらる、母岩は石灰岩にして輝安鑛を產出し隨伴鑛物として毒砂、黃鐵鑛多し。

○安仁縣　　乾塘坪、鳳祺

東興公司何鳳錤により宣統二年より稼行せらる。

○衡陽縣　　茄冲大寶山

○衡山縣　　石灣河

王東雲に依り民國三年に開かる。

○東安縣　　張家嶺、塹坤裏、老龍江、城墻石、白石洞

各所年產額百噸餘此の縣下の產額四百噸內外、（第二區域安質母尼產額參照）

○祁陽縣　　白菓塘、毛鎌堭

嚴仁昌により經營さる。

○寧遠縣　　大峽口

何南陵に民國三年より開かる。

○興寧（資興）縣　　長塔

楚連城により經營さる。

○桂陽縣　李家山、曹家山、野竹山、澹園、蘇子岺、劉家園、石腦山、毛頭岺、神仙塘、西鄉塘灣碻、自記寨

李家山、曹家山は數丁を隔たり、白沙市の西南約百支里餘非常なる交通不便の地にあり附近の稍大なる村は塘灣橋なり桂陽縣城は東南百支里の所にあり、鑛石は砂岩中にあり嘗て露天掘をなしたる大なる穴あり、野竹山、澹園蘇子嶺、劉泉園は白沙市より前記の李家山、曹家山へ行く中途にして白沙市より五十支里程の所にあり交通甚だ不便なり、母岩は何れも砂岩或は石灰岩にして舊坑のみなり、嘗て稼行當時と雖も其の產額實に微々たるものゝみなり、石腦山は年產額約百噸の山なり。

第十節　錳鑛

○醴陵縣　黃土坳山

莫雨田民國三年に開く。

○耒陽縣　沈斗冲

○常寧縣　長慥野

○桂陽縣　牌家橋

第十一節　タングステン鑛

○常寧縣　大義山東側

常寧縣碓臼冲の西方大義山脈の東側に花崗岩中に數寸の石英脈あり、嘗て金及び銅を採掘したりと稱せらる、此の石英脈の兩壁より狼鑛の植立するあり鑛量貧弱にして今の處にては價値少し嘗ては大倉組の鑛區の一部分なりし所。

第十二節　砒鑛

○攸　縣　狗遭衙、晉家山皂、森壇

陳惠濂民國三年より經營す。

○常寧縣　銅盆鎑、碓臼冲、石坡塘、獅形山

前者は王禹動後者は同名の銅山と同じ所にあり、鼎新公司の經營にして一日毒砂二十担より三十担を產出す、坑道は不規則なる竪坑にして深さ二百尺足らず。

場所は花崗岩と石灰岩の接觸帶にして花崗岩を去る二三十米突の地なり、鑛石は結晶質石灰岩中に塊狀或は脈狀をなして存在す、大さ直徑五六尺製煉には附近より產出する無煙炭を用ひ硫化砒をつくり搬出す。

○道　縣　野鷄尾、金獅嶺、東冲、中柴山

野鷄尾、金獅嶺は阜康公司李金殘により宣統二年より東沖は同和公司郭世德に中柴山は廖樹動に何れも民國元年より經營さる。

○臨武縣　香花嶺、羊婆嶺

○桂陽縣　橋下窿

美利公司陳昌壽の經營。

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○寧遠縣　魯觀河

第二節　陶土鑛

○醴陵縣

目下瓷を作るに用ひられ有名なり。

第三節　硫黃鑛

○攸　縣　狗漊街

○常寧縣　呉砂窿

○衡山縣　兎子塘

○郴　縣　吊鐘嶺、飯落堆、柿竹園、摩天嶺、中柴山（黄鐵鑛より採る）

吊鐘嶺、飯落堆は長盛公司湯東都に依り宣統三年より開かる。

○資興縣　楓樹下、猺岡山

富湘公司劉丙泰民國二年に開く。

○桂陽縣　大有窿

第四節　石墨鑛

○醴陵縣　天花臺

○湘潭縣　涵溪墩

○常寧縣　女城

恆興公司經營。

○祁陽縣　大承山

○郴　縣　飯堆嶺

○桂陽縣　珠嶺

王位南經營す。

第五節　石炭鑛

○寧郷縣　落伽山、淸溪葛家冲、靑湊伍家冲、谷塘坡、鐵史灣、癩子山、婁子冲、老牛廠麻托、里山塘、銀珠塘、復塘坡、皂山嶺對江坪、六斗冲、廿五都油棺崙、柏楊田安嘴崙、佃橫冲

○攸　縣　煤炭嘴、炭嵌

後者は富湘公司李鴻林民國二年に開く。

○醴陵縣　馬頭冲、東二區、花橋冲、豆田、長波、大屛山

馬頭冲は廣義公司劉復勝、東二區、花橋冲は蕭迪樓、豆田は寶善公司楊永泰經營す。

○湘潭縣　魯家隋、尖山峯、株州高家坪、十三都石壁山、龍坑冲、梨耙山

○長沙縣　顔家灣、九峯鎭漢塘坡

前者は厚源公司張福亭、後者は協利公司劉度隆の經營なり。

○瀏陽縣　三口謝家山、思存欄、將軍峽、塊基坑牛形、大和墈岩前山中

○清泉縣　敏稼冲、坳山、栗山坡

○常寧縣　大堡、樟山塘、振新、大塝坡、双獅嶺、洋泉馬嶺

大堡は水口山亞鉛鑛の上流百支里、水口山にては此處の炭を用ゆ、此の附近にては大なる炭山なり。

○耒陽縣　周家山

蕭策安の經營。

○酃　縣　牛欄坪

段添生の經營。

○衡陽縣　畔皂山、丁子塏、大江灣

華康公司曹鎭楚民國三年に開く。

○衡山縣　汝字二段、萬石山、荷塘山、十二都、石壁山、魯家隆、茫槌嶺、葛家嶺、彭田冲、龍坑冲、烟山、改坂嶺、茅錐嶺、鐵泥巴、梨耙山、兎子岩、早塘冲、柳樹塘

汝字二段萬石山は董季環、荷塘山は龍曉雲、十二都石壁山、湘益公司楊世傑、魯家隆は權記公司葛恕成、茫槌嶺は遠大公司林景藩、葛家嶺は顧邱林沈克剛、彭田坪は裕良公司朱樾亭、烟山改坂嶺は劉清安、茅錐嶺は曾照章、鐵泥巴は長發公司馮兆奎、梨耙山に崔炳藥の經營なり。

○祁陽縣　相子嶺、歐家衙、石頭排、太垊皂、密廠黎家坪、東家村、檀祠山、張家

嶺、塹冲裏、皐洞老、龍江、光龍江、石期山、黑山嶺、白馬田、高山嶺、茲源冲、荷業凹、南風凹白露頭、曾我嶺、龍井冲、虎形山、九龍山

桐子嶺は蕭夢熊、歐家衝は章拔萃、石頭排、陳嘉猷、太垷皀は蕭廷荃、窑廠黎家坪は萬家聲、東家村、檀神山は永祥公司王有祥の經營なり。

○東安縣　張家坳、塹冲裏、皐洞老龍江、石期山

○零陵縣　堡口橋胡家坳

○郴　縣　西風嶺、西鳳、東冲

○永興縣　蛇形山、月形山、黃牛冲、水壠裏、羊牯凸、山偏岩

蛇形山、月形山は李覲動、黃牛冲、水壠裏は寶泰公司徐振德、羊牯凸は唐克際、山偏岩は周士奇、何れも民國三年に開かる。

○嘉禾縣　車頭橋

李愛蓮の經營。

○臨陽縣　曲木山、萬花窿

○臨武縣　白沙岩

湖南省は全省殆ど石炭を產出せざる處なく、就中東南部湘江、耒江沿岸、西北部は沅江流域にして

「リヒトホーフエン」博士の說に依れば其の面積二萬一千方哩にして歐洲全體の炭鑛の廣袤二萬七百二十方哩に比すべく英國は一萬二千方哩なりと云はる然れども大部分は古來土人が慣用したる土法を用ひ別に新式の探炭方法を講ずるものなき故其の產額實に微々たるものにして支那地質調査所の調査に依れば每年約百五六十萬噸に過ぎざるべしと云はる、炭層は耒江炭田に屬する耒陽、常寧、祁陽縣下の東西に走り厚さ一尺內外時に三四尺に達するもの及び永州、桂陽、郴州、永興、興寧、桂東縣下の一尺より三尺迄の厚さにて同じく東西に走り唯、永興縣下にて南北に走る、宜章、臨武縣下の省の最も南にあるもの何れも石炭紀代の無煙炭を出す、次に湘江炭田に屬する茶陵、湘鄕、湘潭、醴陵縣下のものは東方に延び萍鄕炭田に續くものゝ如く湖南省東部炭田の主なるもの有煙炭を產出し前者と時代を異にするが如し省下に埋藏されをる炭量は約百七十億萬噸なりと云はる。

第六節　明礬鑛

○瀏陽縣

○耒陽縣

追　加

以上述べたる三區域以外に洞庭湖の東部岳州府下に多少鑛山あり、其內にも平江縣金鑛は支那にて有名なる金山なれば此れを擧ぐると同時に他の僅かのものを追加として記載す。

金　鑛

○岳陽（巴陵）縣

○平江縣　黄金洞、太平段姚花園

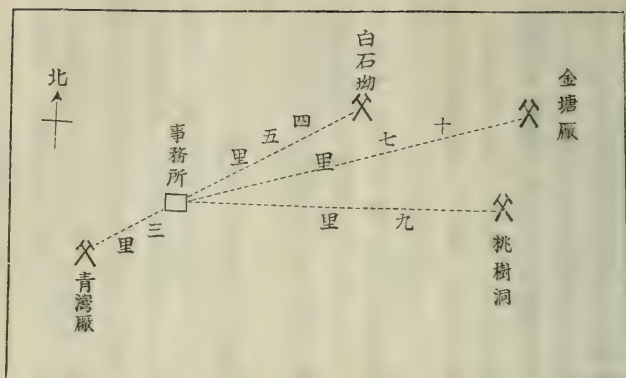
黄金洞金鑛

位置　平江縣城の東百三十支里の黄金洞と稱する山中にあり、江西省界に近し、湖南官鑛局經營なるも目下休止す。

鑛坑　金塘廠は事務所の東北十八支里の所にあり中間に橫嶺と名くる山あり。

樹桃洞は事務所の正東九支里の所金塘廠の西南にあり。

白石坳は事務所の東北五支里、靑灣廠は西方三支里の所にあり。

地勢　四圍群山環繞し數十支里の間平地なし只だ、西方二十支里の地點に長壽街と稱する處あり小河ありて平江縣を經て白魚磯にて湘江に會し北へ洞庭湖に入る增水期間は舟行の便あり、陸路は東へ橫嶺を越え金塘に至り其れより瀏陽に至る道路あり鑛山と金塘間は道路惡し、若し交通を便ならし

めんと欲せば長壽街及び金塘に至る二道を開通する必要あり。

鑛脈　鑛脈は其の數多けれども含金少く先づ百斤中一分の金を得らるゝと云ふ鑛質極めて不平均にて標準を定むること難し、鑛脈の傾斜は五十度より七十度の間にあり坑道は鑛脈に沿ひ轉折甚しく支那一流の狸掘りを行ふ坑水は竹製のポンプにて吸ひ上げ深きは幾段にも分ち數回に吸上ぐ。

金塘廠は嘗て約二百人の鑛夫あり坑道は斜に深さ八十丈に達し支道三十餘ヶ所あり支道の内大なるは謙脈及び坎脈にして何れも七十度の傾をなし謙脈は東に坎は東南に走る坑内水少く脈大にして作業に便なり、桃樹洞は約百五十人の鑛夫を使役せり、坑は南に向ひ斜に深さ五十丈に達し硫化鐵多きが如し。

白石坳は鑛夫百數名あり、主なる脈を周、張の二脈とす此の姓のもの、發見せりと云ふ坑道深さ三十餘丈に達す金塘廠に比し旺ならず。

青灣廠には數十人の鑛夫にて坑道の深さ五六十丈に達す目下水を以て滿たさる、全體にて約六百人の鑛夫ありたり、主なる機械としては

石油發動器　二臺（各二十馬力）　發電機　一臺（百二十アンペア）
曬鑛器　一臺　磨鑛器　二臺　等

運輸ト製煉　坑内にて採掘したる鑛石は大體撰鑛し撰鑛は竹箕に入れ坑外に搬出す、此れを碎き臼にてひき、粉鑛となし「板流し」にかけ金を陶汰す、粉鑛にするため毎百斤に付二百六十文を要す、得られたる金粉は坩堝製煉を行ひ精製す、嘗て產額多き時は毎月九十兩の金を得たりと云ふも近くは一ヶ月平均五兩に過ぎず本鑛は開鑛以來十餘年を經て今日迄に純金約二萬兩を產出したりと云ふ、機

械購入、獨逸技師招聘等に十數萬兩を投じ其他の缺損あり遂に中止し今日迄大なる發展を見ざりしは當地が交通不便の地に位し諸物價高く惹ひて鑛夫の賃金比較的高價なる爲めなり、然れども主なる原因は鑛脈の斷續常ならず稼行甚だ困難なると排水設備の不完全なる爲ならん。

湖南省下の金鑛は其の數前記の如く多けれど重なるは此の平江金鑛のみにして此れは支那有數の金山として知らるゝものゝ一なり目下甚しく不振の狀態にあり、唯近く靖州府下に有望なる金鑛發見せられたりとも云ふ。

銀鑛

○巴陵縣

鐵鑛

○平江縣　晉坑齊

○巴陵縣　東鎭炭坡嶺

許襄煥民國三年に開く。

○臨湘縣　盧家坡、丁家坡

鉛鑛

○臨湘縣　株樹鍋、廟坡、丁家坡、馬鞍山、乾港水溝嶺、杜家冲、斷山、銀水洞

株樹坡は合順公司蘇養浩宣統二年に廟坡は瑞昌公司鮑嵩太民國二年丁家坡、馬鞍山は裕利公司龔永祖民國二年、乾港水溝嶺は普利公司鄭兆蘭民國二年に開き、杜家冲は嘗て支那人開掘せしも目下中止す。

○平江縣　銀子潭、爐頭山

爐頭山鉛鑛

位置　岳州、長沙府及び江西袁州府の三界なる山脈中にあり交通甚だ不便なり、平江縣城は其の西々北百五十支里の所にあり汨水は西北五十支里の嘉義岑にあれとも舟楫の便なし、交通は山より西南五十支里の隴滸に至り水路二百四十支里長沙に達す。

地質ト鑛床　粘板岩、頁岩にして石英脈の露頭長三十間巾、四尺より十四五尺に達する南北に走るもの一脈あり、南部の福字窿にては四尺、北に錄字窿にて十一尺より十四五尺となる尚北方は斷層にて失はる、鑛石は此の脈中に塊をなし大なるは一個八十斤に達するものありたり、地下に進むに隨ひ閃亞鉛鑛を增す、分布甚だ不規則にて採鑛困難なり鑛石品位は

鉛 20.69　硅酸 68.92　硫酸 4.88　鐵 0.35　銀なし

但し鑛石は山にて撰鑛し長沙に送り此れは含鉛約七十五%位なり、亞鉛鑛の品位は

亞鉛 45.48　鉛 2.94　硫黃 5.57　硅酸 19.86

錫　鑛

○巴陵縣　炭坡嶺

富華公司胡暉吉民國三年に開く。

銻　鑛

○臨湘縣　白石頭、老龍江

洪麒民國三年に開く。

タングステン鑛

○巴陵縣　炭坡嶺

富華公司胡暉吉に依り開かるゝと云ふも確かならず。

石炭鑛

○平江縣　彭家園、石冲

○臨湘縣　龔家灣

廖光斗民國三年に開く。

第七章　四川省

四川省は中部支那の最西端に位し面積約五十六萬六千平方粁略、獨逸本國と大さを同うす、省の東は湖北、湖南に西は西藏、南は貴州雲南、北は陝西、甘肅、青海に界し四圍山嶽を以て包まれたる平均海拔一千尺餘の一大盆地なり、楊子江は省の東南を西々南より東々北に向て流れ此れに烏龍江、岷江、嘉陵江等盆地中を流がるゝ諸川合し長江の北部は平地なれども南方は高山脈蜿蜒として連るを以て雲南方面より省に入らんと欲せば一萬尺以上の峻嶺を越えざる可からず、又水路は楊子江唯一つあり此れを溯行するにも諸々に急流の難關あり、交通頗る不便の地方なり、四川省は以上の如く邊部の地方にありと雖も氣候溫和にして地味豐饒各種の農産物に富み、鑛産物に於ても亦決して他省に劣らず金鑛（砂鑛）鐵鑛、石炭有名にして其他鹽、石油は省の中央に湓出し鑛産地としても亦、支那有數の一省なり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○灌　縣　宋家灣（砂金）

○彭　縣　　　（砂金）

○簡陽（簡州）縣

○溫江縣

○崇寧縣　覇場

一ケ年の產額二萬兩に達す成都附近の有名なる金產地なり。

○江油縣

○平武縣

○安　縣　東北鄉　（砂金）

○懋功廳　沃日牌坊溝、屯郎射溝、撫邊屯、鷄哥嘴　（砂金）

○巴（重慶）縣　楊子江南岸海棠溪

○合川（合州）縣　（砂金）

○涪陵（涪州）縣　（砂金）

○榮昌縣

○大足縣

○萬　縣
○達　縣
○大竹縣
○忠(忠州)縣
○黔江縣
○鹽源縣　窪哀、新溝（砂金）
窪哀金鑛
光緒二十九年開坑し最初半官半民にて洋式を用ひ四川中唯一の新式開掘をなせしも其後遂に休止せり。
○冕寧縣　麻哈廠、礦刀塘、紫谷爪別、三岔河、挪姑山
麻哈金鑛は窪哀金鑛と同時に稼行せしもの。
○峨邊縣
○眉山縣
○瀘(瀘州)縣　中江水出

○仁壽縣

○蓬安(蓬州)縣　(砂金)

○劒閣(劒州)縣

○打箭爐　裏塘、巴塘、萬石坪　(砂金)

此等附近の河底より採集する砂金は四川省中最も有名なるものなり一ヶ年の産額全省の五分の一を占む四川省の産金地は到る處にあれど楊子江流域の砂金重なるものにして十分の九はこれなり、楊子江の上流は金沙江と名つけられ古來より支那の砂金地として有名なるも其他支流の岷江、安寧河、新瀧河附近にも産出し場所としては打箭爐、成都附近、嘉定府下地方なり、打箭爐を以て第一となす、一般に省の西方及び西北一帶の地は金を産し西藏方面より流出するに非ずやとの說あり、四川省の産金中には無論外藩人より交易によりて得たるものも含まれをれば全部四川省産と云ふを得ざるも約四萬兩(一百萬圓)毎年産出し內重なるは打箭爐の二萬兩、成都附近の一萬兩、壩場の二千兩、嘉定府下五千兩其他楊子江の沿岸に冬季水涸れし際、萬縣、重慶附近に採集するもの等なり。

第二節　銀鑛

○灌　縣　銀廠溝

○江油縣

○綿陽（綿州）縣

○蘆山縣

○天全縣　小連河、大穴頭、小茶園、銀廠坪

小茶園銀鑛

天全を去る六十五支里の所にあり十年前に開坑し目下休止す。

銀廠坪銀鑛

天全を去る二百四十支里の地にあり十數年前の開坑に係る目下坑内湛水し休止す坑道の深さ數百尺に達す、何れも鉛鑛より銀をとるものなり。

○鹽源縣

○會理縣　一碗水天寶山

宣統三年政府より十萬兩の資本を得て寶興銀鑛公司が經營せしものなり目下實業司の管下にあり嘗て明朝時代に採掘されし事ありと云ふ、含銀十萬分二・八の鑛石品位なり。

○越雟縣

○冕寧縣　大穴頭、魚施洞

天全を去る百支里の地にあり一日約百斤の鑛石を採掘すと云ふ。

○樂山縣
○高　縣　棉堡場
○內江縣
○雷波縣　小溝

銀鑛として今日迄知られし所は重に省の西部及び西南部の地なり然れども大なるもの一もなし。

第三節　水銀鑛

○平武縣
○茂　縣
○涪陵縣
○綦江縣
○黔江縣
○彭水縣
○西昌縣

〇天全縣

第四節　銅鑛

〇灌　縣　蓼葉坪、石笋坪、礦鐵溝

〇金堂縣　龍地坪

〇簡陽(簡州)縣

〇彭　縣　白水河、馬松岺、蒿枝坪、大風壕、大寶洞、大風灣、飛水岩、花梯子

白水河銅鑛

彭縣は成都の北五十支里の地にあり銅鑛を以て有名なり、宣統元年の頃銅鑛を初めて採掘し實業司より保護金を得我が國より技師を聘し稼行したり白水河には事務所及び製煉所あり、目下採鑛するは馬松岺、大寶洞、飛水岩及び花梯子にして馬松岺は白水河を去る六十支里二坑を有し大寶洞は花梯子の東南數丁の所目下坑内湛水のため中止し飛水岩は白水河を去る四十五支里四坑あり、花梯子は白水河より四十二支里三坑を有す鑛夫全體にて三百人餘あり鑛石の品位は平均含銅 9% なり。

蒿枝坪	銅	8.12	鐵	11.33	硫黄	11.76	等
大風壕	銅	9.92	鐵	22.77	硫黄	22.02	等

鑛床は片麻岩中に胚胎する鑛層狀のものにして鑛石は黃銅鑛なり、毎年約五十噸の精銅を得銅錢の

製造をなす四川第一の銅山なり。

○北川縣　銅 21.78　鐵 1.18

○綦江縣

○合川縣　三匯區華銀山

○萬　縣

○奉節縣　龍池坪

○盧山縣

○漢源(淸溪)縣　泥頭、牛市坡、戴黃溝、後聚壩、大平山、氷洞坪

泥頭は　銅 29.24,　銅 30.92,　牛市坡　銅 29.68,　戴黃溝　銅 1.63,　銅 8.57,　銅 14.28,
大平山　銅 0.74,　鐵 6.05,　後聚壩　銅 8.50,　銅 19.21,　銅 2.13,　氷洞坪　Cu. 15.04　等の
品位の鑛石を產出せり。

○榮經縣　後聚壩、代黃溝

前者　銅 9.71,　鐵 11.93,　後者　銅 8.73,　鐵 4.51　の鑛石を產出す。

○天全縣　前楊村、患山寺、銅廠溝、籠東大坪山、會龍山、趕羊村、杉木溝、劉家

溝、高陞廠、水坪、紫雲峽、冷陽溪、野牛擛、大川河

銅廠溝銅鑛

天全を去る九十支里の處にあり坑道は僅か十數尺を掘りたるのみ、鑛石の品位は　含銅 27.98　鐵 16.53 なり。

籠東大坪山銅鑛

天全を去る二百支里の地にあり、清朝時代に稼行せしもの鑛石の品位上等なりと云ふ然れども目下坑内には水を湛えて中止す。

會龍山銅鑛

天全を去る百九十支里の地にあり最初山崩れのため銅鑛脈露出し開掘せらるゝに至れり、鑛石良好なれど道路險惡にして交通不便なり、品位上鑛含銅 29.44% なり。

趕羊村銅鑛

天全を去る百九十支里の地にあり鑛石の性質可なりと云ふ分析結果　鐵 2.04　銅 13.77　なり。

杉木溝銅鑛

天全を去る二百十支里の地にあり數年前附近の土民により開鑛せらる、鑛石は　銅 12.97　鐵 3.22　なり。

劉家溝銅鑛

天全を去る二百三十支里の地にあり清時代に開鑛せられたるものなり鑛石品位　銅 13.94　鐵 14.08

なり。

高陞廠銅鑛

鑛石の品位惡しく彭水縣の銅鑛に似る採鑛甚だ易く已に四五萬斤の鑛石を出せり、目下中止す。

水坪銅鑛

天全を去る九十支里の地にあり鑛質可なりと云ふ未だ開かれず。

紫雪峽銅鑛

天全を去る九十支里の地にあり數年前大雨に際し鑛石の溪流に落下せしものありしより知らる未だ開坑せられず、品位　銅 58.67　硫黄 10.78　なり。

冷陽溪銅鑛

天全を去る百五支里の地にあり僅か採鑛せしのみにて中止す。

野牛埠銅鑛

鑛質は含銅約四%尚良鑛を得る見込ありと云はる、最上鑛は　銅 27.72　鐵 8.91 硫黄 11.06　なり。

大川河銅鑛

鑛質良好附近に炭坑あり未だ開鑛せられず。

○鹽源縣　新興、會川、水關箐、金桂銅廠

新興　銅 18.80　鐵 19.46 （孔雀石）　會川　銅 8.66　鐵 38.72　硫黄 35.37　金桂　銅 15.65　鐵 34.31　硫黄 33.36　等なり以上は縣下の最も大なる銅山なり。

○冕寧縣　前各灣、南岳溝、到角灣、南安溝、水箐溝
○越巂縣　碧鷄山、卭部南山天烏河
前者は銅山として大なるもの四川省の需要を滿たす事大なり。
○西昌縣
○會理縣
○洪雅縣　七里坪
○峨眉縣　萬年寺
○彭山縣　紫泥灣
○卭峽(卭州)縣
○屏山縣
○高　縣　得猨覇
○馬邊縣
○瀘　縣

○仁壽縣

○敍永縣　馬岺鎮

鑛石品位　銅 68.78　銅 38.19　等なり。

○雷波縣　白家寨子、涼山、毛垻子、小溝、巫拋廠、裸所坡

巫拋廠　銅 4.18　鐵 8.54　裸所坡　銅 47.45　等なり。

○中江縣　飛鳥銅山

銅鑛としては會理縣の東南、雲南省東川には有名なる銅山あり其の産額多くして嘗ては毎年北京政府に七八千担を送りし事ありと云ふ此の銅山の製煉は四川省に於て行はれ同時に東川縣に接する地方の銅鑛も共に製煉産出せらるゝなり、要するに此の附近は銅山最も多きが如し。

第五節　鐵鑛

○成都縣　附近

○平武縣

○茂　縣

○綦江縣　砍水、土冶場（赤鐵鑛）

砍水及び泥河沿岸は製鐵業盛なる地にして鍋の製造多し。

○大足縣　獅子山、茱子溝、興隆坊、宋家溝　（赤鐵鑛）

○涪陵縣

○巴　縣　接龍場

○南川縣

○壁山縣　陰陽溝、永興橋　（黃鐵鑛）

○合川縣

○江津縣

○銅梁縣　陽峽口、白馬山、尹家市

○開　縣　河堰口　（褐鐵鑛）

○雲陽縣

○巫山縣　蘇金坡　（黃鐵鑛）

○巫溪縣

貧鑛にして 20% に足らす。

○宜漢縣

○墊江縣　馬伸寺（褐鐵鑛）

○酆都縣

○梁山縣

○彭水縣　岩西、龍郷橋

○漢源(淸溪)縣　營防地、銀　溝、後聚壩、前聚溝・山後壩、段家溝、水碾河、楊柳店、黃泥堡、泗坪場、林口、新廟場、冷水河

鑛石の品位は　含鐵　35.52%,　16.19%,　35.71%,　13.67%,　14.28%,　26.00%,　34.95%,　11.66%,　32.15%,　24.36%,　37.47%,　27.77%　等なり。

○榮經縣

○天全縣　鐘靈郷、張村、黃家林、七路田、楠木園、高槽門、猪鼻岩、乾河、馬桑溝、張家灣、三坪、還茶園、馬牙山

鐘靈郷鐵鑛

水迫灣鐵鑛とも稱せられ褐鐵鑛を産出す場所は天全を去る九十五支里の地にあり含鐵 5 % にして

十年前開鑛し數年製錬せしも薪炭缺乏のため目下は中止す。

張村鐵鑛

天全を去る三十支里の地にあり十年前四人の合同にて水力を利用し利益を得しが革命戰爭後中止したり、此處には次の黄家林、七路田、張家灣の鑛石を取扱ひ居たり。

黄家林鐵鑛

天全より四十支里の地にあり、張村より二十支里、鑛石品位 40% と云はる。

七路田鐵鑛

天全より四十五支里、張村より二十支里、鑛石品位 40% と云ふ。

楠木園鐵鑛

天全より四十支里の地にあり、高槽門、猪鼻岩は五十支里を隔つ。

乾河鐵鑛

天全より四十七支里の地にあり、一日二千斤餘の鐵を得鑛石は馬桑溝、馬渡溪より來る。

馬桑溝鐵鑛

縣城より四十支里にあり馬渡溪に五十支里を隔つ。

張家灣鐵鑛

天全より四十支里、鑛石品位約 40% なり。

三坪鐵鑛

天全より五十支里。

還茶園鐵鑛

四十五支里を隔つ、馬牙山は三十支里なり。

○鹽源縣

○榮　縣

○洪雅縣　（赤鐵鑛）

○蒲江縣

○江安縣　砂礴（黃鐵鑛）

○資中縣

○敍永（永寧）縣　（赤鐵鑛）

○鄰水縣

○南江縣　江梁山（赤鐵鑛）

○巴中（巴州）縣　木洞

○廣元縣　三山堡（黃鐵鑛）

○通江縣　石子垻（黃鐵鑛）

○射洪縣

四川省内には鐵鑛豐富なれども交通不便のため充分の發展なし、北部は陝西より需要を仰ぐなり製鐵業の最も盛なる地方は重慶附近にして此れは製鹽業に要する釜を作るため又幸ひ此の附近には石炭を產出するが故なり。

第六節　鉛鑛

○灌　縣　天寶硐

○平武縣

○理藩縣

○松藩縣

○達　縣

○石硅縣

○酉陽縣

○漢源縣　富林場

含鉛 58.05% の鑛石を出すと云ふ。

○康足縣　打箭爐

○西昌縣

○越嶲縣

○會理縣

○冕寧縣

○鹽源縣

○天全縣　水銅溪、阿源郷、土地崗、小山子、鉛坪廠

鑛質は　鉛 66.95　銀 0.0181　硫黃 10.38　等なり。

小山子鉛鑛

天全より百支里の所にあり、十年前の開鑛に係る、鑛石は　鉛 25.36　亞鉛 3.41　鐵 2.58　等なり。

土地崗鉛鑛

天全より五十三支里、數年前開かる鑛石は　鉛 31.57　亞鉛 3.55　鐵 1.18　等なり。

鉛坪廠鉛鑛

天全より百十五支里の地にあり。

○劍閣縣

第七節　錫鑛

○平武縣

○綿陽縣

○奉節縣

○西昌縣

○資中縣

第八節　亞鉛鑛

○會理縣　古墳、易墳山

雲南省と相接し從來亞鉛の產地として注意せられし所なり各鑛夫千餘人を使用し省の直營にて一ケ

年に約四百噸を出す都て雲南に送ると云ふ。

○雷波縣　小溝

第九節　砒鑛

○酉陽縣

○鹽源縣

第十節　銻鑛

○巴(重慶府)縣

○秀山縣　促溪溝

湖南省に接し湖南に搬出せらる。

○天全縣　和源鄉、若筆山

四川省下には銻鑛の產地寡し、若筆山は天全を距る一百三十支里の同名鐵鑛中にありと云ふ。

非金屬鑛

第一節　琥珀鑛

○巫溪(大寧)縣
○巫山縣
○梁　縣
○大竹縣
○梁山縣

第二節　瑪瑙鑛

○樂山縣

第三節　硬玉鑛

○灌　縣
縣城の北二十哩、泯江の左岸より內地へ入ること八哩の處にあり、成都に送り種々細工に作る。

第四節　雲母鑛

○仁壽縣　盧宛揚

第五節　蠟石鑛

○叙永縣

第六節　滑石鑛

○仁壽縣　馬家溪

第七節　石綿鑛

○平武縣

○茂　縣

○雅安縣

○會理縣

○越嶲縣

○南江縣

○廣元縣　張家溝

第八節　硫黃鑛

○天全縣　大魚溪

○廣元縣　乾河堡

硫黃　3.05%

第九節　石炭鑛

○彭　縣　普然寺

○灌　縣

○綿竹縣　王屏山、九龍山、西山小溝

佛國シンジゲート保福公司經營。

○榮昌縣　許家山

○大足縣　東山、西山

固定炭素　57.51　揮發分　32.31　灰分　10.16　四合煤鑛公司經營。

○巴　縣　馬頸子、二馬門、大落迹、喩家泥、葉林溝、眞武山、金剛、二岩、蔴柳坪、

龍洞沱、井口、鷄冠、師家梁、千洞子峽、背培塲、下溪口、吳錫溪、風門埡

金剛炭

重慶を去る約百支里嘉陵江岸金剛牌に產出するものにして重慶に就て賣行きは後述の龍王炭に次ぐも品質下等にして硫黃分多く大塊少なし、山元にて百斤三仙なり。

二岩炭

重慶より六十支里同じく嘉陵江岸にあり山元にて百斤一仙四厘、炭質硫黃分多し。

蔴柳坪炭

金剛牌より十五支里を隔て重慶より百二三十支里、塊炭百斤一仙八厘なり。

龍洞沱炭

金剛牌の近くにあり老龍洞とも稱せらる塊炭百斤一仙五厘なり。

井口炭

井口塲より三十支里打鼓、峽廳及び銅炭廠の三炭坑あり。

鷄冠炭

僚葉溝に產す小河を去る十五支里附近には鶴蛋石庙炭坑あり。

師家梁炭

水土沱對岸にあり三黃溝とも稱す小河を去る二十支里なり。

千洞子峽炭

劉家場に產す。

背培場炭

三塊石、眛溝、沙灣の三炭坑あり小河を去る三十支里。

下溪口炭

黃匯溝及鑛廠溝の二坑あり小河を去る二十五支里。

吳　錫　炭

底洞及び峽子溝の二坑あり小河を去る二十五支里。

○銅梁縣

○綦江縣　㘲土

二疊紀の石炭あり。

○南川縣

綦江、南川縣下の炭層は厚さ七尺あるも品質劣等なり。

○江北縣　金鋼背、龍王洞、黃葛樹、草蓋子、江洞、松溪、樓梯溝

龍王洞炭坑

重慶を去る陸路百二十支里の地にあり最初外人採掘權を得て經營せしが後支那人二十二萬兩にて買收し江合煤公司を設立し經營す外人は約三萬兩を投じたるに過ぎずと云ふ、炭質良好にして四川炭中

第一位を占め松溪炭と雖も此れに及ばず李家山、千龍洞、鐵廠溝、大飛坑、丹洞廠の五坑あり内二坑は廢坑となる。骸炭となり古來此の附近に行はれし製鐵用に供せらる。

炭層 厚さ一尺五寸乃至一尺八寸なり、一坑より一日平均二十担を出し一年中秋季には產額多し。

運搬 坑外運搬には輕軌布設せられ坑内は七八百斤を容るゝ籠にて運搬す坑道の長さ五千尺に達し通風は人力により使用鑛夫二百人あり。

炭價 山元に一等每斤三文、二等二文、三等(粉)一文五厘。山元と重慶の運賃百斤二百六十文。

黃葛樹炭坑

重慶より九十支里の地にあり塊炭百斤一仙八分遂寧方面の楊利溪、大和鎭の製鹽工場に用ひらる硫黃分多し。

草蓋子炭坑

塊炭百斤三仙六分、俗に連礶と云はる。

江洞炭坑

塊炭百斤一仙八分。

松溪炭坑

龍王洞炭に次ぐ上等炭にして去壇庙に產出す重慶渡し每噸八兩半なり。

樓梯溝炭坑

龍王洞の東南に位し炭層は二疊紀三疊紀の石灰岩中にあり厚さ四尺乃至五尺のもの三層あり炭質多

少悪きも將來發展すべし。

○開　縣　麂子山、東路炭山、興隆灣、北路、樺頭嘴、堰塘灣

○奉節縣

○巫溪(大寧)縣　東官口、檀木樹林

兩者は大寧河に沿ひ兩岸にあり灰色石灰岩中に頁岩と共にあり河に向て傾斜す厚さ三四尺あり。

○萬　縣　大梁山

○城口縣　羊肝河、龍洞溝

○開江縣

○大竹縣　清溪舖

○梁　縣

○墊江縣　芋子溝、梅子閣、廖家溝、王家溝、双河口、白岩寺、福塘溝

○梁山縣　文家峴

○石硅縣

○彭水縣　茶園郷、細砂郷、長灘郷

○雅安縣　高岩

○榮經縣　黃泥舖

城縣より榮經川に沿ひ西南へ三十支里黃泥舖に至る間所々に無煙炭、有煙炭の二三尺の層あり。

○蘆山縣　淸源鄉

○天全縣　和源鄉

○鹽源縣

○越嶲縣

志留利亞系の無煙炭を產す品質劣等なり　固定炭素 53.38　揮發分 3.55　灰分 39.33

○會理縣

會理の東方にあり土人採炭す無煙炭なり。

○威遠縣

○峨眉縣　南西區

○犍爲縣

保福公經營。

○富順縣

○長寧縣

○南溪縣

○屏山縣

○隆昌縣　外山

○珙　縣　黄葛坪

○瀘　縣　苦竹溝、梭灘石、山溝頭、砂礄

○仁壽縣

○資陽縣

○叙永縣　脚箕垻、四方地、觀音山

○岳池縣

○南江縣

○昭化縣

縣の北に古生代石灰岩中に炭層あり。

○蒼溪縣

○遂寧縣

○安岳縣

四川省ト一ケ年の石炭産出額は約百萬噸にして其の埋藏量は百五十億萬噸なりと云はる。

第十節　石油土瀝青鑛

○江北縣

○華陽(成都)縣

○巴(重慶)縣　石油溝

石油溝石油鑛

重慶の南一日行程の地にありと云ふ、重油にして良質なりと云ふも湧水多くして採取すること能はずと云ふ大に疑問なり。

○樂山(嘉定)縣

○功峽(邛州)縣

○富順縣　自流井、貢井

此等二井は四川第一等の石油井なり、地表より二千尺の邊に油層あり。

自流井石油鑛

嘗て瑞西人、佛人、支那人合同經營を行はんとせしものなり。

○閬中(保寧)縣

○射洪縣　蓬萊鎭

蓬萊鎭石油鑛

涪江の上流五百支里の潼川府の中央にあり、石油井の數四十有餘深さ五百尺に達し天字井、地字井は出油最も多しと云ふも一井より一日四五斤に過ぎず。四川省の石油重慶と潼川(射洪)最も有名なり、成都附近の石油井は鹽を產出し他は石油が主なるも此の附近は鹽が重なるものなり、潼川產は輕油に富む、自流井よりは重油の多きものを產出す。

第十一節　鹽　鑛

○灌　縣　　每年產額二百二十萬斤

○簡陽縣

○綿陽縣　　九十九萬斤

○巴　縣

○壁山縣

○榮昌縣　五萬斤

○大足縣　四萬斤

○銅梁縣　一萬四千斤

○合川縣　五千四百斤

○雲陽縣　二千五百萬斤

○巫山縣

○萬　縣　十萬斤

○奉節縣　二百七十萬斤

○巫溪(大寧)縣　九百萬斤

○開　縣　二十萬斤

○大竹縣　一萬二千斤

○達　縣
○忠　縣　三十萬斤
○彭水縣　二百三十萬斤
○蘆山縣　五千百二十萬斤
○鹽源縣　百三十萬斤
○會理縣
○犍爲縣　土通橋　八千三百萬斤
○達盛縣
○樂山縣　五通橋
○威遠縣　六千斤
○彭山縣
○蒲江縣
○富順縣　自流井、貢井、小溪

二億七千四百萬斤、（榮縣と合して）。

自流井鹽鑛

四川省第一の製鹽地なり、既に秦朝時代より知られ鹽井を設けられしが如し自流井の製鹽家の云ふ所によれば當所の製鹽業は王、梅と云ふ者より傳へられ現に自流井に二人の廟あり、鑛産區域長さ十支里巾三支里に達す、鹽井の深さ千尺乃至三千尺に達す、此處の鹽は元岩鹽が地下水に溶解し此れを吸出するものにして時に岩鹽層に當る鹽層は二三層存在するが如し製鹽には鹽水と同時に噴出する瓦斯を燃料として用ゆ。

○長寧縣

○江安縣　黃家灣　三萬斤

○資中縣　三百萬斤

○資陽縣　三萬斤

○仁壽縣　三十萬斤

○井研縣　六百萬斤

○內江縣　十四萬斤

○西充縣　三萬斤

○南充縣　八萬斤
○閬中縣　五萬斤
○南部縣　九十萬斤
○蓬安縣　一萬二千斤
○遂寧縣　八萬斤
○射洪縣　七十二萬斤
○樂至縣　九十萬斤
○三台縣　二十四萬斤
○鹽亭縣　三十二萬斤
○中江縣　六十七萬斤
○蓬溪縣　三十七萬斤
○安岳縣　七十五萬斤

四川省內鑛業中最も旺盛を極むるは鹽鑛なり其の產額莫大にして四川全省の需要を滿たすのみなら

ず湖北、湖南、貴州等に輸出し年々産出増加し一ヶ年目下三十萬噸以上なり産地として有名なるは犍爲縣土通橋、富順縣自流井なり、其他數十個所あり到る處可成の産額あり鹽と共に石油を産出するは前記の如し。

第十二節　石膏鑛

○萬源(太平)縣

○雅安縣　坩城脚

○青神縣

第十三節　方解石鑛

○灌　縣　銀廠溝

○威遠縣

第十四節　硝石鑛

○茂　縣

○眉山縣　東館郷鷄兒井

○威遠縣

第三編　南部支那

第一章　福建省

福建省は南部支那の東北隅に位し、臺灣の四倍なる約十二萬平方粁の面積を有し北は浙江、江西に東は臺灣海峽を隔て、臺灣と南は一部分支那海と廣東に西は江西に界す、地勢數條の重なる山脈は省内を西南より東北に走り其れらの支脈ありて甚だしく複雜なる地勢をなし到る處山地にして平地少く僅か此れらの山脈を直角に橫切る閩江流域には平野開け各種の産物は此の河によりて搬出せらる鑛産物として重なるは鐵、石炭等なり、閩江域は交通比較的便なれば早くより開坑せられたり、石炭は江西、浙江界より建寧府に至る間に產出し鐵は福寧府下にあり龍岩州よりは石炭を產出す、何れも全く有望のものにあらず、每年閩江より出づる鐵の量は豐年に少きは農事に閑なき爲めなりと云ふ。鑛産地として江西、浙江に劣るなり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○福州府

○安溪縣　五郎山

五郎山は湖頭の西にあり金及び銀を產出すると稱せられ外人再三探險せしも未だに鑛業を始むるものなし、經營するに足らざるものなるか。

○上杭縣　鐘密金場

○建甌縣

○邵武府

第二節　銀鑛

○羅源縣

○長樂縣

○福淸縣

○連江縣

○閩淸縣

○福安縣

○寧德縣　十一都新興坑、二十都黃相、十七都寶豐、十八都寶瑞

○霞浦(福寧)縣　十八都黃海、黃社、玉林場
○福安縣　十六都劉洋銀坑、七都上坪
○寧化縣
○長汀縣
○龍岩州　青坑
○延平府　附近
○建安縣
○建陽縣
○浦城縣
○福和縣

第三節　銅鑛

○福寧縣　小葉、十八都玉林場
○寧德縣　十一都按岺、二十都車盃、二十四都地龍、十七都李家

○長汀縣

○南平縣

○尤溪縣

○沙　縣

○順昌縣

○建陽縣

○邵武縣

第四節　鐵鑛

○閩清縣　梅溪の上流十四都金砂

砂鐵にして銑鐵を製煉して農具及鍋を製す年産額三四千担、毎百斤三四元なり。

○古田縣　五墩附近、西洋

古田縣は閩江の上流三百支里の地にあり福州より水口迄二百支里は小蒸汽船の便あり二十時間にて達す此の地方一帯は花崗岩、石英斑岩、にて此の内に鐵鑛を有し所々に舊坑あり叉岩石の分解したる

ものゝ内には砂鐵多く五墩附近にて鐵を採集す、河中の砂鐵なり、西洋も同じく砂鐵にして縣城の東方十二支里の地にあり毎年の產額約四五千元に過ぎず鍋農具を造る以前は稍盛にして福州に輸出したりと云ふ一担の價格銀三元八十仙と云ふ。

○閩　縣

○永泰(福)縣

以上三縣は前二者の福州の東と西とを分轄したるもの、殆と同一の縣なり、此等地方には明朝時代に採掘せられしと傳へらる、舊坑あり嘗て米人調査し縣下の鑛量百七億五千萬屯ありと稱せり。

○羅源縣

○福安縣

○福寧(鼎)縣　州馬、銅盤、師姑洋、新嶴哥段、南坪北山、東山小塝鐵砂、大溪岺下等北峯院、牛皮灘、瀾灘、茶洋溪、二十二都仙地岡、四十都柄洋埕

○寧德縣　陽護山

○同安縣

○安溪縣　潘田、五閩山、虎沼山、雲斗、安海、大里、左槐、雲口、盤山

安溪縣下の鐵鑛は福建省の鑛產物中第一位に位するものなり、未だ開發せられず舊式の方法に依り

て製煉せられ其の產出額も微々たるものなり、其の產地は鑛量數千萬屯と稱せらる藩田附近の湖頭の西北上流、大里、左槐、雲口の各地と永春と界する盤山に產出し附近の劍口小横より輸出すと雖も往時の盛況なく日々衰運に傾きつゝあり、一ヶ年の產額約五十萬斤卽ち三百噸程なり、重に農具鍋等を造るに用ふ、交通不便なるため運賃を多く要し隨て不廉となる、鑛石製煉の方法は堅爐に鑛石と木炭（七割）を交る々々薄層となして裝入し鞴にて風を送り三晝夜にて生鐵を得、鑛石の七割なり尙ほ此の銑鐵を再び熔解して約九割の錬鐵となす故鑛石よりは六割三分を得らるゝ割合なり、爐は三囘より十囘の使用にたへ一囘の製煉に要する費用は三十四元なりと云ふ而し得る所の銑鐵は約千斤銀三十六元程なるが普通なりと云ふ、一ヶ年中春季は木炭不足なるため休業し秋期木炭の廉なる時に最も多く稼行せらる。

○德化縣　草詳鄉鐵水坑（磁鐵鑛）

○長汀縣

○寧化縣

○上杭縣

○龍溪縣　龍溪、昪尾

○漳浦縣　漳浦

○南靖縣　南靖

○龍岩縣　鳥塗、鐵爐、三杭象山

三杭象山には舊式の爐にて製煉し鍋農具を作る一ヶ年產額約六百噸なり運搬不便なり。

○沙　縣　天馬坑

○南平縣

○尤溪縣　二十八都、二十九都

砂鐵にして此れを製煉し農具鍋等を造る、價格一萬元(年產)に過ぎず。

○永安縣　林田

縣城の南五十支里の地にあり砂鐵にして之を桂口に出し銑鐵を作り農具鍋等となす年產五六萬貫なり。

○建甌(歐寧)縣　鐵門坑、大洞、小洞、仙人抱石、鐵舌、竹林格、鷲萍鳥、陳爐平、石獅崙、大塔崙

○松溪縣

縣下より砂鐵を產し同じく農具、鍋等の製造をなす一ヶ年の產額約二千擔なりと云ふ。

○邵武縣

第五節　鉛鑛

○閩清縣

○連江縣

○福寧縣　十八都玉林場、十坑洋島

○寧德縣　十一都新興、十五都八房後

○安溪縣　珍地鄉

○永春縣　肥地山、詳峇

○連城縣　梅花十八洞

○平和縣

○龍岩州

○延平府

第六節　錫鑛

○福清縣

○羅源縣
○長樂縣
○長汀縣

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○長樂縣
○琯頭芝山
○泉州府下
○漳浦縣　大帽山、梁山

第二節　陶土鑛

○閩淸縣　十四都墟坑

前記の地方にて粗陶器を製造す福州に輸出する產額一萬元廉價なる茶碗を主とす。

○徳化縣　後井、東頭、後所、トンチコーン、南岺

徳化燒と稱する陶器の產地は上記の如し製造地は縣城の東北三支里より十二三支里の間にあり、窰は山腹に築かる、原料は後井の東三支里の山頂より採掘したるものを水車にて舂き細末とし陶汰して用ゆ徳化燒一ヶ年の產額は七萬六千元なり。

○龍溪縣　仙都、珠塔、チユンキアン、福昌、シンチエー

北溪岸の新圩に搬出せらるゝ茶碗其他の粗陶器は南部福建の有數なる大產業なり、新圩に一ヶ年間に搬出せらるゝ陶器は約三十萬元にして其の主產地は上記の場所なり、此れらの產地は龍溪と安溪との境界にして搬出には一度北溪の上流なる華封に出て川を下り廈門に至る。

第三節　石炭鑛

○古田縣

○屛南縣　（褐炭）

○興化府　（無煙炭）

○安溪縣　五郎山、珍治鄉

○大田縣

○連城縣

縣城の北方清流縣に界し到る處に無煙炭を産出す縣城内にて販賣す百斤三十仙なり粉炭を粘土と混じ炭團となして使用す。

○海澄縣

○厦　門

南大武山

○龍岩州

龍岩、塔前、塔後、塔中、龍翻、身坑、角蛇頭、牛坑、牛岺、林山頭、龍門

龍岩炭田は東西百二十支里、巾六十支里の面積を有し龍岩盆地は其の中央にあり炭田は漳平、永定、上杭、連城の諸縣に跨るが如し北溪は炭田の東部を流る、炭層の重なるものは二層にして大體厚さ二尺乃至四尺なり今東部と西部とに分ちて述べんに東部牛坑は龍岩の東六支里の地にあり炭層は粘板岩、砂岩中にあり厚さ六尺あるも時に一尺に過ぎざることあり一定せず山頂、山腹を亂掘し採炭す炭層甚だ不規則なるもの炭質は粉炭のみにて其の産額僅かなり風恒岐、水龍潭、大吉及蘇邦に於ける炭層は此の連續なるが如し其の他牛潭と稱する所蘇邦の東北にあり厚さ四尺の炭層ありと云ふも炭質劣等なり、其他龍岩の東北漳平縣に接して合溪口、白沙地方にも炭坑あり。

次に西部炭田は牛岺にして汀州に行く道にあり無煙炭層の厚さ四五尺のものを採掘す塊炭多く炭質良好なり此の方面には牛岺に近き小池南に林山頭あり八支里を隔つ厚さ四尺の炭を掘るも炭質不可なり、更に南西に進み龍門に至る此處にも石炭を産出すれど黃鐵礦多き劣等炭なり、傾斜も亦急に

にして粉炭のみ、更に其の西南考堂庄、蓋頭に露出し遂に永定縣に入るなり、西部炭田は牛岺を除きて他は地層の變動のため多くは粉炭のみを出し而も炭質不可なり、何れも同一炭層なるが如し、目下全部合して一ヶ年の產額約二十萬担内外なりと云ふ運搬不便なるため販路挾く附近の需要を滿たすのみ豫定炭量は牛岺、林山頭間には四尺炭二層あり其の炭量約三百萬屯蓋頭永定縣間は此れの二倍にして六百萬屯以上は平地以上なれど地下千尺迄採炭すとすれば約兩者合して二千七百萬噸なりと云ふ。

炭質は分析の結果次の如し。

	固定炭素	揮發分	灰分
牛岺	85.63%	3.77%	5.43%
林山頭	72.57%	4.03%	18.22%
水龍潭	75.57%	3.99%	15.41%
大吉	85.01%	3.47%	6.38%
牛潭	68.87%	3.20%	22.68%

等なり。

○建甌(安)縣

○崇安縣　牛鳴潭、下梅、挾腰、張源壠

○建寧縣　梨山

建寧より延平に通ずる河流建寧より南十五支里にある中生層に屬する無煙炭にして明治三十年着手し、翌年坑内出水のため中止したり、採炭四百餘噸塊炭は六割を得たり、露頭は閩江の支流の内にあ

り砂岩頁岩中に夾在す、厚さ六尺内に夾みあり西へ四十五度の傾をなす、南側に梨山あり、高さ二千五百尺の平地より尙ほ高きこと二千尺なり炭坑の位置は川より餘り高からざる場所なれば大雨の際は河水の進入するの恐れあり。

○邵武縣　邵武

縣城より大溪を下ること十五支里其の右岸に「テヤオカン」と稱する所に雲明山と云ふ高さ河面より千四五百尺の山あり北の山腹に石炭坑あり土人採掘す邵武炭と稱する無煙炭なり光緒二十三年の開坑にして目下は官營にて鑛夫四五十名を使役す嘗て盛んなる當時一ヶ年に一萬二千噸を出せしことあり目下は二千噸餘、塊炭は福州に出し粉炭は地方の需要に滿す炭層は十三層あり、厚さ平均四尺なりと云はる。炭層は上部に白色砂岩下部に黑色頁岩を有す、邵武の東南十五支里の煤炭岩には炭層は一の向斜層をなし東西へ三十度程傾く厚さ八尺のもの一層を稼行するのみ、炭質良好の無煙炭にて硫黃少く分析の結果は

固定炭素 84.07%　揮發分 4.75%　灰分 4.30%　等なり。

第四節　鹽　鑛　（何れも海水より採るもの）

○長樂縣

○連江縣

○閩侯（官）縣
○寧德縣
○霞浦縣
○福安縣
○福鼎縣
○晉江縣
○同安縣
○惠安縣
○龍溪縣
○漳浦縣

第五節　明礬鑛

○福鼎縣

此の產地は礬山と稱し浙江省平陽縣に屬すと雖も福鼎縣界を去る數支里の地なり其の產額の四割は

福鼎縣沙埕灣前岐に來るなり、礬山は前岐より三十支里にして人家四百戸に過ぎざる村なれど明礬製造に從事する者を合算する時は人口二萬餘あり村の南方なる金鷄山、其の西北なる水尾山に明礬石あり明礬約五割を含む製造所三十二ヶ所あり年產四十萬担に達す四割は人背にて前岐に六割は同じく赤溪（平陽縣）即ち浙江省に出す赤溪は產地の東北三十五支里の地なり、明礬は結晶の大塊となし一塊五十斤より七十斤にて搬出し人夫二千人以上を使役す、此の明礬山は今より二百年前に開坑せられしものなるも未だ僅か表面を採掘したるに止まり尙多くの鑛量あるが如し、故に燃料に石炭を用ひ運搬方法を改良せば廉價となり大に需要を益すならんも目下甚しく不振の狀態にあり。

第六節　石材鑛

○泉州附近

○石碼地方

○廈門地方　打石坑

廈門地方は石材の產地にして外洋南洋方面及び我が臺灣にて多く使用せらる土木、建築用に供せられ岩種は花崗岩にして大體に三種に區別す藍御影、白御影、普通御影なり、藍御影は泉州附近、漳州には石碼、南太武地方より產出す白御影は泉州南安縣より出で重に建築用材なり一般に廣く使用せらるゝは打石坑の普通御影なり打石坑は廈門浪嶼の南二哩の地にあり坑區四十ヶ所以上あり。

第二章　廣東省

廣東省は南部支那の東南方、支那の最南に位し面積二十二萬五千平方粁を有す、東は福建及び支那海に、西は廣西及び佛領印度支那、南は支那海及び東京灣、北は江西及湖南に界し地勢一般に高原的なり、最大河の西江は西方廣西省より流れ來り此れに北方湖南より來る北江直角に交り、廣東附近には東より來る東江合して此の附近一帶は平地多く水運の便あり、鑛産物としては欽州の金、龍州の安質母尼、陽春、新興二縣下の鐵、連州、廣州の水銀は年約百萬斤を出すと云はる廣東には多くの錫細工を見るも此の原料は重に雲南、湖南、廣西及び海外より來るものなりと云ふ、鑛山として特に大なるもの未だなし。

金屬鑛

第一節　金鑛

○從化縣

○增城縣　黃麻塘、梨木潭、白石凸

○德慶縣

○四會縣　金岡山

○開建縣　涌流地方

○陽江縣　田畔墟三龍洞那料堡

○海南島

○儋　縣

○崖　縣

○萬寧縣

○合浦(廉州)府　宿和屯、畢廩塢、新墟

宿和屯は既に開鑛せらる。

第二節　銀　鑛

○番禺(廣東)縣

○靖遠縣

○香山縣　潭州

○東莞縣

○封川縣

○四會縣

○高要(肇慶)縣

○翁源縣

○英德縣

○樂昌縣

○曲江 韶州)縣

○連　縣

○惠陽(歸善)縣

○潮陽縣

○興寧縣

○廉江(石城)縣

○信宜縣

○化　縣
○海南島
○寶安(花)縣　鴉髻峇
○陽春縣
○陽江縣　南津銀坑山
明朝萬歷時代に稼行せしと云ふ。
○崖　縣
○萬寧縣

第三節　水銀鑛

○連　縣
○番禺縣
此等二縣下より出ずる量は前者約一萬鑵、後者は六百鑵にして一鑵は約五十斤入なり。

第四節　銅　鑛

○番禺(廣東)縣
○高要(肇慶)縣
○曲江縣
○連　縣　連山、陽山
○欽　縣　板城屯單、八角灣、北振山

第五節　鐵　鑛

○從化縣　北方良口
○寶安(新安)縣
○清遠縣
○東莞縣　寶山
○番禺縣
○香山縣
○高要縣

○新興縣
○雲浮（東安）縣
○英德縣　婆髻岑
○仁化縣
○陽山縣　沿坑山　（磁鐵鑛）
○連山縣　桂陽山、連山
○紫金（永安）縣　寶山漳
○平遠縣　東石鄉鳳髻山
○興寧縣　官田鐵山漳、石馬墟
○梅（嘉應）縣　石正墟
○化　縣
○陽春縣　鐵坑山、芙蓉

廣東省中著名の鐵山にて產額も多し。

○陽江縣　梅峒山

○欽　縣　八角灣、黃茅岺、王官山、牛軛岺　（赤鐵鑛）

第六節　鉛　鑛

○清遠縣　和六鄉、日灣　（前者含鉛　60%）

○寶安（新安）縣　白石塘、沙魚涌、西路靈山

鉛 65.00%　銀 0.116%　硫黃 10.49%　等。

○龍門縣　銀壺堂山

○從化縣　大岺山

○鶴山縣　龍坑

○高要縣　崩岡、六步司坑下　（後者含鉛　56%）

○欝南（西寧）縣

○英德縣　大甕涌、大牛洞　（前者含鉛　70%）

○曲江縣　銀江岺　（含鉛　20%）

○陽山縣

○紫金（永安）縣　月角約、黃花約、康和約（縣下産は塗料として每年五六十萬斤を出す）

○揭陽縣　鷄籠老山

○梅　縣　銀石溪

鉛 53.68%　硫黃 8.29%　等なり。

○陽春縣　芙蓉山

第七節　錫鑛

○寶安（新安）縣　元朗

九廣鐵道粉嶺驛の西々南十五支里の所に錫鑛發見せられたりと云ふ同所は英國租借地内なり。

○雲浮（東安）縣　錫山寨

○曲江縣

○新豐縣

○海豐縣

○河源縣

○惠陽(歸善)縣
○紫金(永安)縣　龍窩錫寨
縣城の西方六十支里の所にある高き山なり。
○揭陽縣　黄境坷、囘批坷、錫坑
何れも陳撘非の經營。
○五華(長樂)縣
○陽春縣　石祿山、豺狗崗
前者は何蔚煌後者は吳隷元の經營なり。

第八節　亞鉛鑛

○從化縣

第九節　銻鑛

○淸遠縣
○始興縣

○乳源縣

○曲江縣　大瀝山、獵利山、添子岑、馬鞍山、獺老頂山、曹洞場

獺老頂　銻 62.76%　硫黃 24.69%　曹洞場　銻 44.42%硫黃 17.77%

○定安縣

○防城縣　東興牛扼嶺

非金屬鑛

第一節　瑪瑙鑛

○潮州府

第二節　水晶鑛

○番禺(廣東)縣

第三節　硅砂鑛

○海南島

○番禺縣

○廉州府下

第四節　陶土鑛

○梅（嘉應）縣

第五節　雲母鑛

○番禺縣

第六節　硫黄鑛

○豐順縣

第七節　黑鉛鑛

○始興縣　南郷

縣城の南五支里の小溪にあり。

○英德縣　黄茅峽𡾰梅岺

○海南島

○昌江(化)縣

第八節　石炭鑛

○寶安(花)縣　裏瀝、老虎頭、下山、煤嶺、西嶺、象山脚

○增城縣　牛牯嶂

○番萬縣　慕德里司屬夏芳鄉

○新興縣　兩峰山

○鬱南(西寧)縣　西山

○曲江縣　丹竹坑、媒杆廠、大王涌嶺、山蕉洞、崩岡嶺、西水、東水煤山水廠地方、火食嶺、煤炭庄

西水炭坑

資本金六萬元を以て協興煤鑛公司に依つて經營せらる炭層は七尺乃至十尺のもの一枚三尺乃至六尺のもの一枚合計二枚にして目下一日百數十噸の出炭あり廣東に搬出す炭質は　固定炭素 60.9%　揮發分 20.7%　硫黄 0.2%　灰分 17.6%　等なり、炭量一千百萬噸と稱せらる。

其他煤炭庄は曲江の西北三十支里の地にあり石灰岩上に砂岩粘板岩あり東南へ二十度より十五度の傾をなす厚さ一尺乃至五尺の炭層四五枚あり、有煙炭にして可成の出炭ありと云ふ。

○乳源縣　坪石、官村

○陽山縣　大陂坑、塘峪嶺、桂子冲、丹小江大坪、平頭嶺、馬犀寨

○興寧縣　四望障　（無煙炭）

○梅　縣　西坑　（同　上）

○陽春縣　潭潦岡

固定炭素 77.23%　揮發分 13.66%　灰分 9.10%　等。

○欽　縣　那彭、平吉、石頭埠、捻子平

第九節　石油鑛

○始興縣

第十節　鹽　鑛　（何れも海水より採るものならん）

○新會縣

○東莞縣
○海豐縣
○惠陽(歸善)縣
○潮陽縣
○揭陽縣
○陽江縣

第二章　廣西省

廣西省は南部支那の南部卽ち支那の南にして面積二十萬平方粁、東は廣東、西は雲南、南は佛領印度支那、北は貴州湖南に界す、地勢四方山脈を以て圍まれたる一大盆地にして西北より東南に向て多く傾斜し中部には中生層よりなる僅かの丘陵あるも所謂廣西盆地と稱するは此れなり。

鑛產物としては未だ世に知らるゝものなく、僅か金鑛として桂林、樂平府下のもの炭坑として樂平府賀縣のもの極めて微々たるもの知らるゝのみ、此れ未だ鑛產物に對して調査不充分なる爲めなり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○賓陽（賓州）縣
○上林縣
○横（横州）縣
○馬平縣
○融　縣
○懷集縣　金星尾、東安司、安平司、金鷄山、黎老、涌北卡水、篠縣（砂金）
○貴　縣　天平山
○桂林縣
○平樂縣
○昭平縣　（砂金もあり）
○茘浦縣
○蒙山（永安州）縣　（砂金もあり）

○融　縣　（砂金）

○來賓縣

○遷江縣

○百色廳　恩陽分州

○天保縣

○宜山縣　（砂金もあり）

○崇善縣

第二節　銀　鑛

○横（横州）縣

○貴　縣　三叉山、大小天平山

縣城の西北十八哩振華實業公司の經營なり小天平山は海拔千三百米の處に製煉所及事務所あり、脈數十二、數寸より數尺にして長さ二千尺に達するものあり大天平山に續くと云ふ。

○桂林縣

○茘浦縣
○馬平縣
○賀　縣　照潭、萑木山、尖山嶺
○富川縣
○南丹縣　孟英山
○河池縣

第三節　水銀鑛

○桂林縣
○宜山縣

第四節　銅　鑛

○桂平縣
○鬱林縣
○桂林縣

○賀　縣　楠山
○宜山縣
○思恩縣
○天保縣　向武（土州）

第五節　鐵　鑛

○武鳴縣
○岑溪縣
○容　縣
○桂平縣
○鬱林縣
○北流縣
○桂林縣
○灌陽縣

○賀　縣　桂嶺、五嶺（縣下に最多し）

○融　縣

○思恩縣

○崇善縣

第六節　鉛鑛及亞鉛鑛

○上林縣

○上思縣　馬尾嶺

○貴　縣　三叉山

○昭平縣　富州、昭潭

前記富賀官鑛局經營すと云ふ。

○平樂縣

第七節　錫　鑛

○賀　縣　馮乘、臨賀

賀縣の錫鑛は富賀官鑛局の經營にして姑婆山を中心として數百支里の間なる砂錫なり。其の產額

民國一年	165.747 斤	三萬七千兩
同　二年	479.546 斤	七萬三千兩
同　三年（上半）	377.990 斤	六萬千兩

なり、重に香港に出す。

○昭平縣　富州

○富川縣　猺族

東西七十七支里、南北百支里に亙る鑛床ありと云ふ。

○河池縣　南丹

万興鑛務公司、慶雲公司經營す。

第八節　錦鑛

○賓陽縣

○隆安縣

○南寧縣

○古化(永寧)縣
○天保縣
○宜山縣
○河池縣
○天河縣
○凌雲縣
○奉義縣（方安鑛 Sb_2O_3 を出す）
○崇善縣

第九節　砒鑛

○平樂縣
○富川縣
○貴　縣　三叉山

非金屬鑛

第一節　水晶鑛

○百色廳

第二節　粘土鑛

○百色廳　獅子山後

純白粉狀にして酒瓶を作ると云ふ。

第三節　石綿鑛

○馬平縣

○融　縣

第四節　硫黃鑛

○宜山縣

○天河縣

天河尙義公司經營す。

第五節　石炭鑛

○南寧縣

○懷集(悟州)縣　三岳山

○賀　縣　西灣大嶺

富川縣の炭坑と共に富賀官鑛局にて經營せらる下の如く賀縣の炭層は有望なるも賀江水淺くして舟楫の便なし、一噸の採炭費銀三弗五十仙廣東迄の運賃銀四弗五十仙なりと云ふ。

大峇に於ける炭層は九枚あり第一、三尺、第二、二尺、第三、五尺七寸、第六、一尺五寸、第七、四尺、第八、八尺、第九、三尺にして一日の出炭量約二十噸なりと云ふ。

○富川縣

○蒙山(永安州)縣

○百色廳

第四章　貴州省

貴州省は南部支那の中央北部に位し面積約十一萬四千方粁、東は湖南に、西は雲南、南は廣西、北

は四川省に界し、地勢西南より東北に走る二山脈省内を通過し一般に高原的にして大なる平地なく僅か貴陽の平原あるのみ、氣候不順にして地味豐饒ならず農産地としての價値寡し、鑛産物としては銅仁縣下の水銀稍有名なるも他に重なるものを聞かず要之に廣西省と同じく未だ充分なる調査を經ざればなり。

金屬鑛

第一節　金鑛

○桐梓縣
○銅仁縣

第二節　銀鑛

○貴陽縣
○遵義縣
○銅仁縣
○印江縣

○威寧縣

第三節　水銀鑛

○紫江(開州)縣

○平越縣

○銅仁縣　省溪万山鄉

省溪万山鄉水銀鑛

縣城より陸路六十支里にして戸數約一千戸あり萬山鄉は省溪より三支里にして戸數約二千何れも水銀取扱業者のみなり。

鑛山は採掘容易にして何等政府の承諾を求むるにあらず隨意に從事し最初二百餘元を投ずれば日々二三斤づゝの水銀を得るは難きにあらず水銀相場は大正四年四五月の頃每斤五千文と稱するも一千五百文迄下ることあり、一月頃は每斤二千七八百文なりしと云ふ此れを輸出せんには稅金一斤に付百二十文、銅仁縣迄の運賃每斤十文、常德(湖南)に搬出するに百廿文、漢口へ送るに稅金其他凡てにて五百六十文故に漢口渡し每斤三千七八百文なり、(三弗足らず)每年の產額約八十萬磅なり。

○婺川縣

○石阡縣

○普定縣
○普安縣
○黔西縣

第四節　銅　鑛

○銅仁縣
○威寧縣
省下にて産額最も多しと云はる然れども交通不便なり。

第五節　鐵　鑛

○仁懷縣
○獨山縣　平黃山
○黎平縣
○銅仁縣
○思（思州）縣　東鄉龍塘山

○清溪縣
○印江縣
○德化（安化）縣
○石阡縣
○威寧縣

第六節　錫　鑛

○威寧縣

第七節　鉛　鑛

○鑪山（清平）縣　香爐山
○都勻縣　東鄉
○銅仁縣　楙淨山
○思（思州）縣　龍塘山　（城の東）
○威寧縣　陳家溝

分析の結果　鉛 50.64　銀 0.0044　硫黄 7.85　等。

○畢節縣

第八節　銻鑛

○銅仁縣　青龍洞、楚淨山
○思（思州）縣
○松桃縣
○威寧縣

第九節　砒鑛

○桐梓縣
○郎岱縣
○興義縣

非金屬鑛

○印江縣

第一節　玉　鑛

第二節　水晶鑛

○普定(安順)縣

紫水晶も產出す。

第三節　陶土鑛

○綏陽縣

第四節　雲母鑛

○平遠縣　霧山

佛國資本になる大羅公司經營す。

第五節　石綿鑛

○水城縣

第六節　石炭鑛

○貴陽縣

炭質　固定炭素 72.33　揮發分 18.88　灰分 5.84　等。

○桐梓縣

縣の北に二三尺の炭層あり炭質は　固定炭素 70.51　揮發分 12.19　灰分 13.14　等なり。

○勺都縣

○印江縣

○普定(安順)縣

炭質　固定炭素 73.49　揮發分 10.46　灰分 13.36　等。

○關嶺(永寧)縣

○安南縣

○威寧縣

縣城の東部にあり雲南省東川縣に連る炭層の厚さ三尺より五尺なり。

炭質は　固定炭素 72.60　揮發分 22.48　灰分 3.80　等なり。

○畢節縣

炭質　固定炭素 79.00　揮發分 9.95　灰分 8.80　等。

○貞豐縣

第七節　硝石鑛

第五章　雲南省

雲南省は南部支那の西部に位し面積三十八萬平方粁を有し四川に次ぐ大なる省なり、東は貴州廣西、西は緬甸、南は佛領印度支那、北は四川省に界し海拔平均五千尺の高原なり、山脈は南北に走り地形は大なる波狀をなす、一般に西北方に向ふに隨て土地高く地質は大部分火成岩と石灰岩、粘板岩、砂岩、頁岩よりなる、古來鑛產地として有名なる省なり、銅、錫は最もよく知られ石炭、金、銀、鉛、鐵、亞鉛も亦寡からず然れども交通、運搬の不便、土民尙ほ風水の迷心ありて事業を妨害し未だ充分なる開發の氣運に向はず、其の狀態も亦明かならず。

金屬鑛

第一節　金鑛

○金沙江沿岸　維西、田甸、麗江、永江

四縣は砂金を產するを以て有名なり。

○昆明(雲南)縣
○祿豐縣　河門廠　(砂金)
○東川(會澤)縣
○文山(開化)縣
○他郎縣
○普洱縣　猛洒、麻栗林
○思茅縣
○新平縣　困立河
○元江縣　板別　(縣城を去る百四十支里)
○永平縣　金廠河、博南南界
　西山の南三十支里の瀾滄江沿岸　(砂金)
○騰衝縣　金龍箐、冷水箐、魁閣、南甸
○鳳儀(趙)縣　双馬槽
○龍陵縣　潞江沿岸　(砂金)

○馬關(安平)縣　馬固村、老廠、安樂(城の東百三十支里)、花枝革𣓪子地(城の南十支里)、東錫板(關を去る百三十支里)、大坦塘(城の東百三十支里)、碓尾巴(城の東百二十支里)、理明硐(城の東百三十支里)、老胡坡、馬拉冲洪磁(城の東四十支里)、漫瓦(城の東百支里)、老𥕦寨(城の西百支里)、鴨子箐

馬固村は縣城の北五十支里の石灰岩中の石英脈にて山金、砂金兩者を産す、老廠は片麻岩中にあるものが砂金となりしもの往時は隆盛を極めしも目下殆ど廢山となる。

○雲南縣　金廠箐(城を去る二十五支里)

○雲陵(太和)縣　養山、蓮花峯、花甸、佛頂峯

○鶴慶縣　炭窰(城を去る百十支里)

○永北縣

○姚安縣

○大姚縣　秀水河(城を去る九十支里)、苴鄉一帶

○保山縣　溫筏河、潞江

省內には山金より砂金の方、產額多し。

第二節　銀鑛

○昆明(雲南)縣
○安寧縣　溫水塘　(城の西百支里)
○武定縣
○元謀縣　虎跳潭
○曲靖(南寧)縣
○霑益州　北山寺後象鼻嶺
○永川府　鑛山廠
○尋甸縣　納家箐(城の西北七十五支里)、妥託(城の西北八十支里)
○東川(會澤)縣　白牛廠、巧家廠、湯丹廠、茂祿廠、披憂、魚硐、白馬廠、兩綠、牛角山、紅石岩、長箐、新寨、大寶廠、寶興廠、鑛山廠、忠順里鑛山、麒麟銀廠、團箐九臺廠

白牛廠は銀鑛山として古來より有名なる所なり。

○巧家縣　大銀廠、双龍廠、朵子地、棉花地、江外廠門口、湯丹廠、茂祿廠

○魯甸縣　樂馬廠

嘗て大規模の經營をなせし事あり。

○鎮雄縣　銀廠溝、花路溝、銀廠坦

○彝良縣　觀音山

○楚雄縣　三渡河哨永盛廠（城を去る二百四十支里）、黄草廠（城を去る二百八十支里）、羅磨哨天倉廠（城を去る二百二十支里）、碧鳰哨新隆廠（城を去る百六十支里）

○摩芻（南安）縣　石羊廠（城を去る二百四十支里）、馬龍廠（城を去る七十支里）、野牛廠（城を去る百七十支里）

○牟定（遠）縣　馬豆地、鮓梅阱

○箇舊縣　銀硐、老銀硐

○馬關（安平）縣　都龍街銀廠、三寶廠、戞達廠、革鴉、大三家、南丹、歩忙溝、猛忙沿河

都龍街銀廠は火山岩中の石英脈を探掘し舊坑二三あり。

○師宗縣　太和卿
○普洱縣　東門山、灣腰村（城を去る九十支里）
○元江縣　牛尾巴冲（城を去る百支里）、三鹿村（城を去る四百二十支里）、大竹箐（城を去る六十支里）
○文山縣　白牛廠
○騰衝縣　猛卯、盞連、西練、干崖、獅子山、淡灘隘、六合廠、大同廠、志山頂
○保山縣　椅子山、孟官營渡西山
○永平縣　三道溝、募迺、邦發、
募迺は乾隆年間に開鑛せられ一時非常なる旺盛を極めしが亂匪のため衰微し殆ど人の問ふものなき有樣なりしが近く思茅縣の商人裕眞銀鑛公司を創立し經營を始めたり。
○鳳儀（趙）縣　三里箐（城の東南三十支里）
○賓川縣　白象騾子硐
○雲南縣　溪花硐（城より二十支里）
○龍陵縣　芒市、猛戛、白水寨、三江口、孟節山、六寨志哇藤、雲弄峯

○雲龍縣　瓦夏

○鄧川縣　懷寶山の市坪里

○鶴慶縣　北衙廠、

○蒙化縣　歪角廠

○永北縣　東昇廠

○鎭南縣　河雄郷、苴力舖、臘梅庄

○姚安縣　會隆廠

○大姚縣　直苴（城より九十支里）、廠門劒泉（城より九十支里）

○雲　縣　東郷三河泥革

○順寧縣　湧金廠（城より六十支里）、七臺坡廠（城より六十支里）、塘房廠（城より六十支里）、黄吉慶廠（城より二百四十支里）、鮓蓬廠（城より七十支里）、白馬廠（城より百十支里）、鴻興廠（城より二百支里）、永發廠（城より百八十支里）、大樹庄廠（城より三百支里）

○南安縣

第三節　水銀鑛

○普洱縣　那圏（城より八十支里）
○騰衝縣　古勇
○永平縣　西里
○鳳儀（趙）縣

第四節　銅鑛

○昆明（雲南）縣　三支鍋、板橋堡、三支鍋下寶興廠、打鑛山即七個象、大蘇堡沙村井

寶興廠は興業公司の經營にして年產八萬斤、七個象は雲昌公司の經營年產四十萬斤と稱す。

○祿豐縣　石灰壩、打鑛山、白象硐
○富民縣　黃土坡、大營村、沙口寺、李家村、楊梅山、代柯箐、双龍潭、清水河、老清山、核桃箐、逍家村、老偏山（縣城東三十支里）
○宜良縣　二龍戲珠双龍廠、黃保村、大発成廠
○羅次縣　南區可里郎龍潭山、上廠、下廠、北區大美橋山、大美橋小串樓、北區塘子

心、可里郎冲村小尖山、龍潭山、塘子心、熱窩灣上桐、熱窩灣下桐、孝母山大箐廠、孝母山小核桃箐、孝母山大寨箐、孝母山象鼻岺箐、小新山胡家庄、小新山花溝山

○安寧縣　義都廠、阿臘廠、子母廠、拉咱箐、龍馬山斑鳩鎮、黑土廠、五子山、松林村、鵓鴿廠、放馬坪、大青山（城東十五支里）

○易門縣　獅山鳳山、大潦塘、白石頭、新山、馬乾田、小尖山、大紅山、老煤山、逐賊哨、牛肩山、起哨、老廠、永發廠、萬年硐、大慶硐、副馬硐、必成硐、青龍硐、六合硐、大轉塘、皇姑硐、三家銅廠、萬寶廠、洪發廠、燈塘、香樹廠、新寶硐、同寶興硐、同吉旺硐、營寶廠、綠礦硐

萬寶廠は前清乾隆三十六年に開かれ目下年產三十萬斤あり。

香樹廠は鑛質良好にして品位　銅 45.73　鐵 9.65　硫黄 19.81　等のものを出す。

○昆陽縣　天寶廠

○嵩明縣　日足里九龍冲、金馬里腰站、邵內大小尖山、邵外甸頭村、金烏廠

○武定縣　迤那廠、獅子口、舊山箐、金鐘罩、大麥地、平地廠、深溝箐、龍潭箐、鵝頭廠、湯郎境、大寶廠、九廠境、插甸境、勒品鄉、鵝得廠

○祿勸縣　猪欄門、双龍潭、元寶山、馬櫻山、泥岔、金平子、蜘蛛山、牛坑、多那、施期廠、馬英山、紅罩山、獅子尾、鳳尾山、有沽廠

双龍潭の鑛石　銅 32.50　鐵 27.57　硫黄 31.85

○元謀縣　小丙巷村、大已保、猛令溝、小羅岔村、英戸村、虎跳、海螺村、猓山廠、阿猓山

○陸良(凉)縣　西郷小喇得、黄鑛坡

○尋甸縣　發古廠、双龍村、長冲箐、横溝、他箐村、楊梅山、鳳梧山、應鐘廠、他踏箐

發古廠は年産二三十萬斤、双龍村は一萬斤、横溝は三千斤、楊梅山は二千斤餘なり。
鳳梧山は縣城の東北八支里、應鐘廠は西南六十支里、他踏箐は西方百二十支里の所にあり。

○宣威縣　西沖、倘塘、馬場、銅廠溝、大灣地、龍口廠、平頂山、西區迤那小廠、東區順五中小鎮雄、北區月亮箐、皂衛三尖溝、皂衛山後、着期法戞、月亮田法撒黎子樹、得祿廠、消塘、施猓阿

得祿廠の鑛石は　銅 50.23　鐵 0.52　（孔雀石）なり。露天掘をなし鑛石は貴州省城に送り製煉す。

○霑益縣　小井村、蔑關、大板村、荷葉廠、渫水溝、大山沖、卡機廠、蔑蘭廠、小水

井、羊腸營滋龍村、迤勒里村、張家松山、箐口老母硐、板積東爪凹、鷄蛋山、白龍山、麻塘地、隔浪河新山及後斗山

〇羅平縣　獨栗樹、里采坡、山河也村後哈馬鑛山、増多村山、楊梅山大法我、花山大迫于、大箐安色白、老鴬岩安色白、竹箐坡山舌、門前坡維雅、牛坡阿果得、村側竹林坡阿者、土城坡上路分馬蟻墳

〇平彝縣　色則村、鑾岡山、豫順鬪、曹家庄、四學庄、壩沖、大了口、鑾岡山裏面、堔沖廠、外山口、白馬山、段家地、麒麟廠、羅木廠、黑石頭、天祐硐、卑浙、板藉山、羊毛箐廠、後所廠、雲龍山、七道水竹箐、紫泉箐、三台坡廠、上五營、蛤蟆廠、大坡廠

〇東川縣　鑛山、茂碌、茂租、崇禮鄉大興廠、豐樂里六合銅廠、忠順、豐樂交界地蓋盛德銅廠、敦仁鄉銅廠箐、扯戞廠、豐樂區三甲新寨銅廠、盃河廠、大碓廠、龍寶廠、多寶廠、小米山、大水溝廠、聯興廠、茂麓廠、普膩廠、忠順里銅廠坡、向化里寶台廠、興隆廠、聚寶山、觀音山、大風岺山、杉木箐廠、大寨廠、紫午坡廠、大箐獅子山、三家塘、猴子坡、安樂箐、牛欄江、双龍廠、治布、双水溝、施家村、馬豆子、小竹箐、新寨、花椒園、采園子、嘩家道坡、水爐河、豐裕廠、大興廠、長岺子、金牛廠、猴岩、札

塘、興發村

最後の三ヶ所よりは方解石と共に自然銅を產出す、母岩は東西に走り南へ二三十度の傾をなす粘板岩なり時に自然銀を出すことあり縣城の東北に位す。

○巧家縣　鐵廠、四塊土廠、向化里湯丹廠、白錫臘廠、膏粮地、牛廠坪、銅廠、崖壩、新大紅廠、永現廠、菩薩下新廠、二台坡廠、砂包石、杉樹坪、三根橋、小銅廠、大絲箐廠、楊家村廠、毛春樹廠、錢家坪、乾溝廠、倘塘廠、老新山、小山腦、竹子箐、靑龍廠、大石棚、新開、倮溝、大水廠、沫子山、涼山二十一地、觀音山、聚寶山、龍寶廠、興隆廠、迤西渠、大豐廠、白鶴廠、多樂廠、善祥廠、撻宵廠、寶源廠、大江銅廠、老王山、乾溝、龍頭坡、外官村、杉木箐

東川銅鑛

東川府下の銅鑛は大體次の五區に分たる卽ち湯丹、落雪、因民、茂麓及び鐵廠なり。

湯丹廠ノ位置　東川城の西北百五十支里の所にあり、白錫蜡と稱する鑛區は二千九百米突餘の高所にあり一の盆地にして人家稠密にして人口約一萬あり、鑛夫約千人あり。

鑛區　湯丹は現今最も盛なる鑛山にして新山、老新山、白錫蜡の三鑛區に分れ白錫蜡は嘗て多量の斑銅鑛を產出したりと云ふ、富三硐、裕民硐、富民下硐、鷄冠硐等の坑口此の附近にあり。

新山は湯丹廠中最近に發展したる重要なる鑛區にして白蜡錫の東にあり、鑛夫二百人を使役し日々

一萬斤の鑛石を得、五福硐、新山硐、小龍潭、下茶園、深溝、杜家溝、大札溝、紅墕溝、石照壁、小山腦、上桃源、豆渣洞、小新山等の小鑛區此の内にあり。

老新山は上硐、中硐、下硐の三坑あり、牛興硐、竹子箐、涼風臺、老明礄、螺絲街、小山腦、新札溝、小木橋、大石棚、龍寶山、水穴、水坪子、腰帶硝、絲石棚、濫泥坪、黃鑛山等あり。

落雪廠ノ位置　湯丹の西北八十支里にあり湯丹に次で大なるものなり因民へは十五支里、茂麓へ八十支里にして因民に最も近し落雪村は落雪溪に臨み海拔三千米突の位置にあり人口約二千内六百人は鑛夫なり、冬季は寒氣強く雪多き故此の名あり、鑛區は老山、老後山主なるもの其他天寶山あり村の西北に小龍山あり、北に寶源山あり通風硐、金鑾殿の二坑あり、老山は大財硐、石天棚、三合硖、啞吧山、萬金洞、萬寶硐、吊脚樓、大峭、老後山等あり、老後山は寶源山の後にあり白墕硐、大鑛硖等の鑛坑あり。

茂麓廠ノ位置　各廠中最も西北にあり縣城を去る二百五十支里、湯丹より百六十支里、因民より七十支里、落雪より八十支里なり、交通不便の地なり目下鑛夫三百人餘あり、氣候は夏氣酷熱なりと云ふ。

鑛區　鑛區は金江に沿ひ新山、中山、稀岬硐、帽盒山、錄墩、多牛洞、四採樹、綠石、普呼山等の鑛區あり。

因民廠ノ位置　東川より百六十支里、湯丹より十八支里、落雪より十五支里、茂麓より五十支里なり、因民は落雪、茂麓と二等邊三角形をなし南北邊は因民落雪にして老山、老新山、寶源山此の線中にあり因民は人口約一千あり鑛夫は約三百人にすぎず。

鑛區　小溝口、後山、老新山、月亮硐、沫子山、彎刀山、中山、人站石、天生糖、高梁地等あり。

地形及地質　湯丹、落雪、因民、茂麓及び鐵廠中、鐵廠（鉛鑛參照）は四川との界に近き楊子江上流の西岸にあるも他は楊子江と其の支流の小江との間にあり東川府の東南の地なり、地形は雲南、四川を界するは大岑山の南なる羅南山脈にして此の山脈は北々東より南々西に走り東側は急斜をなす地質は高所は二疊紀及上部石炭紀の砂石、粘板岩、石灰岩よりなる、而して西方に傾斜をなすも長江に近くに隨て多くの走向斷層によつて切られ又火成岩の噴出ありて岩石變質し此處に多數の不規則なる黄銅鑛の小脈あり鐵廠を中心として二十ヶ所以上稼行せらる、凡て長江の西側にあり、河床より二千尺海拔は一萬尺に達す長江と小江との分水岑は南に於て高く大水山風茂岑等あり、岩石は砂岩、頁岩及石灰岩あり斑糲岩にて貫かれ斑糲岩は鑛脈と密接の關係あるが如し、鑛床の或るものは粘板岩中にありて成層鑛床をなすものあり。

鑛床　銅鑛脈は變質砂岩及頁岩と石灰岩中にあり主として粘板岩中にあるもの八割を占む、湯丹、落雪、因民の三主要地の鑛脈は何れも粘板岩中にあり最大なるものは湯丹にて湯丹には重晶石と共に不規則なる塊狀なし多數の炭酸銅を混す村に近く便宜なる位置にあり東川全體の四割五分以上を産出す、目下鑛夫二千人餘あり落雪、因民は斑銅鑛、硫化銅にて巾四尺より數寸のものあり石英を伴ふ只品位良好なる個所のみ稼行せらる、鐵廠と茂麓は同じく硫化銅と石英と混ずる鑛石を出し一般に貧鑛なり、鐵廠には鐵を産出するも數ふる程のものにあらず。

近況　革命後此の銅山は雲南の有となり精銅は北京に送らず八十五％粗銅を一擔十六兩にて商人より官吏は買取り精製して一擔三十兩に賣り大に利益を收めたり、千九百十二年には壹萬四千坦を賣

りたりと云ふ。千九百十三年四月より十二月に至る産額は

湯丹	5.057.68 担	因民	2.018.15 担	落雪	1.074.00 担	鐵廠	763.58 担	茂麓	607.95 担
其他	349.96 担	舊鑛滓	230.67 担	合計	10.101.99 担				

以上は含銅 65%—90%，粗銅にて鐵廠は最惡平均 85% なり、一担の生産費及諸掛は

採鑛粗銅製煉請負賃	16.4 兩	東川への運賃	0.8 兩	精煉費	1.4 兩
精煉の減量	1.64 兩	管理費	0.74 兩	株利子	0.109 兩
稅金	0.85 兩	合計	21.939 兩		

今日改良の急務は新式操業なり鑛量は數個の竪坑にて見るに石灰岩中に不規則にあるも大なるは二十五尺の巾あり大水より勒勸の方面に向て走る長さ六七キロの鑛帶あり、湯丹に近き石灰岩中にも東西に走る數尺の脈あり品位低き鑛石を出す、茂麓は變質岩中にあり良好ならず、今日の土法にては何れも湧水通風のため大困難をなしつゝあり。

東川縣より各所への距離は、勒勸百八十支里、大水百九十支里、茂麓二百五十支里、鐵廠二百四十支里なり、鑛石運賃は平均一担七十支里三十仙、東川へ平均八十仙なり、東川重慶間千七百八十支里大部分は水利あり、運賃一担約五兩なれば漢口迄は六兩餘にして生産費廉なれば充分引合ふなり、然れども銅山地方は良質の石炭なきは大なる缺點なり目下山元にて石炭より木炭の方反て安價なるが如し然し動力として水力を應用し發電所を設くるは困難にあらず。

○永善縣　小岩坊廠、鷄窩多跳塘又ハ銅廠河、補伍郷、梅子沱

小岩坊は乾隆年間に開かれ官山にして目下年産二萬斤、梅子沱は同じく乾隆年間開採年産三四萬

斤、補伍郷は照永公司の經營。

○大關縣　鄧家溝、大關郷四甲銅厥溝、桃家溝、人老山廠、箭竹塘、豆沙郷牛欄溝、芹采場、大關郷二甲日多曜坪

以上の内古きは乾隆年間、次には光緒、宣統年間に開かれしも何れも年産一萬斤内外なり。

○魯甸縣　石龍河、唐家溝、樂馬廠、香木山

樂馬廠は乾隆十八年の開鑛目下年産二三萬斤。

○珂陽縣　士文、熱水河、一砂水、馬雙箐、鑛廠箐、聯發廠、寶興廠、興發廠、同興廠、

士文は縣城の東五十支里にあり南恒公司經營す、一砂水は東方五十支里、馬雙箐、鑛廠箐は縣城の東北四十支里の地にあり。

○休納縣　沙壩沖、峩牙山

何れも年産一千斤内外あり。

○路南縣　園桿山、卜草村老旺場、東區路美邑双唐塘、大樂臺舊石城坡廠、三家村、鴨子塘、大阿易林、清水塘、所角邑、上卜草村、紅坡、豆里村、阿紫龍、小色多母鷄廠、三道溝、東寶廠、黑鑛廠、老新廠、金馬廠、青士廠、波羅黑、小交廠、寶源廠、小老廠、鳳凰山、老鷹窩、老旺山、大興廠、紫龍廠、双塘山、尖山廠、小紫龍廠、園坡

廠、上卜草村線礦硐場、羊撾廠、銅砂廠、老興廠、乾塘廠、小龍廠、小興廠、鍋盖廠、象牙廠、鍋龍廠、白馬廠、紅石岩、控礦廠、鴨子塘村元新廠、泰來廠、羊屎廠、草卜廠、左列、水尾村、堵宜、鷄灣河、獅子山、大駕革、路則村、元新廠、來福村控礦廠、石峽子廠、竹山廠

紅坡、鳳凰山、紅石岩、元新廠は各年産額一萬斤内外なり。

竹山廠の鑛石は　銅 61.69　鐵 4.92　硫黄 20.55　等なり。

○徵江縣　清平鄉土文獅子山　（年産約八千斤）

○江川縣　古場、獅子硐（城より西二十支里）、大發硐（城より西二十支里）

○鎭雄縣　頭道河、紅岩

○摩芻(南安)縣　藤子箐（城より百七十支里）

○楚雄縣　自雄哨（城より二百九十支里）、凹舌哨（城より二百支里）、三渡河哨（城より百九十支里）

○廣通縣　北區火把箐、老山箐、南區大箐口

○牟定(遠)縣　青龍、廻龍、高山、寨子、得祿、秀春、黛石

○建水縣　建水、日新廠、大發塢後歪頭山、狗街銅山、銅廠河邊、五台山

○嶍峩縣　馬廠山、閻家坡岺後、歪頭山、義都廠、老衡寨、山後廠、木作龍北夆鮓、

義都廠は年產三四十萬斤あり。

○阿迷縣　他女自後山、果克

○石屏縣　本梳扇、海懦、婆羅山

○蒙自縣　金釵地

○文山縣　老龍箐、者囊廠、龍邑廠

者囊は年產二十二萬斤餘、龍邑一萬斤。

○馬關(安平)縣　舊銅山、銅街

○廣西縣　西北鄉大硝、下西鄉鳳落梧尖山

○師宗縣　南區小干童、南區山潮村、南區鴨子塘、大哨、小務童村老尖山、鴨子塘轉坡

○彌勒縣　莫助、双石岩廠

○師宗縣　志尖坡、花冲山

○思茅縣　乾溝、白馬蠻丹（銀、亞鉛產も出す）

○永康縣　鳳尾戸

○普洱縣　左邊山、仙人譚（城より百七十支里）、聘空、南英箐（城より九十支里）、白龍、蚌弄山（城より四十支里）、會連、洩坡（城より二百十支里）、孟連山、蚌坪村、連大山（城より七十支里）、把邊聘空（城ヨリ百六十支里）、

○他郎縣　馬市梁子

○新平縣　打黑山、樂却、東村

○元江縣　猛仰山、黄龍廠、白龍廠（城より七十支里）、火龍廠、靑龍廠（城より七十支里）、老新廠（城より七十支里）、江龍廠（城より七十支里）、老鳥山、大黑山、東鄕牛尾巴冲、漠仰廠（城より七十支里）、志武山（城より七十支里）

○瀾滄（鎭邊）縣　寶興廠、長發坡

○景東縣　三岔河、考倉左戸矖矖山、猪街塘、圏棠圏郡巍打產阱、南區戞里白玉岺、猛統鄕者後回世、鐵河三家村脚、有後里回生、路東街後老阱花阱、花佛山長箐

○麗江縣　八寶山亮逹米松平子、羅尋洞、四十里箐、老君山、里白水、東三里武都村、廻龍廠、瓦烈羅、黑白水、香各里、次山、南山里南山、刺宅里花廳邑、江東里高軒井、

江東里六合、江東里大發廠、其大里耻可獨、刺宅里鳳科廠、大河廠、東元廠、大保廠、北地坪廠、河西新龍廠、西備羅廠、白馬廠、東坡廠、熱水塘廠、孟槇古、江西里氣屋、大其里里泉、金龍廠、永寶廠、洞廠、洪家窩、奇峯廠、得勝廠、日勝廠、氷與廠、高山廠、浪都村廠

○維西縣　炭瓦廠、剌巴廠、臘善洛、臘他洛、神門多、大寶山、喇普村、陰套村、太乙山、亥哨村、甸古村、猓大村、喇白村、石門馱、臘美洛、洛朱洛紅石崖、康普老爐房、後山坡喇日、玉不底呵哺多、札木底後山誠心廠

○劍川縣　華叢山、（年産五萬斤）、水磨箐

○鶴慶縣　大水阱、熟地山、南區阿臘河、東區馮家阱（城より百四十支里）、龍子坪山、小後山、洪家窩山、三渡中窩（城より百四十支里）、中村後山、臯公廟北牛坪、芹菜場、吉菜場、西區龍門舍山（城より百二十支里）、白草羅山、奇峯口銅廠（城より百五十八支里）、白草羅（城より百支里）、四十里棚（城より百二十支里）、茶山阱（城より百二十支里）、三家村（城より百支里）、銷碪廠（城より百支里）、北衞後山、爐房溝、大灣山後、九峯山、眠龍山、大阱溝（城より百六十支里）、金溝垻（城より百七十支里）、海西（城より

百三十支里）

○中甸縣　得寶廠、安南山、廻龍山、浪市廠、西林廠、浪部廠、道郭廠

○保山縣　戶蒜、肆洪、桃核坪、北山上哨公山、包家山、甕宮山、劉家山、大圍山、羅漢山、白鷄蘷山、窑易田、沙河廠、北沖中岺岡、牛灣擔、猪食箐、五邑清水溝、遇羊路、杉楊窑場田、關外鄉東安山頭、阿坡羅漢、双河廠、双龍廠、大荒田、銅廠河、大田垻

○鎭康縣　五家寨小坪掌、小河濱、麻栗坪、送歸

○永平縣　蘇屯約、青陽鑛、鑛箐廠、泉來廠、花橋約、東山、河西約寶興廠、犬象廠、冷水溝、瓦舍山、長建里、老新、羅漢山、戶蒜、肆洪、核桃坪、双河、邂放、禾木樹

○騰衝縣　安庫山、朧川、李家山、西區官山靑岩、大西煉靑岩山、南甸土司、靑岩廠

○賓川縣　皮廳、馬鹿塘、平川銅賓、賓東官坡、南區猛統里、南澗、河頭、邦帛、盆山、郡班明、廻龍廠、寶源廠、芭蕉箐、寶興洞、響水箐、排營廠

○龍陵（大理）縣　上區五臺峰

○鄧川縣　張波羅山、寅塘里、崇上里

○雲南縣　松子哨、箐子塲廠、金牛山、寶源銅廠(城より四十五支里)、銅廠箐(城より四十支里)

○雲龍縣　白羊廠、師里、榮里、勳里、西北鄉白草山、大麥地廠、上江鄉鐵門開毛草山

○鳳儀(趙)縣　泰國山(城より南三十支里)

○龍陵縣　遮放、禾木樹、芒市土司地、三家樹、老鑛山、堵敦廠

○蒙化縣　落水廠、土綠麻廠、獨木廠、山後箐、自石崖、南澗街、老君廠、窑馬郎、窑里底、大佛山、六瓢山、新興鄉山後阱、龍潭村

○華坪縣　河門口(城より東百十支里)

○永北縣　大寶廠(城より百十支里)、得寶老廠(城より九十六支里)、得寶新廠(城より八十支里)、晒席地(城より百六十支里)、銅廠河、木耳坪東成廠、裕寶廠、松坪廠

得寶新廠	銅 26.62	鐵 34.69	硫黄 36.46　等。
大寶廠	銅 39.24	鐵 12.85	等。

○姚安縣　元寶山、拉巴山、上官廠、憂々皮廠、石者河廠、三臺山、拉鮓塵、膩姑山、

新田山、多批壓、青牛廠、三臺廠、老廠馬鹿廠拉巴

○大姚縣　北界双龍山、老輝東、北界六直摩阿直斯後山、新廠、西木村、東郷秀春山（城より九十支里）、東志廠（城より百支里）、素昂堵（城より百支里）、木卡拉（城より五十支里）、舊小春廠（城より九十支里）

老輝東の鑛石は　銅 58.17　鐵 7.67　硫黄 21.35　等なり。

○鎮南縣　羅家村、豹子山、阿雄郷、發孔山、朧梅庄

○雲　縣　打黑庄、打黑庄寶興廠、仁和硐、獨家村、六合村山後銅廠。後山村、大綠崖、蠻綠村、小箐河、小溪、欄馬甲、蘆房河、黑箐綠石黑崖、李家田庄、復興硐、鴻開塡、天生塡、東銅廠、老硐銅廠、西就硐、逢源硐、億中硐、東區樂邦東、寶興廠、恒豊硐、三合村、馬鹿塘、溫崩村

○順寧縣　爐塘山、寧臺山、瓦屋上、咫尺路山、阿路山（城より二百四十支里）、寶竹林山（城より三百支里）、瓦屋思度（城より三百支里）、卡屋廠、靈臺、大寶山、水洩銅廠（城より五百二十支里）、蕎塘廠、寧臺銅廠、大興銅廠、阿令廠、鏻水里銅產河、篪屋陳廠（城より三百支里）

第五節　鐵鑛

○安寧縣　邵官屯廠、迷傘箐(城より百支里)。八街(城より百十支里)、河底村(城より南六十支里)、七凸山(城東)

○易門縣

○昆陽縣　牛脚跡山、冷水箐

○昆明縣　滇池

○祿豐縣　祿表地

○晉寧縣　石將軍山

○嶍峨縣　山後廠、岔拉、羅納、摩棲黑、老魯關、水晶廠、紅石岩、榮里廠、野馬廠、他達廠(粘板岩中にあり)

○尋甸縣　鐵箐溝、双箐

鐵箐溝は縣城の東六十支里、双箐は北七十支里の所にあり。

○羅平縣　西北兩鄉、磁山大阿舍

○東川(會澤)縣　兩緣鐵廠、黄梨樹、火紅、頭道河、大水塘

○巧家縣　巧家廠、岩塡、冷塡溝　銅鑛と共に產出す。

○東川縣　碌山、鑛山廠、麒麟廠、岔河、苞谷箐、興發廠

鑛山廠ノ位置　縣城の東百二十支里交通便なり、海拔一千九百米突にて人家二百餘戶あり、目下三百餘名の鑛夫あり、最初明朝時代に開鑛せられしもの後に淸の咸豐年間に最も隆盛を極めしと云ふ光緒十五六年頃再興し現に每月精鉛十萬斤、銀一千兩、精亞鉛十一萬斤を出すと云ふ。

鑛區　白鑛山と云ふ露天掘の所あり昔より重要の地にして多くの舊坑あり、其他打斷山等あり、坑道としては大撑子の裕國及興寶の二坑あり。

○昭通縣　長發洞

○魯甸縣　樂馬廠、大佛山、龍頭山

樂馬廠は縣の西北に位し最も大なる鑛山にして主なる舊坑五個あり大さ高さ六尺橫七八尺の地下千尺に達するものあり、附近には非常に多くの舊坑今尙存在す。

○河陽縣　大樹成

○彝良縣　木梳灣、龍街、銀爐河塡、洗沙河、奶扯、中朋子、新場、龍海、小河灘、大橋担子、粉壁岩、寶龍廠、大河塡、老鷹岩、廣東廠

○鎭雄縣　小朱地、大木坪、板橋、七道河、大灣、灰路、麻窩、瓦橋、茅黃樓、林口、

馬蟻溝、鐵廠溝、黃連溝、新分、唐家溝、身挨挪、豆憂寨、大坪子、三發貢、母宮、苗子橋、布之垻、三鍋庄、田灣、口袋溝、安尾垻、札石溝、宗家坳、放楸垻、天池、天棚寨

○牟定(遠)縣　大灣山、石膏玉、羊舊河

○迷水(臨安)縣　象山廠

○蒙自縣　個舊龍樹脚

○馬關(安平)縣　白牛廠、火山(城より百四十支里)、寶地(城より二百支里)、達報箐

(城去西七十支里)

○普洱縣　馬鞍山(城より百支里)、松了塘(城より百三十支里)

○騰衝縣　阿幸屯、沙喇箐、水箐、鎮灘隘

○永平縣　漾濞、東山、四甲

○保山縣　東山、官乃山、大田垻

○龍陵縣　四甲

○師宗縣　遍山、揚武垻、憂洒垻

〇新平縣　魯魁山廠
〇雲龍縣　榮里廠
〇龍陵(太和)縣　三北谷
〇雲南縣　鐵窖箐（城より八十支里）
〇鶴慶縣　挖茶寺（城より百十支里）
〇劍川縣　麻栗箐
〇鎭南縣　永寧鄉、臘梅庄、河雄鄉
〇大姚縣　塔底（城より九十支里）
〇雲　縣　阿維山
〇順寧縣　大安廠（城より百八十支里）、平坡廠（城より百八十支里）、陣家爐廠（城より百八十支里）、黄竹林廠（城より百八十支里）、大河邊（城より百八十支里）、九道河廠（城より二百四十支里）、袁家爐廠（城より七十支里）、立貴廠（城より百八十支里）

第六節　鉛鑛

○安寧縣　苗茂鉛廠
○羅平縣　老君山
○尋甸縣　簝耳箐、法安哨
前者は城の西南百二十支里、後者は西北百六十支里にあり。
○路南縣　竹山廠
○楚雄縣　馬龍廠
○彝良縣　洗沙河、奶扯、中朋子、新場、龍海、小河溝、大橋塡子、粉壁岩、寶龍廠、大河塡、老鷹岩、廣東廠
○元謀縣
○祿勸縣
○東川縣　苞谷箐
○巧家縣　水磨房、老君山
○永北縣　北角塡
○雲南縣　帽山麓

○騰衝縣　界頭、鴻發廠

第七節　錫鑛

○蒙自縣　個舊廠、老廠、金釵、大溝、馬拉格、峽石龍、洪珙洞、黃泥洞、仙人洞、蛤螞井、天寶硐、五分硐、紅蔬硐、老城門硐、天生塘、耗子廠、坳頭閔家上下硐、蜂子硐、財神硐、連發硐、小城門硐、牛坡、皷山、申家田

個舊錫山は南滇第一の錫山にして開鑛三百年前目下個舊錫鑛鑛務公司經營す、今より三十年前回々敎徒の襲撃を受け事業を一時中止せしが其後再開し以後二十年間に大なる發展をなせり、山は雲南鐵道壁蝨寨驛を去る百餘支里の地にあり交通不便なり、鑛床は石灰岩上にある沖積層中にあり長さ我三四十里に續くも鑛質0.3%位にして極めて貧鑛なり位置は個舊より二千數百尺高き所にあり其の土砂を水にて洗ひ約二十より四十%位の粗鑛を得、再撰し五十%より九十五%鑛石品位のものを得るなれば支那の如き水の少き地特にかゝる高所に水を得ることは極めて困難なる仕事なり、元來此の鑛床は石灰岩中に小脈をなして存在せしものが風化して生ぜしもの磁鐵、赤鐵を多く伴ふなり、一年の產額千二百萬圓約五六千噸重に香港に送り蒙自より一噸四十五元の運賃を要すと云ふ鑛石は品位下等なる故近くにても運搬不可能なり此の鑛山は昔は燐鑛なりしと云はる。

○大姚縣　白家灣（城より四十支里）

第八節　亞鉛鑛

○東川(會澤)縣　鑛山廠、(鉛參照)倭鉛
○鎭雄縣　窩鉛廠
○普洱縣　廠洞(城より七十支里)
○騰衝縣　干崖
○保山縣　蒲漂孔雀寺
○賓川縣　排營の乃尖山
○雲南縣　太極頂(城より東三十支里)

第九節　錦鑛

○阿迷縣
○嵩義縣　上廠、野馬洞
○平彝縣　硝硐村
○文山縣　河口　佛領印度支那境に近く寶華鑛務公司經營す。
○馬關(安平)縣　錫板(城より百三十支里)、東馬歐(城より九十支里)

○文山（開化）縣

○廣南縣　（何れも石灰岩中にあり）。

○師宗縣

○騰衝縣　紅豆廠

第十節　猛鑛

○羅平縣　祭樹坡

○尋甸縣　大岐山、書米當

兩者共に縣城の西北百三十支里の所にあり。

○東川（會澤）縣　革心底、火紅、馬樹廠、茶花箐、黄草坪、平五廠、光頭坡

第十一節　砒鑛

○普洱縣　犀牛潭（城より百二十支里）、雄黄箐（城より二十支里）

○騰衝縣　施甸、太平街

○鳳儀（趙）縣　石黄廠（城より西九十支里）

非金屬鑛

第一節　琥珀鑛

○保山縣
○麗江縣

第二節　瑪瑙鑛

○呈貢縣　清水河、葫芦山
○保山縣　西山（紅、白、紫の三種あり）

第三節　玉鑛

○河陽縣
○永昌府　及大理府の西部
○定遠縣　竹園（青砂）
○龍陵縣　鎮安所

○騰衝縣　蠻剛、猛養、孟密、壘水河（青石）

○鳳儀(趙)縣　石青廠（城より西二支里）

緬甸界に近く翡翠を産出すと云ふ。

第四節　水晶鑛

○呈貢縣

第五節　硅石鑛

○安寧縣　大石縣

○騰衝縣　箐峰寺、芭蕉關、老楊河

第六節　粘土鑛

○富民縣　黄土破山（城南十五支里）

○安寧縣　高山（南十五支里）、小龍山（城西）、岱晟山、𪩘山（城北）

○平彝縣　海水潮

第七節　硫黃鑛

○風儀(趙)縣　扯溝

第八節　黑鉛鑛

○雲南縣　綠窩河(城より八十支里)

○呈貢縣

第九節　石炭鑛

○宜良縣　二龍戲珠廠、可保村
(鐵道線路を去る十數支里の處に在り無煙炭にして滇越鐵道用炭)。

○昆陽縣　樟木箐、甸頭村、新村後螃蟹河石頭山

○呈貢縣　大冲楊家山、涌水塘、里山阱、青草山、落後門、大尖山、何家山

○嵩明縣　大煤山

○元謀縣　上那蚌、且勞村、挨昌箐

○羅平縣　楊梅山大法我、花山大迫干、對門坡大阿舍、後山私庄

○宜威縣　縣城附近。

品質佳良なる無煙炭を出し一噸一弗五十仙なりと云ふ。

○霑益縣　羅木象、羊腸宮迤勒里、則勒起顏

○尋甸縣　鳳梧山（縣城の東北八支里）

○東川（會澤）縣　龍王廟、張家箐、兩綠、梨樹平、水井灣、新寨、窩堵、斗江、待補廠

○巧家縣　老君山

○永善縣　大關　（東川銅山にてコークスとして用ゆ）。

○阿陽縣　沙埧興順廠、老鴉硐、牛廠硐、馬廠硐、提皷舖硐

○阿迷縣　烏格煤鑛廠　（個舊の錫山にて用ゆ）。

○嶍峨縣　小棚租

○師宗縣　雄心鴨子塘、籠塊堵

○普洱縣　貓兒寨（城より百五十支里）

○元江縣　漫且山

○保山縣　金鷄寺

○騰衝縣　南甸、曩宋關、河西煉韮江練
○雲南縣　大海子村老鴉山、水井坊（城より十五支里）、帽山（城より三十支里）、白龍箐（城より二十支里）
○鄧川縣　筆花園山
○賓川縣　東庄、十二箐、乾甸
○鎭南縣　河雄鄉、高峯哨
○大姚縣　陶家渡（城より三百支里）
○雲　縣　雑魚莫、竜東崗田

第十節　石油鑛

○騰越縣　孟硔

第十一節　鹽　鑛

○安寧縣
○東川（會澤）縣　豊家了口、撻杆了口

○巧家縣　岩琪

○牟定(遠)縣　白鹽井、黑鹽井

○廣通縣　阿陋鹽井

○鎭沅縣　波弄山

○普洱府　石膏井、瑩磨街(城より百二十支里)、猛先街(城より七十支里)、石膏、天寶(城より三十支里)、嘉會區新井志井(城より六十支里)

○洱源(浪穹)縣

○大理府　雲龍井

○麗江縣　雲盤山

○永北縣

第十二節　明礬鑛

○大姚縣　乾坦塘(城より九十支里)

第十三節　石膏鑛

○楚雄縣

第十四節　石灰鑛

○騰越縣　順江、龍江、緬簀

第十五節　大理石鑛

○易門縣

○大理府

第十六節　硝石鑛

○員豐縣

○東川(會澤)縣　硝鑛河

大總統令

鑛業條例ヲ制定シ玆ニ之レヲ公布セシム

中華民國三年三月十一日

國務總理　孫寶琦
農商總長　張謇

教令第三十六號

鑛業條例

第一章　總則

第一條　本條例ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之レニ附屬スル事業ヲ謂フ。

第二條　本條例ニ於テ鑛業權ト稱スルハ鑛物ノ試掘權及採掘權ヲ謂フ。

第三條　本條例ニ於テ中華民國人或ハ中華民國ノ法律ニ依テ成立シタル法人ハ鑛業權ヲ享有スルコトヲ得。

第四條　中華民國ノ締盟國人民ト中華民國人民間ニ於テ協約ニ因テ成立セル合同若クハ株式ト爲ス場合鑛業權ヲ取得スルコトヲ得。

但シ本條例及其他關係諸法律ヲ遵守スヘシ。

外國人民出資額ハ全資本金ノ十分ノ五ヲ超ユルヲ得ス。

第一項ノ外國人民ハ該國外交官或ハ領事館ノ證明書ヲ提出シ農商總長或ハ鑛務監督署長ノ證明ヲ得本條例及其他關係諸法律ヲ遵守スヘシ。

第五條　二人以上共同ニテ鑛業ヲ爲シ又ハ之レヲ爲サントスル者ハ其出資者中ヨリ代表者一人ヲ選定シテ所轄鑛務監督署ニ屆出ツヘシ若シ其屆出ヲ爲サヽル時ハ鑛務監督署長ハ之レヲ指定ス。

前項共同鑛業者若シクハ共同鑛業ヲ爲サントスルモノハ雙方契約ノ成立セルモノト看做ス。

第六條　本條例所定ノ鑛質種類左ノ如シ。

第一類

金	Gold.	金
銀	Silver.	銀
銅	Copper.	銅

鐵	Iron.	鐵
錫	Tin.	錫
鉛	Lead.	鉛
銻	Antimony.	アンチモニー
鎳	Nickel.	ニツケル
鈷	Cobalt.	コバルト
錳	Manganese.	滿俺
鋅	Zinc.	亞鉛
鋁	Aluminum.	アルミニユム
䃿	Arsenic.	砒素
汞	Mercury.	水銀
鉍	Bismuth.	ビスマス
鉑	Platinum.	白金
銥	Iridium.	イリヂユーム
鉬	Molybdenum.	モリブデム
鉻	Chromium.	クロミユーム
鈾	Uranium.	ウラニユーム
煤炭類	Coals.	石炭類
金剛石	Diamond.	金剛石

寶石類 Precious stones.

第二類

水晶	Rock crystal.	水晶
石棉	Asbestus.	石綿
雲母	Mica.	雲母
鋼玉	Corundum.	砂鋼玉
石膏	Cypsum.	石膏
燐酸石灰	Appatite.	燐酸石灰
重晶石	Baryte.	重晶石
硝酸鹽	Nitrates.	硝酸鹽
硫礦	Sulphur.	硫黃
硫化鐵	Pyrite.	硫化鐵
硼砂	Borax.	硼砂
弗石	Fluorite.	螢石
大理石(裝飾品製造用)	Marble.	大理石
長石	Felsper.	長石
滑石	Talc.	滑石
筆鉛	Craphite.	石墨
泥炭	Peat.	泥炭

琥珀	Amber.	琥珀
土瀝青	Asphaltum.	土瀝青
柏油	Bitumen.	石油
浮石	Pumice stone.	輕石
海泡石	Meerschaum.	海泡石
磁土	Kaolin.	陶土
硅藻板	Tripolite.	硅藻板
苦土鑛	Magnesium. earth.	苦土
漂白土	Fuller's earth.	
顏料石類(如赭石紅土等)	Dyestuffic stones.	

第三類

青石	Slate.	粘板岩
石灰石	Limestone.	石灰石
砂石	Sand-stone.	砂岩
花崗石	Cranite.	花崗石
斑石	Porphyry.	斑岩
白雲石	Dolomite.	白雲石
土灰	Farthlime.	石灰土
灰泥石	Marl.	泥灰石
粘土	Clay.	粘土
火粘土	Fire-clay.	耐火粘土

其他採掘スル所ノ建築石材及一切ノ有用石材類ハ之レヲ含ム。

食鹽及石油ハ政府ノ直營ナルヲ以テ第三類鑛物中ニ之レヲ含マス。

第七條　前條ニ列記セサル鑛物ハ時ニ從テ農商總長部令ヲ以テ之レヲ定ム。

第八條　第六條所載各種鑛物竝ニ廢鑛、鑛滓ハ農商總長若シクハ鑛務監督署長ノ許可ヲ經ルニ非サレハ採掘、採取スルヲ得ス。

但シ地方團體公有ノ各種鑛泉類ハ此限リニ在ラス。

第九條　第六條第一類鑛物ハ土地所有者ハ勿論土地所有者ニ非ラサル者ト雖モ鑛業ノ出願ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ願出ノ先ナル者優先權ヲ取得ノ權アリ。

第十條　第六條第二項ノ鑛物ハ土地所有者ニ優先取得ノ權アリ。

但土地所有者ニシテ鑛業權ヲ願ハサル者或ハ登記後

一箇年ヲ經過スルモ尙鑛業ニ著手セサル時ハ農商總長或ハ鑛山監督署長ハ其鑛業權ヲ他人ニ許可スルコトアルヘシ。

第十一條　第六條第三類ノ鑛物ヲ土地所有者ニ於テ自ラ鑛業ヲ爲シ或ハ他人ニ讓與シテ試掘ヲ爲スコトヲ得。

此場合ハ地方行政長官ノ許可ヲ受クヘシ。

地方行政長官ハ前項ノ場合須ラク鑛務監督署長ニ傳達スヘシ。

二章　鑛　區

第十二條　本條例ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權者カ政府ノ許可ヲ得テ鑛物ノ試掘及採掘ヲ爲サントスル土地ノ區域ヲ謂フ。

第十三條　左ニ列記スル各地ハ鑛區ト作スヲ得ス。

一、古聖ノ廬墓及歷代帝王ノ陵寢地界ハ周圍ノ一里以內。

二、砲臺、要塞、軍港及一切ノ軍用局廠ノ關係地點ニ在リテ該管官署ノ許可ヲ得サルノ地。

三、貿易市場、地界一里以內ニ在リテハ該管官署ノ許可ヲ得サルノ地。

四、官有公有ノ建築物、公園及著名ノ古蹟、公道、鐵道又ハ緊要ナル水利等ノ地界ハ四百尺以內ニ在リテハ所轄官署或ハ所有者及關係人ノ許可ナキ地。

第十四條　鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之レヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトナス。

第十五條　鑛區ノ面積ハ方里及畝數ヲ以テ計算ス六十方丈ヲ一畝ト爲シ五百四十畝ヲ以テ一方里ト爲ス。

（支那一丈ハ邦一丈一尺七寸）。

第十六條　石炭坑ニ在リテハ二百七十畝以上十方里以下トス其他ノ鑛物ニ至リテハ五十畝以上五方里以下ヲ限リト爲ス。

前項ニ規定セル鑛區ニシテ特別ノ事情ニ因リ農商總長必要ト認ムル時ハ其增減ヲ爲スコトヲ得。

第十七條　一鑛區內ニ於テ二以上ノ鑛業權ヲ設クルヲ得ス。

但シ目的ノ鑛物異種ナル時或ハ第三十五條ノ事故アル場合ハ此限ニ在ラス。

第十八條　凡ソ排水、通氣及鑛物運搬ノ爲メ坑道開鑿ノ必要アルトキハ鑛區以外ノ地ヲ使用スルコトヲ得
但シ此場合ハ鑛務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ。
前項坑道開鑿中其坑道内ニ於テ鑛物ヲ發見セル場合ハ直チニ其旨鑛務監督署長ニ屆出ツヘシ。
鑛務監督署長ハ前項ノ屆出ヲ受ケタル場合採掘ノ價値アリト認メタル時ハ一定ノ期間内ニ於テ鑛區ノ設定ヲ爲スヘシ。

第三章　鑛業權

第十九條　鑛業權ハ物權トナシ不動產ニ關スル諸法律ノ規定ヲ準用ス。
但シ一鑛區内ノ鑛業權及其他ノ物權同一人ニ歸スル時物權ハ依然トシテ存在ス。
第二十條　鑛業權ノ割讓ヲ得ス。
第二十一條　鑛業權ハ相續、讓與、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルヲ得ス。
但シ採掘權ハ抵當ノ目的タルコトヲ得。
第二十二條　左ニ列記スル事項ハ該管鑛務監督署ニ登記ノ申請ヲ爲シ原簿ニ登錄ス。
但シ鑛業權行使ノ制限ヲ受ケタル場合ハ廢業ノ登記申請ヲ爲スコトヲ得ス。
一、鑛業權ノ設定、變更、移轉、消滅竝ニ行使ノ制限。
二、鑛業權ヲ抵當ト爲ス時ハ其設定、變更、移轉、消滅及制限。
三、共同鑛業權ノ脫退。
第二十三條　前條登記ニ關スル規則ハ別ニ法令ヲ以テ之レヲ定ム。
第二十四條　第二十二條所定ノ各事項ハ登記ヲ經ルニ非ラサレハ其効力ヲ生セス。
但シ鑛業權ノ繼承、鑛業權滿期ノ消滅及本條例ニ依テ競賣スル場合ハ此限ニ在ラス。
第二十五條　試掘ヲ爲サントスルモノハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ鑛務監督署長宛出願シ許可ヲ得ヘシ。
但シ鑛務監督署長ハ必要ト認メタル時ハ地方官ヲシテ調査セシメ或ハ署員ヲ派シ踏査セシムルコトヲ得。

第二十六條　試掘權ノ有効期間ハ登錄ノ日ヨリ滿二箇年トス。

第二十七條　試掘ノ時得タル鑛物ハ所轄鑛務監督署長ノ許可ヲ得賣買及消費等ノ處分ヲ爲スコトヲ得並ニ其得タル鑛物ハ本條例稅法ニ依リ納稅スルモノトス。

第二十八條　凡ソ鑛物ヲ採掘セントスルモノハ願書ニ鑛區圖ヲ添附シ所轄鑛務監督署長ヲ經テ農商總長ニ出願シ其許可ヲ得テ登記ヲ受クヘシ。

但シ農商總長必要ト認メタル場合ハ鑛務監督署長ヲシテ調査或ハ試掘檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ。

第二十九條　鑛業出願人ハ名儀ノ變更ヲ爲スコトヲ得此場合試掘期間中ニ在リテハ所轄鑛務監督署長ニ出願シ採掘期間中ニ在リテハ鑛務監督署長ヲ經テ農商總長ニ出願シ其許可ヲ得ルニアラサレハ効力ヲ生セス。

第三十條　採掘出願人ハ出願地ニ採掘セントスル鑛物ノ存在ヲ證明スヘシ。

第三十一條　鑛業人ノ願書及附圖等ニ不完備ノ點アルトキハ鑛務監督署長或ハ農商總長ハ一定ノ期限ヲ定メ其更正或ハ添補ヲ命スルコトアルヘシ若シ其期限ヲ經過シ尙更正、添補等ノ手續ヲ爲サザル時ハ之レヲ取消ス。

第三十二條　農商總長或ハ鑛務監督署長ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタル時ハ一定ノ期間ヲ定メ採掘ノ出願ヲ命スルコトアルヘシ若シ出願人ニシテ命令ヲ受ケタル期間ヲ經過スルモ尙ホ出願手續ヲ爲サザル時ハ之レヲ取消シ他ノ出願人ニ許可スルコトアルヘシ。

前項ノ規定ハ農商總長ハ採掘出願地ニ於テ尙ホ試掘ヲ要スルモノト認メタル場合亦之レヲ準用ス。

第三十三條　採掘出願地ノ位置形狀ト鑛床ノ位置形狀ト一致セス鑛利ヲ損スルモノト認メタル場合ハ農商總長或ハ鑛務監督署長ハ一定ノ期限ヲ定メ其更正ヲ命スルコトアルヘシ若シ其命令ヲ受ケタル期限ヲ經過シ更正出願ヲ爲サザル時ハ之レヲ取消ス。

若シ前項ノ事故ヲ生シタル場合ハ出願人ハ其訂正ヲ出願スルコトヲ得。

第三十四條　農商總長或ハ鑛務監督署長ハ鑛區出願ノ地ニシテ公益ヲ阻碍シ或ハ鑛業ヲ經營スルノ價値ナキモノト認メタル時ハ其出願ヲ許サス。

第三十五條　鑛床ノ位置形狀ニ因リ隣接セル他人ノ鑛區ニ侵掘スルノ必要アル時ハ隣接鑛業權者ハ協商シ其承諾書ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ鑛務監督署長ヲ經テ農商總長ニ出願シ許可ヲ得タル後鑛區ヲ擴張スヘシ。

若シ前項ノ事情ニ因ラスシテ隣接鑛區ニ侵掘セントスル時ハ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ受クヘシ若シ他ニ抵當權者有ルトキハ均シク其承諾書ヲ得テ之レヲ添附スヘシ。

第三十六條　試掘出願地出願ノ當時他人ノ既設鑛區ト相重複スル場合ニ於テ其鑛物同種ナル時ハ其重複ノ部分ニ就テハ其出願ヲ許可スルヲ得ス。

第三十七條　採掘出願地出願ノ當時他人ノ既設鑛區ト相重複スル場合ニ於テ其鑛物同種ナル時ハ其重複ノ部分ニ就テハ其出願ヲ許可スルヲ得ス。

但シ第三十五條ノ事故アルトキハ此限リニアラス。

第三十八條　採掘出願ノ地他人ノ試掘出願地ト相重複スル場合ニ於テ其鑛物同種ナルトキハ其重複ノ部分ニ對シテハ第三十二條第一項ノ規定ヲ準用ス。

第三十九條　鑛業出願ノ地他人ノ鑛區ト相重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛務監督署長ハ鑛業權者ニ對シ直チニ通知スヘシ。

但シ出願鑛區他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ此限リニアラス。

鑛業權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ヲ以テ其鑛業權ノ優先權アルモノトス。

前二項ノ規定ハ第三十五條ノ事故アル場合ニハ之レヲ適用セス。

第四十條　採掘出願ノ地ト他人ノ試掘出願ノ地或ハ採掘出願ノ地ト他人ノ採掘出願ノ地ト相重複ノ部分ニ就テハ願書呈出ノ日附前ナル者ヲ優先權者ト爲ス若シ出願時日同一ナル時ハ鑛務監督署長ハ期限ヲ指定シテ各出願人ニ通知シ協商ノ上更ニ出願セシムヘシ出願人其指定ノ期限ヲ經過シ尚ホ各出願ヲ爲ササルトキハ抽籤ヲ以テ優先權者ヲ定ム。

第一項ノ規定ハ第三十三條、第三十五條及第三十九

條ノ但書等ニ之レヲ適用セス。

試掘出願ノ地ト採掘出願ノ地ト相重複スル場合ニ於テ出願日附同一ニシテ且ツ鑛物モ亦タ同種ナルトキハ其重複ノ部分ニ於テハ採掘出願人ヲ以テ優先權者ト爲ス。

第四十一條　試掘權ノ存續期間ハ届出期間滿了後三十日間トス試掘權ハ該區域內ニ於テ同種ノ鑛物ニ對シテ更ニ採掘ヲ出願セル場合ハ之レニ優先權アルモノトス。

他人前項ノ區域ニ於テ鑛區ヲ出願シ其鑛物異種ナル時ハ第三十九條ノ規定ヲ準用ス此際前項ノ規定ニ依テ優先權ヲ得タルモノハ試掘權ノ採掘權ニ代リタルモノト看做ス。

第四十二條　試掘出願人同種ノ鑛物ニ付キ更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合他人ノ鑛區ト相重複スルトキハ其重複スル部分ニ就テハ其試掘願書發送ノ日卽チ採掘願書ノ發送ノ日ニ代リタルモノト見做ス。

但シ第四十條第四項ノ事情ハ此限リニアラス。

前項ノ規定採掘出願人ハ同種ノ鑛物ニ對シ更ニ試掘ノ出願ヲ爲ス場合ニ之レヲ準用ス。

前二項ノ規定ハ第三十二條及第三十三條第一項ノ期限經過後ノ出願ニ之レヲ適用セス。

第四十三條　試掘鑛區ノ增減、併合、分割及其他變更ヲ爲サントスル時ハ所轄鑛務監督署長ニ出願シ登記ヲ受クヘシ若シ採掘鑛區ナルトキハ鑛務監督署長ヲ經テ農商總長ニ出願シ其登記ヲ受クルノ後始メテ效力ヲ生ス。

第四十四條　採掘權者ハ隨時施工計劃說明書及圖面ヲ附シ鑛務監督署長ニ届出テ審議ヲ經テ鑛務監督署長ノ査定施工計劃ニ基キ採掘ニ着手スヘシ。

前項ノ施工計劃ニ變更ヲ爲ス時ハ必ス鑛務監督署長ノ審議ヲ經テ後實行スルヲ要ス。

第四十五條　鑛業權者ハ坑內實測圖及鑛業簿ヲ作成シ鑛業事務所ニ備ヘ置キ且其副本ヲ鑛務監督署ニ提出スヘシ。

前項ノ測圖及鑛業簿ノ樣式ハ農商部部令ヲ以テ之レヲ定ム。

第四十六條　鑛業權者ニ對シ左記各項ノ事項ヲ生シタ

ル場合ハ其鑛業權ノ取消ヲ爲ス。

一、登記一年後正當ノ理由ナクシテ採掘ヲ延期シ或ハ中途ニシテ一箇年以上休業シタルモノ。

二、鑛業公益ニ害アルモノ。

三、鑛業警察規則令ヲ遵守セス危險ノ豫防或ハ鑛業ヲ停止スル行爲アルモノ。

四、施工計劃ニ依ラスシテ施工セルモノ。

五、鑛業稅ヲ滯納シ又ハ不納スルモノ。

六、錯誤ニ因テ鑛業ヲ許可シタル時。

第四十七條　鑛業權者ハ鑛業權ヲ以テ抵當トナシ借債ヲ作サントスル時ハ左記ノ規定ニ依ルモノトス。

一、鑛業權ヲ以テ抵當ト爲シ借債ヲ作サントスルモノハ農商總長ノ許可ヲ經ルニ非サレハ其效力ヲ生セス。

二、已ニ鑛業權ヲ抵當ト爲シタル後鑛區ノ分割、併合、減少或ハ增加ヲ爲サント欲スル場合ハ債權者ノ承諾或ハ各債權者ノ協定ヲ經ルニ非ラサレハ其效力ヲ生セス。

三、鑛業權ノ取消ヲ受ケ或ハ自ラ廢業セントシテ登記ノ出願ヲ爲サントシタル時ハ所轄鑛務監督署長ハ受抵ノ債權者ニ通知ヲ爲ス該債權者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ限リ鑛務監督署長ニ對シ鑛業權競賣ノ申請ヲ爲ス事ヲ得。

但シ第四十六條第二項及第六項ノ事故ニ因テ取消スモノハ此限リニ在ラス。

四、賣却或ハ競賣手續未了期間內ニ在リテハ其鑛業權ハ賣却或ハ競賣ノ目的範圍內ニ於テ存續スルモノト看做ス。

五、鑛業權賣却或ハ競賣ニ依ル所得金ハ其費用ヲ除キ債務及其利息ヲ償還シ剩餘金ハ原鑛業權者ニ交付ス。

六、買請人ハ本法第三條或ハ第四條ノ規定ニ照シ其收得シタル鑛業權ハ前鑛業權者ノ登記取消ノ日ヨリ其權利確定スルモノトス。

第四十八條　鑛業權ノ取消ヲ受ケ或ハ自ラ廢業ヲ爲シタル後鑛業權者自ラ其鑛業ノ處分ヲ行ハントスル時ハ前條第四項及第五項並ニ第六項ノ規定ヲ準用ス。

第四十九條　試掘或ハ採掘ノ出願ヲ爲シタル時吏員ヲ

派シ實地調査ヲ爲サシムルコトアルヘシ此場合ニ於ケル所用一切ノ費用ハ出願人ノ負擔トス。

第五十條　隣接鑛業權者及其他利害關係者間ニ於テ事故ヲ生シタル場合ハ鑛務監督署長ニ署員ノ出張調査ヲ出願スルコトヲ得ヘシ。

但シ此場合要スル所ノ費用ハ出願人ニ於テ負擔スルモノトス。

第四章　土地(用地)

第五十一條　本條例ニ於テ關係人ト稱スルハ土地使用ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ。

第五十二條　本條例ニ於テ償金ト稱スルハ地價、地租及地主ト關係人ニ對シ尋常受クヘキ損害賠償金ヲ謂フ。

第五十三條　鑛業出願人及鑛業權者ハ鑛業ノ必要上他人ノ土地内ニ於テ測量或ハ檢査等ヲ爲スコトヲ得。

但シ此場合ハ鑛務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ。

前項ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ於テ實行セントスル時ハ先ツ地主及土地占有者ニ通知スヘシ。

第五十四條　測量及檢査ヲ行フ爲メ障碍物ヲ除去セントスル場合ハ必ス鑛務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ。

前項ノ許可ヲ得タル後障碍物ヲ除去セントスル時ハ先ツ土地所有者又ハ土地占有者ニ通知スヘシ。

第五十五條　鑛業權者ハ鑛業上緊急ノ危險防禦ノ爲メ他人ノ土地ヲ使用シ或ハ立入ルコトヲ得。

但シ前項ノ場合ニハ卽時鑛務監督署長ニ屆出テ同時ニ地主及占有人ニ通知スヘシ。

第五十六條　前三條ノ事項ニ因テ地主及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ鑛業權者ハ相當ノ賠償金ヲ支拂フヘシ。

第五十七條　鑛業權者ハ左ノ目的ニ因リ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得。

一、試錐又ハ坑口開鑿。

二、鑛物、土石、爆發藥、木材、薪炭、鑛滓及灰燼等ノ置場設置。

三、撰鑛場及製錬場ノ建設。

四、鐵道、軌道、道路、運河、水管、汽管、溝渠、池井、索道ノ設置及電線ノ架設。

五、其他鑛業上必要ノ各種工事及工作物ノ建設。

第五十八條　前條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスル時ハ所轄鑛務監督署長ノ許可ヲ經テ該地施工ノ計畫圖説明書ヲ提出シ同鑛務監督署長ノ審査ヲ受ケ決定スヘシ。

鑛務監督署長ハ前項ノ許可ヲ爲シタル後公告ヲ爲シ或ハ地主又ハ其關係者ニ對シ通知ヲ爲スヘシ。

前項ノ公告或ハ通知ヲ受ケタル後鑛業權者ハ土地ニ關スル權利ヲ收得スルカ爲メ土地所有者及其關係人ト協商シテ之レヲ定ム。

前二項ノ規定若シ土地官有ナル時ハ該管官署ノ許可ヲ請求スヘシ。

第五十九條　鑛業權者カ他人ノ土地ヲ使用スル時ハ地主及關係人ニ對シ相當ノ償金ヲ支拂フヘシ。

第六十條　土地ノ使用三年以上ニ亘ル時或ハ地形ヲ變更スル場合鑛業權者ハ地主ト協商スヘシ地主ニシテ其地價ヲ要求スル時ハ其償金ヲ支拂フヘシ。

但シ鑛業ヲ廢止シ或ハ使用完結シタル場合ハ其土地ハ原地主ニ還附スヘシ。

第六十一條　土地ノ一部ヲ使用スルニ當リ其殘地ノ地價低減シ或ハ他ノ事項ニ依テ損失ヲ生シタル場合ハ鑛業權者ハ地主及其關係人ニ對シ相當ノ償金ヲ支拂フヘシ。

但シ殘地其以前ノ効用ヲ失スルカ如キ時ハ前條ノ規定ヲ準用ス。

第六十二條　土地ヲ使用シ道路、溝渠、牆柵及其他工作物ノ新築、增築、改修ヲ爲サントスルトキハ地主ニ對シ相當ノ償金ヲ支拂フヘシ。

但シ已ニ第六十條ノ規定ニ依テ處分ヲ爲ス者ハ此限リニ在ラス。

第六十三條　第五十八條ノ公告或ハ通知ヲ受ケタル後地主及其關係人ニシテ其地形ノ變更ヲ爲シ或ハ工作物ノ新築改築ヲ爲シ又ハ大修繕附加增設セントスル時ハ須ラク鑛務監督署長ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得サレハ所要ノ償金ヲ請求スルコトヲ得ス。

第六十四條　第五十八條ノ公告或ハ通知ヲ受ケタル後鑛業權者ニ於テ鑛業ヲ廢止シ或ハ變更ヲ爲シタル場合土地所有者或ハ關係人ノ損害ニ對シ相當ノ償金ヲ

支拂フヘシ。

第六十五條　土地所有者及其關係人ハ要求セル償金ニ對シ鑛業權者ノ提出セル相當ノ擔保ヲ以テ償金擔保ト爲ス事ヲ得。

第六十六條　土地使用ノ協定成リ裁決ヲ經テ確定シ或ハ評定セルモ償金或ハ其擔保尙ホ確定セサル時ハ鑛業權者ハ其裁決セル償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ其土地ヲ使用スルコトヲ得。

第六十七條　鑛業權者ニシテ償金ノ支拂ヒ又ハ供託ヲ爲サス或ハ擔保ヲ提供セサル時ハ地主及關係人ハ其土地ノ使用ヲ拒絕スルコトヲ得。

第六十八條　土地所有權ハ土地使用期間ニ在テハ鑛業權者之レヲ收得シ其他ノ權利亦停止セラル。

但シ使用ヲ防害セサルモノハ此限リニ在ラス。

第六十九條　土地ノ使用完了シタル時ハ鑛業權者ハ其土地ヲ原形ニ復シ還附スルモノトス若シ原形ニ復シ能ハサルニ因テ生シタル損失ニ對シテハ償金ヲ支拂フヘシ。

但第六十條ノ規定ニ依リ處分セラレタルモノハ此限リニ在ラス。

第七十條　土地使用ノ規定ハ水使用ノ權利ニ之レヲ準用ス。

第五章　鑛夫（鑛工）

第七十一條　鑛業ノ勞働ニ從事スル者ヲ鑛夫ト爲ス。

第七十二條　鑛業權者ハ所定ノ鑛夫服務規則ヲ所轄鑛務監督署長ニ屆ケ出テ其許可ヲ得テ始メテ其効力ヲ生ス。

第七十三條　鑛業權者ハ所定ノ鑛夫名簿ヲ作成シ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ其樣式ハ農商部部令ヲ以テ之レヲ定ム。

第七十四條　鑛夫ノ工賃ハ毎月豫定ノ期日ヲ定メ通用貨幣ヲ以テ一回若シクハ二回ニ支拂フ。

第七十五條　鑛業權者ハ解雇ノ鑛夫ニ對シ其請求ニ因テ雇傭ノ期間、服務ノ種類、技能ノ巧拙及工賃ノ多寡及ヒ解雇ノ事由等ヲ明記シタル證明書ヲ附與スヘシ。

第七十六條　鑛夫ニシテ就業中負傷シ或ハ疾病ニ罹リ

又ハ死亡シタル場合ハ鑛業權者ハ醫藥費ヲ恤救スヘシ。

第七十七條　鑛夫ノ年齡及從業時間竝ニ婦女、幼童ノ從業種類等ニ關シテハ農商總長之レカ制限ヲ爲スコトヲ得。

第六章　鑛業稅

第七十八條　鑛業稅ノ種類左ノ如シ。

一、鑛區稅。

二、鑛產稅。

第七十九條　鑛區稅率左ノ如シ。

一、採掘鑛區ニ於テ第六條第一類ノ鑛物ニ對シテハ毎年一畝毎ニ銀三角(我約二十四錢餘)ヲ納稅シ砂鉑(Platinum ore-Placers)砂金(Gold-ore-Placers)砂錫(Tin-ore-Placers) 砂鐵 (Iron-ore-Placers) ノ河底ニ在ル者ハ毎年十丈毎ニ銀三十仙 (我約二十四錢餘) ヲ納稅スヘシ第六條第二類ノ鑛物ハ一年一畝毎ニ銀十五仙(我約十二錢餘)ヲ納稅スルモノトス。

二、試掘鑛區ニ於テハ前項ノ稅率ハ均シク五仙ノ計算トナス。

第八十條　前條鑛區稅ハ地租以外ノ稅ト爲ス。

第八十一條　鑛產稅率左ノ如シ。

一、第六條第一類ノ鑛物ハ產出地平均市價千分ノ十五ヲ納稅スルモノトス。

第八十二條　第七十九條及八十一條ノ鑛區稅及鑛產稅ハ均シク二期ニ分納スヘシ。

第八十三條　第六條第三類ノ鑛物ハ鑛區稅及鑛產稅ヲ免除ス。

第七章　鑛業警察

第八十四條　鑛業警察事項ニ關シテハ農商總長及所轄鑛務監督署長之レヲ施行ス是レニ對スル諸規則ハ農商部部令ヲ以テ之レヲ定ム。

第八十五條　農商總長或ハ鑛務監督署長ハ鑛業工事ノ設計ニ對シ危險ヲ生シ或ハ公益ヲ害スルモノト認メタル時ハ鑛業權者ヲシテ其豫防方法ヲ爲サシメ或ハ停止ヲ命スヘシ。

第八十六條　採掘權者ノ雇用スル技術員ハ農商總長或ハ鑛務監督署長ニ於テ選任或ハ改任ヲ命スルコトアルヘシ。
前項技術員ノ資格及職務ニ關シテハ農商部部令ヲ以テ之レヲ定ム。
第八十七條　鑛業權消滅後一箇年以內ハ危險豫防ノ範圍ニ存續スルモノト看做ス。
農商總長及鑛務監督署長ハ原鑛業權者ニ對シ危險ノ豫防設備ヲ命スルコトアルヘシ。

第八章　裁決訴願及訴訟

第八十八條　鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ三箇月以內ニ於テ訴願ヲ提出スルコトヲ得。
農商總長ニ於テ違法ニ因テ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。
第八十九條　第三十五條第一項ノ協商解決ヲ爲シ能ハサル時ハ鑛務監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得。
若シ前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得。
若シ違法ニ因テ侵害セラレタル時ハ行政訴訟ヲ農商總長ニ提起スルコトヲ得。
第九十條　鑛業權ノ取消ヲ受ケタル時鑛業權者ニ於テ若シ不服アル者ハ訴願ヲ農商總長ニ提起スルコトヲ得。
若シ違法ニ因テ權利ヲ侵害セラレタル時ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。
第九十一條　鑛業權者ハ土地ノ使用ニ對シ償金及擔保ニ付キ協商解決シ能ハサル時ハ鑛務監督署長ニ裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得。
若シ土地使用ノ件ニ付キ前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルヲ得。
若シ違法ニ因リ權利ヲ侵害セラレタル時ハ行政訴訟ヲ農商總長ニ提起スルコトヲ得。
若シ償金及擔保ノ件第一項ノ裁決ニ不服アル者ハ民事訴訟法ニ依テ民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得。
第九十二條　處分或ハ裁決ニ對シ不服アルモノハ處分又ハ裁決ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ於

テ訴願或ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得若シ處分或ハ裁決ノ通知ヲ受ケサル者ハ公示ノ日ヲ以テ起算ス。

第九十三條　凡ソ中華民國人民ト合同鑛業ヲ爲シ或ハ雇入ノ外國人間ニ於ケル鑛業上ノ紛爭ニ關シテハ鑛務監督署長ノ裁決ヲ受クヘシ。

（註本條中華民國人民ト合同鑛業ヲ爲ス云々ハ外國人ト合同鑛業ヲ爲スト云フ意ニアラサルカ原文ノ儘譯出セルモ玆ニ斯ク加筆スルモノナリ）。

第九章　罰　則

第九十四條　詐欺ノ行爲ヲ以テ鑛業權ヲ收得シ或ハ鑛業權ヲ得スシテ竊ニ鑛物ヲ採掘シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑若シクハ三千元以下ノ罰金ニ處ス。

第九十五條　私ニ鑛業權ヲ轉賣シ或ハ擔保トナス者亦前條ノ處罰ヲ準用ス。

第九十六條　過失ニ因リ登記ヲ受ケタル鑛區以外ニ侵掘シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス。

第九十七條　第三條ノ規定ニ因リ處罰ヲ受ケタル者ハ其採掘セル鑛物ハ之レヲ沒收ス已ニ之レヲ轉賣或ハ消費處分ヲ爲シタル者ハ其價格金ヲ追徵ス。

第九十八條　第十三條ノ規定ニ違背シ或ハ第八十五條及第八十七條第二項ノ命令ニ服從セサル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス。

第九十九條　第二十七第條四十四條及第七十四條ノ規定ニ違背シタル者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス。

第百條　第五十四條第七十二條及第七十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ一百元以下ノ罰金ニ處ス。

第百一條　當該官吏ノ鑛業帳簿或ハ物件等ノ檢査ヲ拒絕シ或ハ妨止シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス。

第百二條　凡ソ脫稅ヲ圖リ或ハ已ニ脫稅ヲ爲シタル者ハ納稅額三倍ノ罰金ニ處ス。

第百三條　本條例ノ諸規定ニ違背シ或ハ本條例所發命令ノ規定ニ違背シタル者ハ刑法中ノ輕減ヲ適用セス再犯者ハ加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ適用ス。

第百四條　鑛業權者ニシテ未成年者或ハ禁治產者ナル時ハ本條例所定ノ罰則ハ其法定代理人ニ適用ス。

但シ該未成年鑛業權者若シ鑛業上ニ於テ成年者ト同

一ノ能力ヲ有スル者ハ此限リニアラス。

第百五條　鑛業者ノ代人雇人及其他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本條例ニ違犯シタル時ハ自己ノ意志ニ出テサル理由ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルヲ得ス。

附則

第百六條　本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス。

第百七條　本條例公布ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ鑛業許可書ヲ有スル既得權者ト雖トモ須ラク本條例ニ基キ更ニ登記ノ出願ヲ爲スヘシ。

第百八條　本條例公布ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ從前ノ鑛區ニ對スル年稅及鑛產稅ハ舊條例ニ照シ上納スルモノトス届出半年ニ及ハサル者ハ月ヲ以テ計算ス。

第百九條　本條例施行前第六條第三類ノ鑛物ニ對シ鑛業稅ヲ徵收シタルモノハ地方稅ト爲シ暫ク其舊率ニ依ル。

但シ千分ノ五ヲ越ユルヲ得ス。

第百七條　官營鑛業ハ法令ヲ除キ別ニ規定ヲ設クルノ外本條例ノ規定ヲ準用ス。

第百十一條　本條例施行前外資ヲ輸入シテ鑛業ヲ爲シ合資、合同ノ契約ヲ締結セル者ハ均シク其舊ニ仍テ處辦ス。

鑛業條例修正

一、同條文中第五十一條、第五十二條本法ノ下ニ字樣(樣式或ハ雛形)ノ文字ヲ加フ。

二、同條文中第百十一條中合資合同ヲ締結セル者ノ下ニ經官署核准者(官署ノ許可ヲ經テ)ヲ加フ。

支那鑛產地　終

索引

索引

イノ部

ロノ部

ハノ部

ニノ部

ホノ部

ヘノ部

ト ノ 部

索引

チノ部

リノ部

ルノ部

ヲノ部

ワノ部

カノ部

ヨノ部

タノ部

レノ部

ソ ノ 部

ツノ部

ネノ部

ナノ部

ラノ部

ム ノ 部

ウ ノ 部

ノ ノ 部

ク ノ 部

ヤノ部

マノ部

ケノ部

フノ部

コノ部

エノ部

テノ部

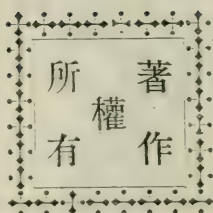
キノ部

ヒノ部

モノ部

セノ部

スノ部

大正七年七月二十五日印刷
大正七年七月二十八日發行

支那鑛産地

正價金貳圓五拾錢
郵稅內地金拾貳錢 滿、鮮、臺、樺金參拾錢

著作者 小山一郎
東京市日本橋區通三丁目十四、十五番地

發行者 丸善株式會社
右代表者 事務取締役 中村重久
東京府北豐島郡巣鴨町三丁目十番地

印刷者 大久保秀次郎
東京市京橋區築地二丁目十七番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所

發行所
東京市日本橋區通三丁目 丸善株式會社（郵便振替貯金口座東京第五番）
大阪市東區博勞町四丁目 丸善株式會社大阪支店（郵便振替貯金口座大阪第七四番）
京都市下京區三條通麩屋町西入 丸善株式會社京都支店（郵便振替貯金口座大阪第一七三番）
福岡市博多上西町 丸善株式會社福岡支店（郵便振替貯金口座福岡第五〇〇〇番）
仙臺市國分町 丸善株式會社仙臺支店（郵便振替貯金口座東京第七四番）

農商務技師 工學士 細井岩彌氏編

金鑛製錬法

目次 第一編 混汞收金法 製錬場ノ設備○製錬ノ方法○汰物の採收法○搗鑛器以外ノ製錬器械及其用法○操業ニ關スル注意及實例○製錬場ノ經營○第二編 青化收金法：青化法ノ來歷○檢定及ビ實驗ノ方法○製錬場ノ設備○實地操業ノ方法○鑛泥ノ青化法○青化法ノ經濟○第三編 鹽化收金法：熔燒法○熔解法○附錄

工學士 坪井美雄氏著

菊判洋裝 全一冊

紙數五百二十頁 圖版三十餘種 銅版折込圖七枚 石版刷九枚 正價金參圓參拾錢 郵税金拾八錢

銅鑛製煉法

目次 第一章 沿革○第二章 熔鑛爐及送風機○第三章 附帶事業○第四章 煉鑛ノ操業○第五章 鈹及鋟○第六章 熔鑛爐內部ノ作用○第七章 熱ノ權衡○第八章 製銅法

工學博士 的場中氏著

菊判洋裝 全一冊

紙數五百二十餘頁 圖版百十餘種 折込石版圖及寫眞版刷廿七枚 正價金參圓參拾錢 郵税金拾八錢

改訂

通氣論

目次 概要：坑內空氣：酸素の缺損○有毒瓦斯○爆發瓦斯○爆發瓦斯の驗定○坑內空氣の分析○周形物○坑內溫度及濕度○本篇に關する參考文書◉通氣理論 空氣量○通氣の原力○坑內の抵抗○氣流の分割◉內通氣觀測：氣壓の測定○氣量の測定○等積孔の測定◉通氣方法及裝置：通氣方法○通氣裝置◉通氣器具及機械：通氣爐○通氣機械○扇風機總論○扇風機各論○噴射裝置及器具○通氣機械に關する參考文書◉通氣取締◉通氣論參考文書。

ドクトルユーリス 阪本三郎氏著

菊判洋裝 全一冊

紙數三百三十餘頁 圖版百餘種 正價金貳圓 郵税金拾貳錢

鑛業法釋義

目次 緒論○第一章 鑛業權○第二章 鑛業○第三章 土地ノ使用○第四章 鑛業警察○第五章 鑛夫○第六章 鑛業稅○第七章 鑛業ニ關スル救濟○第八章 鑛業ニ關スル罰則

菊判脊革裝 全一冊

紙數二百八十餘頁 正價金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢

工學士 西松唯一氏著

火藥學

第一編に於ては火藥史總論黑色火藥、第二編に於てはニトロ火藥、第三編に於ては成形火藥、第四編に於ては火藥の理化學的試驗を解說す。火藥の製法、性質、用途、保存等、諸般の事項に亙りて明快なる智識を得むとする造兵家鑛業家其他火藥學に志す人士は本邦唯一の好參考書たる本書を必備せられんことを望む。

菊判洋裝 全一冊 紙數四百二十餘頁 圖版百二十餘種 正價金貳圓六拾錢 郵稅金拾八錢

工學士 飯島懿男氏著

鋼鐵製造術

目次 總說 第一編 第一章 製鋼原料：銑鐵・特種銑・屑鐵・原料の運搬○第二章 ベセマー及トーマス製鋼法一般歴史・轉爐の一般說明及附屬設備・ベセマー製鋼法（酸性）トーマス製鋼法（鹽基性）○第三章 瓦斯發生爐：瓦斯發生爐の理論・瓦斯の種類及熱量・瓦斯發生爐・原料送風及操業法○第四章 シーメンスマルチン（オープンハース又は平爐）製鋼法一般歴史：平爐の構造及附屬設備・酸性法・鹽基性法○第五章 鋼塊製造法：造塊の設備・鋼の特質及良鋼塊製造法。

上卷 菊判洋裝 一冊 紙數二百六十餘頁 折込寫眞版三十八種 正價金貳圓貳拾錢 郵稅金拾貳錢

製鐵所技師 向井哲吉氏著

最新 簡易製鐵術

目次摘要—緒言附製鐵略史◎第一編—總論○一鐵の分類○二鐵化學○三鐵ノ理學的性質○四鐵鑛○五燃燒○六燃料○七爐○八爐材◎第二編銑鐵製造○九銑鐵の分類○十熔鑛爐○十一風○十二鑛石及び媒熔劑の準備○十三熔鑛爐の作業幷に鑛爐內に起る變化○十四熔鑛の製出物○十五熔鑛爐の故障幷に吹留め○十六電氣熔鑛爐◎第三編鍊鐵及び鋼鐵製造○十七鍊鐵及び鋼鐵の分類幷に其性質○十八鍊鐵製造○十九鋼鐵製造○二十滲炭鋼製造法及び脫炭鐵製造法◎造形加工○二十一鍛鍊加工○二十二壓延加工○二十三加熱○二十四鋼質調整及び防銹

菊判洋裝 全一冊 紙數二百二十餘頁 三色版刷二種 アート刷七枚 木版挿圖八十餘種 正價金貳圓六拾錢 郵稅金拾貳錢

製鐵所技師 向井哲吉氏著

工業用鐵鋼材

目次摘要—總論 第一編 銑鐵竝に鑄造物：第一章 銑鐵の類別○第二章 鑄鐵の性質○第三章 鑄鐵及び鑄造物の試驗檢査 第二編 可鍛鐵○第一章 可鍛鐵の性質○第二章 可鍛鐵の加熱○第三章 可鍛鐵の檢査

菊判洋裝 全一冊 紙數百六十餘頁 寫眞版アート刷二枚 圖版數種 正價金壹圓參拾錢 郵稅金拾貳錢

理學博士 小藤文次郎 同 神保小虎 同 松島鉦四郎三氏 共編

増訂 **鑛物字彙**

菊判半截 全一册

紙數百二十餘頁 正價金七拾五錢 郵稅金四錢

工學士 布目四郎吉氏著

鐵及鋼の壓延作業法

目次 總論 第一章 加熱作業：加熱爐の種類及構造・鋼材操縱裝置○第二章 ロール機による成形作業卽壓延作業：加工概論・「ロール」工場分類法・「ロール」直徑・胴部の長さ・「ロール」機の數及廻轉數定法則・「ロール」工場一般配置及諸裝置・「ロール」機各部の構造・「ロール」工場補助機械の構造及動作・條鋼壓延工場・其用途・製板工場・外輪工場及本輪「ロール」工場○第三章 「ロール」運轉機：蒸氣運轉機・「ロール」工場に於ける電氣運轉機○第四章 「ロール」孔型法：半製品及簡單なる形狀を有する棒鋼壓延に必要なる「ロール」一般孔型法一般・延塊「ロール」及粗延「ロール」孔型・小鋼片用「ロール」製品用「ロール」孔型・形鋼壓延用孔型法 附錄 製鐵所に於ける「ローリングミル」に就て

菊判洋裝 全一册

紙數四百餘頁 折込圖版四十種 正價金參圓五拾錢 郵稅金拾八錢

農商務省地質調査所編

英和兩文 **大日本帝國鑛產圖**

各國所產の鑛物は著彩を用ひて其種類を別ち、金鑛には金粉、銀鑛には銀粉を用ひ、其他鉛、銅、鐵、安質母尼、錫、滿俺、亞鉛黑鐵、黑鉋、石炭、石油、硫黃等各特異の色刷りを施し光彩陸離、黏粧自ら趣きを成し單に紙質の良、印刷の美を以てするも衆目を奪ふに足り、然り而して調査の精確周匝なるは其出所に徵して知ることを得ん。

竪三尺八寸 幅三尺九寸 二百萬分ノ一 二十七度著色刷

筒入正價金參圓五拾錢 折本正價金四圓 郵稅各金拾貳錢 卷軸正價金五圓 送料を要す

製鐵所技師 工學士 黑田泰造氏著

改訂最近 **骸炭製造法及副產物處理法**

目次 概要 骸炭製造法の目的及骸炭の用途○骸炭の原料○原料炭の操作○骸炭爐○副產物補集の方法及其裝置○骸炭製造の方法及其注意の副產物の性質及其操作：コールタ、硫酸安母尼亞、瓦斯中の輕油、骸炭爐瓦斯○骸炭の化學的性分につきて○骸炭の物理的性質。

菊判洋裝 全一册

紙數百五十餘頁 石版折込二十二枚 正價金壹圓八拾錢 郵稅金拾貳錢

工學士 瀧口三雄氏著
獨和英 電氣工學辭典
三五判洋裝 全一冊
正價金貳圓
郵稅金拾貳錢

川口、三浦、小溝、遠藤、松本、五工學士、德弘氏共著
土木工學
菊判洋裝 貳冊出版
上卷正價金參圓
中卷正價金參圓五拾錢
郵稅各金拾八錢

林學士 石丸文雄氏著
土木應用力學
菊判洋裝 全壹冊
正價金貳圓
郵稅金拾貳錢

中島、廣井、中山、服部、柴田、君島 六工學博士 草間、永山 二工學士共著
增補改訂 英和工學辭典
三五判洋裝 全壹冊
正價金壹圓貳拾錢
郵稅金八錢

工學士 鶴見一之氏著
下水道
菊判洋裝 全一冊
正價金貳圓
郵稅金拾貳錢

工學士 栗原鑑司氏著
瓦斯及其副產物工業
菊判洋裝 全參冊
正價金八圓貳拾五錢
郵稅金參拾錢

工學士 喜多源逸氏著
最近 工業藥品製造法
菊判洋裝 全一冊
正價金參圓八拾錢
郵稅金拾八錢

工學博士 田中芳雄氏 工學士 喜多源逸氏共編
有機 製造工業化學
菊判洋裝 全參冊
正價 上卷金貳圓七拾五錢
中卷金參圓五拾錢
下卷金參圓
郵稅各金拾八錢

工學博士 田中芳雄氏 工學博士 安藤一雄氏共著
最近 化學工業試驗法
菊判洋裝 全貳冊
正價各金參圓
郵稅各金拾八錢

工學博士 君島八郎氏著
君島 大測量學
菊判洋裝 全貳冊
正價 上卷金貳圓五拾錢
下卷金貳圓參拾錢
郵稅各金拾八錢

工學博士 君島八郎氏替
君島 測量學
菊判洋裝 全一冊
正價金壹圓八拾錢
郵稅金拾貳錢

工學士 野津正忠氏著
理論應用 計算尺精義
三五判洋裝 全壹冊
正價本文金壹圓六拾五錢
講本(假裝)金八拾五錢
郵稅本文金拾貳錢 講本金八錢

工學博士 吉川龜次郎氏著
工業電氣化學
菊判洋裝 全參冊
正價 上卷金貳圓貳拾錢
中卷金貳圓
下卷金貳圓
郵稅各金拾貳錢

工學博士 辻本滿丸氏著
日本植物油脂
菊判洋裝 全壹冊
正價金四圓
郵稅金拾八錢

工學博士 吉川龜次郎校閲　理學士 野原彝夫氏著
應用電氣化學實驗
菊判洋裝全一册　正價金壹圓五拾錢　郵税金拾貳錢

理學博士 水野敏之丞氏著
理論電氣學
四六倍判洋裝二册出版　正價第一卷金參圓五拾錢　第二卷金四圓五拾錢　郵税各金拾八錢

工學士 宮城音五郎氏著
機械學
菊判洋裝全三册　上下卷各金貳圓五拾錢　中卷金貳圓參拾錢　郵税各金拾八錢

工學博士 安永義章氏校閲　舊製鐵所技師 浦上正二郎氏編
機械設計實用表
菊判洋裝全一册　正價金貳圓七拾五錢　郵税金拾八錢

工學士 丹羽重光氏著
機構學
菊判洋裝全壹册　正價金貳圓五拾錢　郵税金拾八錢

工學博士 荒川文六氏著
再訂荒川電氣工學
菊判洋裝全參册　正價上卷金貳圓貳拾錢　中卷金貳圓六拾錢　下卷金參圓　郵税各金拾八錢

工學士 內丸最一郎氏著
水力タービン
菊判洋裝全壹册　正價金參圓　郵税金拾八錢

工學博士 田中不二氏　工學士 內丸最一郎氏　共著
增補改訂 機械設計及製圖
菊判洋裝全貳册　正價前編金貳圓貳拾錢　後編金參圓　郵税各金拾八錢

工學士 內丸最一郎氏著
改訂 蒸汽罐
菊判洋裝全一册　正價金參圓　郵税金拾八錢

工學士 內丸最一郎氏著
蒸汽機關
菊判洋裝全壹册　正價金貳圓參拾錢　郵税金拾八錢

工學士 內丸最一郎氏著
改訂 蒸汽タービン
菊判洋裝全壹册　正價金參圓　郵税金拾八錢

工學士 內丸最一郎氏著
改訂 瓦斯及石油機關
菊判洋裝全貳册　正價各金貳圓五拾錢　郵税各金拾八錢

向井哲吉氏著
坩堝製鋼と電氣製鋼
菊判洋裝全一册　正價金貳圓　郵税金拾貳錢

工學博士 田中不二氏著
應用力學
四六倍判洋裝二册出版　第一編正價金貳圓廿錢　第二編正價金參圓　郵税各金拾八錢